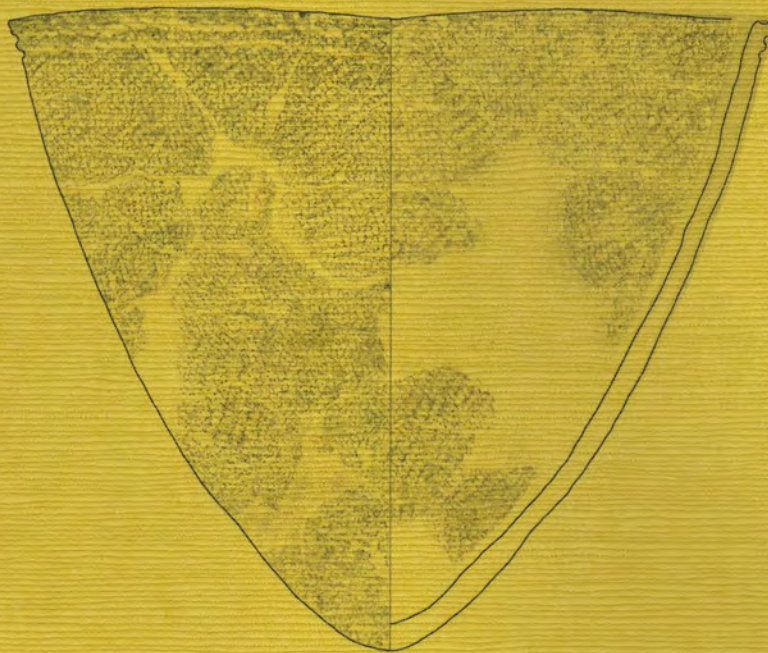


高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡

— 災害公営住宅整備事業（高浜） —

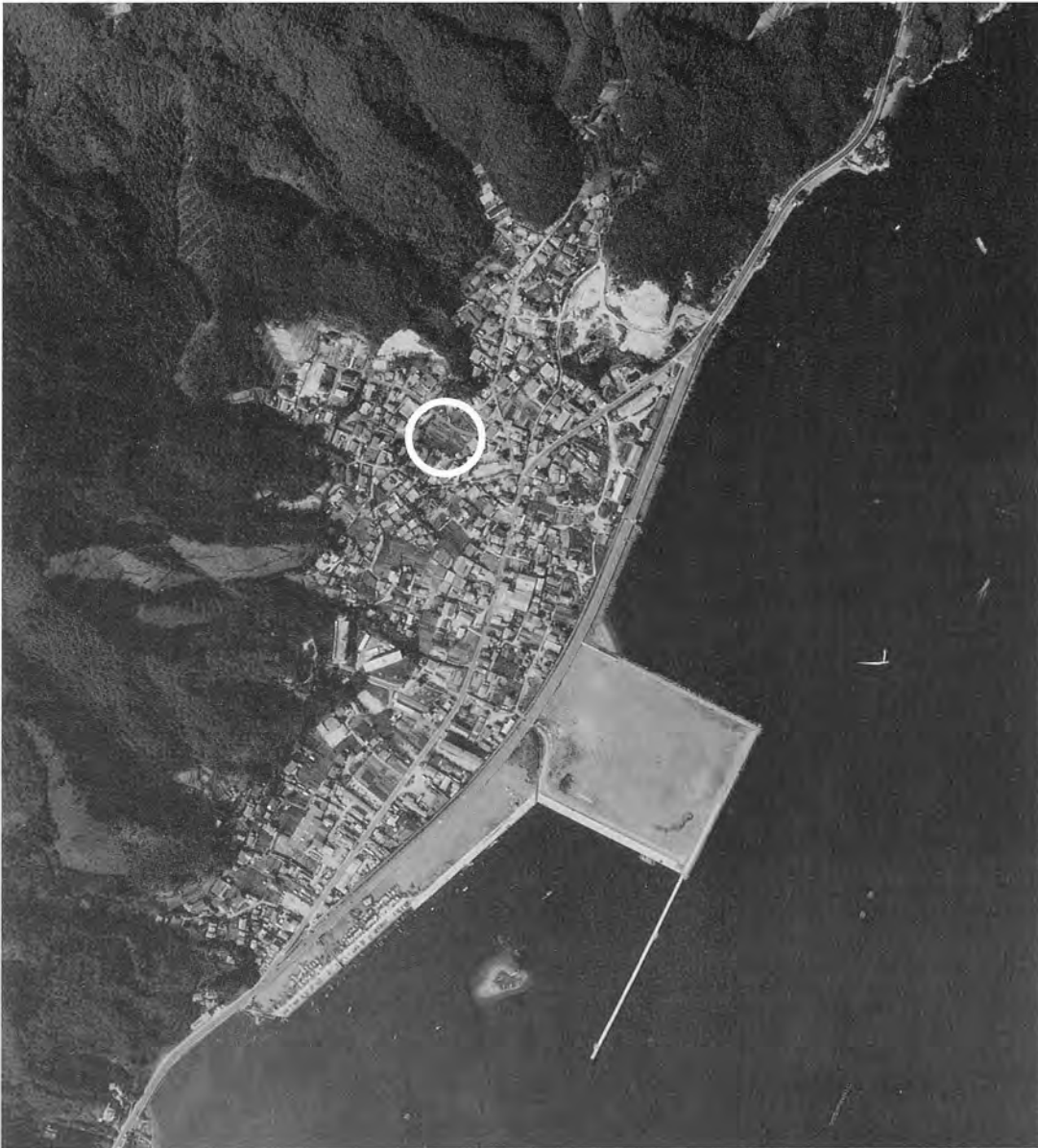


2018. 3

岩手県宮古市教育委員会

高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡

—災害公営住宅整備事業（高浜）—



2018. 3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

東北大震災以降の復興を目指して数多くの復興道路や災害公営住宅建設等の事業が行われています。そのなかで新たな事業用地内に遺跡が所在する場合がございます。その場合は事業実施に先立って遺跡の発掘調査が行われることになります。今回報告いたします高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡の発掘調査もその一つで、高浜地区の災害公営住宅建設に先立って行われたものです。調査にあたり、まず試掘調査が行われ、大量の縄文時代の土器、石器の存在が確認されました。発掘調査の結果、縄文時代前期、早期の土器、石器を多量に含む包含層が見つかりました。その中には土器の表と裏に縄文が施された珍しい土器が多く含まれおり、縄文時代早期を解明する上で貴重な資料を得ることができました。報告書は、宮古湾岸の縄文時代の豊かな生活の一端を伝えるものとなれば幸いです。

調査にあたり野外調査、あるいは資料整理に御協力頂いた関係者、各位に深く感謝申し上げますとともに、この成果が広く活用されることを願って序文とします。

平成 30 年 3 月

宮古市教育委員会
教育長 伊藤 晃二

例 言

- 1 本書は、災害公営住宅整備事業に伴い平成 24 年から平成 25 年にかけて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 調査の主体は宮古市教育委員会である。平成 24 年の試掘調査は前川が担当し、平成 25 年の発掘調査は阿部が担当した。本書の編集、執筆は阿部が担当し、その他の職員がこれを補佐した。
- 3 遺構の平面位置は、平面直角座標第 X 系を使用し、下三ケタを用いた。

原点の座標は下記のとおりである。

X -42000.000、 Y +96000.000

- 4 高さは標高値をそのまま使用した。
- 5 遺物の表現については下記のとおりとした。



繊維を含む土器

- 6 写真遺物番号は、図版番号－遺物番号である。
- 7 土層観察に際しては、「新版標準土色帖」（1995 小山正忠 竹原秀雄）を参考とした。
- 8 出土した遺物、実測図、写真など調査に関わる資料は、宮古市教育委員会が一括して保管している。

目次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次

調査経過

- 1. 調査に至る経過…………… 1
- 2. 調査要旨
- 3. 調査体制
- 4. 遺跡の立地と環境

調査内容…………… 7

- 1. 調査の方法
- 2. 基本層序

検出された遺物…………… 11

- a. II層出土遺物 縄文土器…………… 11
 - II層出土遺物 石器…………… 13
- b. III層出土遺物 縄文土器…………… 16
 - III層出土遺物 石器…………… 19
- c. IV層出土遺物 縄文土器…………… 20
 - IV層出土遺物 石器…………… 25
- d. V層出土遺物 縄文土器…………… 27
 - V層出土遺物 石器…………… 42
- e. VII層出土遺物 縄文土器…………… 53
 - VII層出土遺物 石器…………… 64
- f. VIII層出土遺物 縄文土器…………… 73
 - VIII層出土遺物 石器…………… 89

調査のまとめ…………… 107

報告書抄録…………… 136

図版目次

| | | |
|--------|------------------|------|
| 第 1 図 | 宮古市位置図 | 2 |
| 第 2 図 | 調査地点 | 3 |
| 第 3 図 | 地形分類図、周辺の遺跡 | 4 |
| 第 4 図 | 試掘調査トレンチの位置と本調査区 | 5 |
| 第 5 図 | 調査区土層断面図 | 6 |
| 第 6 図 | 本調査区・土層断面 | 9・10 |
| 第 7 図 | Ⅱ層出土遺物 1 (縄文土器) | 12 |
| 第 8 図 | Ⅱ層出土遺物 2 (縄文土器) | 13 |
| 第 9 図 | Ⅱ層出土遺物 3 (石器) | 14 |
| 第 10 図 | Ⅱ層出土遺物 4 (石器) | 15 |
| 第 11 図 | Ⅲ層出土遺物 1 (縄文土器) | 17 |
| 第 12 図 | Ⅲ層出土遺物 2 (縄文土器) | 18 |
| 第 13 図 | Ⅲ層出土遺物 3 (石器) | 19 |
| 第 14 図 | Ⅳ層出土遺物 1 (縄文土器) | 21 |
| 第 15 図 | Ⅳ層出土遺物 2 (縄文土器) | 22 |
| 第 16 図 | Ⅳ層出土遺物 3 (縄文土器) | 23 |
| 第 17 図 | Ⅳ層出土遺物 4 (縄文土器) | 24 |
| 第 18 図 | Ⅳ層出土遺物 5 (石器) | 25 |
| 第 19 図 | Ⅳ層出土遺物 6 (石器) | 26 |
| 第 20 図 | V層出土遺物 1 (縄文土器) | 28 |
| 第 21 図 | V層出土遺物 2 (縄文土器) | 29 |
| 第 22 図 | V層出土遺物 3 (縄文土器) | 30 |
| 第 23 図 | V層出土遺物 4 (縄文土器) | 31 |
| 第 24 図 | V層出土遺物 5 (縄文土器) | 32 |
| 第 25 図 | V層出土遺物 6 (縄文土器) | 33 |
| 第 26 図 | V層出土遺物 7 (縄文土器) | 34 |
| 第 27 図 | V層出土遺物 8 (縄文土器) | 35 |
| 第 28 図 | V層出土遺物 9 (縄文土器) | 36 |
| 第 29 図 | V層出土遺物 10 (縄文土器) | 37 |
| 第 30 図 | V層出土遺物 11 (縄文土器) | 38 |
| 第 31 図 | V層出土遺物 12 (縄文土器) | 39 |
| 第 32 図 | V層出土遺物 13 (縄文土器) | 40 |
| 第 33 図 | V層出土遺物 14 (縄文土器) | 41 |
| 第 34 図 | V層出土遺物 15 (石器) | 43 |
| 第 35 図 | V層出土遺物 16 (石器) | 44 |

| | | |
|--------|---------------------|----|
| 第 36 図 | V層出土遺物 17 (石器) | 45 |
| 第 37 図 | V層出土遺物 18 (石器) | 46 |
| 第 38 図 | V層出土遺物 19 (石器) | 47 |
| 第 39 図 | V層出土遺物 20 (石器) | 48 |
| 第 40 図 | V層出土遺物 21 (石器) | 49 |
| 第 41 図 | V層出土遺物 22 (石器) | 50 |
| 第 42 図 | V層出土遺物 23 (石器) | 51 |
| 第 43 図 | V層出土遺物 24 (石器) | 52 |
| 第 44 図 | VII層出土遺物 1 (縄文土器) | 54 |
| 第 45 図 | VII層出土遺物 2 (縄文土器) | 55 |
| 第 46 図 | VII層出土遺物 3 (縄文土器) | 56 |
| 第 47 図 | VII層出土遺物 4 (縄文土器) | 57 |
| 第 48 図 | VII層出土遺物 5 (縄文土器) | 58 |
| 第 49 図 | VII層出土遺物 6 (縄文土器) | 59 |
| 第 50 図 | VII層出土遺物 7 (縄文土器) | 60 |
| 第 51 図 | VII層出土遺物 8 (縄文土器) | 61 |
| 第 52 図 | VII層出土遺物 9 (縄文土器) | 62 |
| 第 53 図 | VII層出土遺物 10 (縄文土器) | 63 |
| 第 54 図 | VII層出土遺物 11 (石器) | 65 |
| 第 55 図 | VII層出土遺物 12 (石器) | 66 |
| 第 56 図 | VII層出土遺物 13 (石器) | 67 |
| 第 57 図 | VII層出土遺物 14 (石器) | 68 |
| 第 58 図 | VII層出土遺物 15 (石器) | 69 |
| 第 59 図 | VII層出土遺物 16 (石器) | 70 |
| 第 60 図 | VII層出土遺物 17 (石器) | 71 |
| 第 61 図 | VII層出土遺物 18 (石器) | 72 |
| 第 62 図 | VIII層出土遺物 1 (縄文土器) | 74 |
| 第 63 図 | VIII層出土遺物 2 (縄文土器) | 75 |
| 第 64 図 | VIII層出土遺物 3 (縄文土器) | 76 |
| 第 65 図 | VIII層出土遺物 4 (縄文土器) | 77 |
| 第 66 図 | VIII層出土遺物 5 (縄文土器) | 78 |
| 第 67 図 | VIII層出土遺物 6 (縄文土器) | 79 |
| 第 68 図 | VIII層出土遺物 7 (縄文土器) | 80 |
| 第 69 図 | VIII層出土遺物 8 (縄文土器) | 81 |
| 第 70 図 | VIII層出土遺物 9 (縄文土器) | 82 |
| 第 71 図 | VIII層出土遺物 10 (縄文土器) | 83 |
| 第 72 図 | VIII層出土遺物 11 (縄文土器) | 84 |

| | | |
|------|---------------------|-----|
| 第73図 | VIII層出土遺物 12 (縄文土器) | 85 |
| 第74図 | VIII層出土遺物 13 (縄文土器) | 86 |
| 第75図 | VIII層出土遺物 14 (縄文土器) | 87 |
| 第76図 | VIII層出土遺物 15 (縄文土器) | 88 |
| 第77図 | VIII層出土遺物 16 (石器) | 90 |
| 第78図 | VIII層出土遺物 17 (石器) | 91 |
| 第79図 | VIII層出土遺物 18 (石器) | 92 |
| 第80図 | VIII層出土遺物 19 (石器) | 93 |
| 第81図 | VIII層出土遺物 20 (石器) | 94 |
| 第82図 | VIII層出土遺物 21 (石器) | 95 |
| 第83図 | VIII層出土遺物 22 (石器) | 96 |
| 第84図 | VIII層出土遺物 23 (石器) | 97 |
| 第85図 | VIII層出土遺物 24 (石器) | 98 |
| 第86図 | VIII層出土遺物 25 (石器) | 99 |
| 第87図 | VIII層出土遺物 26 (石器) | 100 |
| 第88図 | VIII層出土遺物 27 (石器) | 101 |
| 第89図 | VIII層出土遺物 28 (石器) | 102 |
| 第90図 | VIII層出土遺物 29 (石器) | 103 |
| 第91図 | VIII層出土遺物 30 (石器) | 104 |
| 第92図 | VIII層出土遺物 31 (石器) | 105 |
| 第93図 | VIII層出土遺物 32 (石器) | 106 |

挿図目次

| | | |
|-----|------|-----|
| 挿図1 | 基本層序 | 7 |
| 挿図2 | 土器集成 | 108 |

写真図版目次

| | | |
|-------|--------------------|-----|
| 写真図版1 | 宮古湾と調査地点 | 111 |
| 写真図版2 | 調査地点／試掘調査トレンチの位置 | 112 |
| 写真図版3 | Aトレンチ／Bトレンチ | 113 |
| 写真図版4 | Cトレンチ／本調査区(東から) | 114 |
| 写真図版5 | 本調査区堆積状況／完掘状況 | 115 |
| 写真図版6 | II層・III層出土遺物(縄文土器) | 116 |

| | | |
|---------|-------------------|-----|
| 写真図版 7 | IV層出土遺物（縄文土器） | 118 |
| 写真図版 8 | IV層・V層出土遺物（縄文土器） | 118 |
| 写真図版 9 | V層出土遺物（縄文土器） | 119 |
| 写真図版 10 | V層出土遺物（縄文土器） | 120 |
| 写真図版 11 | V層出土遺物（縄文土器） | 121 |
| 写真図版 12 | V層出土遺物（縄文土器） | 122 |
| 写真図版 13 | V層出土遺物（縄文土器） | 123 |
| 写真図版 14 | V層・VII層出土遺物（縄文土器） | 124 |
| 写真図版 15 | VII層出土遺物（縄文土器） | 125 |
| 写真図版 16 | VII層出土遺物（縄文土器） | 126 |
| 写真図版 17 | VIII層出土遺物（縄文土器） | 127 |
| 写真図版 18 | VIII層出土遺物（縄文土器） | 128 |
| 写真図版 19 | VIII層出土遺物（縄文土器） | 129 |
| 写真図版 20 | VIII層出土遺物（縄文土器） | 130 |
| 写真図版 21 | VIII層出土遺物（縄文土器） | 131 |
| 写真図版 22 | VIII層出土遺物（縄文土器） | 132 |
| 写真図版 23 | VIII層出土遺物（縄文土器） | 133 |
| 写真図版 24 | VIII層出土遺物（縄文土器） | 134 |

調査経過

1. 調査に至る経過

東日本大震災後の復興事業に伴い当該地に災害公営住宅の建設されることになった。当該地は周知の高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡に含まれており、宮古市（都市整備部建築住宅課）との事前協議行われ、試掘調査の実施が決められた。試掘調査は平成24年11月に行われ、縄文時代の遺物包含層が確認された。

試掘調査の結果を受けて、宮古市（都市整備部建築住宅課）との協議が行われ、本調査は平成25年3月に行われた。本書はその結果を報告するものである。

2. 調査要旨

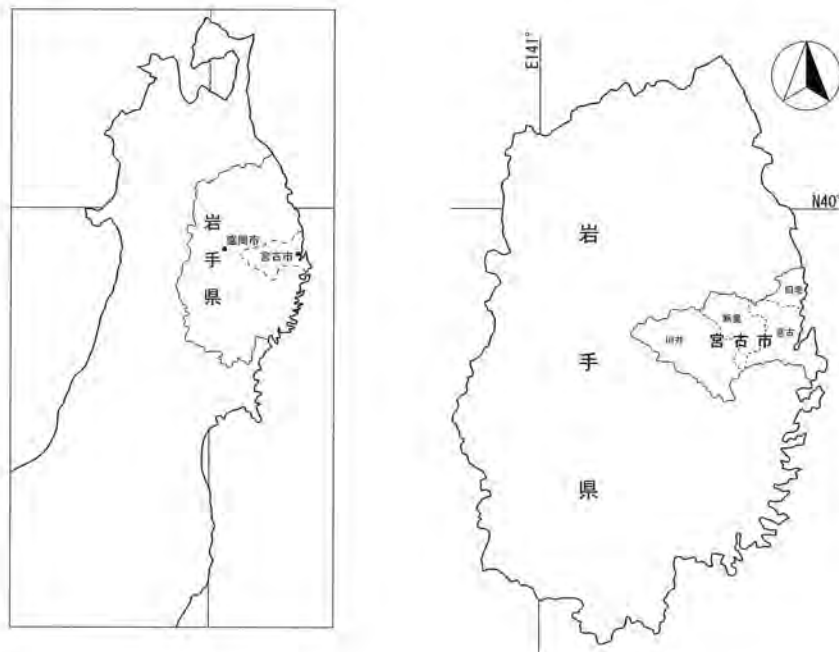
| | |
|--------|---|
| 発掘調査地点 | 宮古市高浜1丁目13番1、14番1 |
| 遺跡名 | 高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡（LG44－1013） |
| 調査原因 | 災害公営住宅の建設 |
| 試掘調査 | 平成24年11月27日～平成24年12月14日 |
| 調査面積 | 243㎡（調査対象面積2、000㎡） |
| 資料整理 | 平成25年1月7日～平成25年3月22日 |
| 本調査 | 平成25年3月21日～平成25年4月23日 |
| 調査面積 | 280㎡ |
| 資料整理 | 平成25年6月10日～平成26年3月27日 平成28年4月1日～平成29年3月30日 平成29年4月11日～平成30年3月 |
| 出土遺構遺物 | 縄文時代前期初頭～早期末葉の土器、石器などの遺物包含層 出土量はパンコンテナ30箱 |

3. 調査体制

| | | | |
|------|----------|----------|------------------------|
| 調査主体 | 宮古市教育委員会 | 教育長 | 伊藤 晃二（平成25年度～） |
| 調査総括 | 竹下 将男 | 宮古市教育委員会 | 文化課長（平成25年度～26年度） |
| | 高橋 憲太郎 | 〃 | 〃（平成27年度～） |
| 事務担当 | 高橋 憲太郎 | 〃 | 文化課副主幹（平成25年度～26年度） |
| | 鎌田 祐二 | 〃 | 〃（平成27年度～） |
| 調査員 | 安原 誠 | 〃 | 文化課主任文化財調査員 |
| | 江口 邦泰 | 〃 | 文化課主任文化財調査員 |
| | 阿部 豊 | 〃 | 文化課埋蔵文化財発掘調査員（非常勤、主担当） |
| | 前川 友宏 | 〃 | 文化課埋蔵文化財調査員（非常勤） |
| | 赤沼 みちる | 〃 | 文化課埋蔵文化財調査員（非常勤） |

発掘調査

| | |
|------|---|
| 野外調査 | 山崎 日日雄、伊藤 勝夫、佐々木 亨、米沢 豊、鈴木 祥一、扇田 正義、 佐々木 壽朗、大森 修、坂下 吉郎、佐々木 厚子、平山 早予子、菅野 真実、 中村 明子、崎尾 由美子、沼里 桜 |
| 資料整理 | 山崎 日日雄、小成 鷹介、佐々木 厚子、崎尾 由美子、鳴海 美雪、 松本 理恵、畠山 憲子 |



第1図 宮古市位置図

4. 遺跡の立地と環境

宮古市は三陸海岸の中央に位置する「海の町」であったが、隣村の新里村、川井村と合併し、北上山地をも併せ持つ「海と山の町」である。宮古市の東端に位置し、北東に突き出た重茂半島は、西側で宮古湾を形成する。宮古湾を囲む丘陵地には多くの遺跡が存在し、高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡のその一つである。

高浜地区は宮古湾の西岸地域に位置する、遺跡は山間部から流れる出る沢を取り囲んだ山麓部の南東向き緩斜面に立地する。高浜Ⅱ、Ⅳ遺跡では縄文時代後期の遺物が採集されている。また高浜Ⅴからは縄文時代早期・前期・中期の遺物が見られ特に中期中葉の遺物が主体を占める。

高浜Ⅵからも多量の遺物が採集されており、ほとんどが縄文時代中期中葉のものである。高浜Ⅴ、Ⅵ遺跡共に国道45号線の開削、学校建設、宅地造成等によりかなりの部分が失われているが、現存部分には濃密に遺物が見られる。

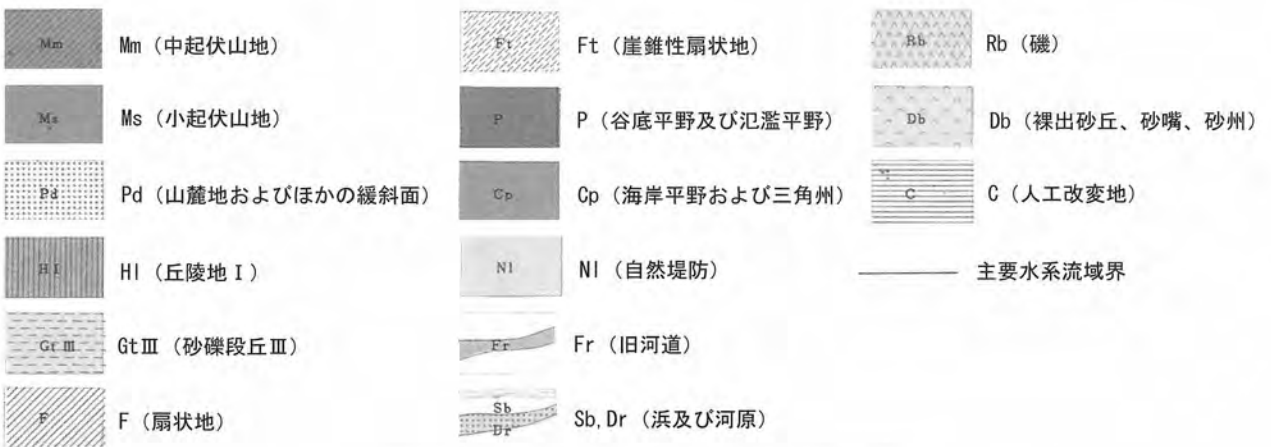
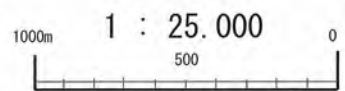
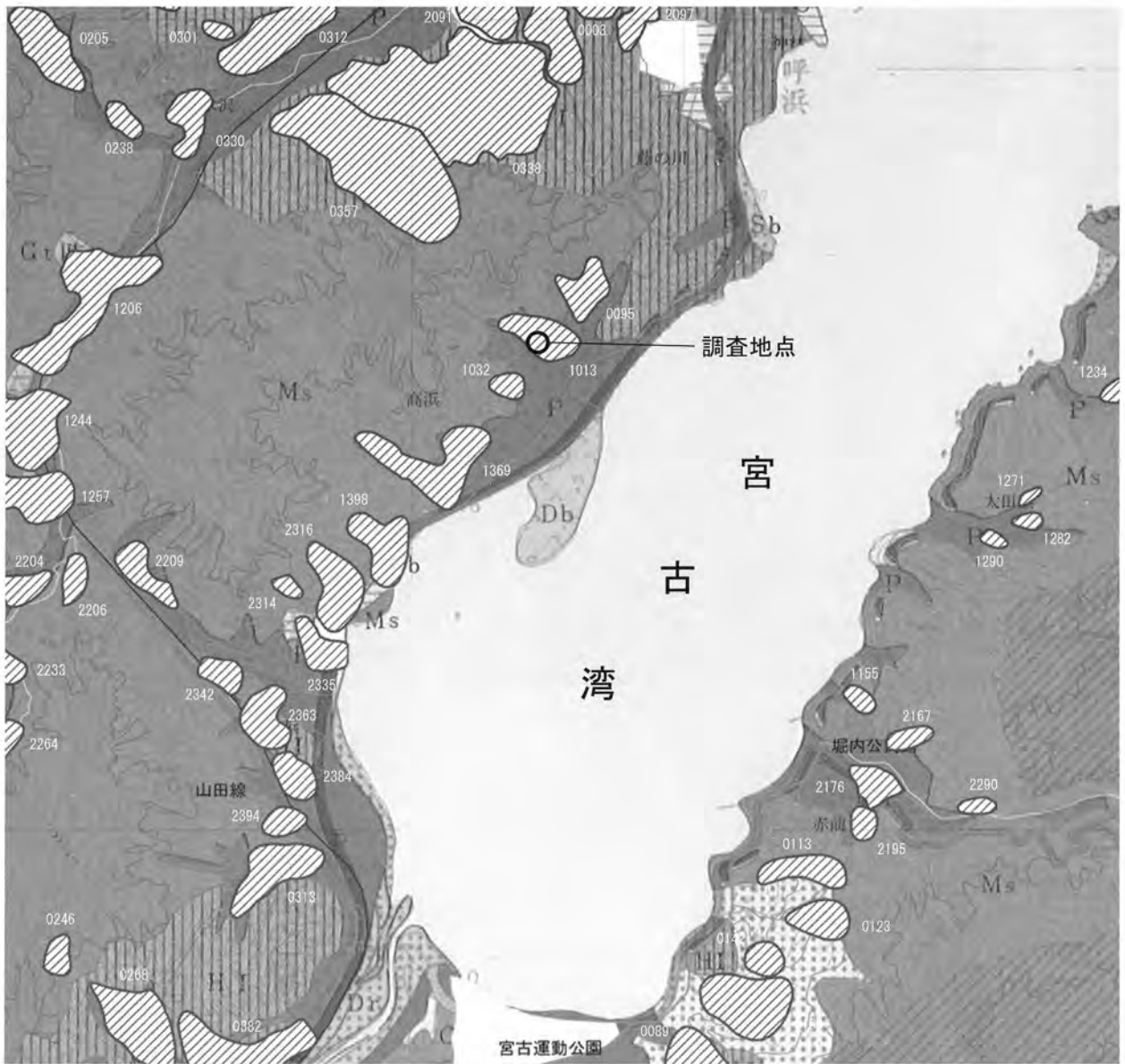
調査例を挙げると、高浜Ⅵ遺跡の「高浜Ⅵ地神遺跡」（宮古報文65集 2006）では縄文時代中期の竪穴住居跡、大規模な土坑跡などが出土している。2015年の高浜Ⅴ下地神遺跡（整理作業中）の調査では、多数の住居跡、土坑跡が重なり合って出土した他に、数基の埋甕、濃密な遺物包含層などが確認されている。また2013年の同遺跡北側での調査では、縄文時代中期の多数の遺構が重複出土している。調査例は少ないが、高浜地区の遺跡の濃密さ、宮古湾岸の遺跡の豊富さを語っている。



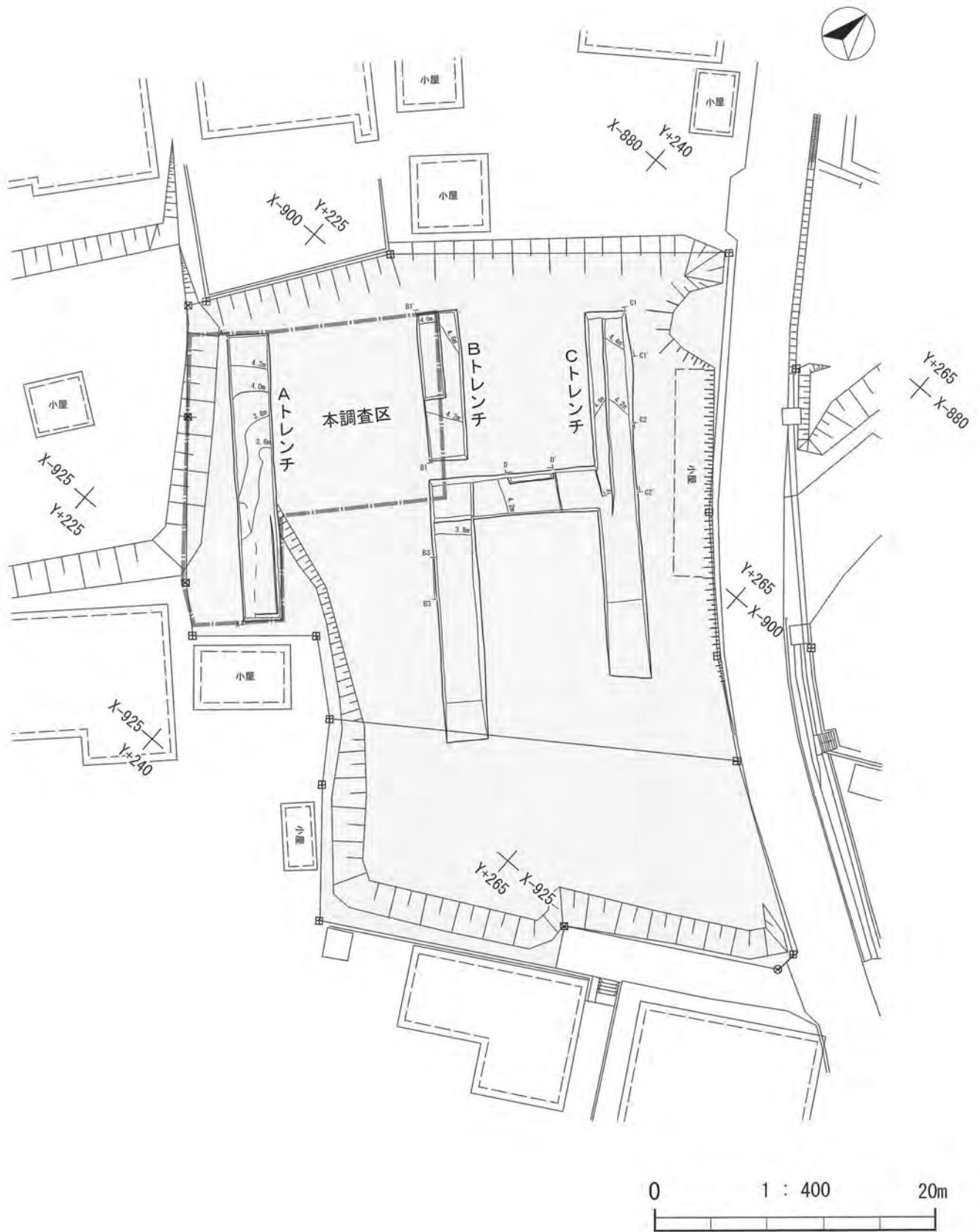
周辺の遺跡

| 遺跡コード | 遺跡名称 | 遺物・遺構 | 所在地 |
|-----------|--------|----------------|------------------|
| LG44-0095 | 高浜Ⅰ坂ノ下 | 縄文時代土器 | 高浜第Ⅰ地割坂ノ下 |
| LG44-1013 | 高浜Ⅱ今ヶ洞 | 縄文時代前期・中期・後期土器 | 高浜第Ⅱ地割今ヶ洞 |
| LG44-1032 | 高浜Ⅲ熊野 | 縄文時代土器 | 高浜台Ⅲ地割熊野 |
| LG43-1369 | 高浜Ⅳ横須賀 | 縄文時代中期・後期土器 | 高浜第Ⅴ地割大沢、第Ⅳ地割横須賀 |
| LG43-1398 | 高浜Ⅴ下地神 | 縄文時代早期・前期・中期土器 | 高浜第Ⅵ地割地神、地神 |
| LG43-2316 | 高浜Ⅵ地神 | 縄文時代中期土器 | 高浜第Ⅵ地割地神、地神 |

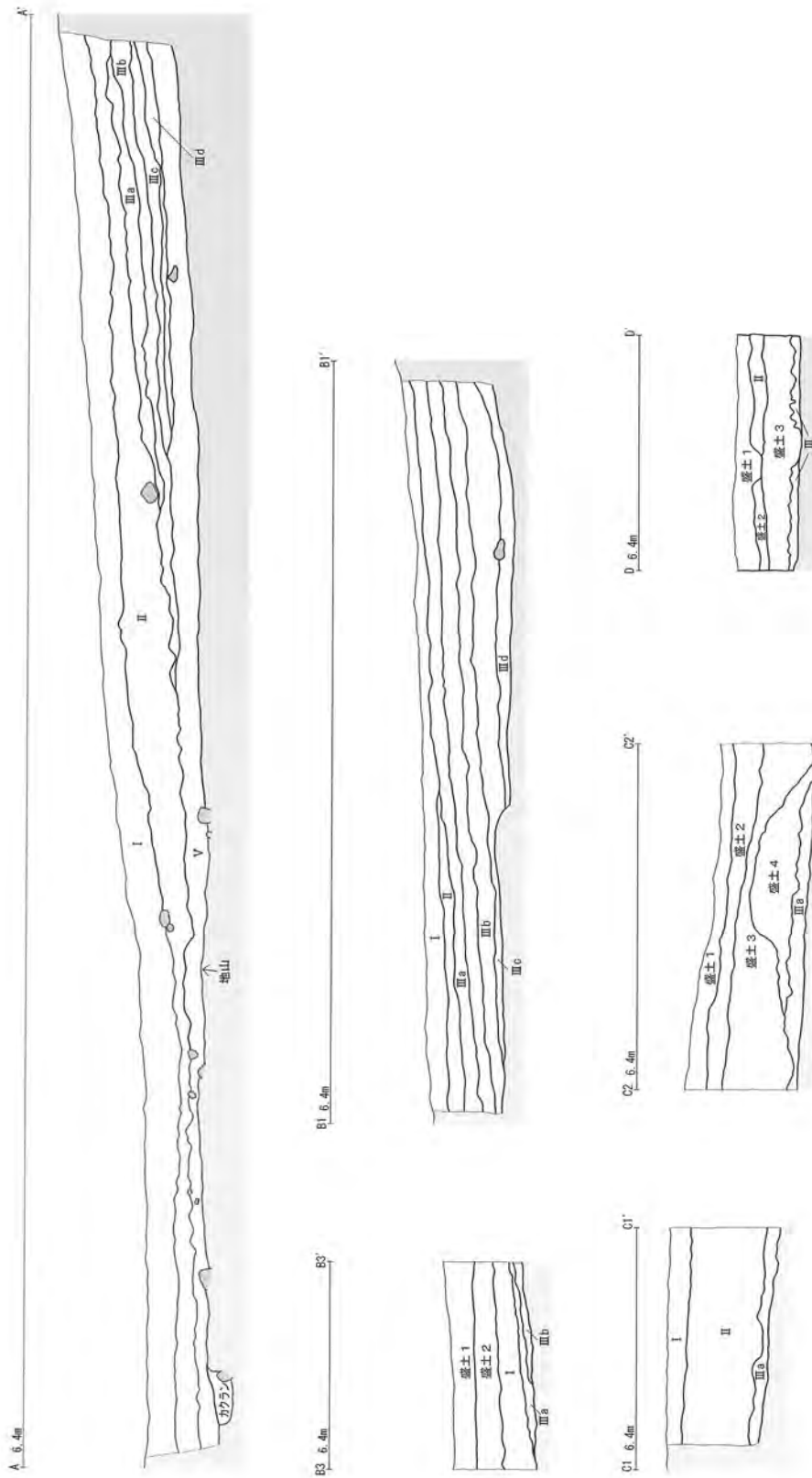
第2図 調査地点



第3図 地形分類図、周辺の遺跡



第4図 試掘調査トレンチの位置と本調査区



第5図 調査区土層断面図

調査内容

1. 調査の方法

試掘調査で盛土、旧表土を剥いだ時点で、調査区の西側の一部を残して、ほぼ全域から水が湧きだした。本調査では湧水域を避けて、比較的標高の高い北西部の傾斜地を対象として行った。調査は、覆土を層別に地山面まで掘り下げていく方法で行った。

2. 基本層序（挿図1）

調査区の現状は緩斜面であるが、原状は、試掘調査の結果、地名の示す通り「洞地」であることが分かった。M1～M4は盛土層である。東側に厚く堆積する。

I層 表土層である。黒褐色土、東に傾斜して全域に堆積する。

II層 黒色土、I層と同じ分布である。出土遺物は縄文土器に陶磁器が混じる。

III層 黒色土、砂土、砂礫土などが交互に混じる。全域に分布する厚い堆積層である。出土遺物は少ない。

III a層 暗褐色の砂土である。

III b層 シルト質の黒色土である。

III c層 暗褐色の砂土である。

III d層 黒褐色の砂礫土である。

III e層 砂の混じる黒褐色土である。

III f層 褐色の礫層である。

III g層 シルト質の黒褐色土である。

III h層 シルト質の砂土である。

III i層 シルト質の黒色土である。

IV層 砂土が混じる暗褐色土層と礫層に分かれる。主に北側に堆積する。出土遺物は少ない。

IV a層 層状の砂が混じる暗褐色土である。

IV b層 褐色の礫層である。

V層 締まりのある黒褐色土層である。火山灰を含む。全域に分布し、多量の遺物を含む。

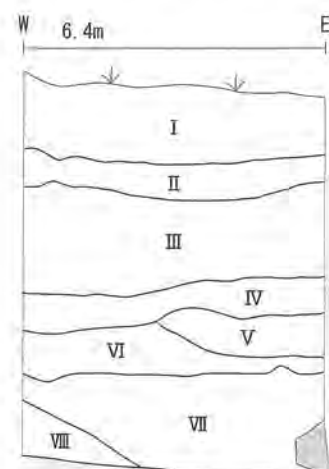
VI層 褐色の厚い砂礫層である。一気に堆積した水成堆積層と思われる。遺物は出土していない。

VII層 締まりのある黒褐色土層である。火山灰を含む。北側に堆積する。VI層を挟むが、V層との時期差はそれほどないように思われる。

VIII層 最下層の締まったシルト質の褐色土である。全域に分布し、多量の遺物を含む。VIII b層は地山への漸移層である。

カクランA、Bについて（第6図）

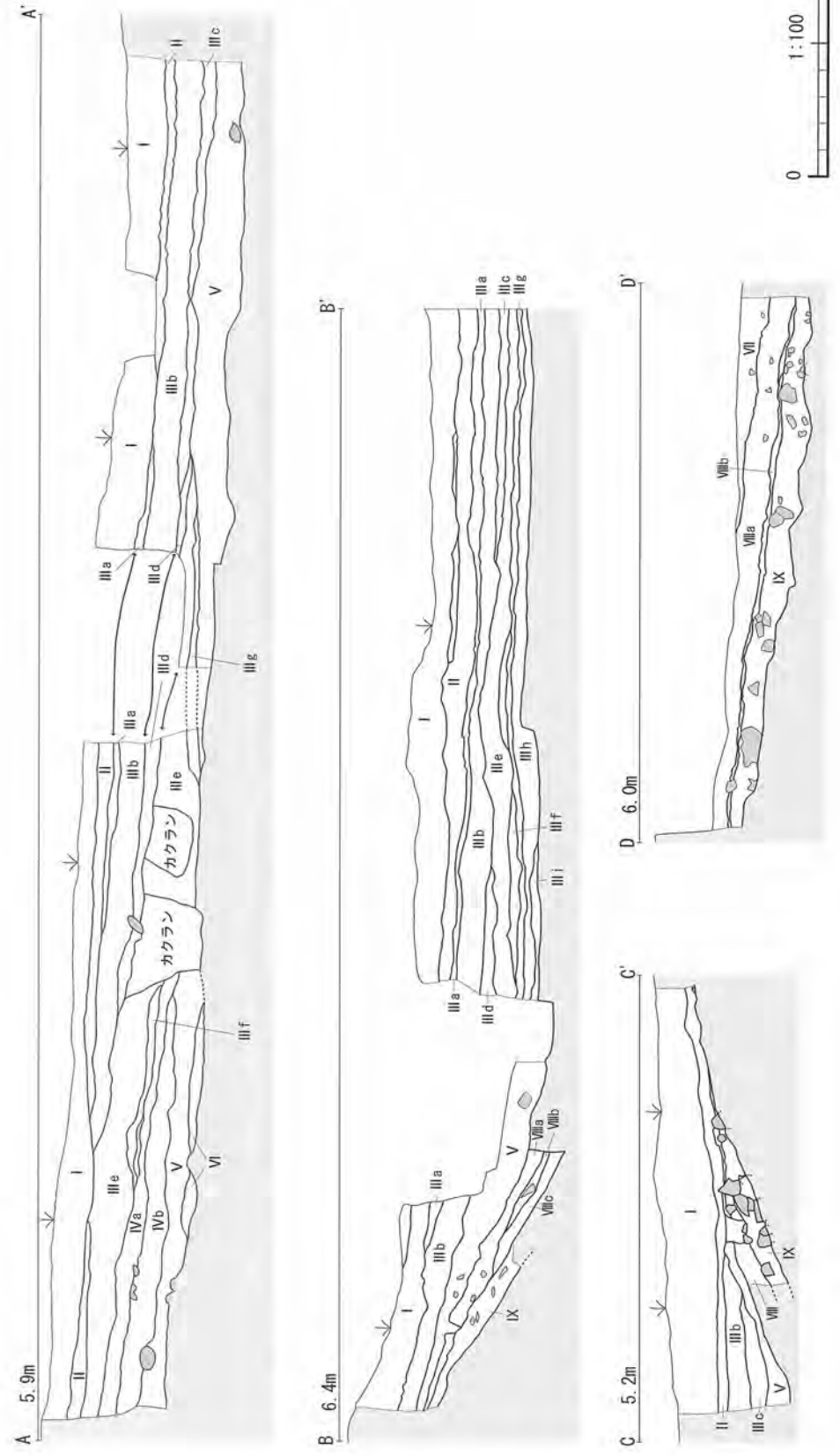
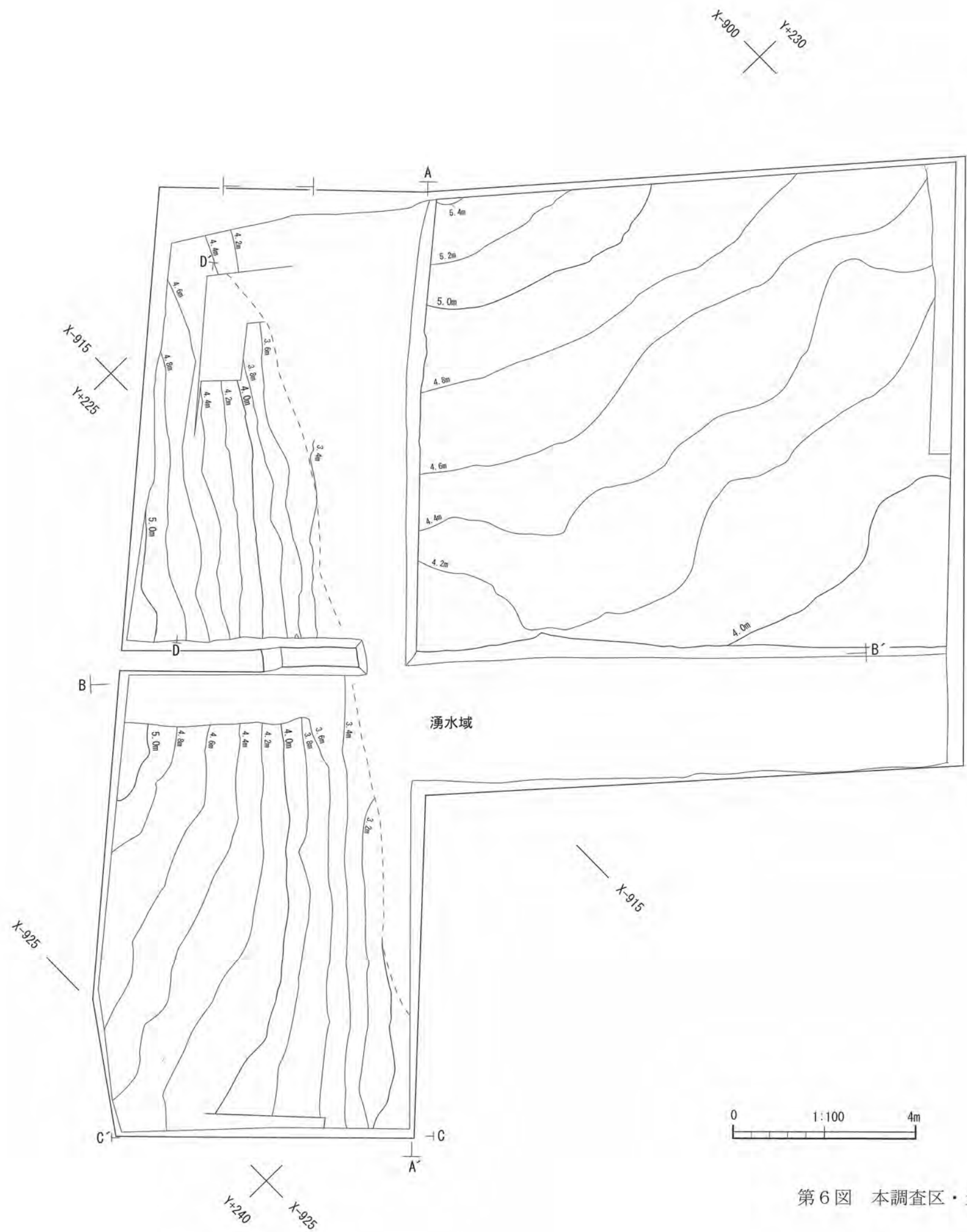
III層で検出した土坑状の堆積層は、当初土坑跡として調査に当たったが、壁の立ち上がり、柱の掘方など確認できず、水成のカクランと判断したものである。



挿図1 基本層序

基本層序

| 層名 | | 基本土 | 混入土 | 固さ・密度・構造・混入物など |
|--------|-----------|----------------|-----------------------|------------------|
| I | 表土 | 10YR3/2 砂壤土 | 10YR3/3 砂壤土 塊 10% | 中、疎、塊 |
| I b | 砂土 | 10YR3/2 砂土 | 10YR4/3 砂土 10% | 中、中～軟、層状 |
| II | 黒色土 | 10YR3/1 砂壤土 | 10YR3/3 砂壤土 塊 5% | 中～固、中～疎、塊、陶磁器など |
| III a | 砂土 | 10YR3/3 砂土 | 10YR4/3 砂土 層状 10% | 中、中～疎、塊 |
| III b | 黒色土 | 10YR2/1 シルト質壤土 | 10YR2/3 砂壤土 層状 10% | 中～固、中～密、塊。土器縄文 |
| III c | 砂土 | 10YR3/3 砂壤土 | 10YR4/3 砂壤土 層状 10% | 中、中～疎、塊 |
| III d | 砂礫土 | 10YR2/2 砂土 | 10YR4/4 砂土 層状 15% | 中～固、中～疎、塊 |
| III e | 黒色土 | 10YR2/3 砂壤土 | 10YR4/3 砂壤土 層状礫混り 10% | 中～固、中～疎、塊。礫多 |
| III f | 礫層 | 10YR4/6 砂土 | 10YR2/3 砂壤土 層状 10% | 中～固、疎、塊 |
| III g | 黒色土 | 10YR2/2 シルト質壤土 | 10YR4/3 砂土層状 1% | 中、中～密、塊 |
| III h | 砂土 | 10YR4/3 砂壤土 | 10YR3/4 シルト質壤土 層状 10% | 中、中～密、塊 |
| III i | 黒色土 | 10R2/2 シルト質壤土 | 10YR3/3 シルト質壤土 層状 1% | 中、中～密、塊 |
| IV a | 黒色土 | 10YR3/3 砂壤土 | 10YR4/3 砂土層状 5% | 中～固、中、塊。土器多 |
| IV b | 礫層 | 10YR4/3 砂土 | 10YR3/4 砂土 層状 10% | 固、疎、塊。中礫多 |
| V | 黒色土 | 10YR2/3 砂壤土 | 10YR2/2 砂壤土 塊 10% | 固、中、塊。土器多 |
| VI | 砂礫層 | 10YR4/4 砂土 | 10YR3/4 砂土 10% | 固、疎、塊 |
| VII | 火山灰、炭が混じる | 10YR2/2 シルト質壤土 | 10YR3/4 シルト質壤土 塊 10% | 中～固、密、塊。土器多 |
| VIII a | 褐色土 | 10YR4/4 シルト質壤土 | 10YR3/4 シルト質壤土 塊 10% | 固、密、塊 |
| VIII b | 褐色土 | 10YR5/6 シルト壤土 | 10YR3/3 シルト質壤土 塊 10% | 中～固、密、塊。焼土、炭、土器多 |
| IX | 褐色土 | 10YR3/3 シルト質壤土 | 10YR2/3 シルト質壤土 塊 10% | 固、密、塊。遺物出土しない |



第6図 本調査区・土層断面

1 検出された遺物

調査の概要で述べたが、今回の調査では、遺構は検出されず、西側の斜面で、多くの土器、石器を含む遺物包含層を検出した。以下Ⅱ層からⅧ層の層序に従い出土遺物を記述していきたい。

a. Ⅱ層出土遺物

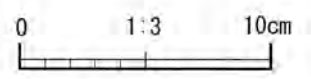
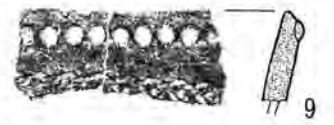
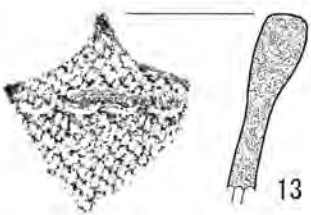
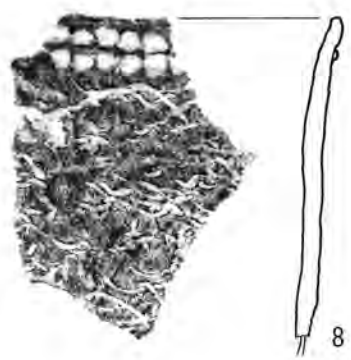
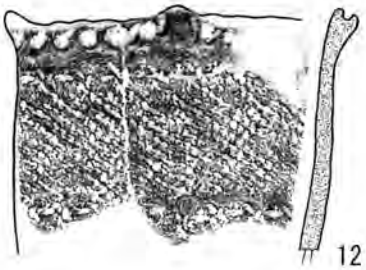
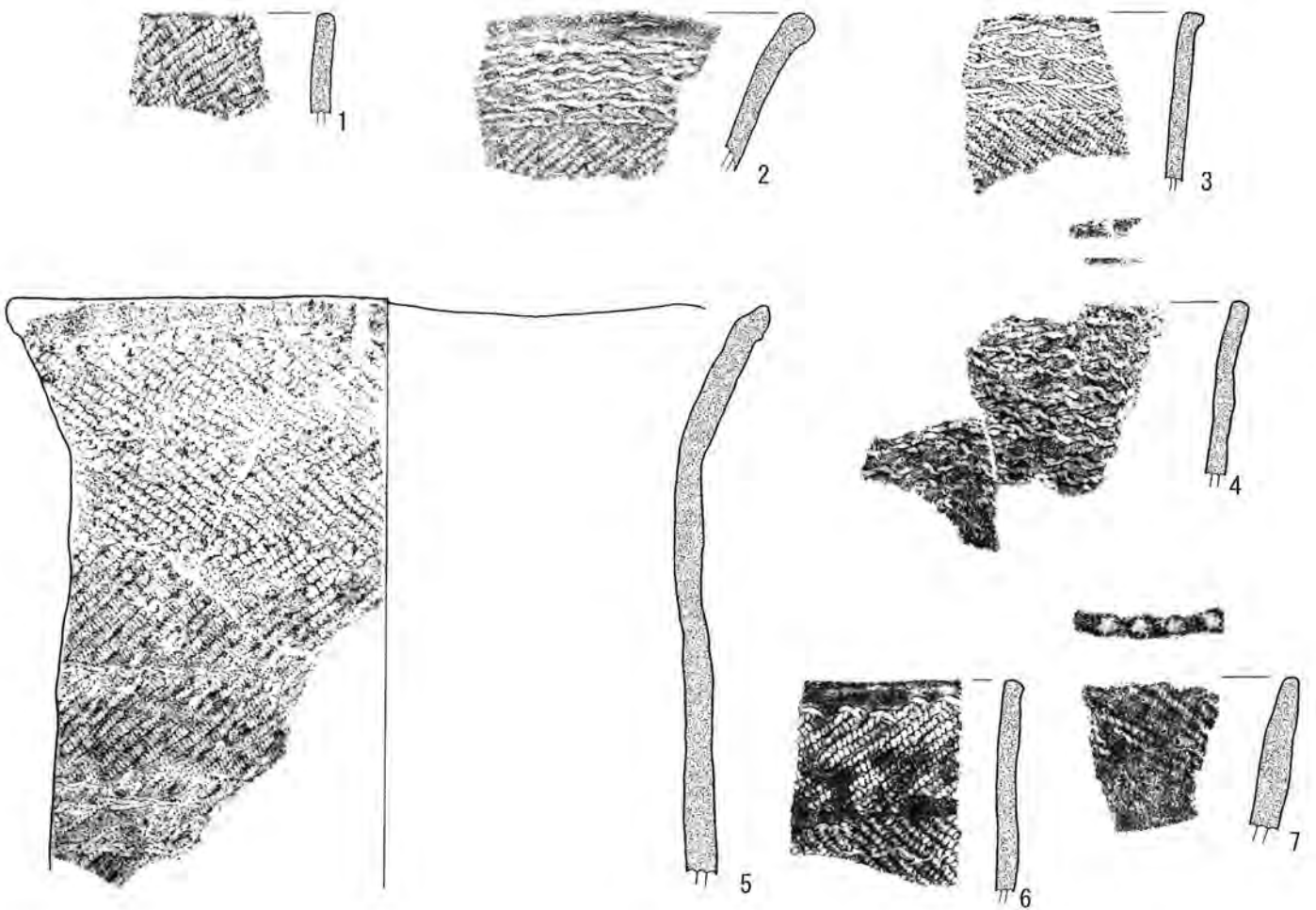
縄文土器（第7図～第8図）

1～13は深鉢の口縁部である。胎土には、8を除き、繊維が含まれている。口縁部は外反するものと、直に立ち上がるものに分かれ、内反するものはない。1～11は平縁である。1～4不整撚糸文と斜縄文で施文される。5、6は結節羽状縄文を施され、7は斜縄文の他に口唇部に圧痕を持つ。8、9は、体部は不整撚糸文で施文され、口縁部に横位隆帯を巡らす。8は隆帯の上下に円形の圧痕が施され、9は隆帯上に円形の圧痕が施される。以上縄文前期大木2式。10は口縁部に円形の刺突列を持つ。11は口唇部に刺突列が入り、体部を撚糸文で施文される。12、14は山形の口縁部である。12は三か所の頂部に刺突痕を有し、口唇部のすぐ傍らに円形の圧痕列を有する。13は体部に結節縄文が施される。

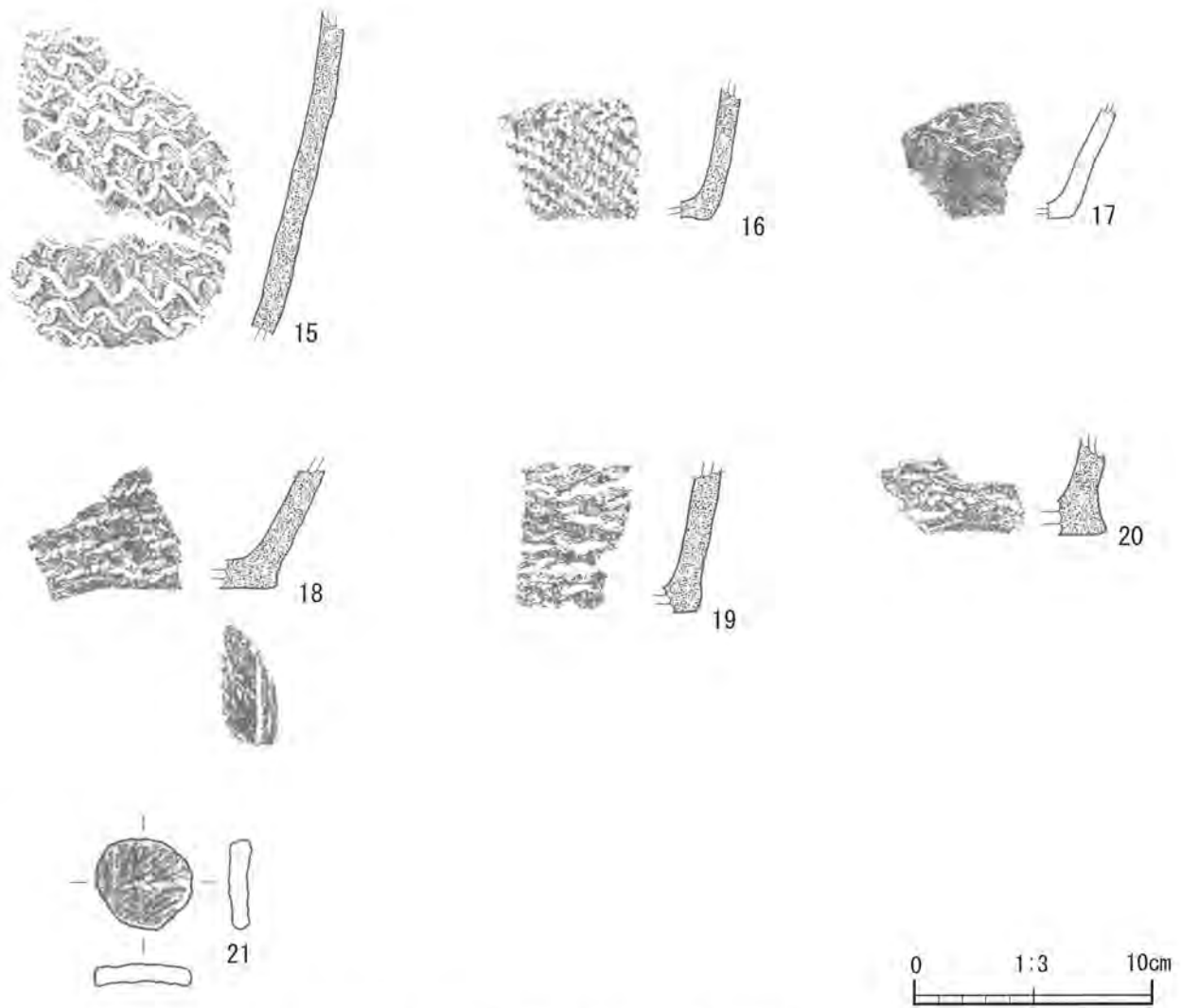
14、15は体部片である。いずれもS字状連鎖沈文で施文される。

16～20は底部である。いずれも平底である。16は羽状縄文で施文され、17～20は不整撚糸文による施文である。底面に明瞭な調整痕を残すものはなく、18に条痕が観察されたのみである。

21は土製品の円盤である。上面を無節の縄文圧痕で施文されている。



第7図 II層出土遺物1 (縄文土器)



第8図 II層出土遺物 2 (縄文土器)

石器 (第9図～第10図)

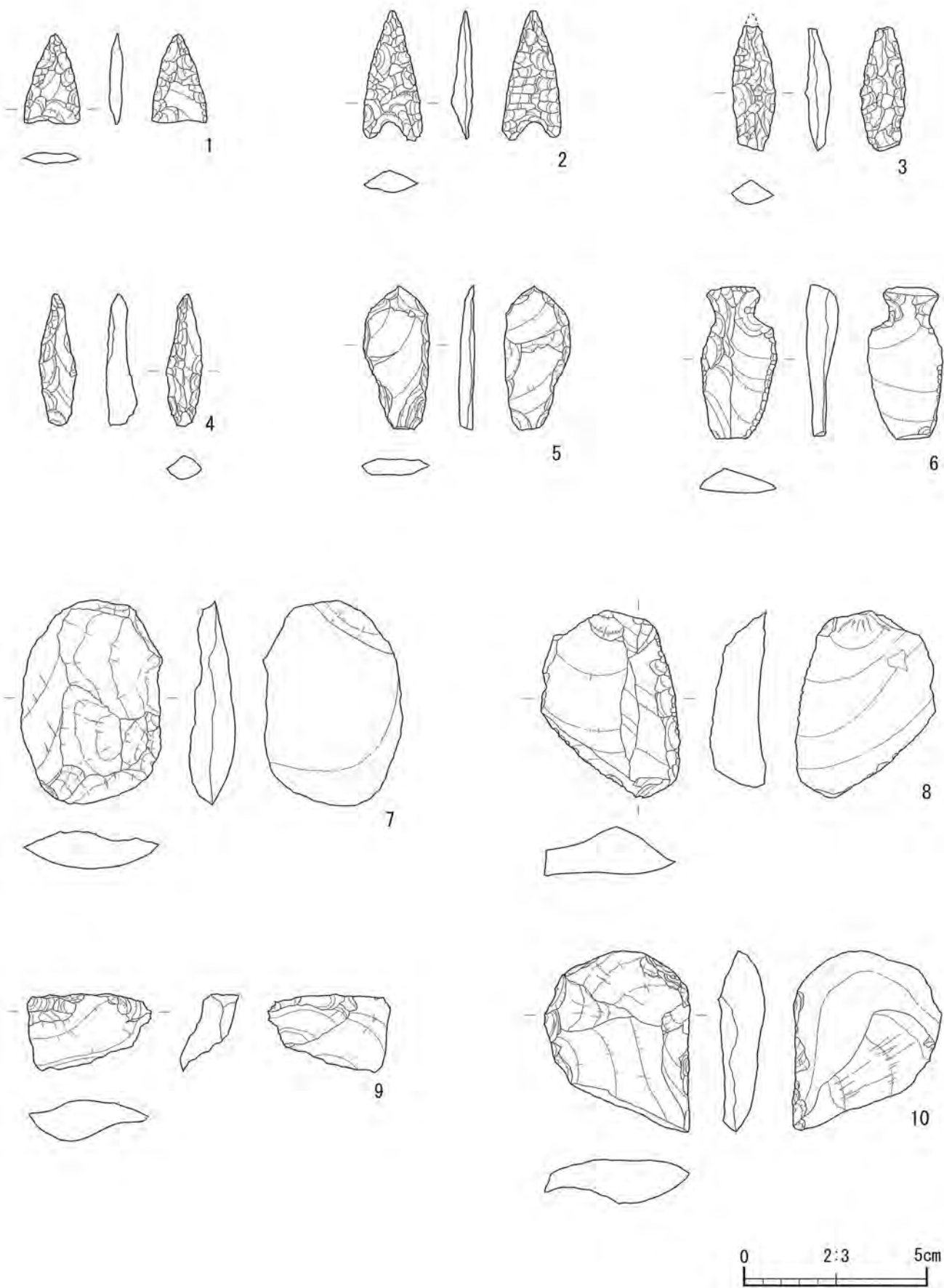
1～5は石鎌である。1は正三角形型で平基である。2は二等辺三角形型で凹基である。3、4は鋭角三角形型で、平基である。5は平基で、頭部の幅が広くなる。周縁部に調整痕をのこす。未完と思われる。6は縦型の石匙である。

7～11は不定形の石器である。

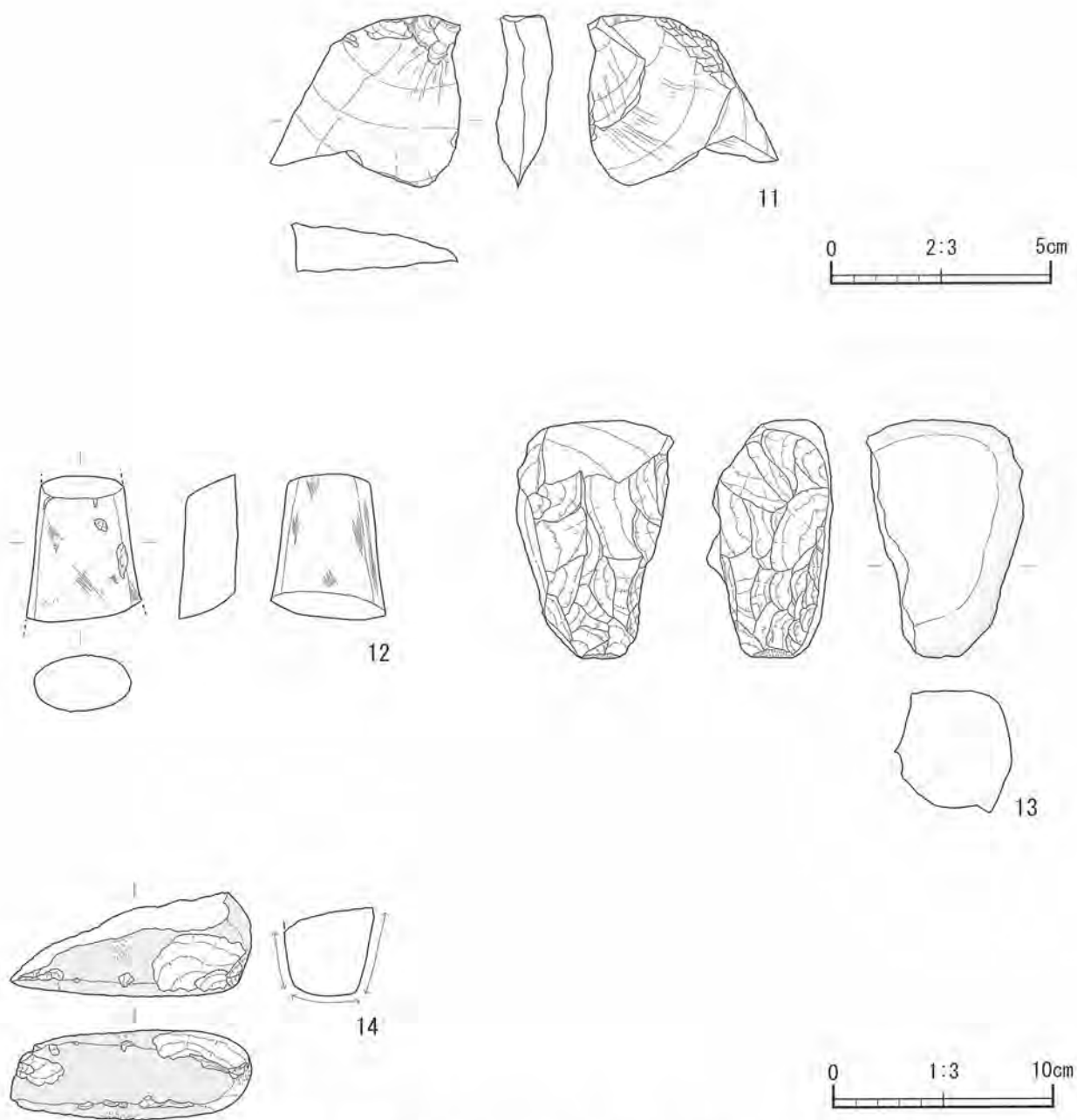
7は片面を自然面のまま残し、片面を調整、丸いへら状に成形する。8は基部を尖らせ、側縁に直刃を作る。9は三角形で、側縁を尖らす。10は基部を尖らせ、側縁を直刃とする。11は三角形で頂部を調整する。側縁に使用痕を残す。

12～14は礫石器である。

12は石斧の胴部である。13は先細りに加工する。先端部に敲打痕を残す。14は敲打磨石である。端部に敲打痕、機能面の両側に調整磨面をもつ。



第9図 II層出土遺物3 (石器)



第 10 図 II 層出土遺物 4 (石器)

b. Ⅲ層出土遺物

Ⅲ層は砂礫の多く混じる堆積層で、遺物は少ない。

縄文土器（第 11 図～第 12 図）

1～11は深鉢の口縁部である。いずれも外反する。胎土には、4、9、12を除き、繊維が含まれる。1～9は平縁である。1～7は不整撚糸文で施文される。7は隆帯を持ち、その上に円形の圧痕列を施される。8は口唇部に刻目が入る。9は網目状撚糸文で施文される。10は、口唇部に圧痕が施される。外面は無文、内面に不明瞭ながら条痕がのこる。11、12は山形口縁である。いずれも不整撚糸文で施文される。13は頸部で、不整撚糸文と斜縄文で施文される。

14～16は体部片である。いずれもS字状連鎖沈文で施文される。

以上の土器は縄文時代前期の大木2式に伴う。

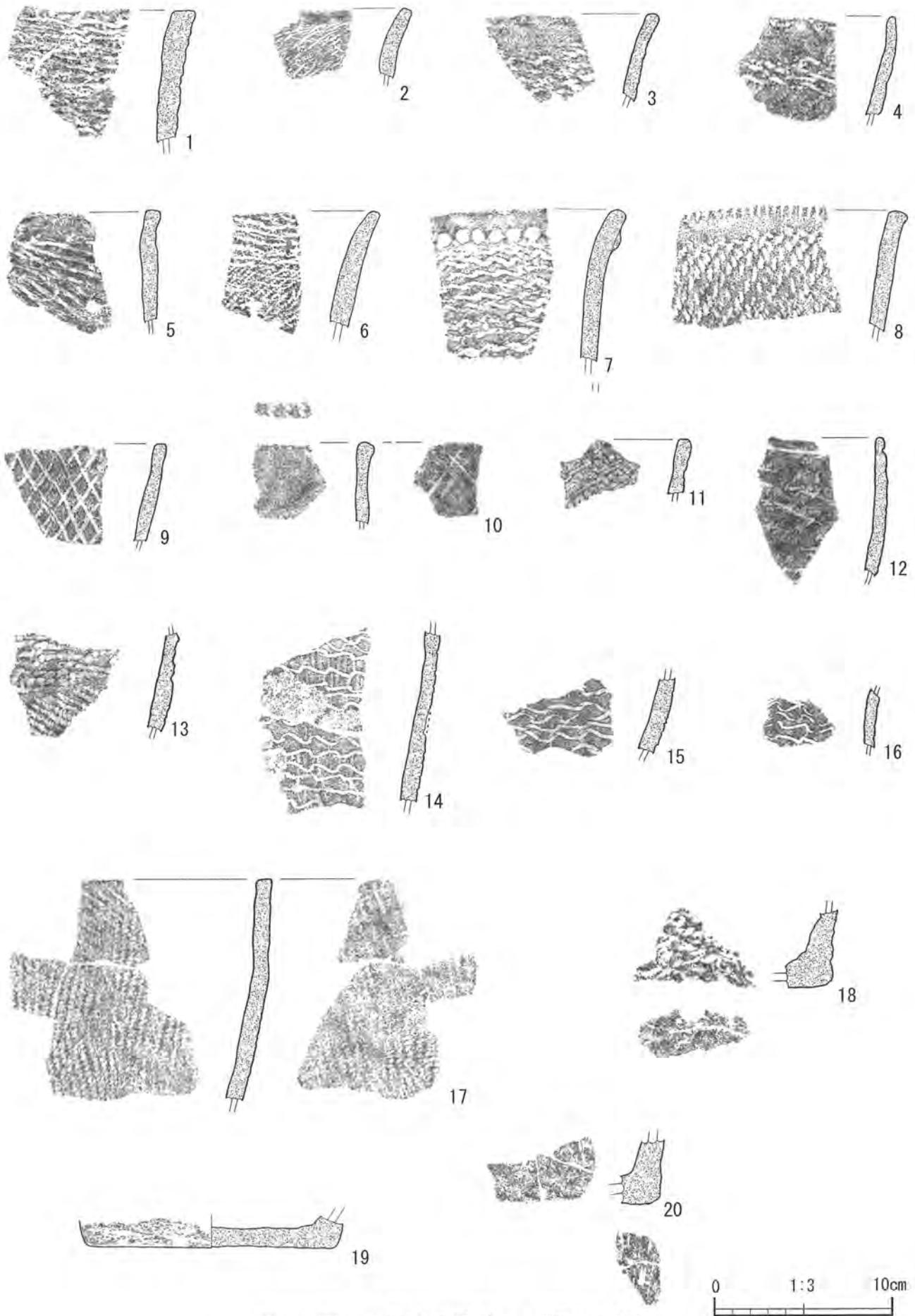
17は表と裏に縄文を施文されていることから「縄文－縄文」と称される土器である。器形は深鉢である。胎土には繊維が含まれるほかに、細砂、細礫が多く混入する。口唇部に縄文の側面圧痕が施される。縄文時代早期に伴う。

18～25は底部である。いずれも平底である。20は底面にへら削り状の調整痕を残し、21～23は網代痕を残す。25は沈線文が施文される。

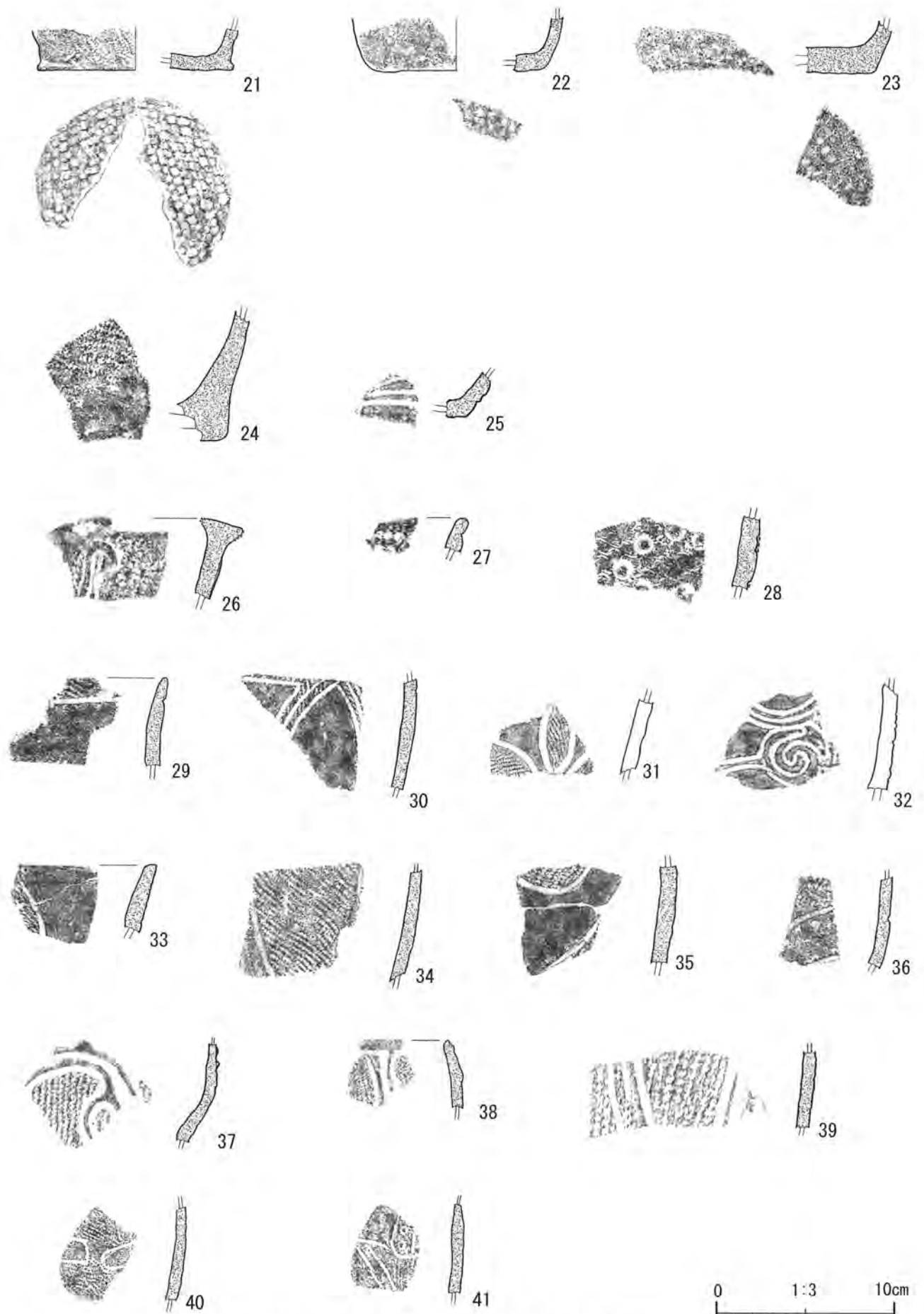
26～41は上記以外の時期に伴う土器をまとめた。

26は突起部を持つ口縁部である突起部に粘土紐が貼付される。27、28は竹筥による刺突列で施文される。26～28は大木3、4式に伴う。

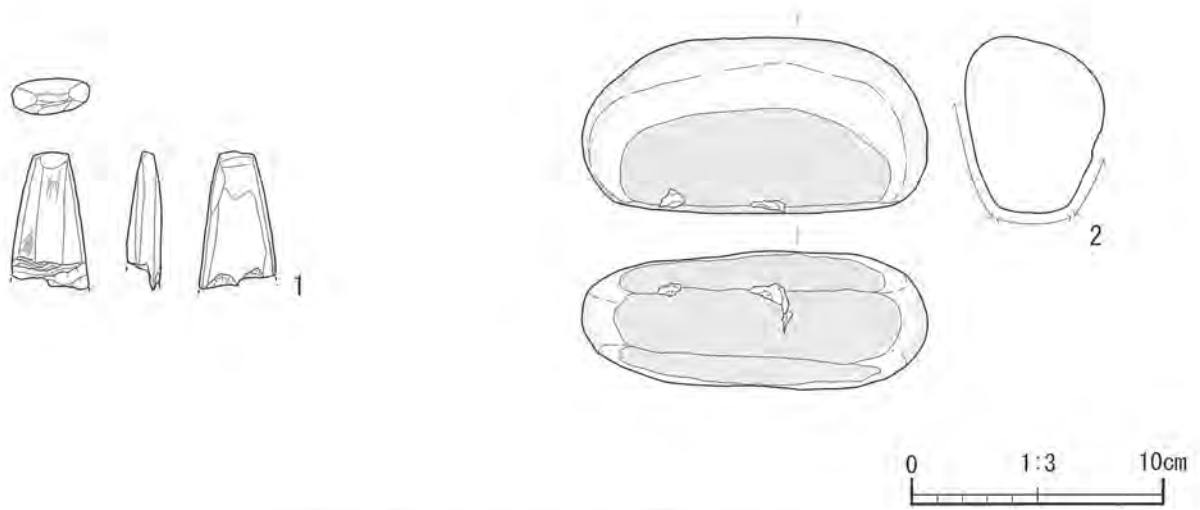
29～36は磨消し縄文をともなう口縁部と体部片である。32は沈線で施文される体部片である。縄文時代後期に伴う。37～39は隆沈で施文される口縁部、体部片である。縄文時代中期に伴う。40、41は沈線で施文される体部片である。



第 11 図 III層出土遺物 1 (縄文土器)



第12図 III層出土遺物2 (縄文土器)



第13図 III層出土遺物3（石器）

石器（第13図）

1、2は礫石器である。

1は磨製石斧で刃部を欠損している。2は敲打磨石である。機能面の両側に調整磨面をもつ。

c. IV層出土遺物

IV層は調査区の西側に堆積する黒色土層である。出土遺物は多くない。

縄文土器（第14図～第17図）

1～41は深鉢の口縁部である。胎土はほとんどが繊維を含む。1～15は不整撚糸文と斜縄文で施文される。16、17はS字状連鎖沈線文で施文される。

18～24は山形の口縁部を持つ。18は剥離し、施文は不明である。19～21は不整撚糸文が施される。22、23は口唇部に刺突列が入り、斜縄文で施文される。24は二列の横位側面圧痕が施される。

25～35は刻目、圧痕、隆帯などを施されたものである。25～27は口唇部に刻目を持つもの、28～31は頸部に隆帯を持ち、その上に圧痕が入るものである。32～36は横位の側面圧痕が施される。37は肥厚した口縁部に斜位の短い切込みが入る。38は口縁部に斜縄文、体部に不整撚糸文が施される。39～41は斜縄文のみで施文されたものである。

42～47は体部片である。45は羽状縄文で施文される。43～45は不整撚糸で施文される。46、47は木目状撚糸文で施文される。

以上縄文時代前期初頭大木2aもしくは2b式に伴う。

48～51はいわゆる「ぴっちり縄文」で装飾された口縁部である。48、49は口唇部に圧痕を施される。

縄文時代前期初頭大木1式に伴う。

52～66は「縄文—縄文」土器である。いずれも胎土は繊維の他に多量の細砂、細礫を含んでいる。

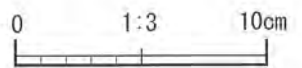
52～63は口縁部である。いずれも口唇部に押圧痕、原体圧痕など施される。59は外面に横位5列の側面圧痕が施される。60～63は隆帯をめぐらし、その上に原体側面圧痕を施す。

以上縄文時代早期末葉に伴う。

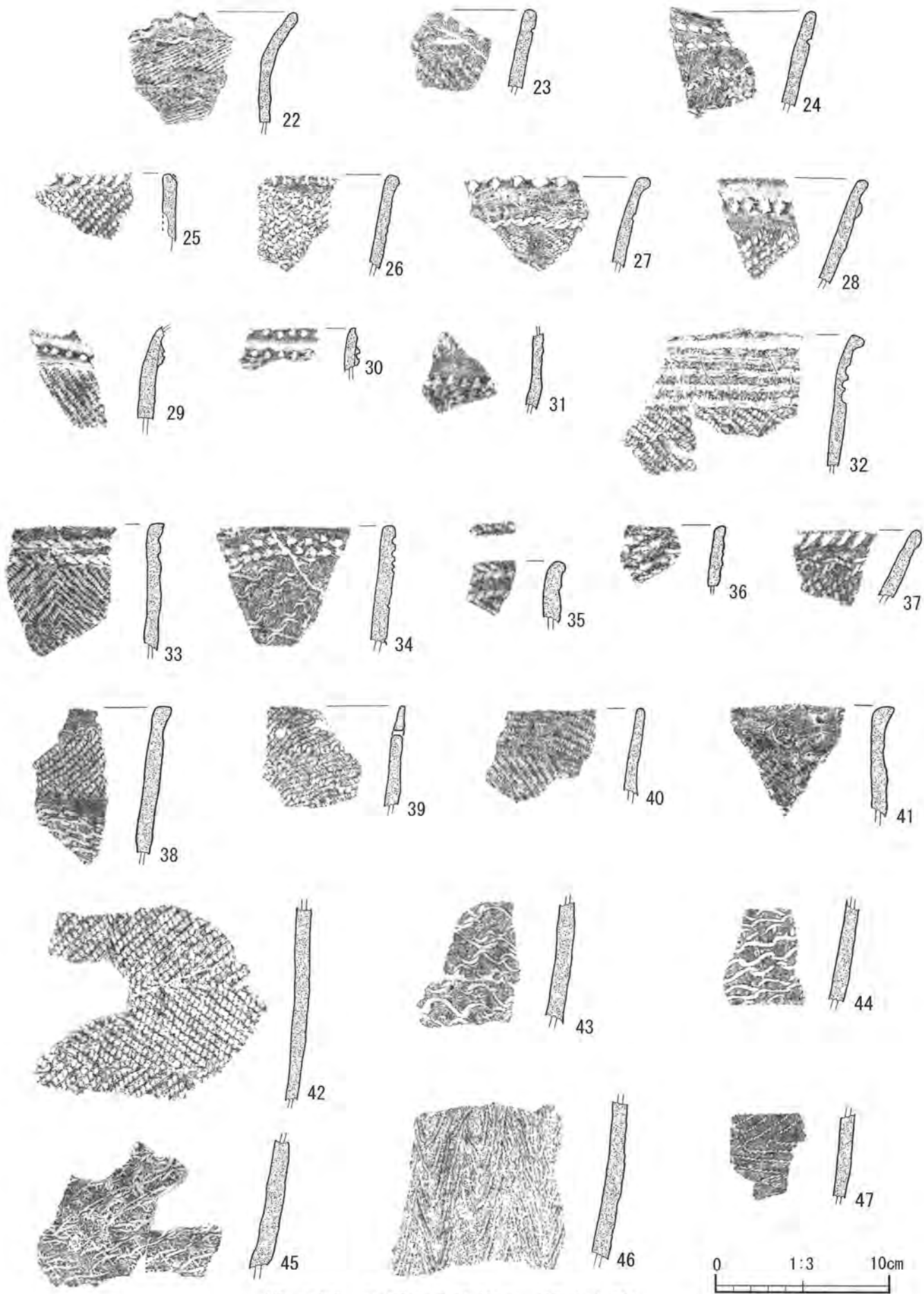
67～77は底部である。いずれも平底である。底部の施文は、69の撚糸文を除き、斜縄文である。底面の調整痕を確認できるものはない。

78～80は上記の時期以外に伴う土器である。78は磨消しを伴う。79、80は隆沈線を伴う。以上縄文時代中期に並行する。

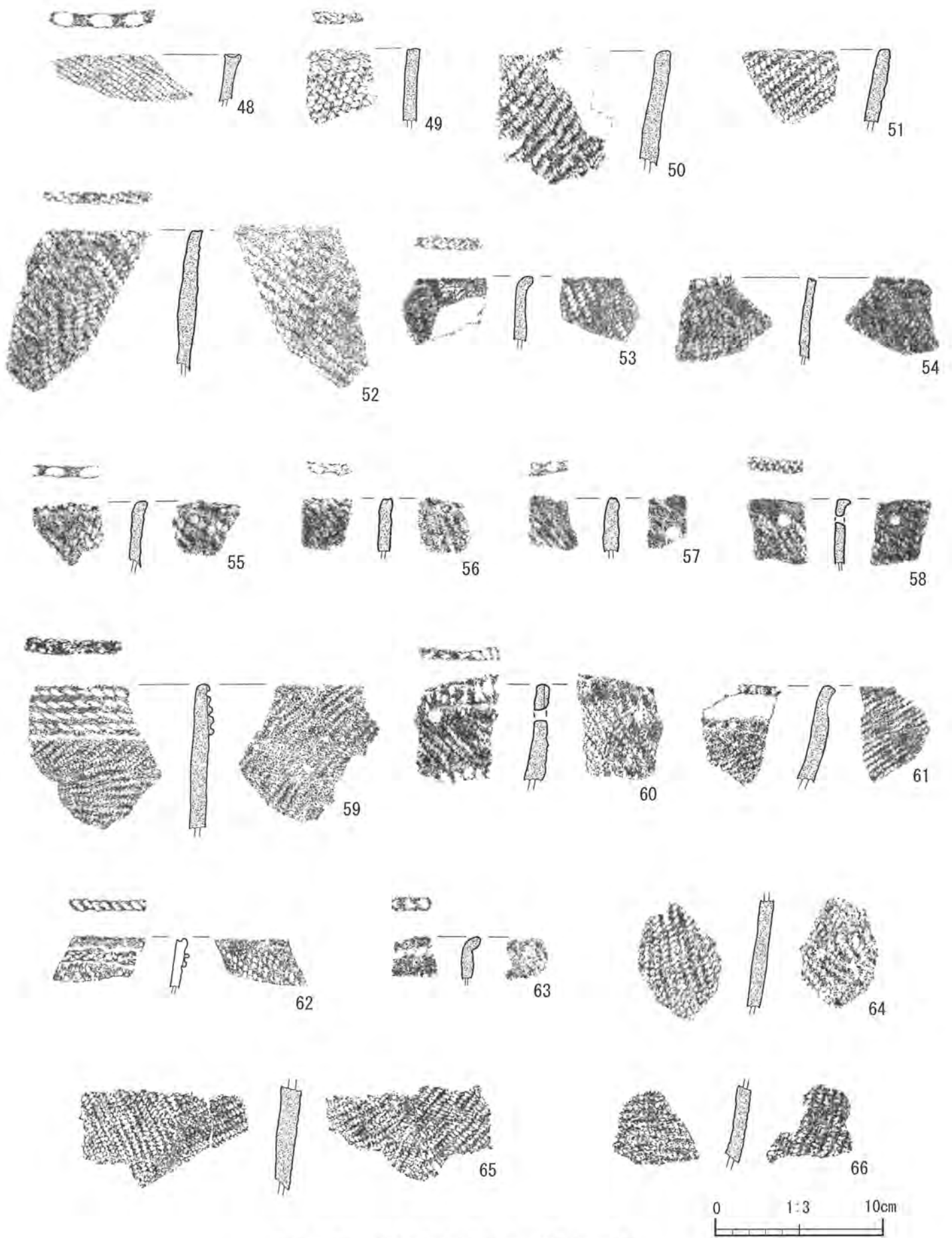
81は貼付された粘土紐に刻目が施される。縄文時代前期初頭大木3式に伴う。



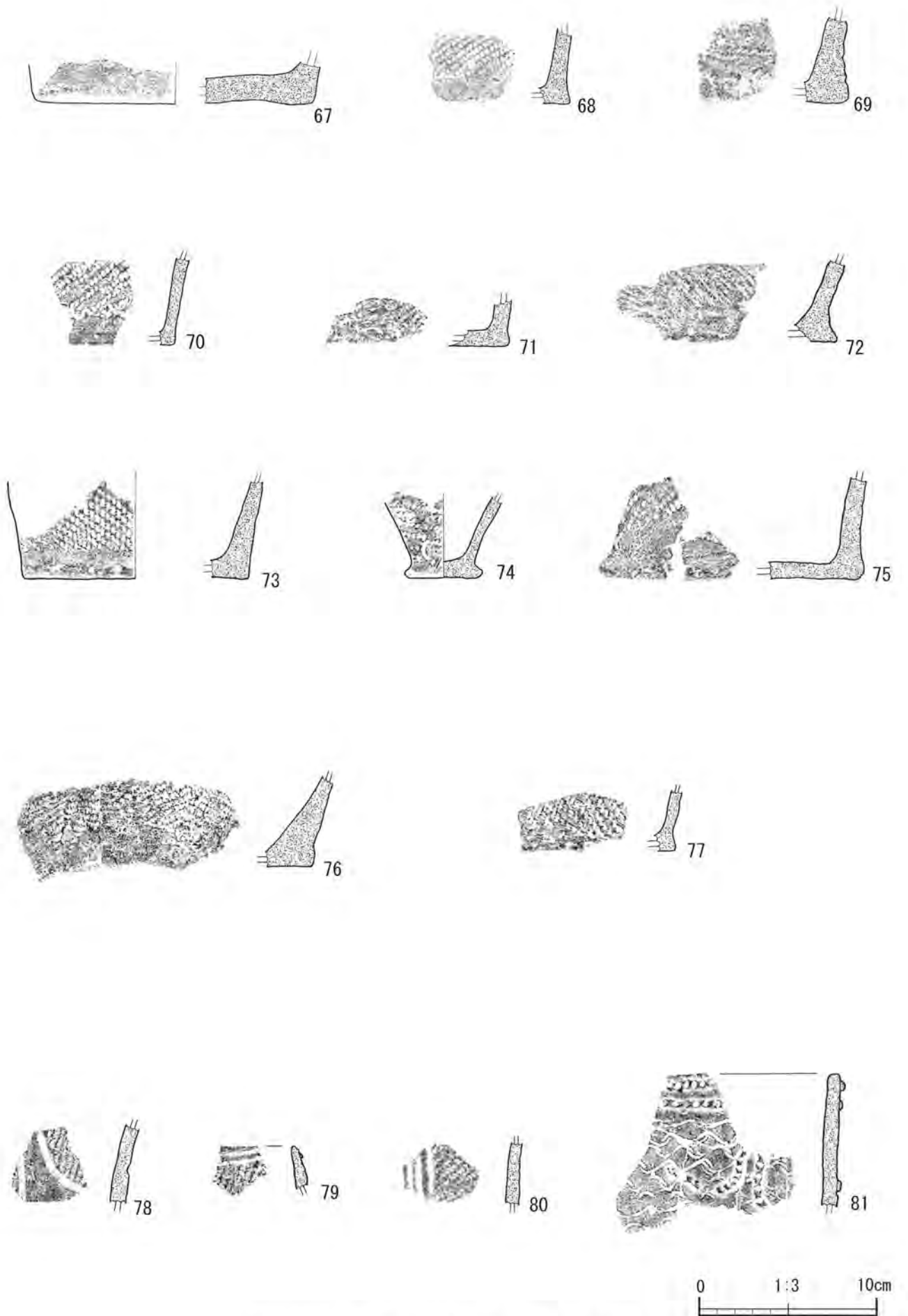
第 14 図 IV層出土遺物 1 (繩文土器)



第 15 図 IV層出土遺物 2 (繩文土器)



第 16 図 IV層出土遺物 3 (縄文土器)



第 17 図 IV層出土遺物 4 (繩文土器)

石器（第18図～第19図）

1～4は石鏃である。1～3は正三角形型で、平基である。4は二等辺三角形型で、平基である。

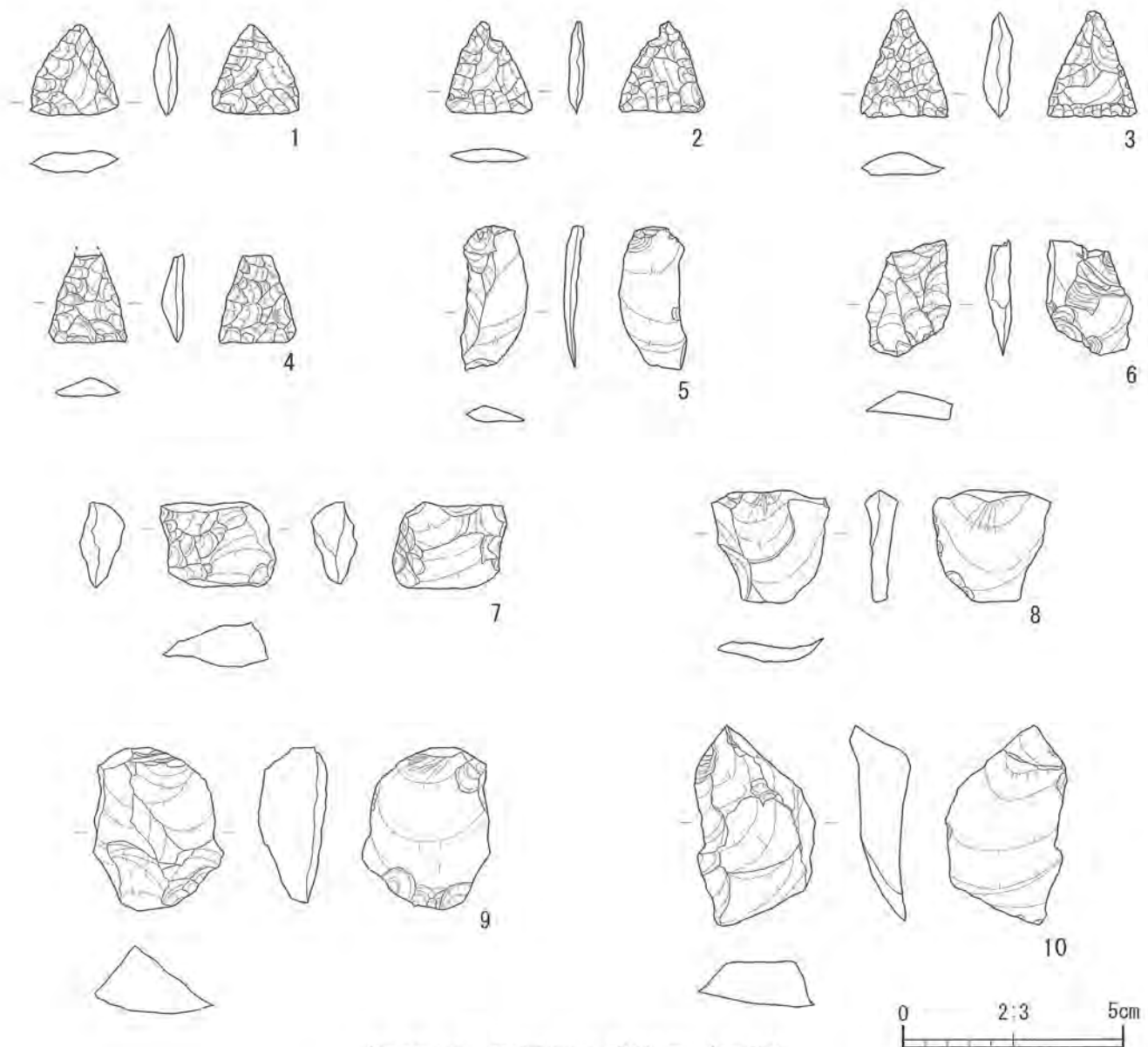
5～12は不定形の石器である。

5は薄く、細い成形で、側縁に使用痕を残す。6は側縁を尖らすが、特に刃部は設けていない。7は方形に成形し、側縁に刃部を作る。8は円縁に使用痕を残す。9は尖らせた下辺に刃部を作る。10は撥状に成形するが、特に刃部は作っていない。11は基部の円縁にわずかに使用痕を残す。12は三角形に成形し、側縁に刃部を作る。

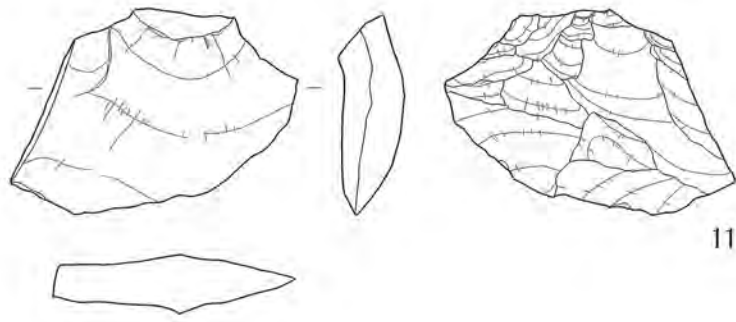
13～16は礫石器である。

13、14は石斧の刃部である。13は背面に自然面を残した打製石斧である。14は頭部を欠損し、一部未調整部を残す。

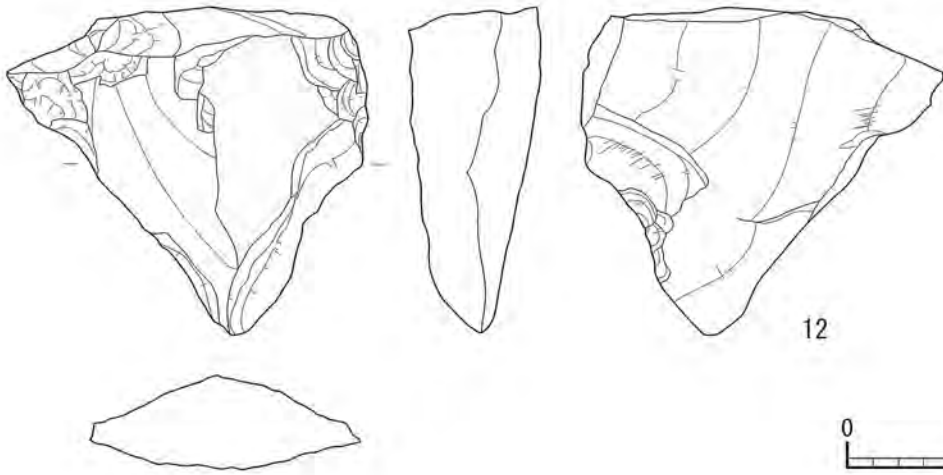
15、16は敲打磨石である。いずれも機能磨面の両側に調整磨面を残す。16は端部に敲打痕が残る。



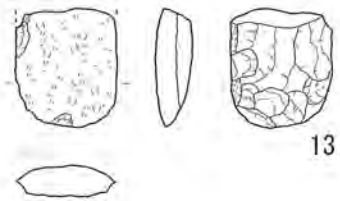
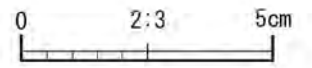
第18図 IV層出土遺物5（石器）



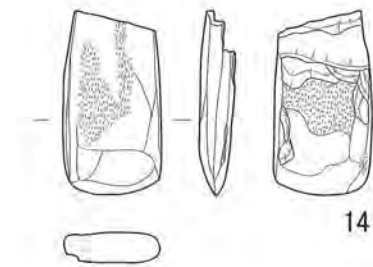
11



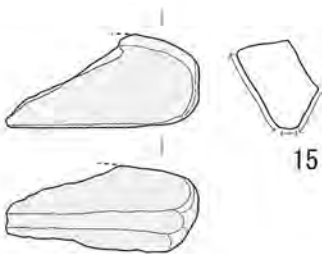
12



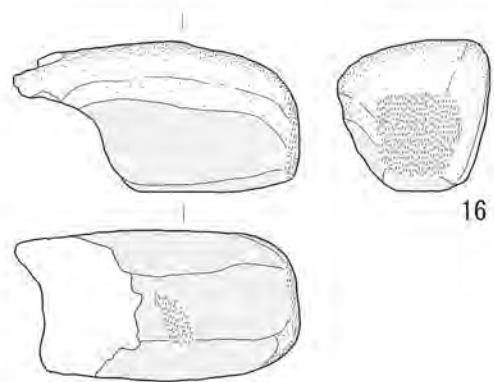
13



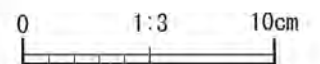
14



15



16



第19図 IV層出土遺物6 (石器)

d. V層出土遺物

V層は調査区の西側に堆積する厚い黒色土層である。多量の遺物が混入する。

縄文土器（第20図～第33図）

1～86は深鉢の口縁部である。器形はいずれも外反、もしくは外反気味で、大半が胎土に繊維を含む。1～10は羽状縄文、斜縄文で施文され、1～3、9は口唇部に側面圧痕が施される。11～34は不整撚糸文、あるいは不整撚糸文と斜縄文で施文される。33は口唇部に円形刺突が施される。35～49は山形の口縁部である。結節縄文で施文されるもの（35、41、42～46）、不整撚糸文で施文されるもの（36、37、47）、撚糸文で施文されるもの（48、49）などに分かれる。38～40、44は頂部に刺突が施され、42は口唇部に押圧痕を残す。50～86は平縁である。50～52は撚糸文で施文される。52は葺瓦状撚糸文で施文された小形の鉢である。

53～86は口縁部、口唇部に装飾を施されたものをまとめた。53～75は口唇部に圧痕、刻目などを持つものである。53は口唇部際の圧痕列で、54、55は肥厚させた口縁部に圧痕を施している。76～86は隆帯をめぐらし、その上に圧痕、刻み目を施す。83は隆帯の上下に圧痕を施している。87～90は隆帯、沈線などで施文された頸部である。

89は不整撚糸文の上に横位の凹線を施している。90は頸部に円形の刺突列が施文される。

91～118は体部片である。施文の方法は、羽状縄文（91～98）、不整撚糸文（99）、葺瓦状撚糸文（101）、S字状連鎖沈文（103～106）、網目状撚糸文（107～112）、撚糸文（113～117）などに分かれる。118は雑な側面圧痕を残す。

以上縄文時代前期初頭大木2式に伴う。

119～127はいわゆる「びっちり縄文」で装飾された口縁部をまとめたものである。器形は119が内反気味で、その他は外反する。胎土はいずれも繊維を含む。126、127の口唇部には圧痕が残る。

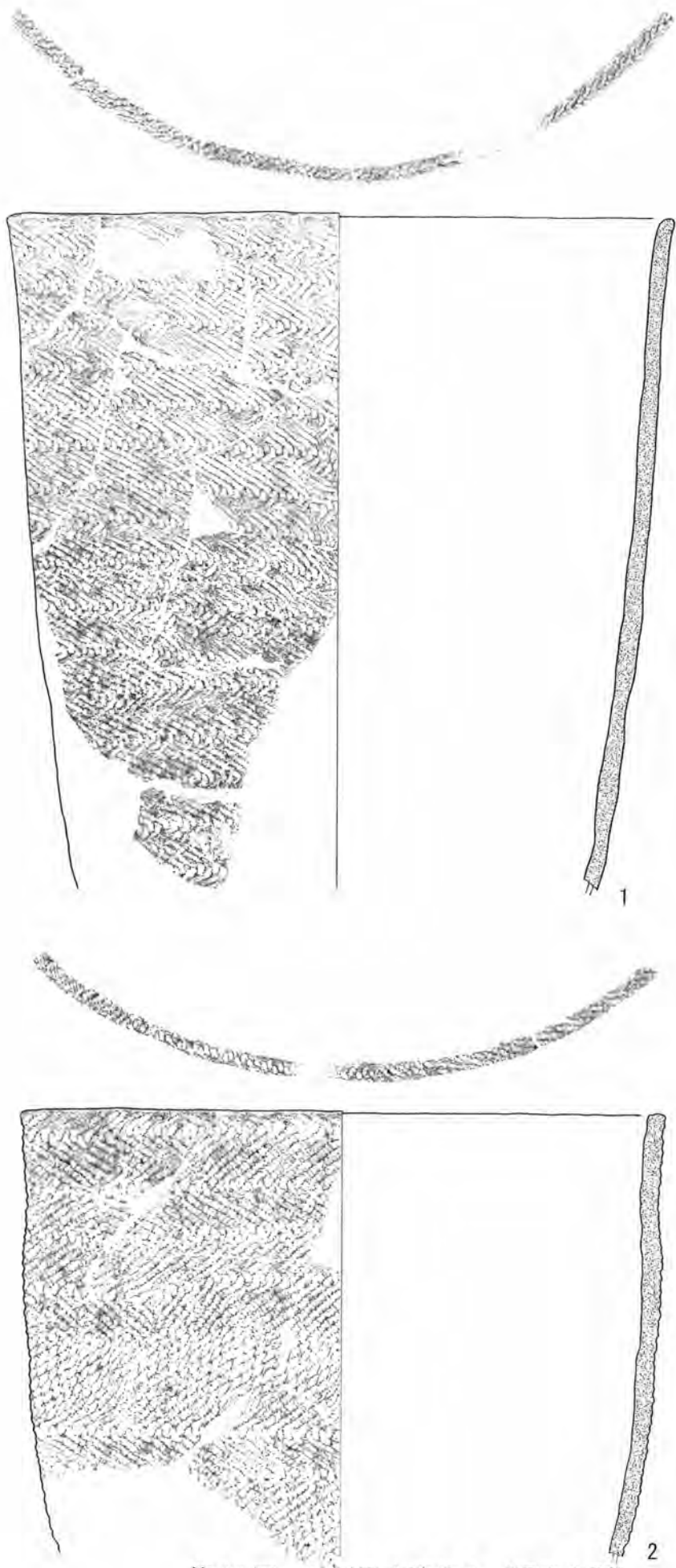
以上縄文時代前期初頭大木1式に伴う。

128～168は「縄文-縄文」土器をまとめた。

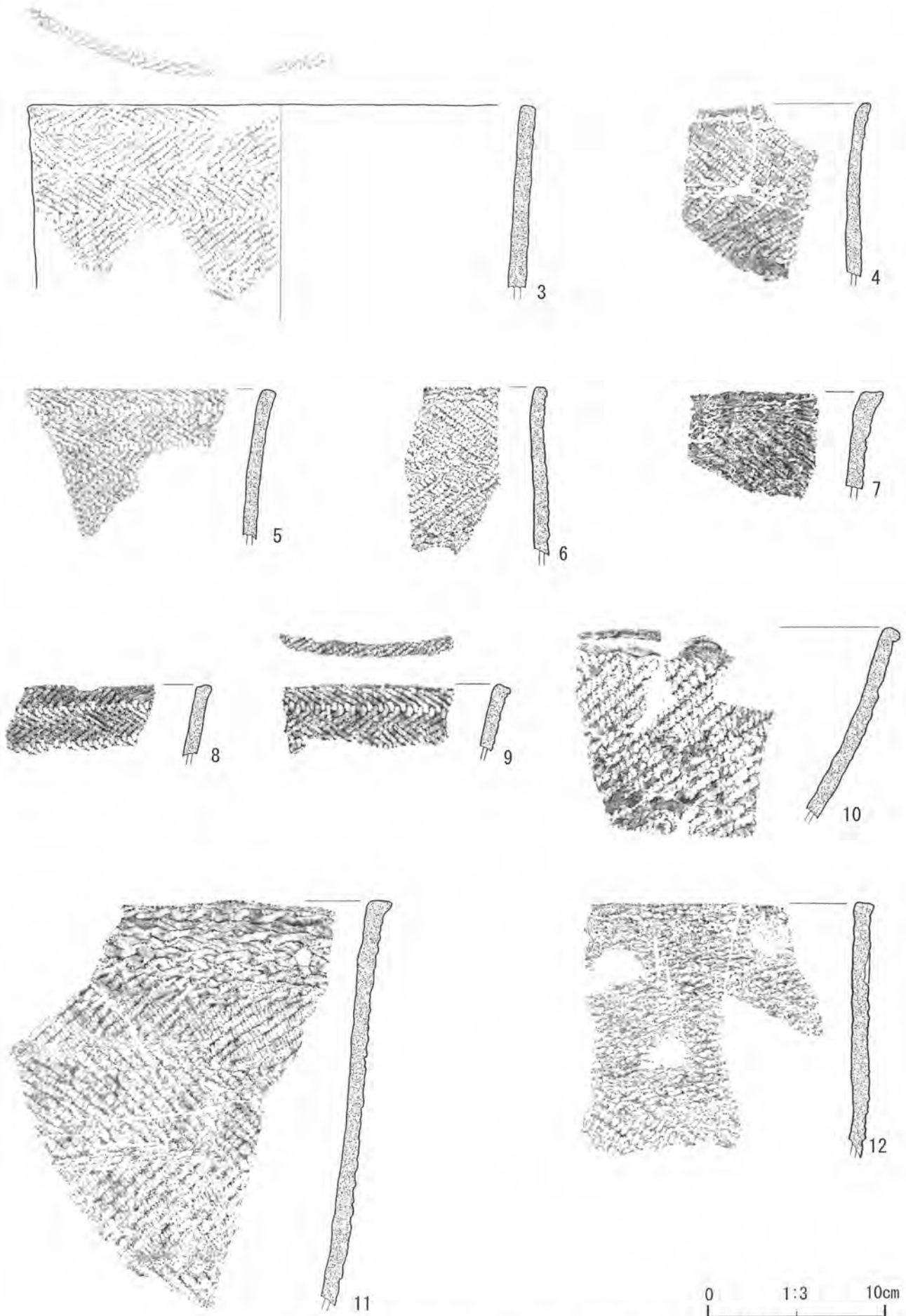
128～155は深鉢の口縁部である。128は今回の出土遺物のなかで最も完形に近く、尖底の深鉢である。いずれも口唇部に円形の押圧痕、あるいは側面圧痕を持ち、胎土には繊維の他に細砂、細礫が含まれる。口縁部の施文は、口唇部だけのものと、口縁部に側面圧痕、隆帯などの装飾を加えるものがある。

128は口縁部に横位二列の撚糸圧痕をめぐらす。129は口唇部に原体圧痕を施す。130は口縁部を肥厚させ、斜位の圧痕を加える。131は口縁部に指頭状圧痕をめぐらす。132～142は斜縄文のみの施文である。143～149は口縁部に横位1～4列の撚糸圧痕を施す。150は口唇部、口縁部とも斜位の側面圧痕が施される。口縁部に方形刺突列（151）、爪形刺突列（152）、円形刺突列（153）、縦位の連続沈線（154）などを施文するものなどがある。155は隆帯の剥離痕を残す。

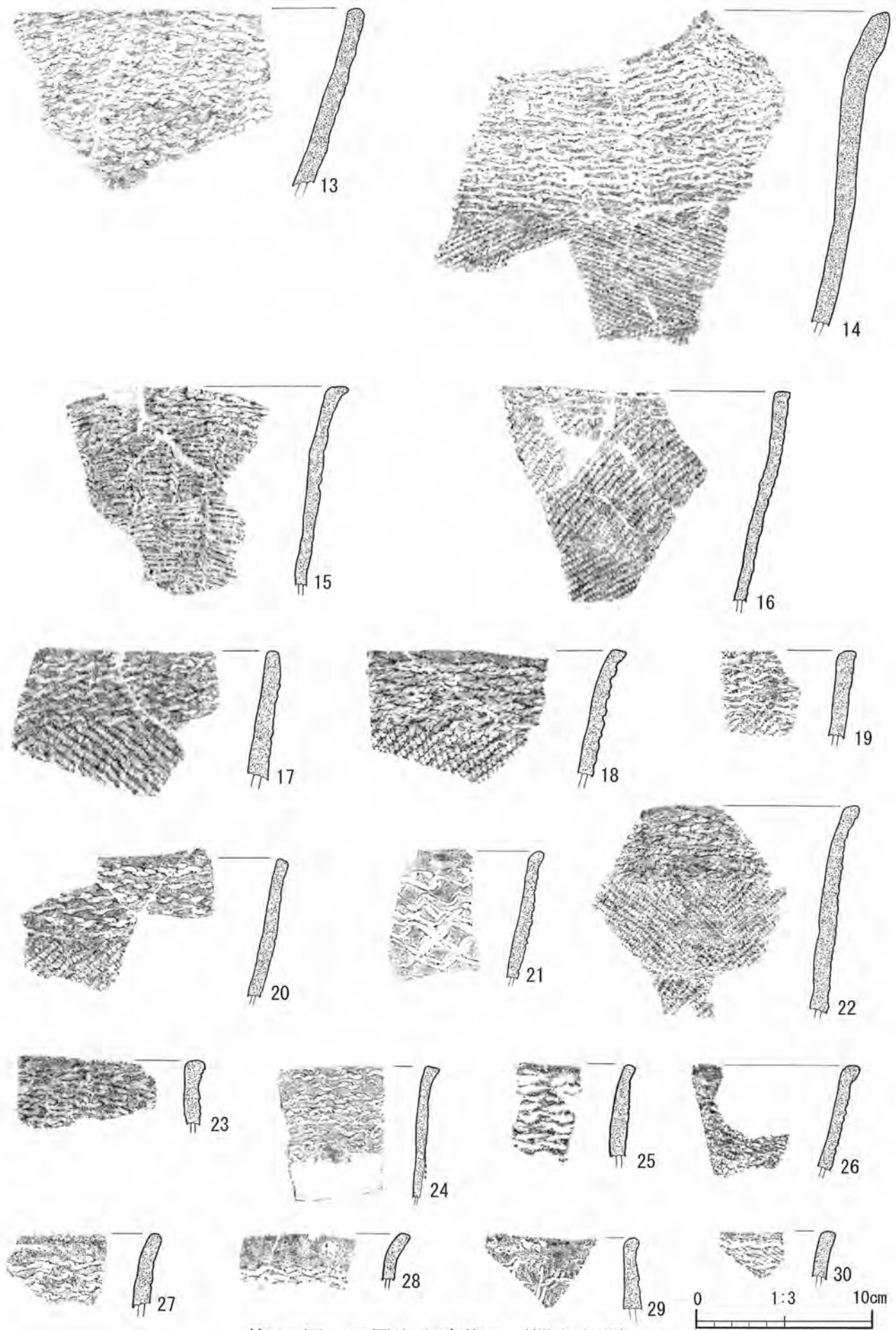
156～168は体部片である。いずれも胎土には繊維が含まれ、その他に細砂、細礫が混入する。169～186は底部である。169～184は平底である。182を除き、いずれも胎土に繊維が含まれる。底部に施文が確認できたのは、169、170、176（撚糸文）、180（S字状連鎖沈文）、179、181～183（斜縄文）などである。底面の調整痕は170、171、175でへら削り状の条痕が残る。185は尖底部である。186は尖底に近い底部である。



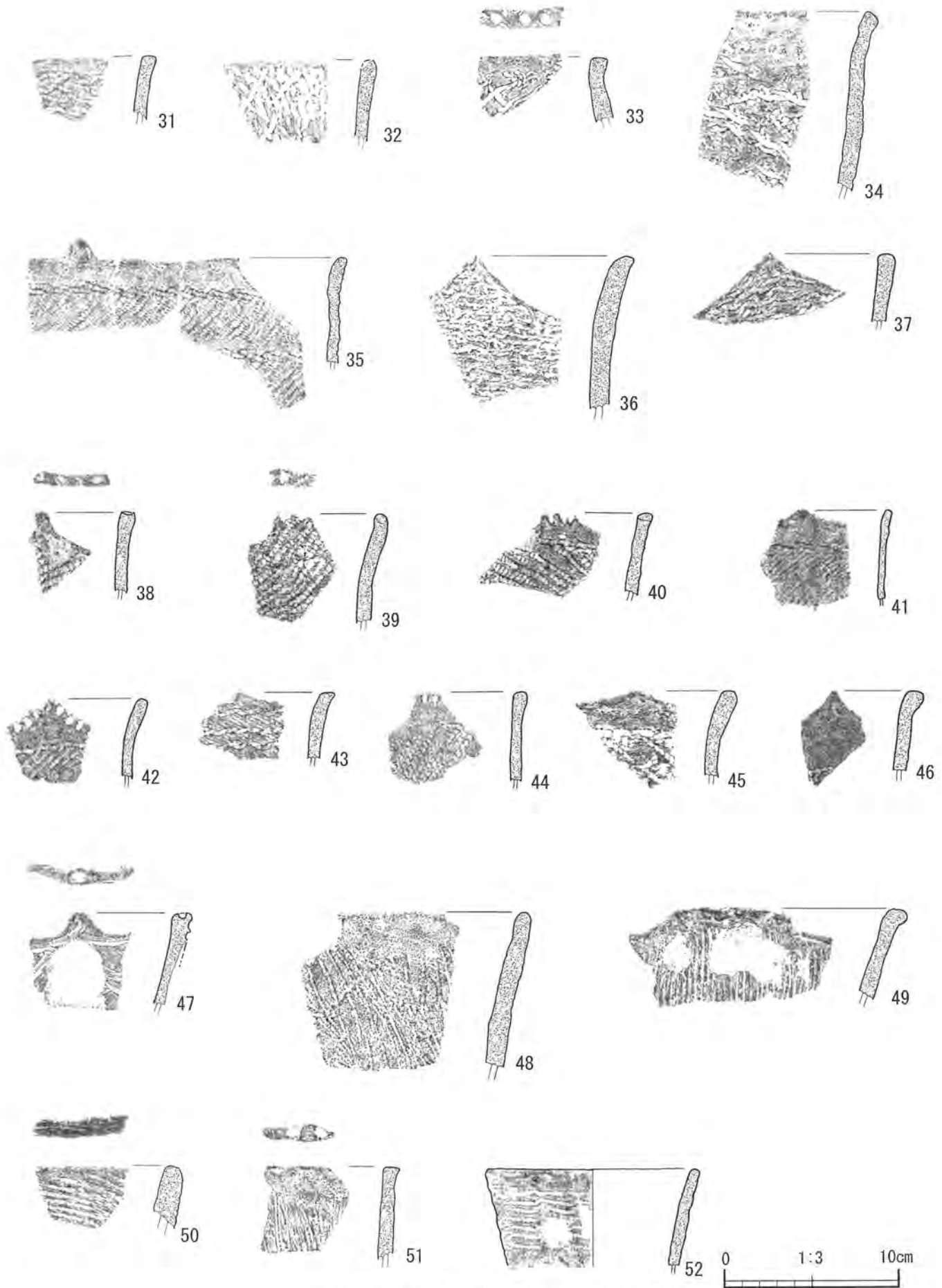
第 20 図 V層出土遺物 1 (繩文土器)



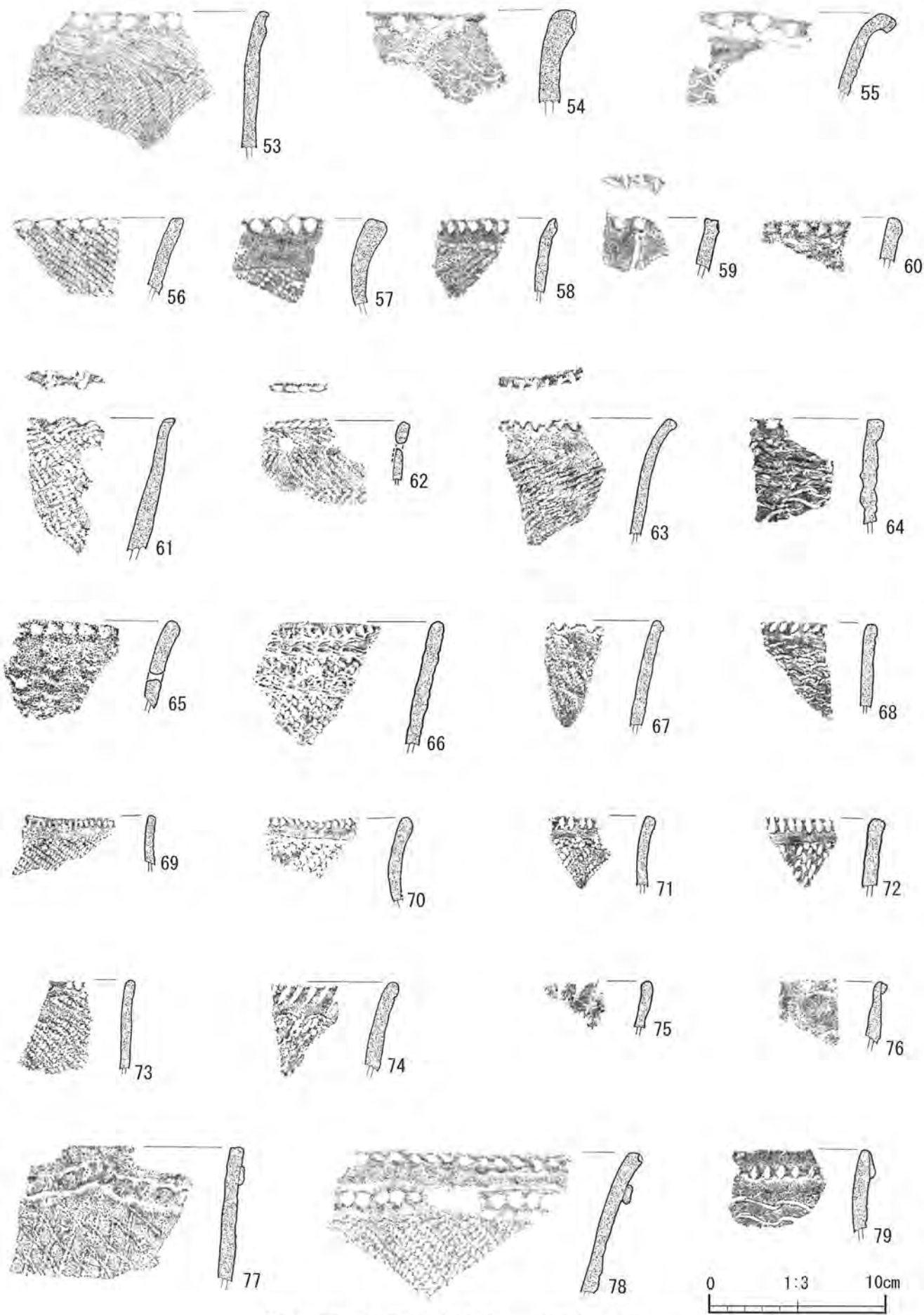
第 21 図 V層出土遺物 2 (縄文土器)



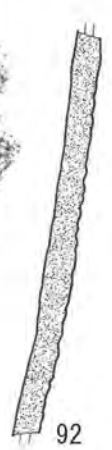
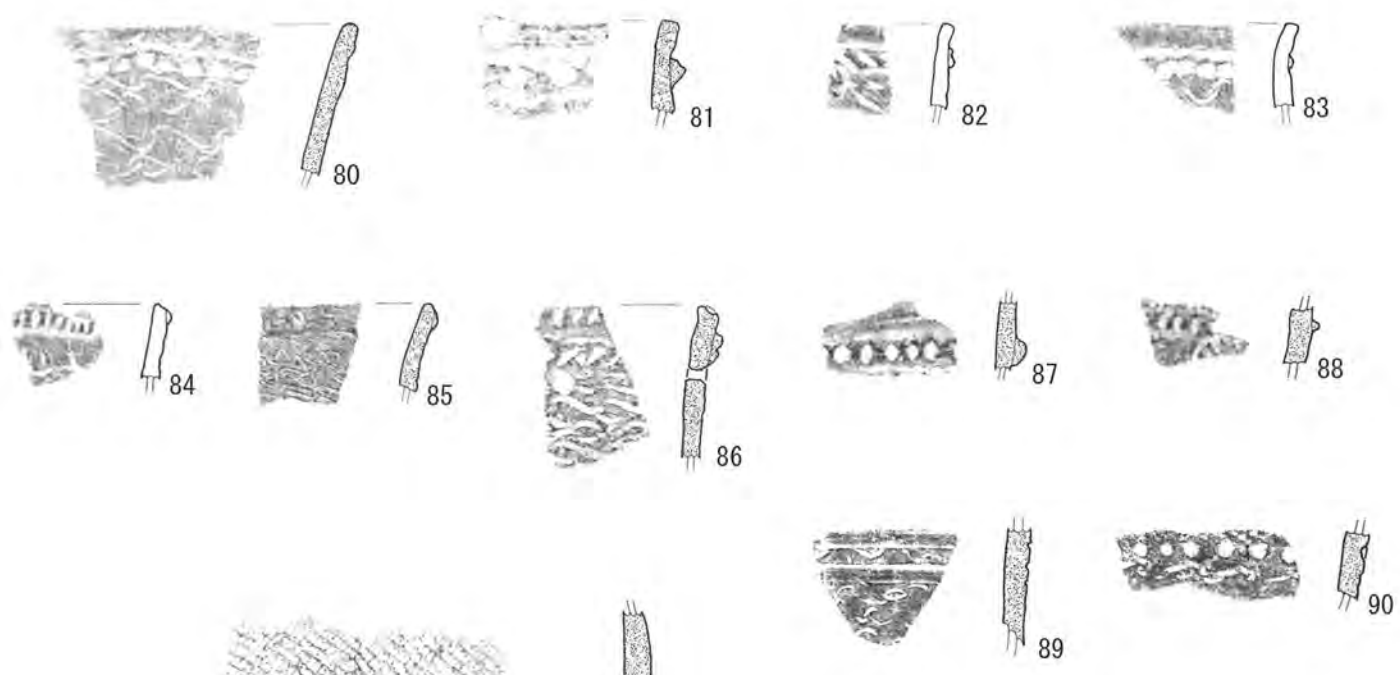
第 22 図 V層出土遺物 3 (繩文土器)



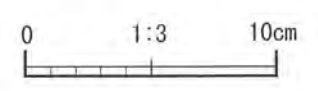
第 23 図 V層出土遺物 4 (繩文土器)

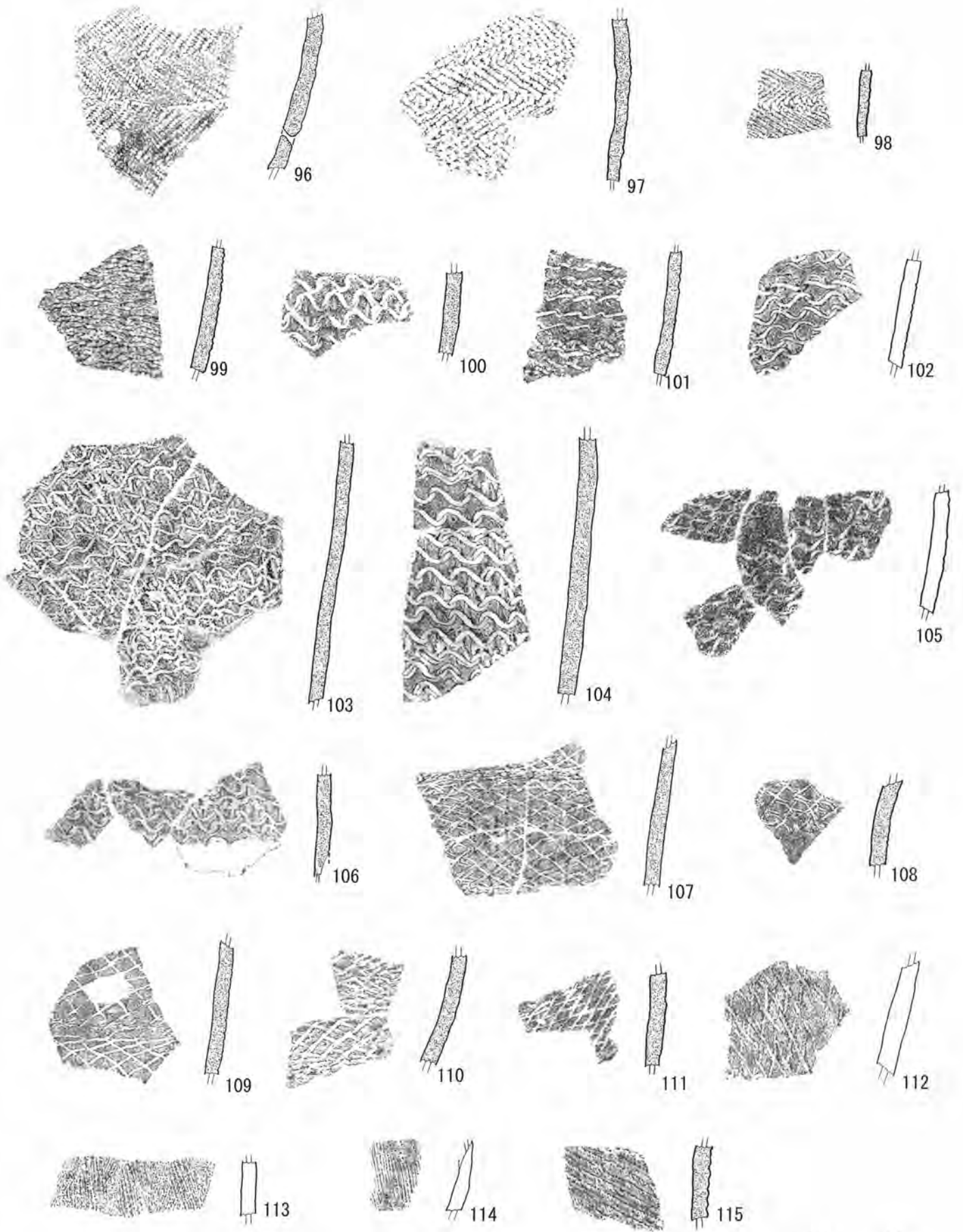


第 24 図 V層出土遺物 5 (繩文土器)



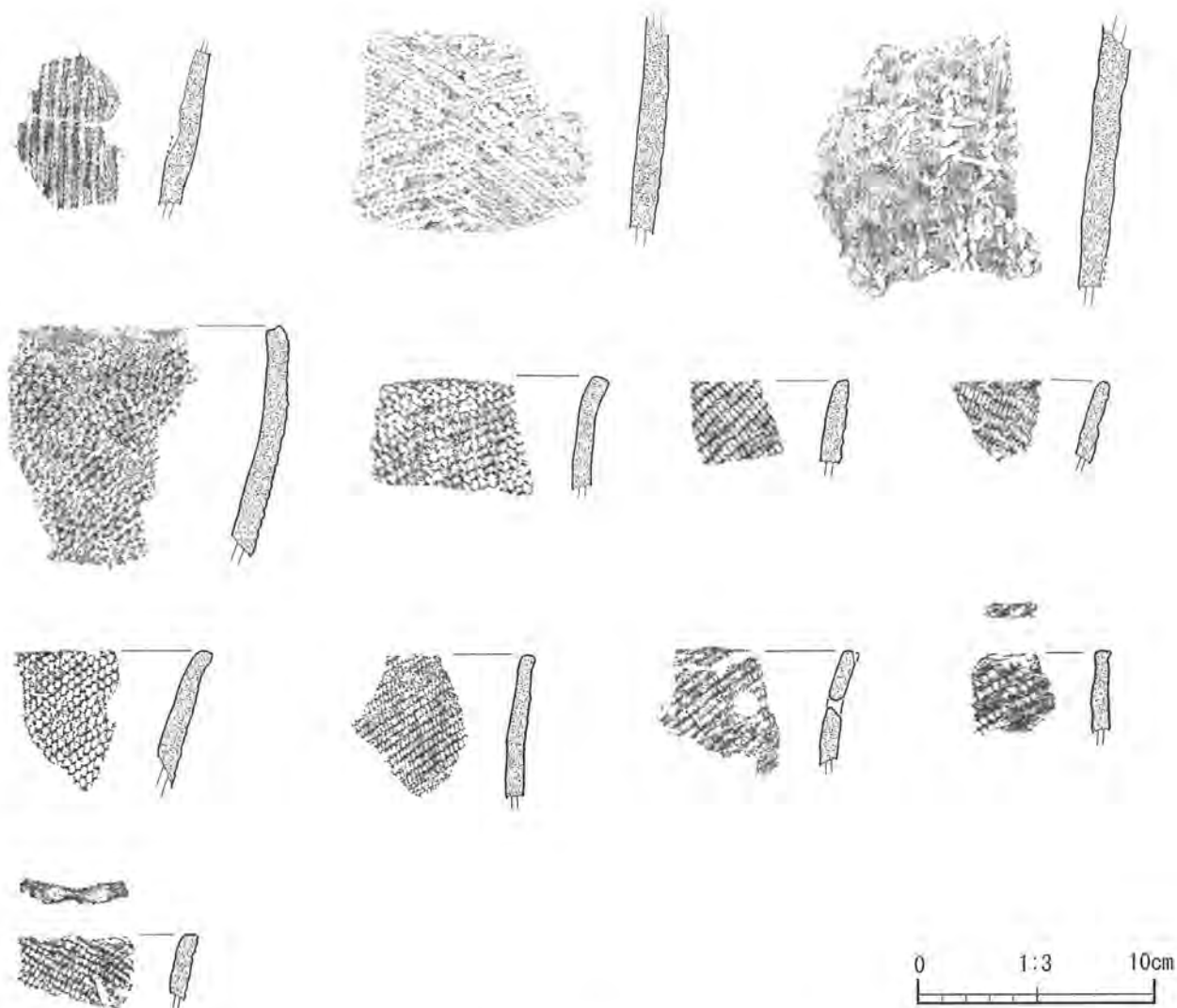
第 25 図 V層出土遺物 6 (繩文土器)





第 26 図 V層出土遺物 7 (繩文土器)

0 1:3 10cm



第 27 図 V層出土遺物 8 (縄文土器)

187～196は縄文と条痕がセットになった土器をまとめた。

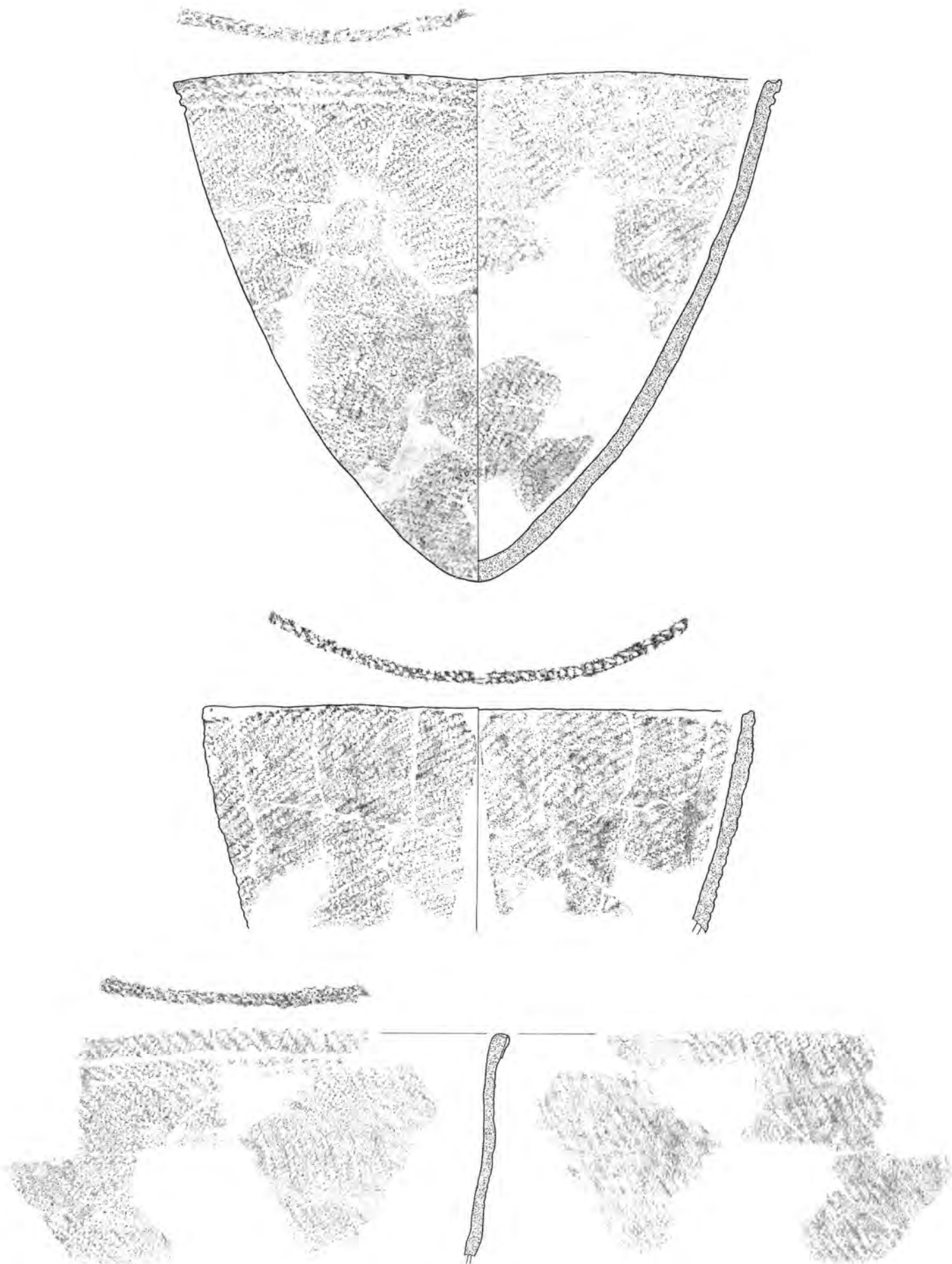
187は外面に二列の隆帯がめぐり、その上に縄文の圧痕を施文、内面には条痕、口唇部に圧痕が施される。188は外面に縄文の圧痕、内面に条痕が施文され、口唇部に圧痕が施され。189は外面に斜縄文、内面にハケメ状の条痕が施された小形の鉢である。

190～196は縄文と幾何学文がセットになった口縁部と体部片である。同一個体と思われる。口唇部に刻目が入り、外面口縁部に縦位の撚糸圧痕列がめぐり、その下に山形の幾何学文が配され、体部は斜縄文が施される。内面は斜縄文が施文される。

これらは「縄文一条痕」土器群に伴い、縄文時代早期後葉に並行するものと思われる。

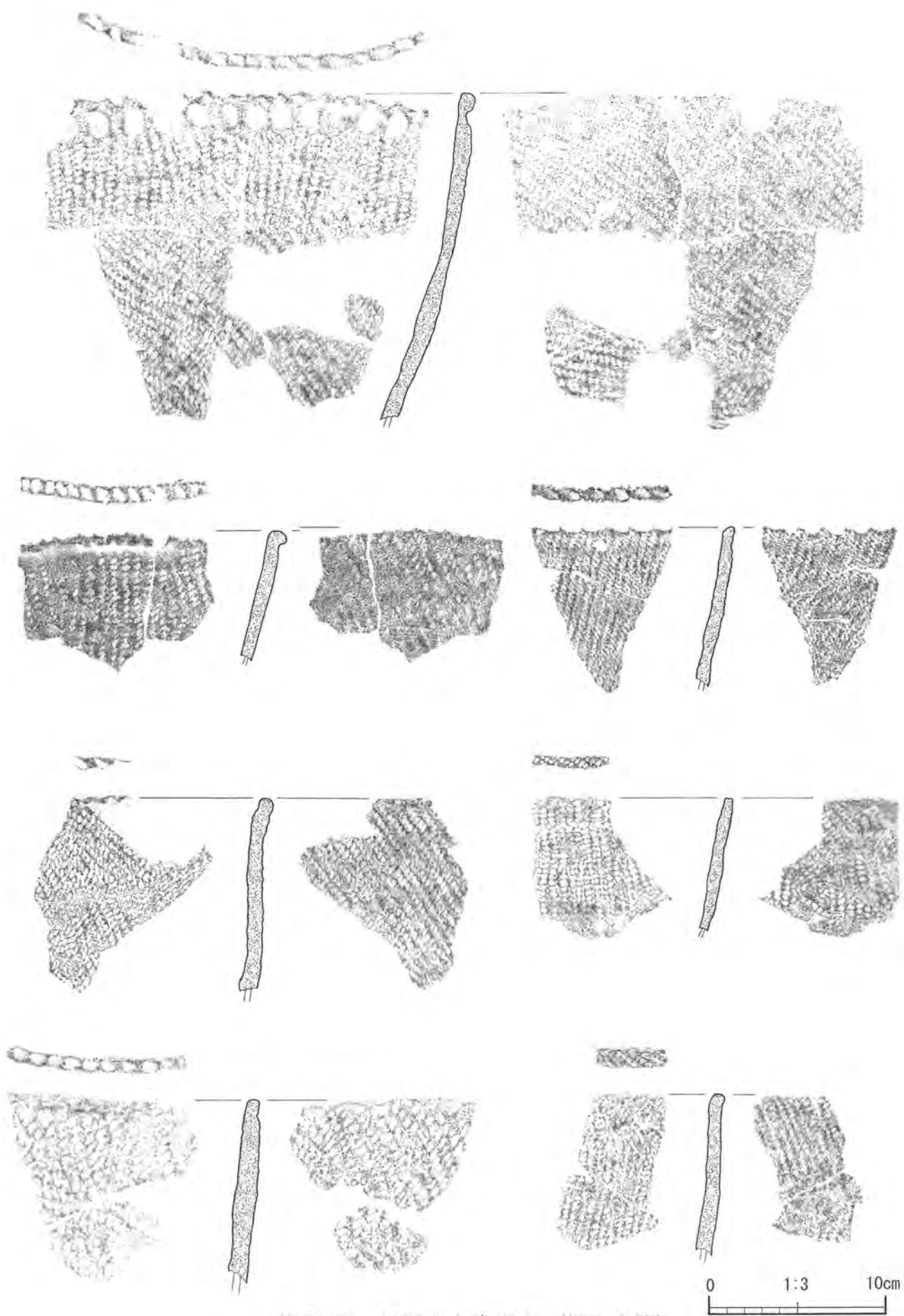
197～201は上記以外の時期に伴う土器をまとめた。197は外面に条痕が施文される。198は撚糸文の側面圧痕である。199は口縁部に粘土紐が貼付され、刺突列が施される。200は斜縄文の地文に粘土紐が貼付される。以上縄文時代前期に伴う。201は隆沈線による施文である。縄文時代中期に伴う。

202～206は土製品の円盤である。202～205は胎土に繊維が含まれる。202は内外面に縄文が施文され、203は外面に施文される。205の外面には指頭状の圧痕が施文される。

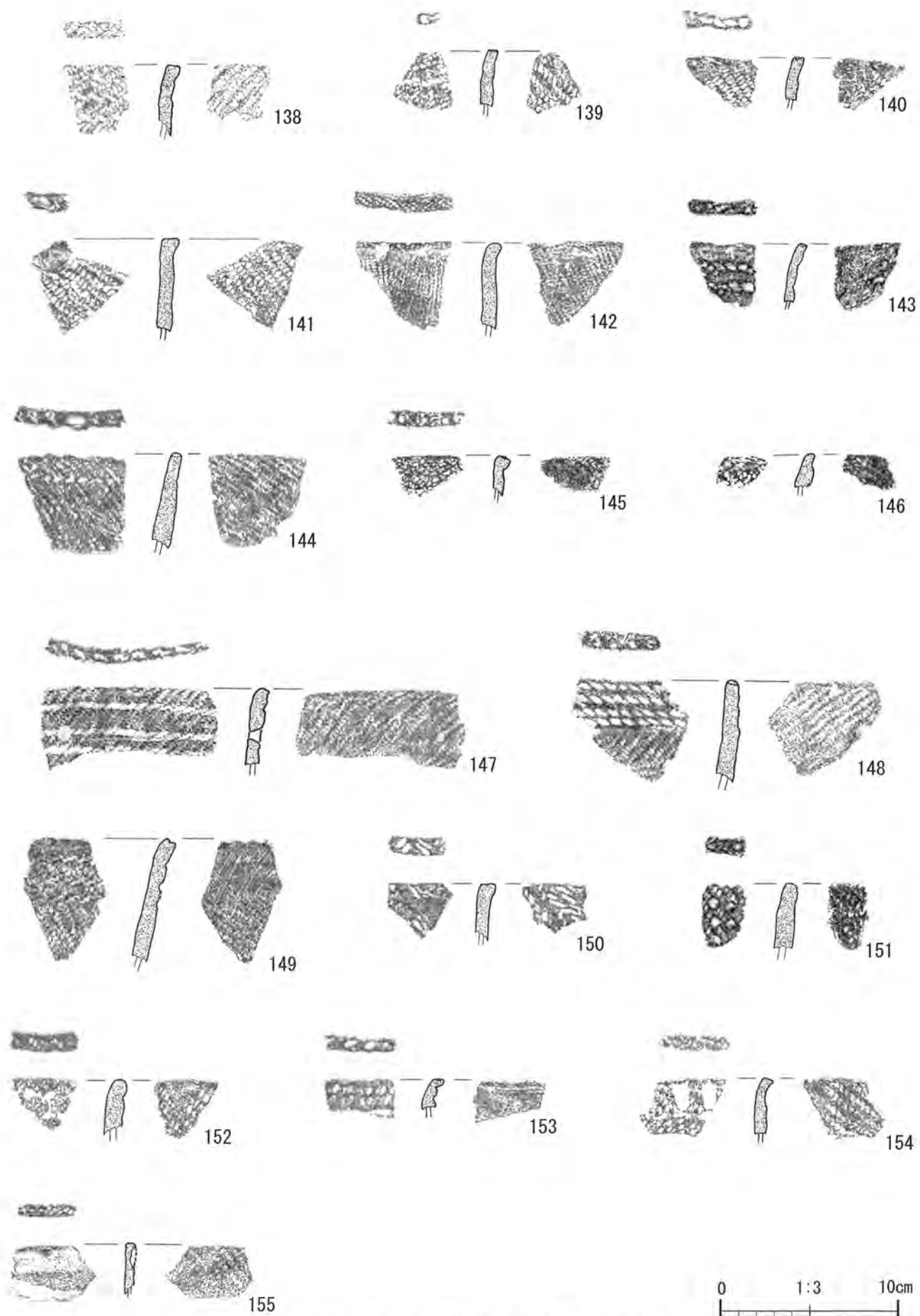


第 28 図 V層出土遺物 9 (繩文土器)

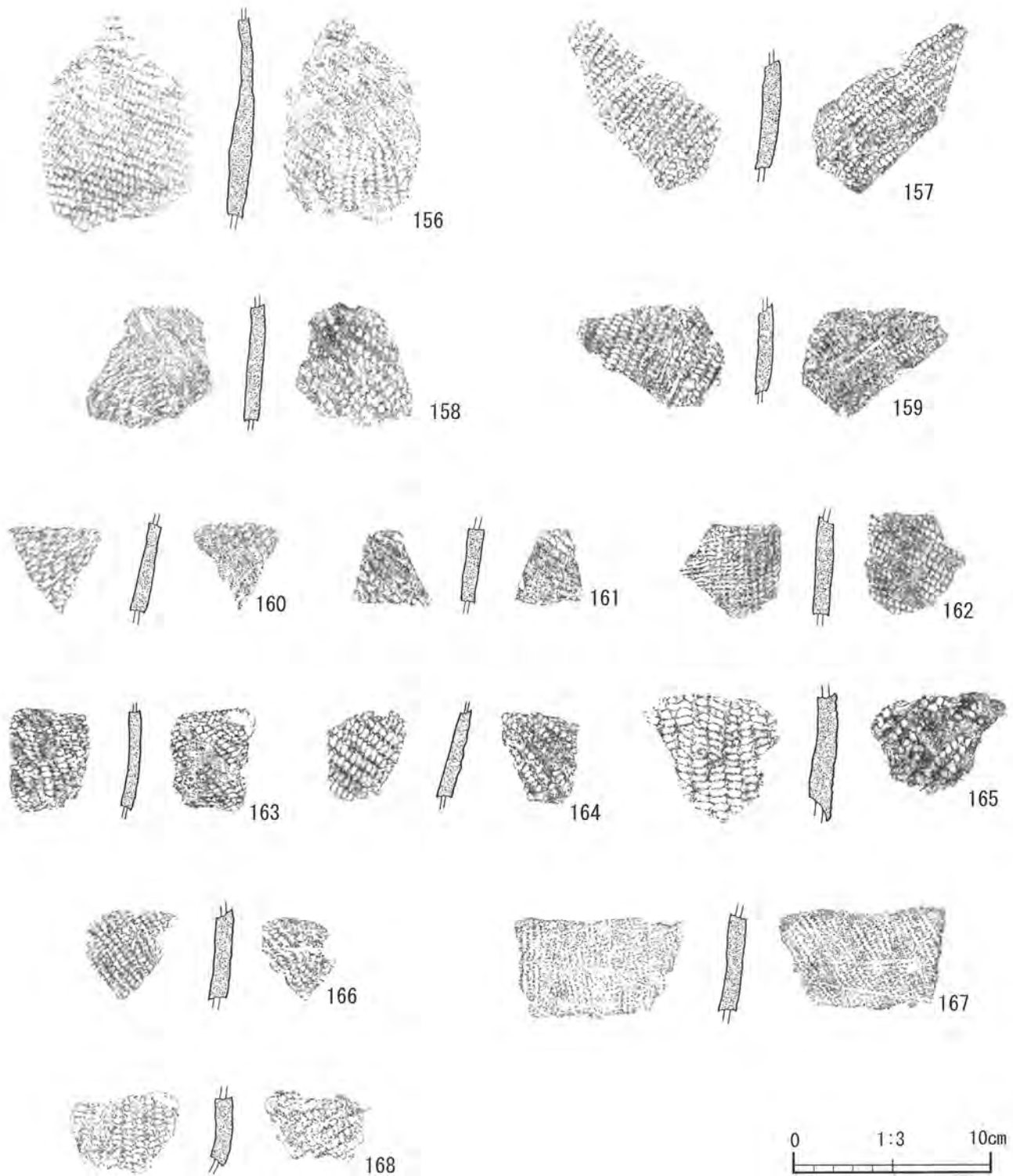
0 1:3 10cm



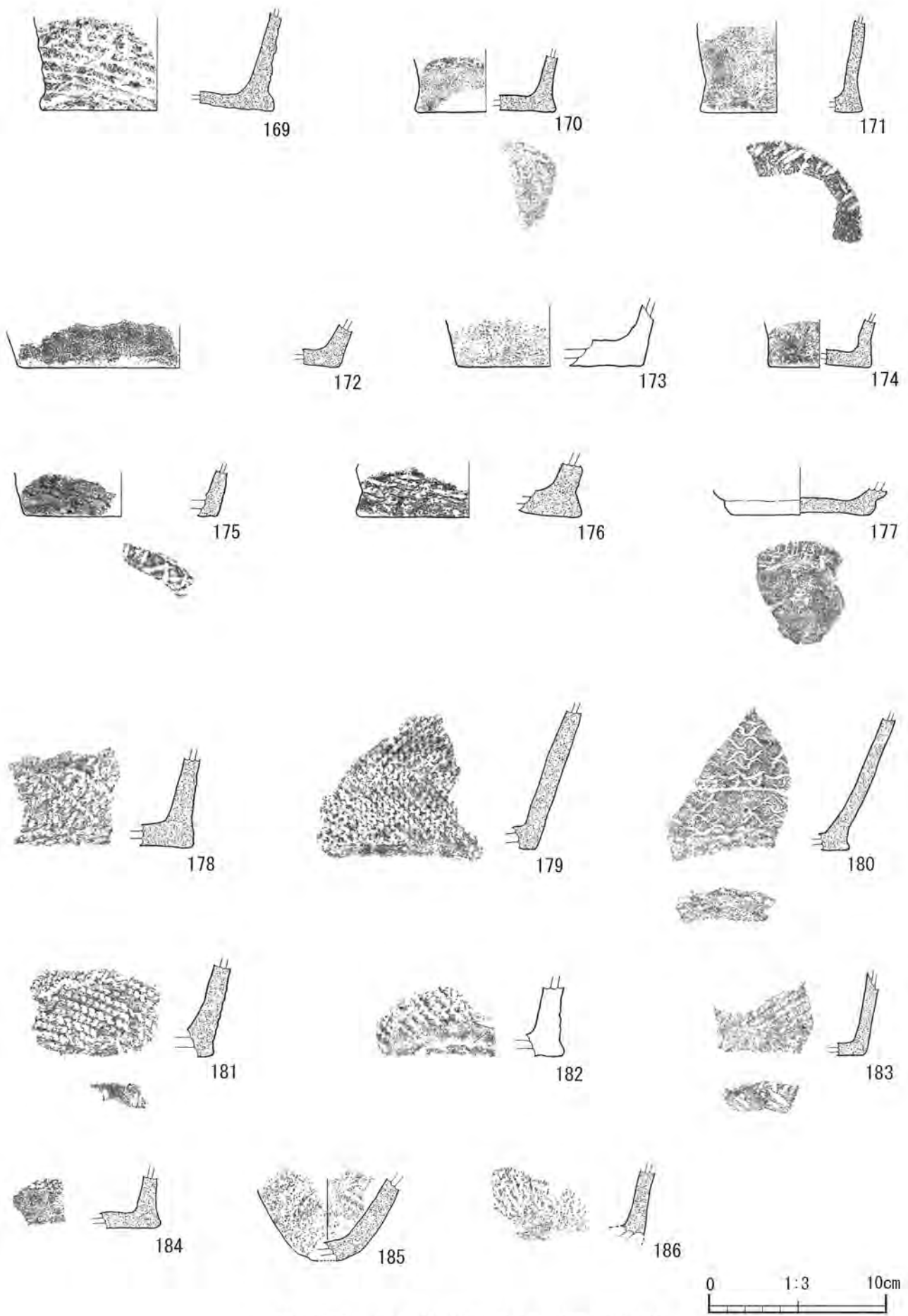
第 29 図 V層出土遺物 10 (繩文土器)



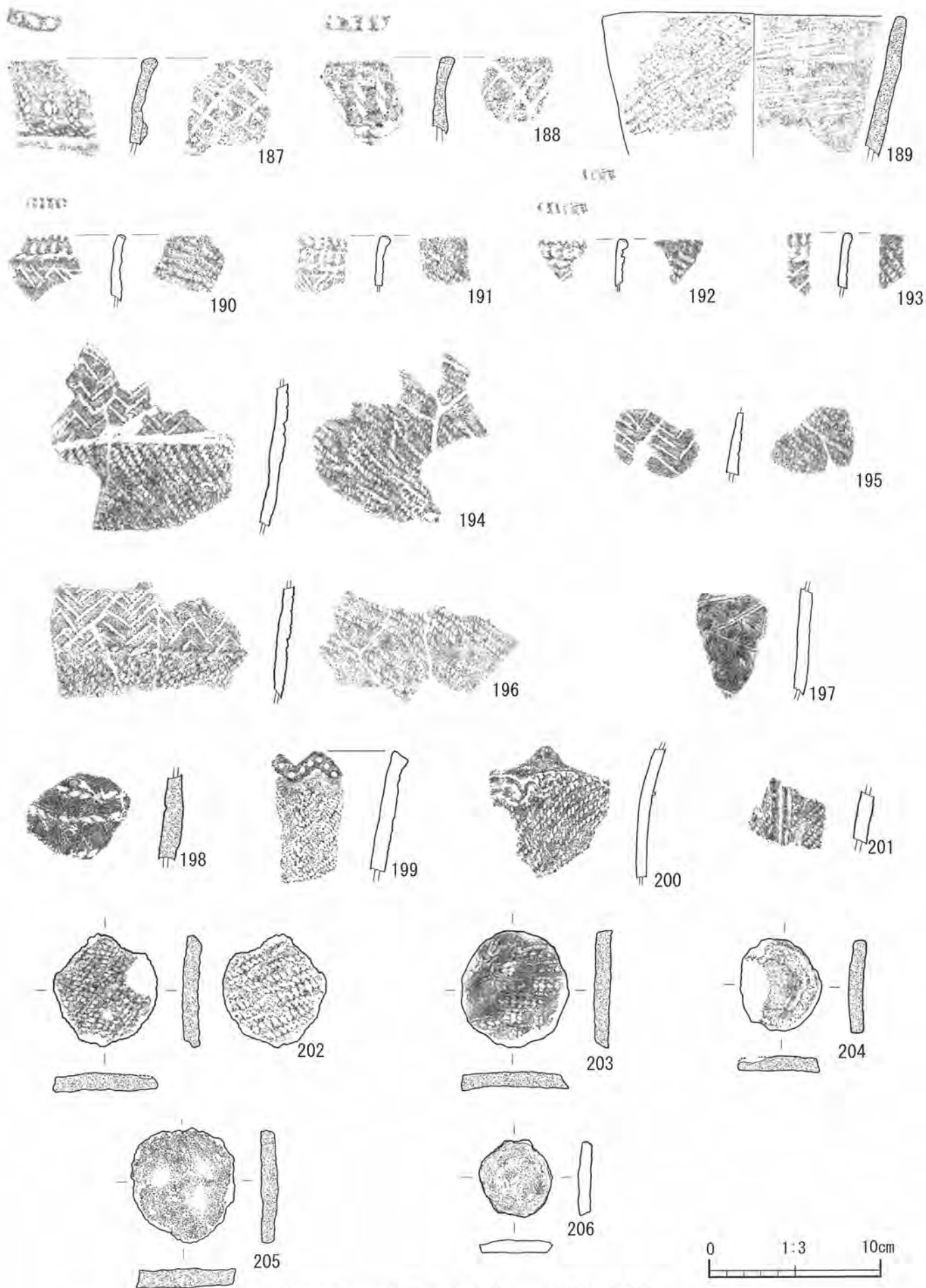
第30図 V層出土遺物 11 (縄文土器)



第 31 図 V層出土遺物 12 (繩文土器)



第 32 図 V層出土遺物 13 (繩文土器)



第33图 V層出土遺物14 (繩文土器)

石器（第34図～第43図）

1～83は剥片石器である。

1～29は石鏃である。

1～11は正三角形型で、平基である。12～19は二等辺三角形型で、平基である。21は凹基である。22、23はやや大型で、作りが雑で、基部を欠く。24～29は細く長い成形で、平基である。30～32はやや大型で側縁は円み、凸基である。33は尖頭器である。

34～49は石匙である。

34、35は横型である。36～49は縦型の石匙である。

50～83は不定形の石器である。

50、51は基部を尖らせ、側縁に刃部を作る。52～59は縦長に成形、側縁に刃部を作り出す。60～65は小型で、いずれも側縁を刃部とする。66は三角形型で、側縁を刃部とする。67～75は横長の成形で、下辺を刃部とする。76、77は方形で、下辺、側縁を刃部とする。78～83は縦長の成形で、側縁に刃部を設ける。

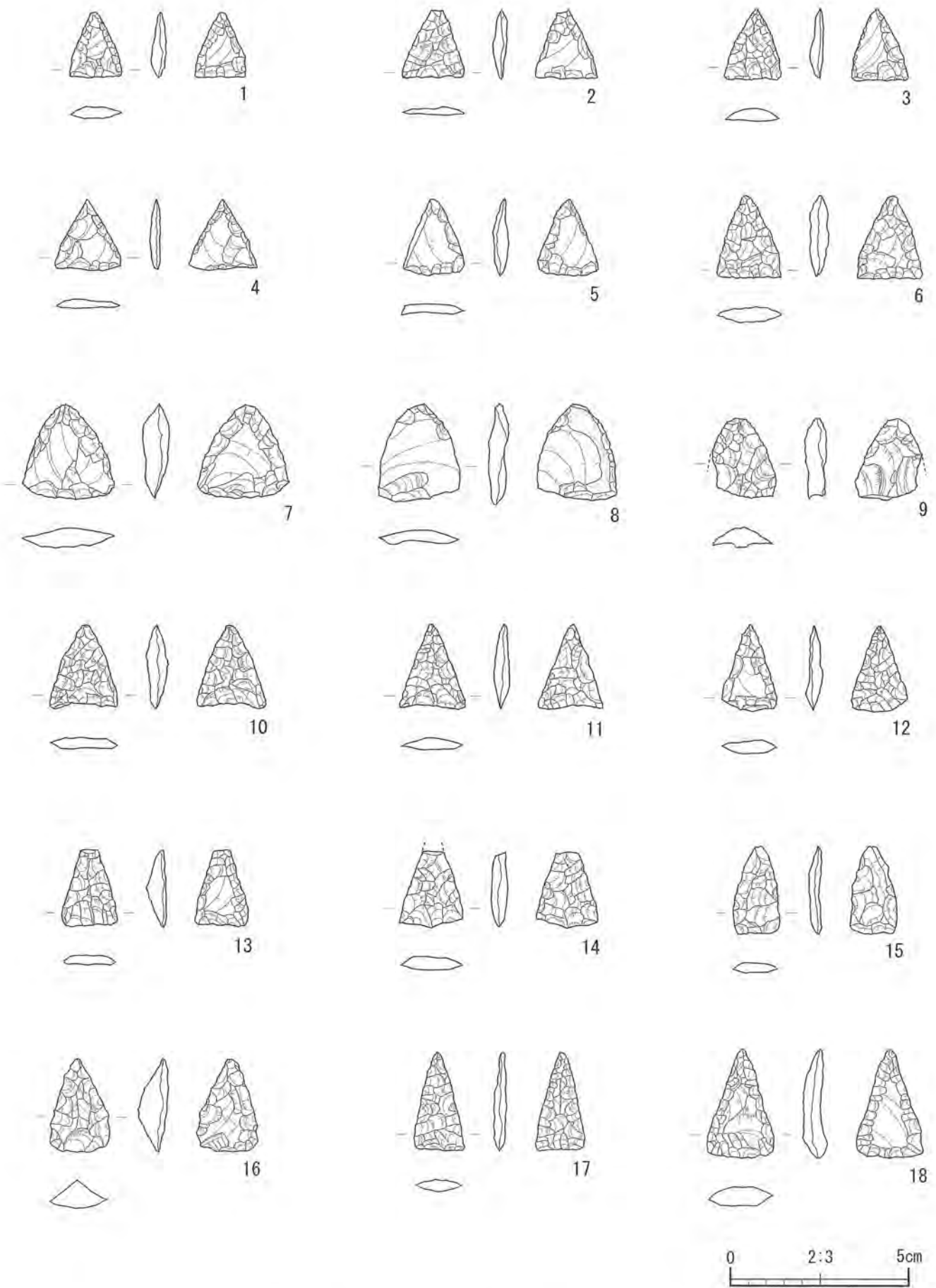
84～98は礫石器である。

84～89は磨製石斧である。

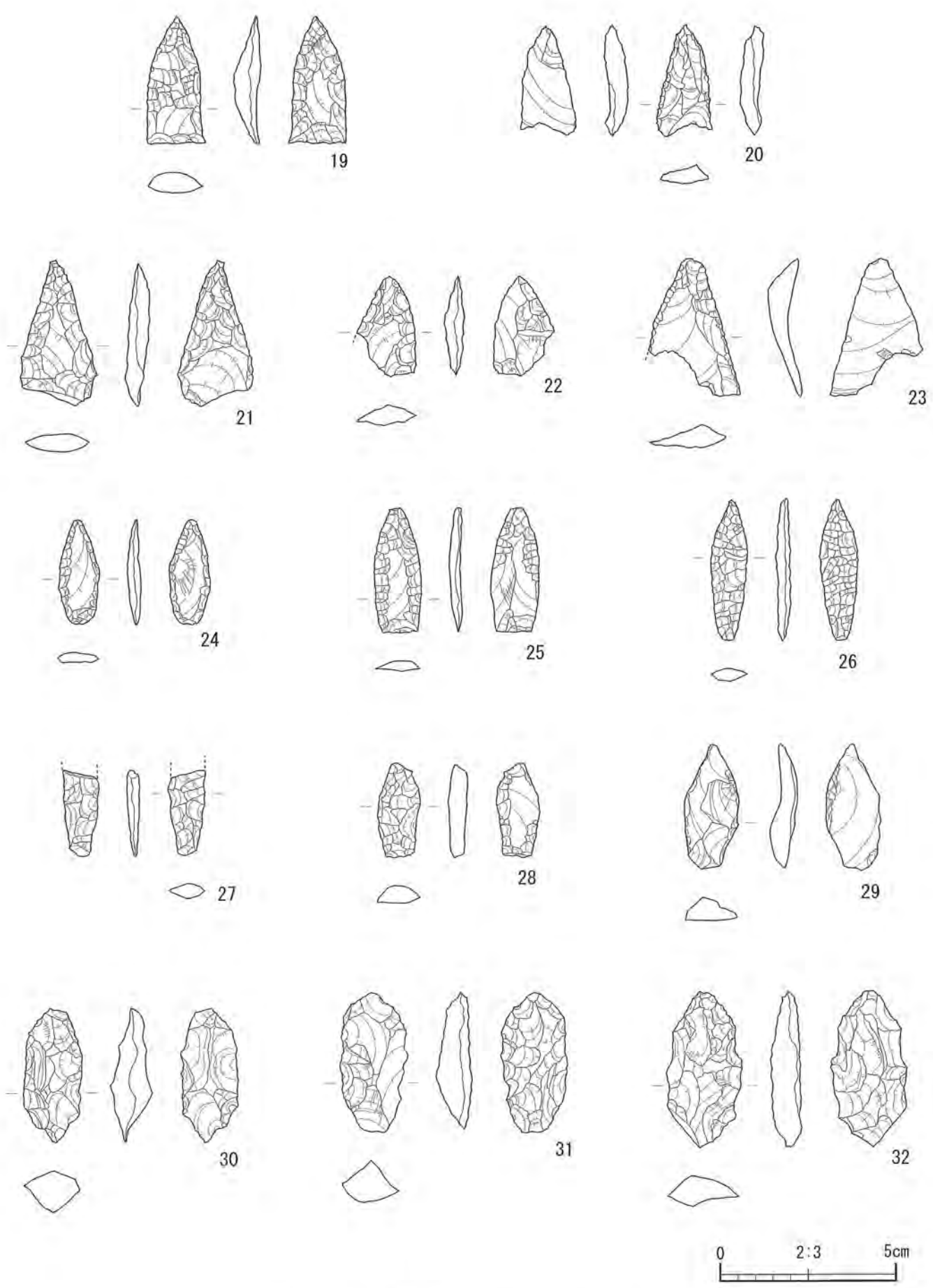
90～94は敲打磨石である。いずれも機能面の両側に調整磨面をもつ。

95、96は敲石である。端部の敲打痕を残す。

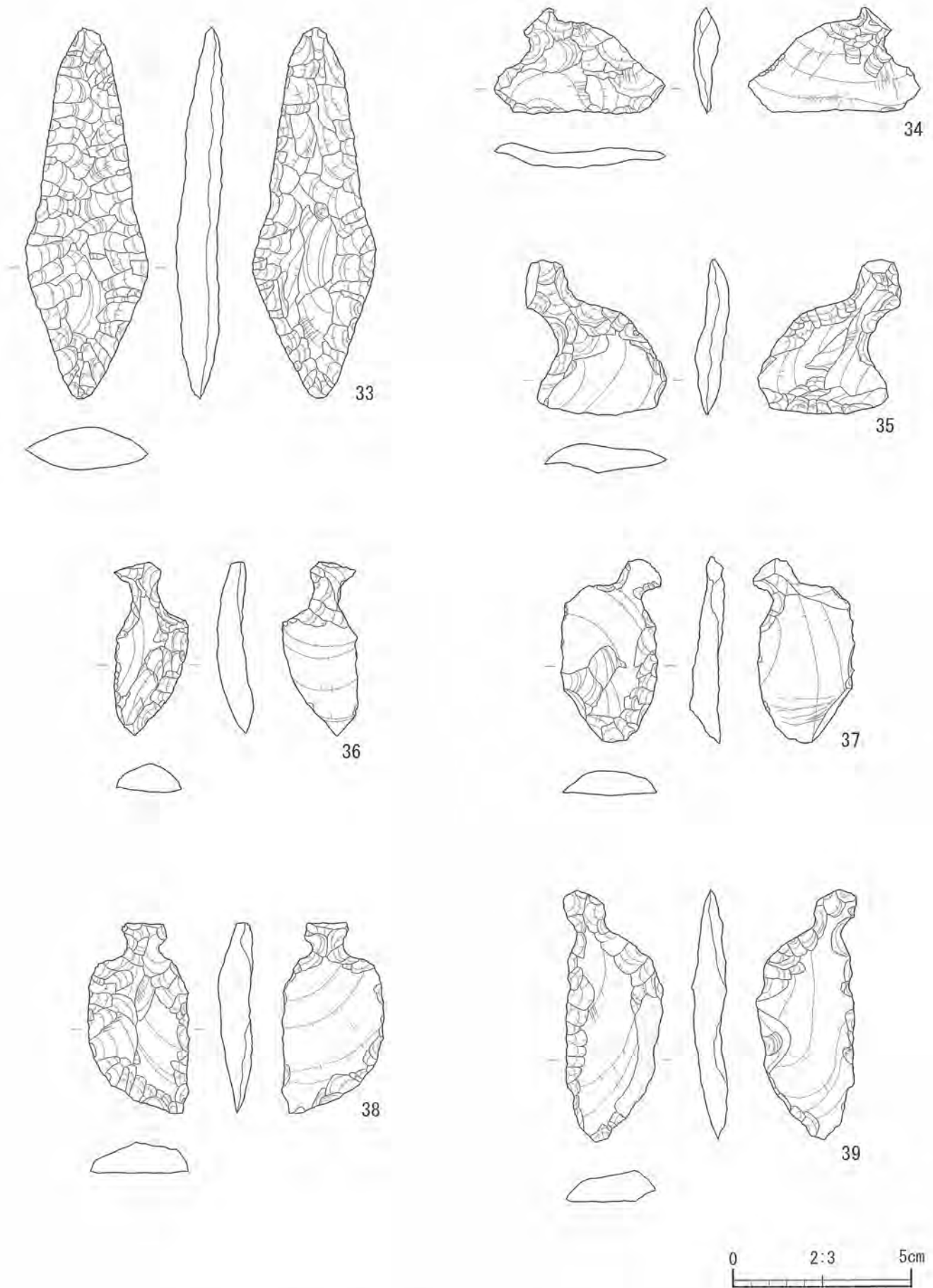
97、98は磨石である。



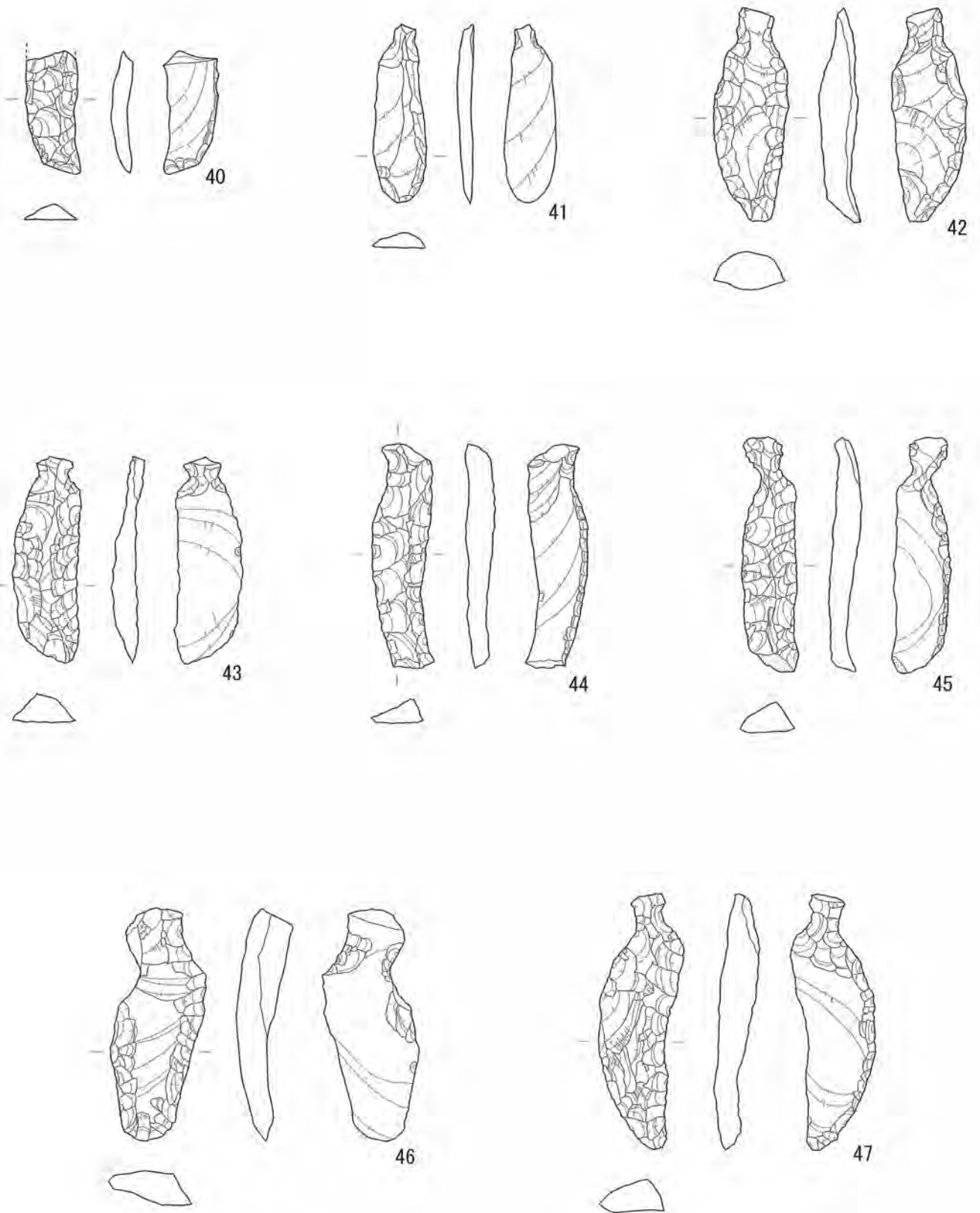
第 34 图 V 層出土遺物 15 (石器)



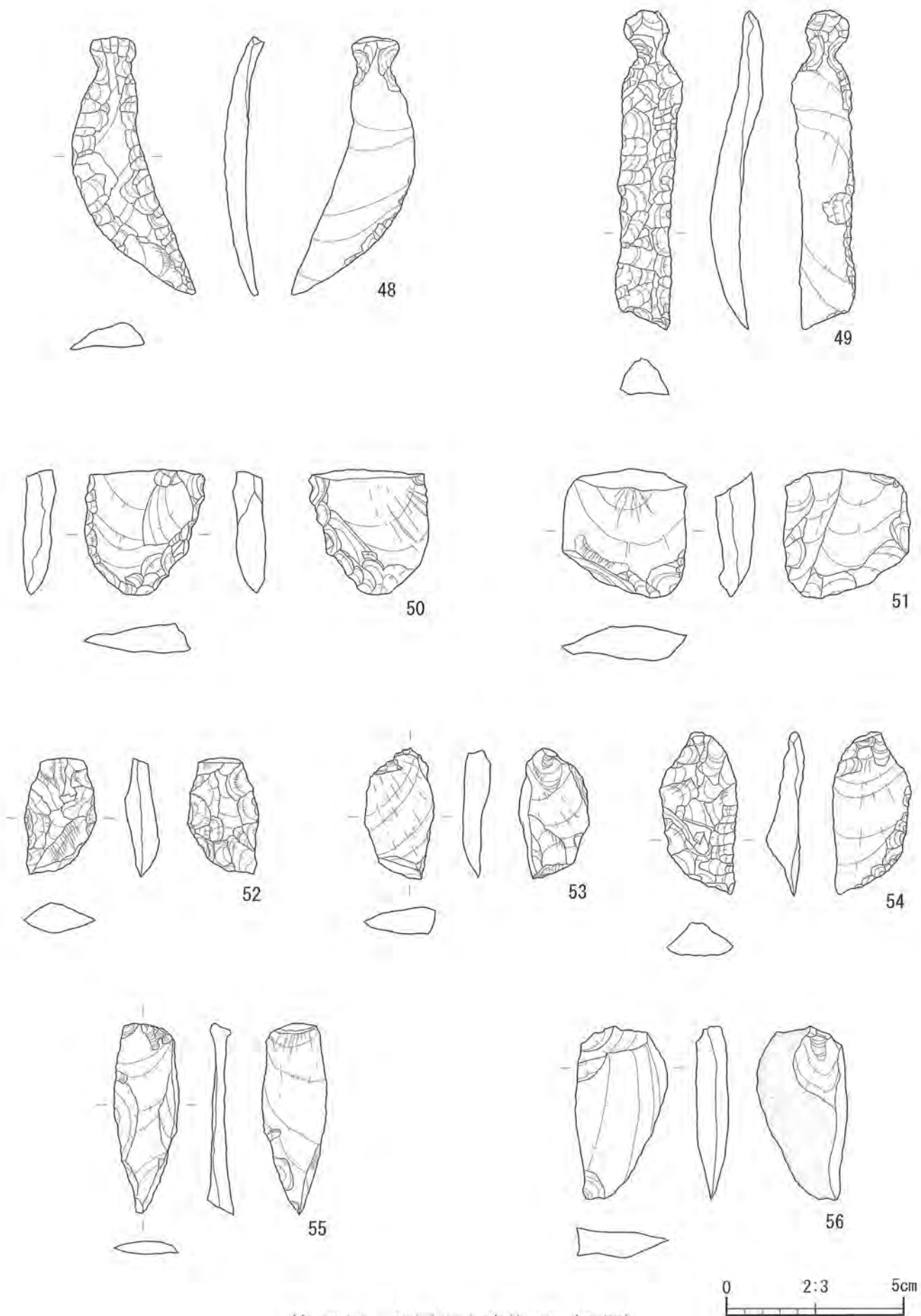
第 35 図 V層出土遺物 16 (石器)



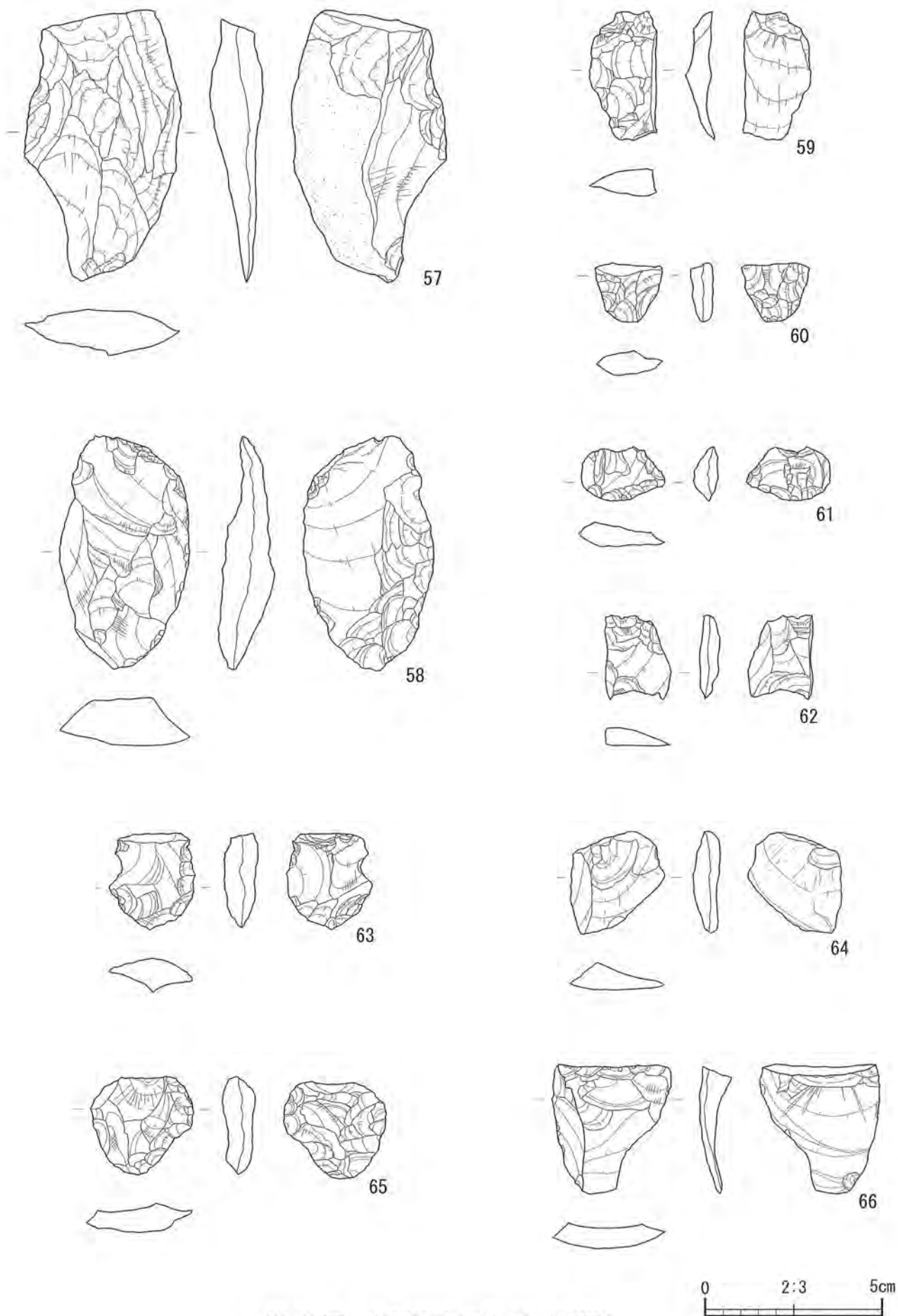
第 36 図 V層出土遺物 17 (石器)



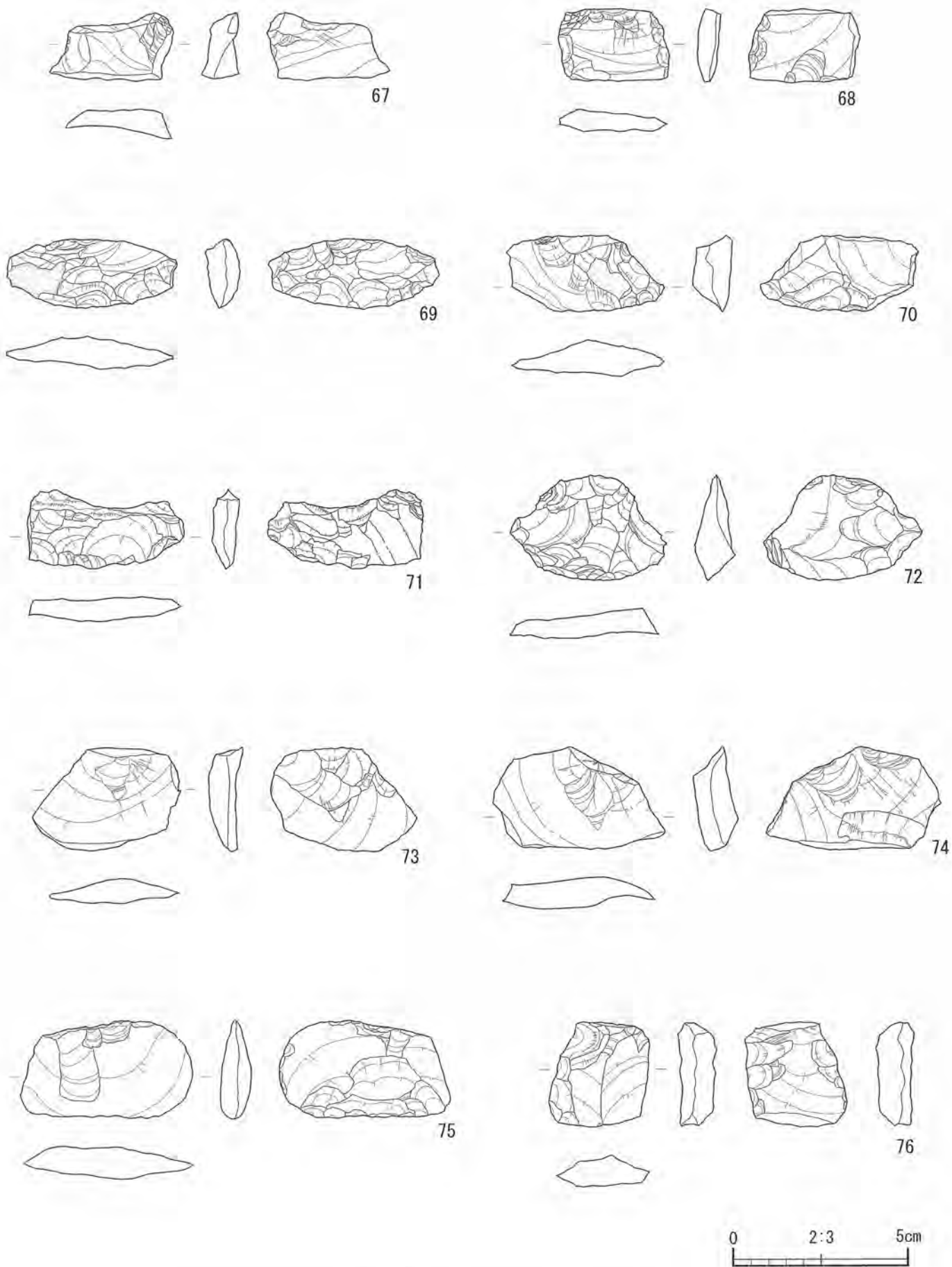
第 37 図 V層出土遺物 18 (石器)



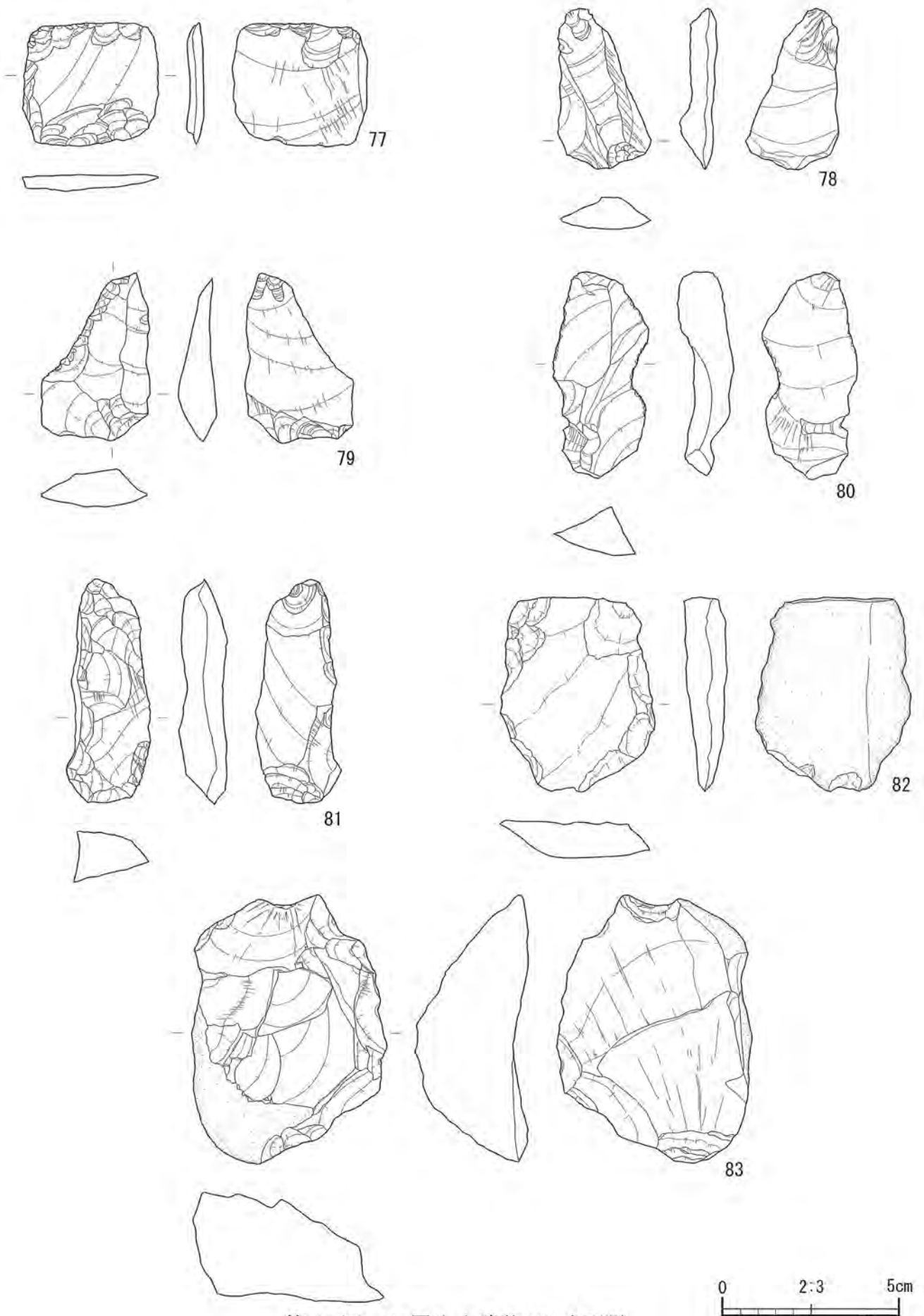
第 38 图 V 層出土遺物 19 (石器)



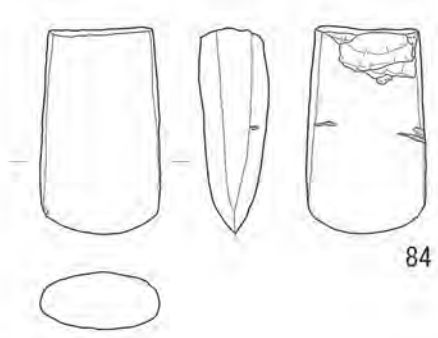
第 39 図 V 層出土遺物 20 (石器)



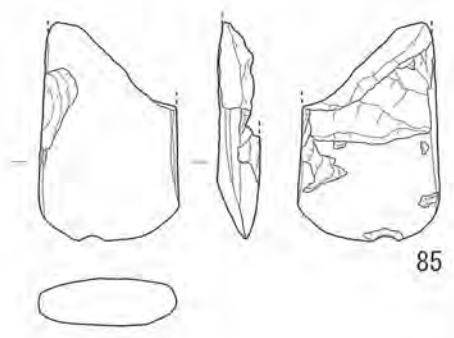
第 40 图 V 層出土遺物 21 (石器)



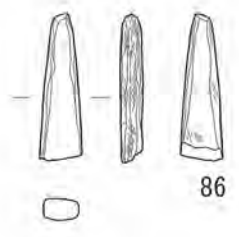
第 41 図 V層出土遺物 22 (石器)



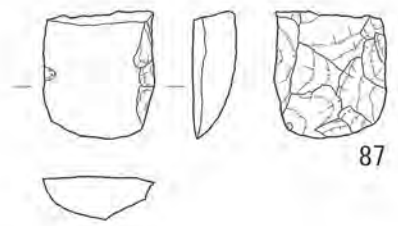
84



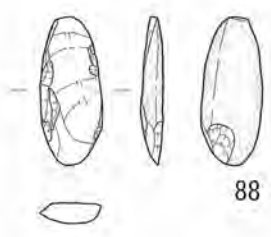
85



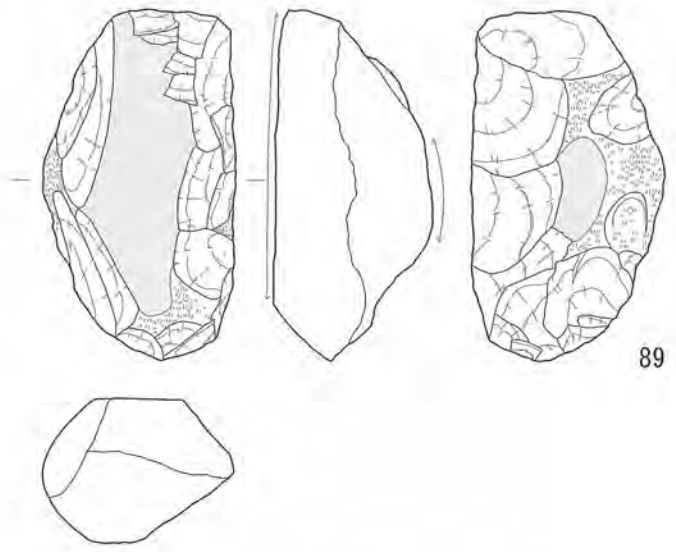
86



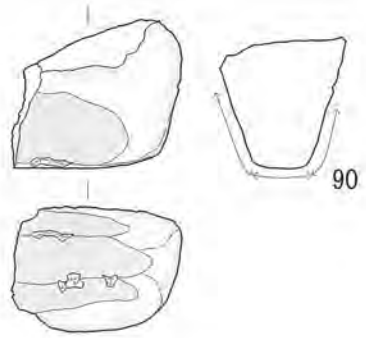
87



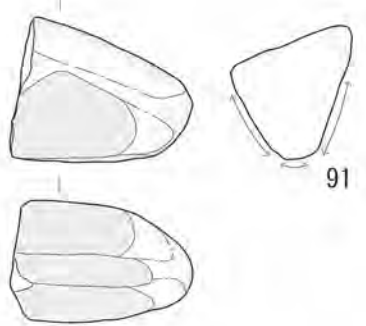
88



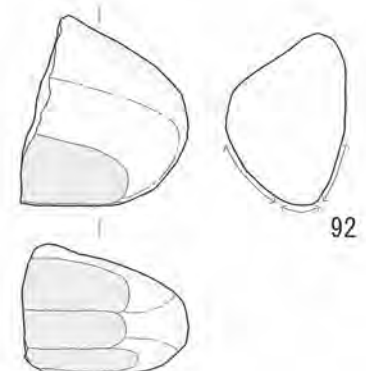
89



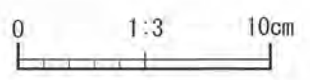
90



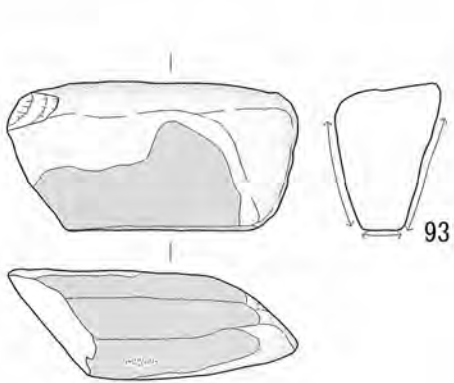
91



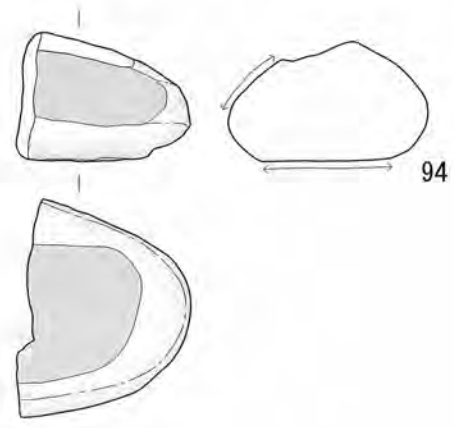
92



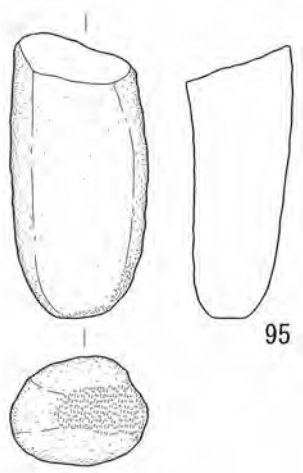
第 42 図 V層出土遺物 23 (石器)



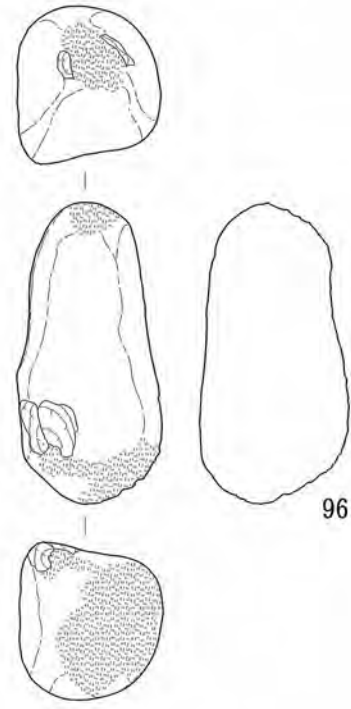
93



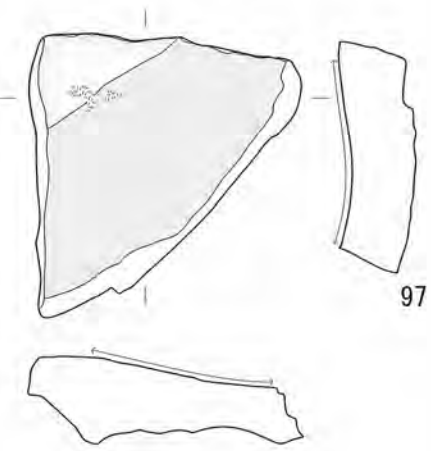
94



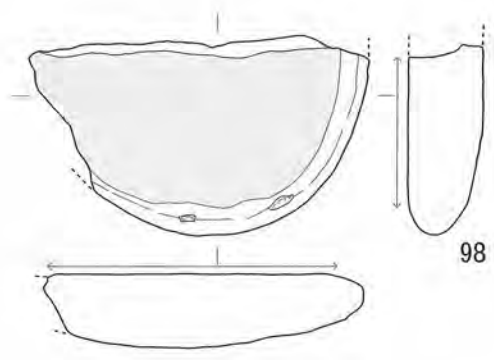
95



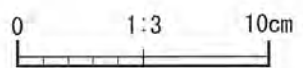
96



97



98



第 43 図 V層出土遺物 24 (石器)

d. VII層出土遺物

VII層は調査区に西側に堆積する暗褐色土である。VI層は一気に流れ込んだような砂礫層で、遺物を含まない。VII層の出土遺物から見ても、V層とVII層の時期差はそれほどないように思われる。

縄文土器（第44図～第53図）

1～48は深鉢の口縁部である。器形は、大半が外反するが、直に立ち上がるものも混じる。胎土は、繊維を含む。

1～19は平縁である。施文方法は、不整撚糸文（1～11）、葺瓦状撚糸文（12～15）、不整撚糸文と斜縄文（16～19）などに分かれる。20、21は山形突起をもち、不整撚糸文で施文される。22～26は斜縄文による施文である。27は網目状撚糸文、28は斜行撚糸文で施文される。以上縄文前期に伴う。29～49は口縁部に装飾を施される。29～35は口唇部に円形押圧痕、側面圧痕を残す。32は結節縄文で施文され、33は横位三列の撚糸圧痕が施される。34、35は斜行撚糸文で施文される。36～43は口唇部に刻目が入る。44～46は斜刻線が施され、44はその下に横位の撚糸圧痕列がめぐる。48、49は隆帯を伴い、その上に圧痕が施される。47は口唇部と口縁部に細かな刺突列を伴う。

以上縄文時代前期初頭大木2式に伴う。

50～64は体部片である。いずれも胎土は繊維を含む。50～60は羽状縄文で施文され、62、63はS字状連鎖沈文を伴う。64は不整撚糸文による施文である。

65～76はいわゆる「ぴっちり縄文」で施文された土器をまとめた。いずれも胎土は繊維を含む。65～72は深鉢の口縁部である。ほぼ直に近い形で立ち上がる。69～73は口唇部に圧痕を伴う。73は、口縁部から体部にかけて湾曲する小片から復元を試みたものである。椀形の器形を予想させる。74～76は体部片である。

以上縄文時代前期初頭大木1式に伴う。

77～105は「縄文—縄文」土器をまとめたものである。

77～96は深鉢の口縁部である。いずれも外反気味に立ち上がる。胎土には繊維を含まれる他に（90、96を除く）、細砂、細礫が混入する。また口縁部は円形圧痕、側面圧痕などを伴う。

77～89は斜縄文と口唇部の圧痕で施文される。77の口唇部は溝を伴う。

90～96は口縁部に装飾が加えられる。90は口縁部を肥厚させ、その上に側面圧痕列を施す。

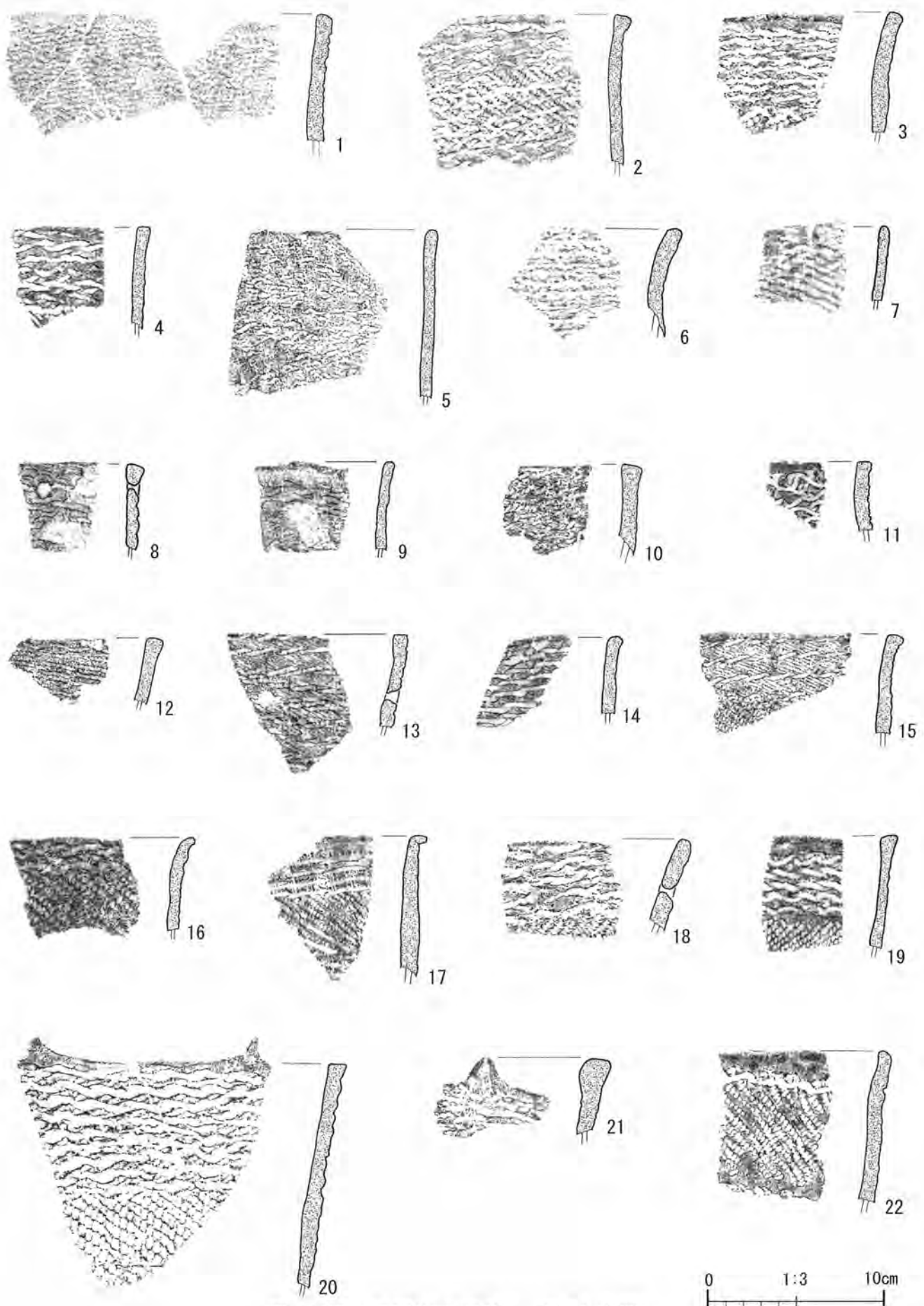
91は爪型の刺突列を伴う。92は楕円形の削ぎ痕が連続する。93～95は隆帯を伴う。95は隆帯の剥離痕を残すが、他は隆帯の上に圧痕列が加えられる。

97～105は体部片である。いずれも胎土には繊維が含まれ、細砂、細礫が混入する。

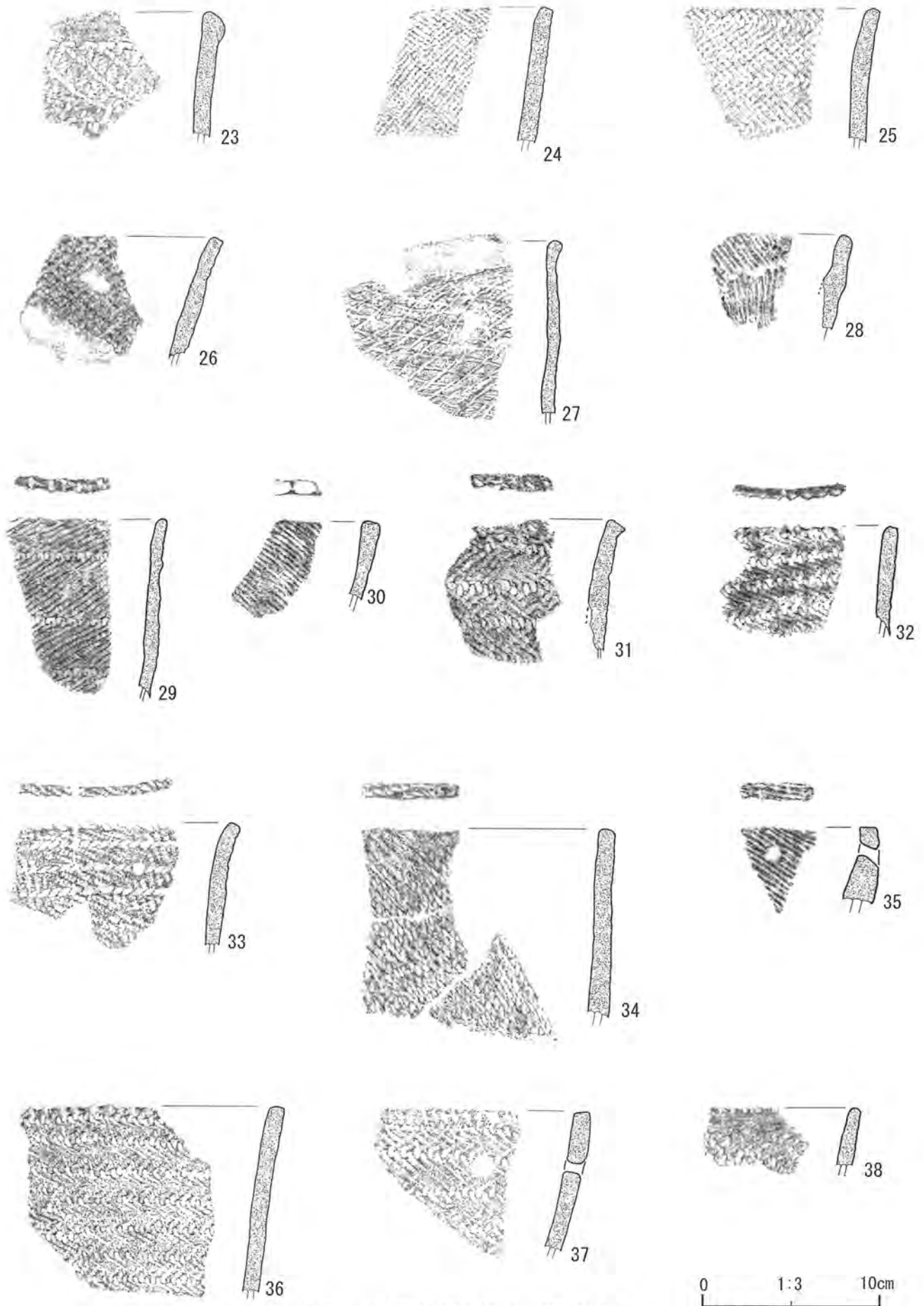
施文は斜縄文で施される。

以上縄文時代早期末葉に伴う。

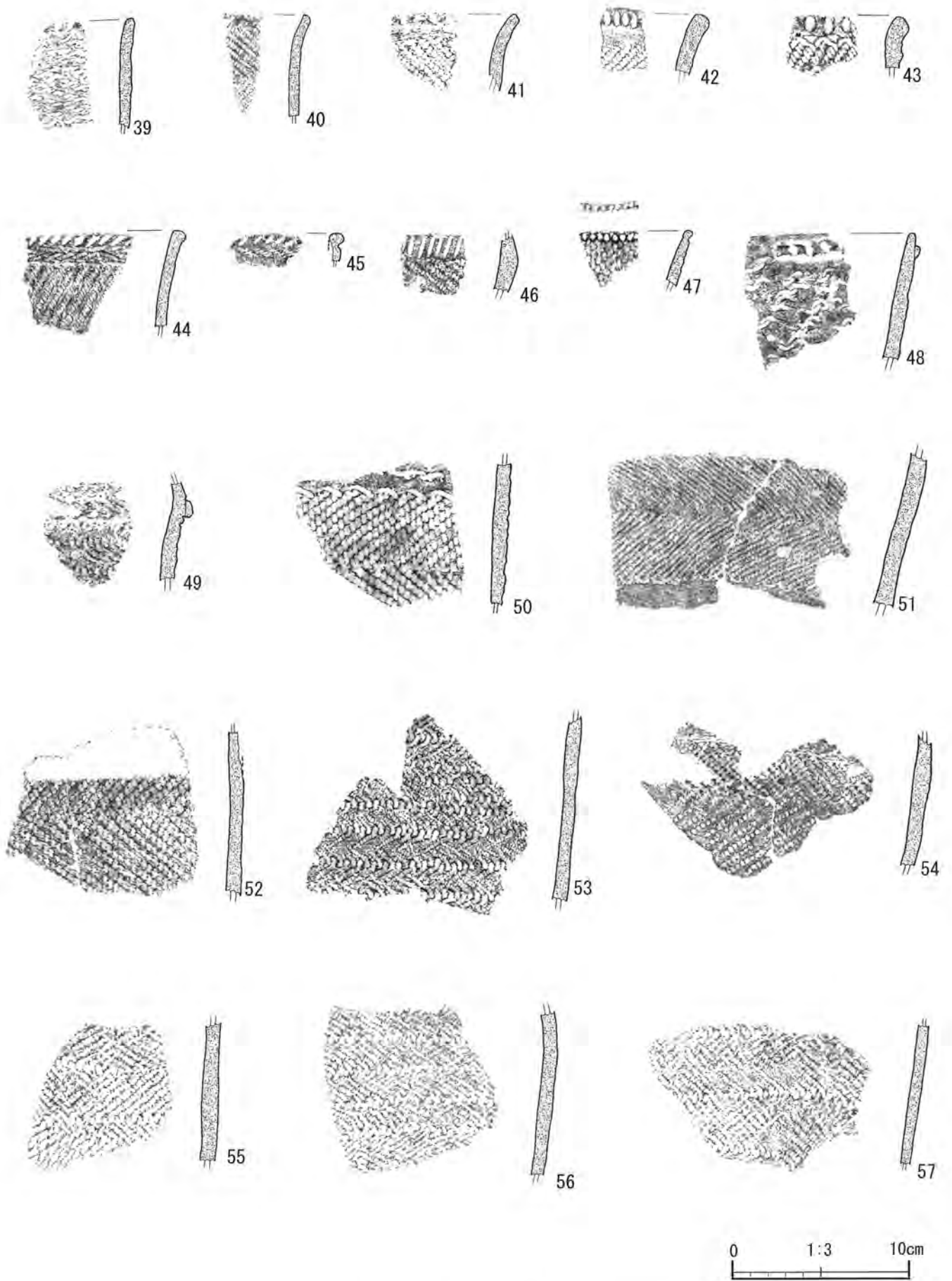
106～121は底部である。106～114は平底である。底部の施文方法は、斜縄文（106～110）、不整撚糸文（111、112）に分かれる。底面には、107はへら削り状の調整痕、113は条痕を残す。115～119は尖底部、120、121は尖底に近い底部である。いずれも胎土は繊維を含む他に細砂、細礫を伴う。



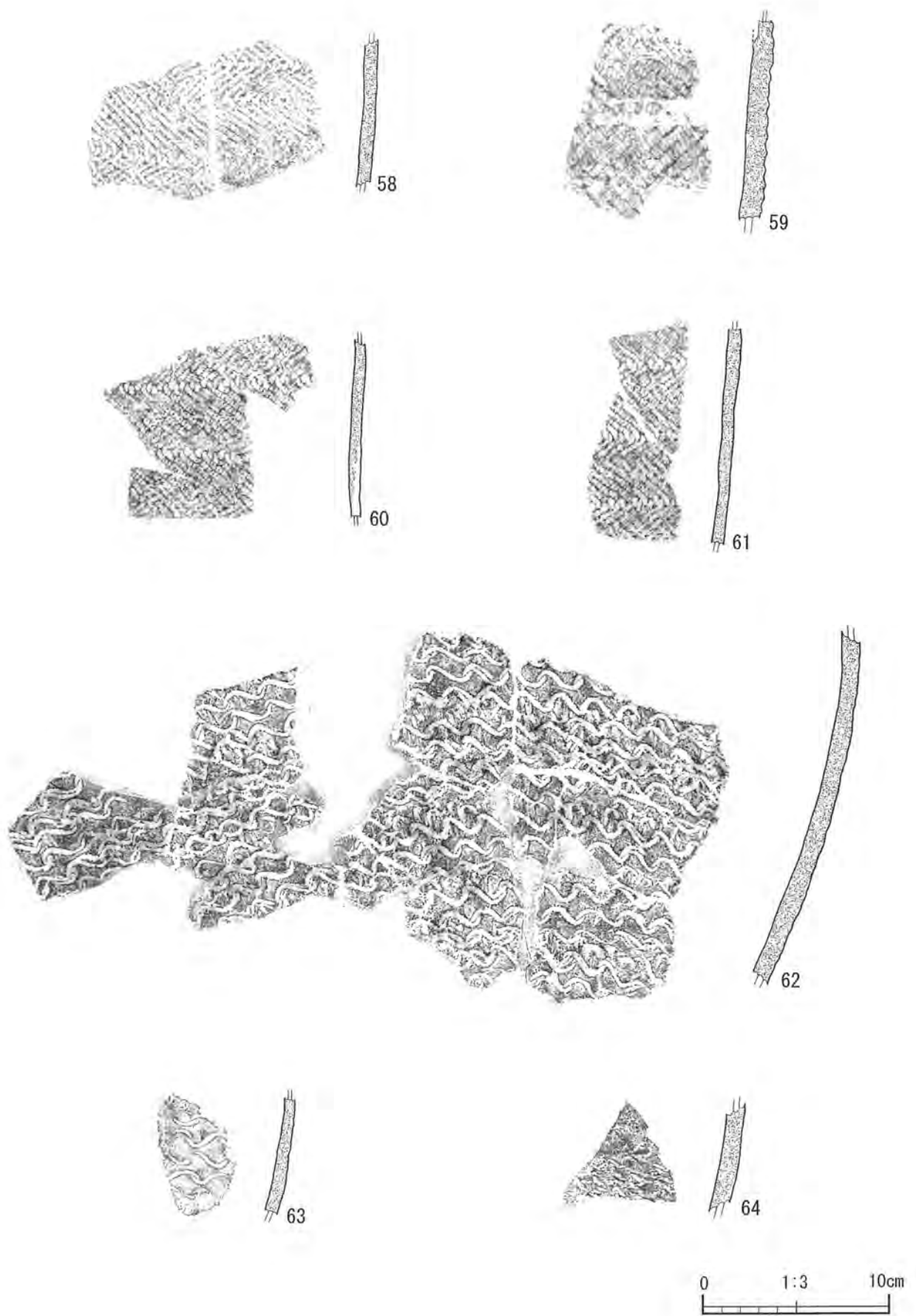
第 44 図 VII層出土遺物 1 (繩文土器)



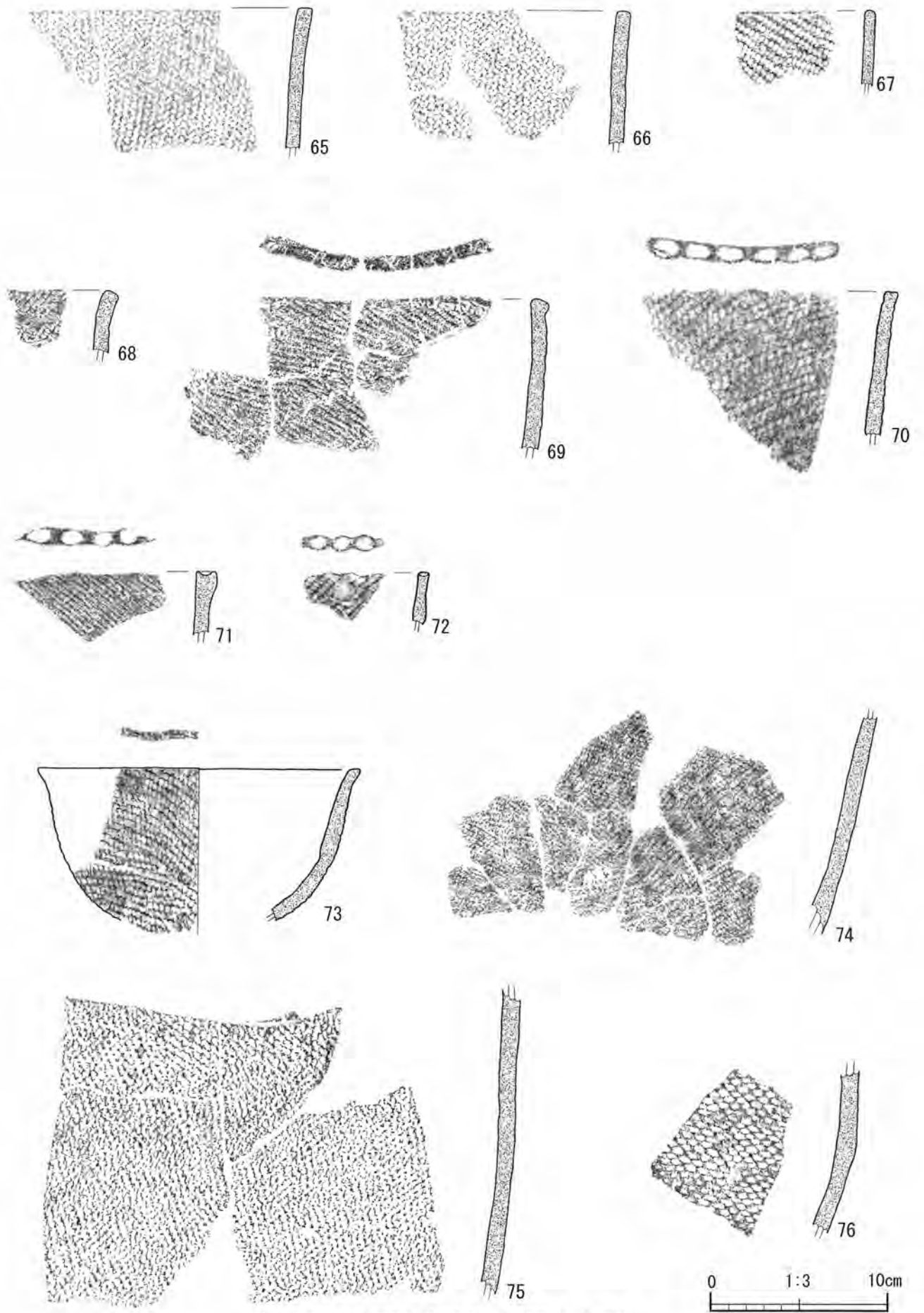
第 45 図 VII層出土遺物 2 (繩文土器)



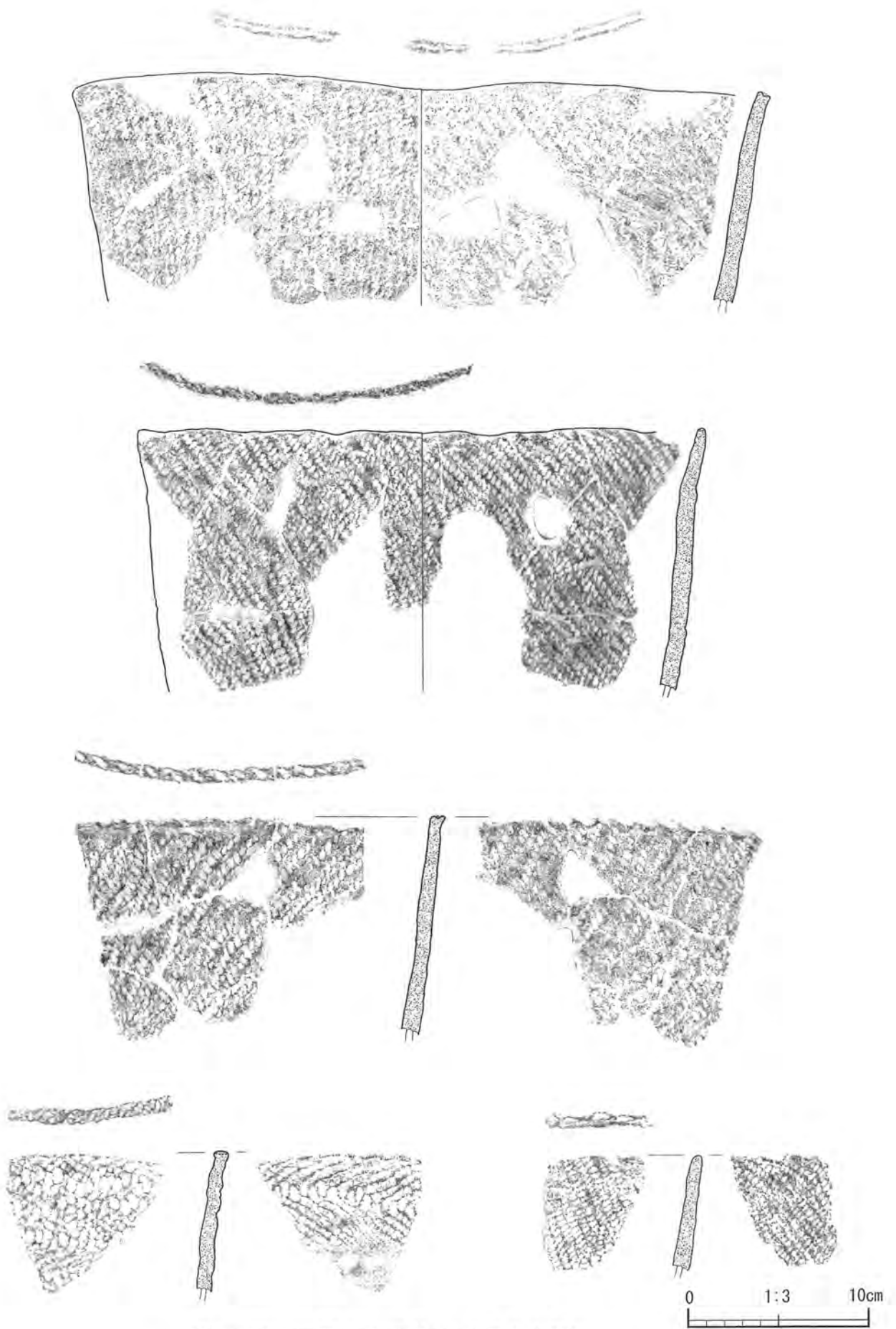
第 46 図 VII層出土遺物 3 (繩文土器)



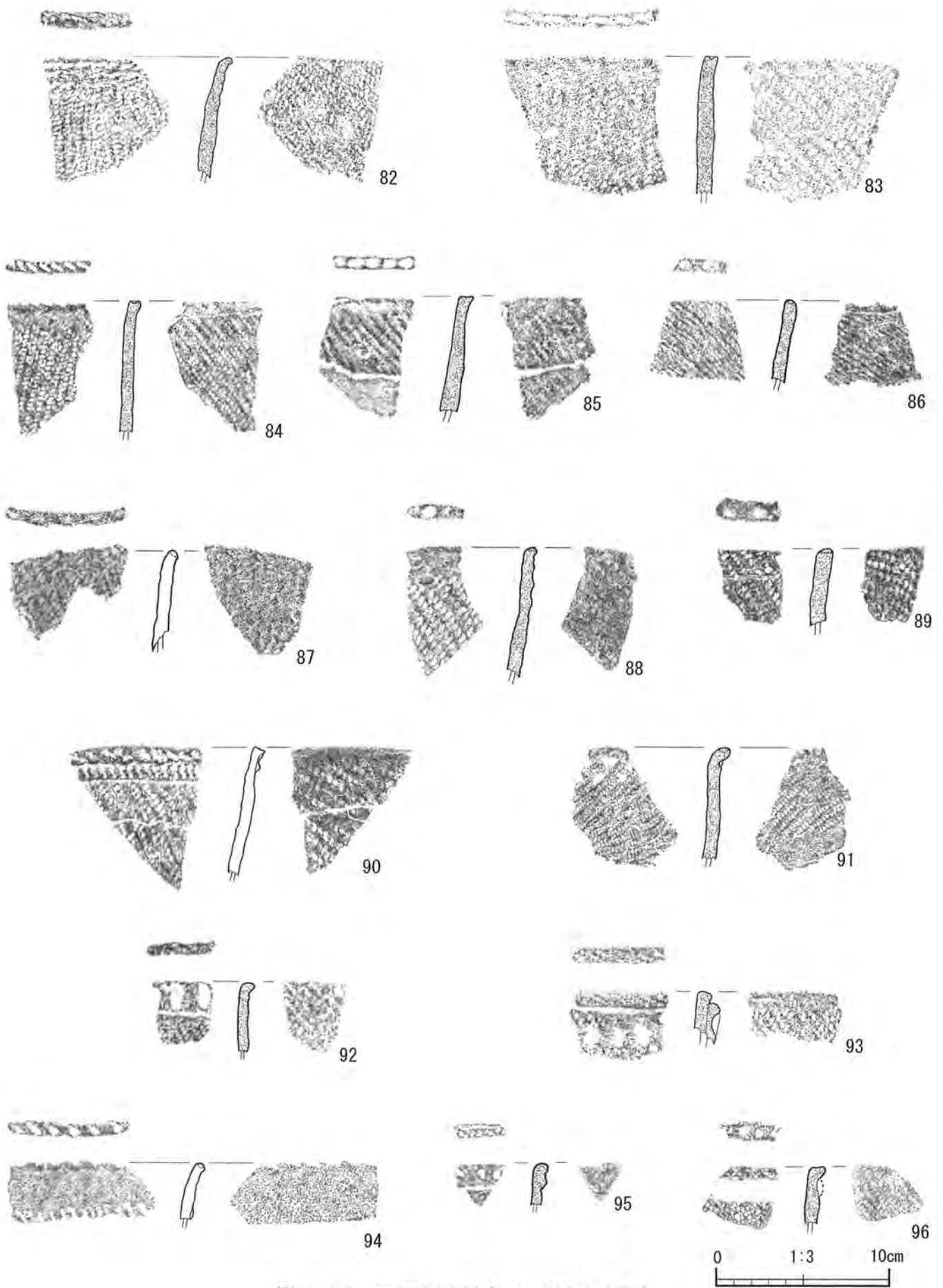
第 47 図 VII層出土遺物 4 (繩文土器)



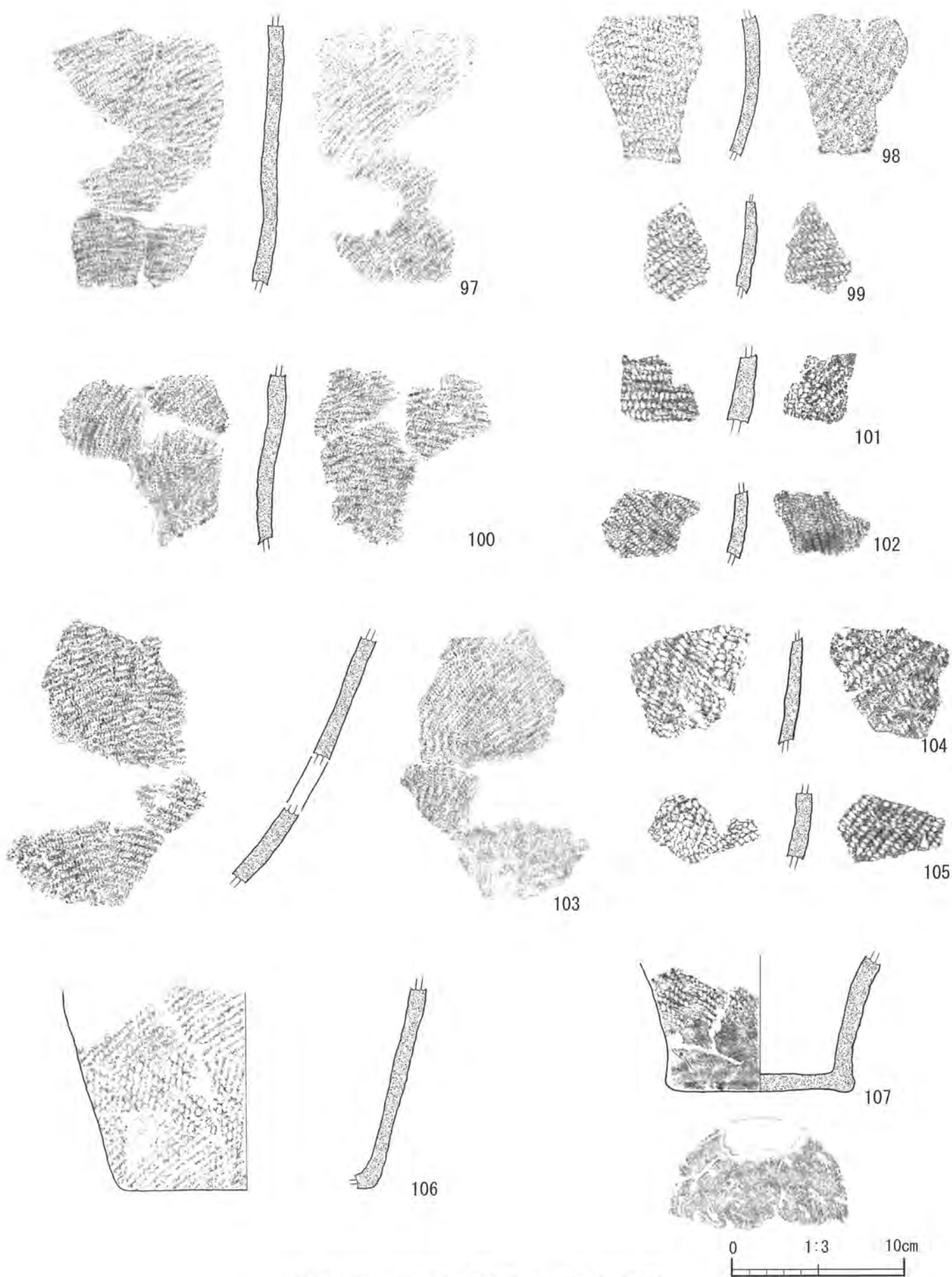
第 48 図 VII層出土遺物 5 (繩文土器)



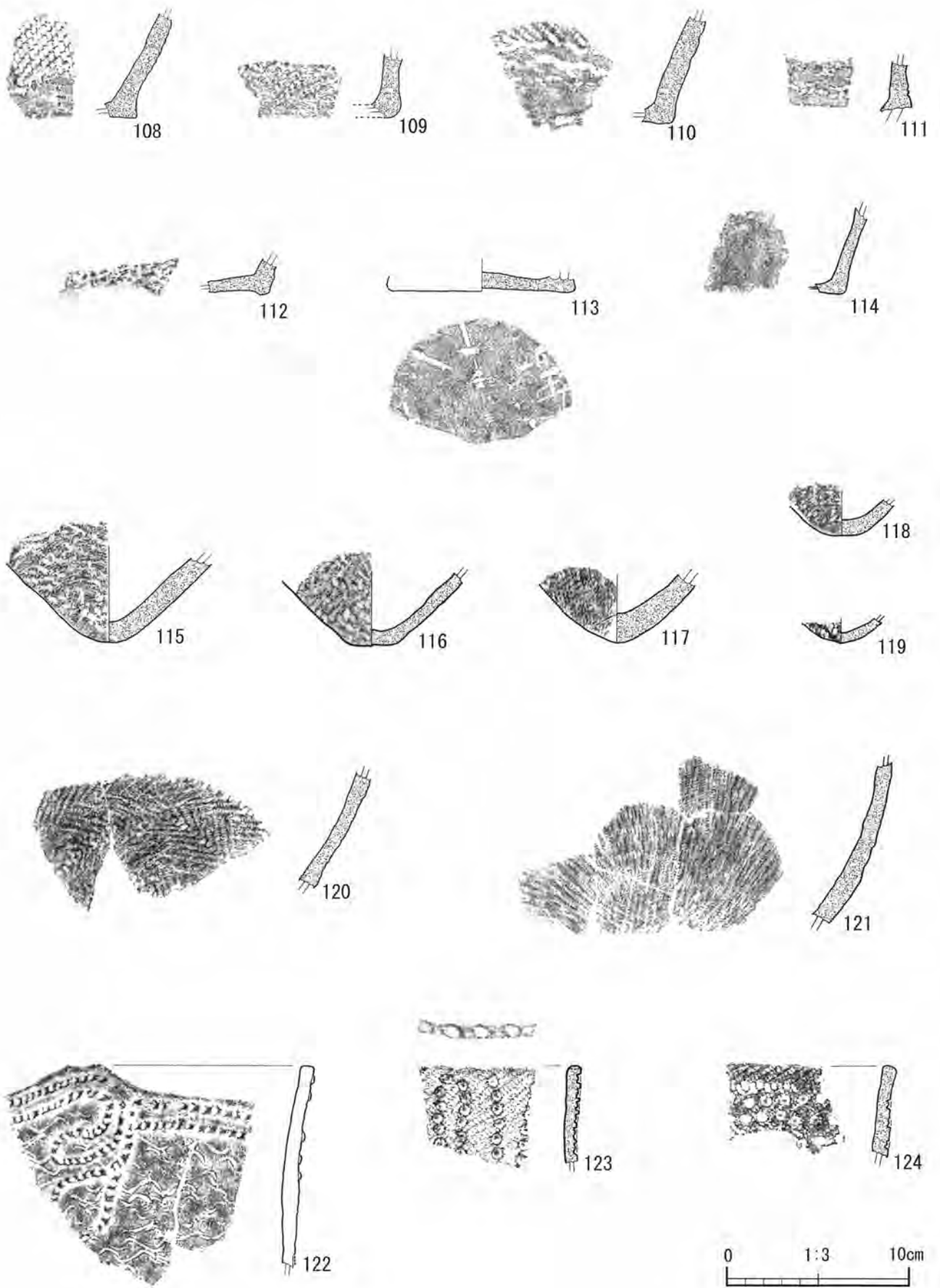
第 49 図 VII層出土遺物 6 (繩文土器)



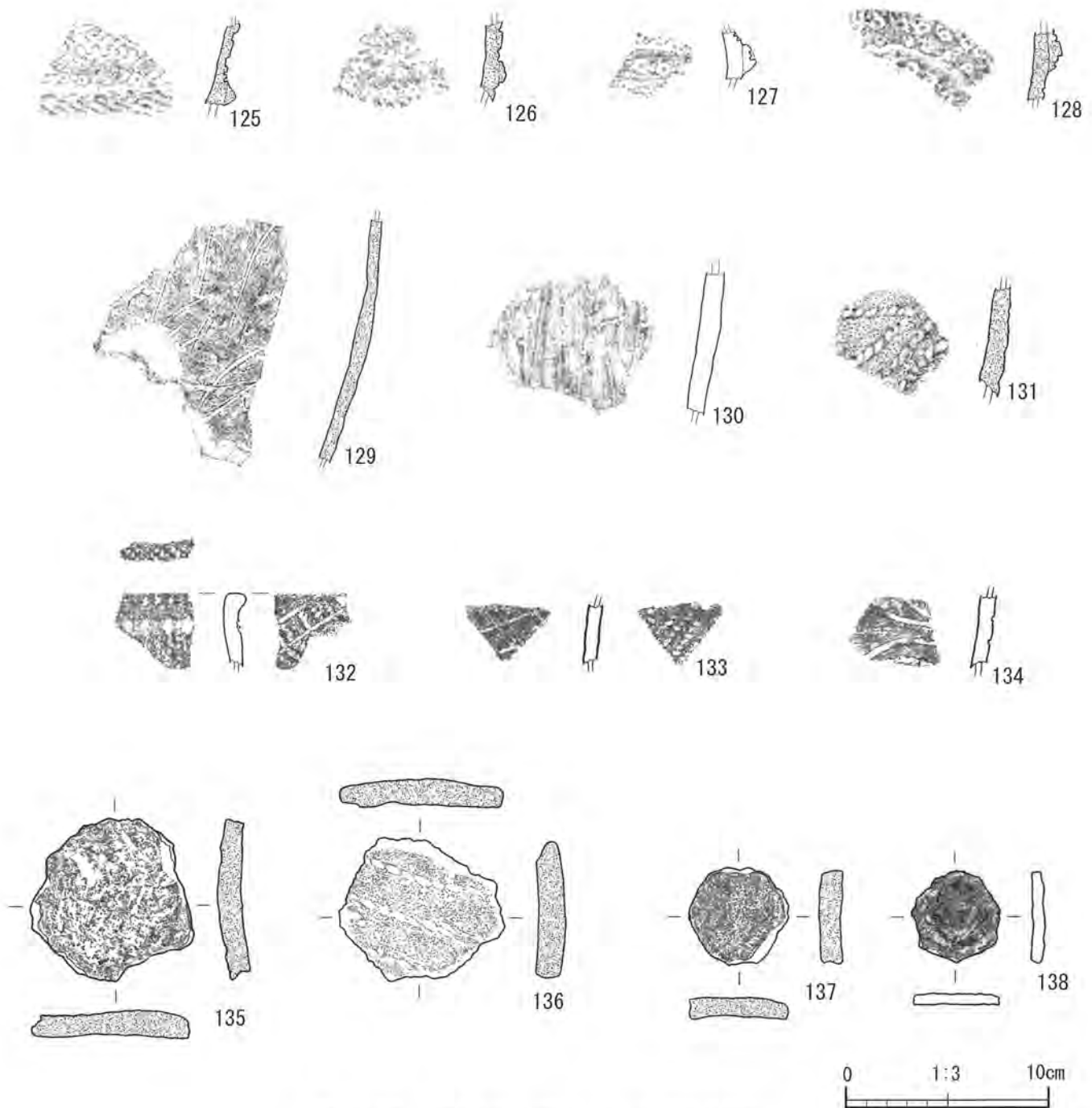
第 50 図 VII層出土遺物 7 (繩文土器)



第 51 図 VII層出土遺物 8 (繩文土器)



第 52 図 VII層出土遺物 9 (繩文土器)



第 53 図 VII層出土遺物 10 (縄文土器)

122～134は上記以外の時期に伴う土器をまとめた。

122は山形の口縁部である。粘土紐が貼付され、刻みが施される。123～128は竹管文を施文された土器で、胎土は繊維を含む。同一個体と思われる。129、130は条痕を施文された体部片である。胎土は繊維を含む。以上縄文時代前期に伴う。

132、133は表に縄文、裏に条痕を施された土器である。134は貝殻文はこの1点のみ、貝殻を用いて施文された土器である。以上縄文時代早期に伴う。

135～138は土製品の円盤である。

石器（第54図～第61図）

1～76は剥片石器である。

1～18は石鏃である。1～7は正三角形型で、平基である。8～16は二等辺三角形型で、平基である。17、18は基部がすばまる細長い成形である。

17～32は縦型の石匙である。

33～76は不定形の石器である。

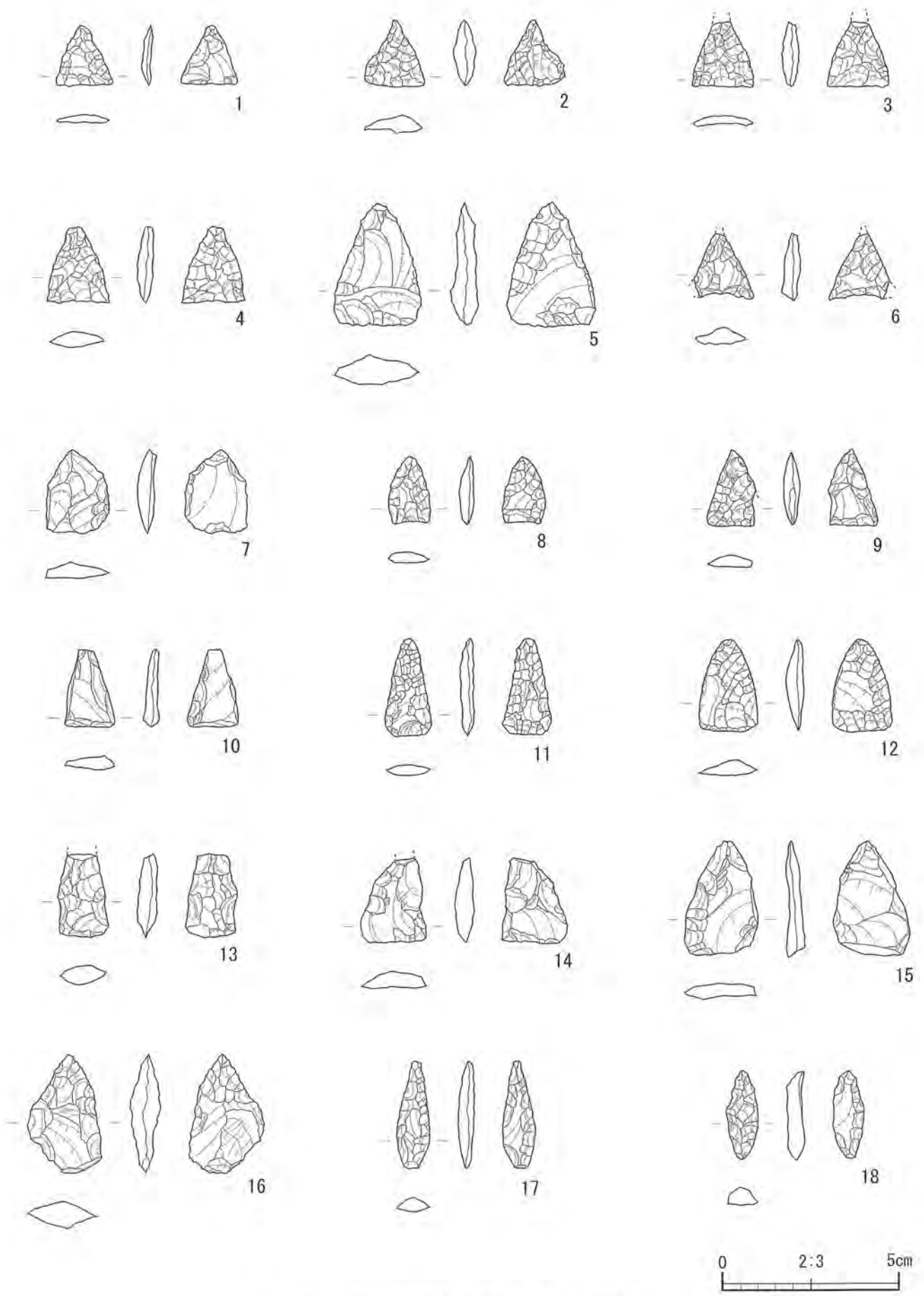
33は基部を尖らせ、側縁に刃部を作る。34は方形に近く、側縁に直刃を設ける。35、36は弧状に成形し、端部に刃部を作る。37～40は方形で、側縁に直刃を設ける。41～43は横に長く成形、尖端部に刃部を作る。44は方形に近く、側縁を尖らせる。45は鋭角三角形型で、尖端部に刃部を作り出す。46は縦に長く成形、側縁に直刃を作り出す。47は菱形で、基部を尖らせる。48は直角三角形で、直角の側縁を刃部に作る。49は石鏃状に成形、側縁に調整を加える。50は方形で、側縁に直刃をもつ。51は方形で、上下に調整を加える。52は台形型で、周縁部を調整、刃部を作り出す。53は三角形型で、側縁に使用痕を残す。54は方形で、側縁に直刃を作り出す。55～57は横長の成形で、底辺に刃部を設ける。58、59は方形で、両側縁を調整、刃部を作り出す。60は三角形型で、斜辺部を刃部とする。61は横長の成形で、側縁を尖らせる。62は方形で、側縁、底辺部に使用痕を残す。63は長方形で、側縁に使用痕を残す。64は五角形型で、側縁を尖らせる。65は木の葉状で、尖端を尖らす。66は横型石匙の形状で、周縁部に使用痕を残す。67は横長の成形で、側縁を尖らせる。68は半円状で、円側縁に使用痕を残す。69は長方形で、基部を鋭角に作り出す。70は撥状の成形で、側縁、基部を刃状に作り出す。71は長方形で、基部に調整痕を残す。72は不整形で、側縁に使用痕を残す。73はナイフ型の成形で、側縁を調整する。石錐と思われる。74は片面に自然面を残し、基部を凸刃状に加工する。

75は三角形型で、側縁に使用痕を残す。76は三角形型で、頂部に調整痕を残す。

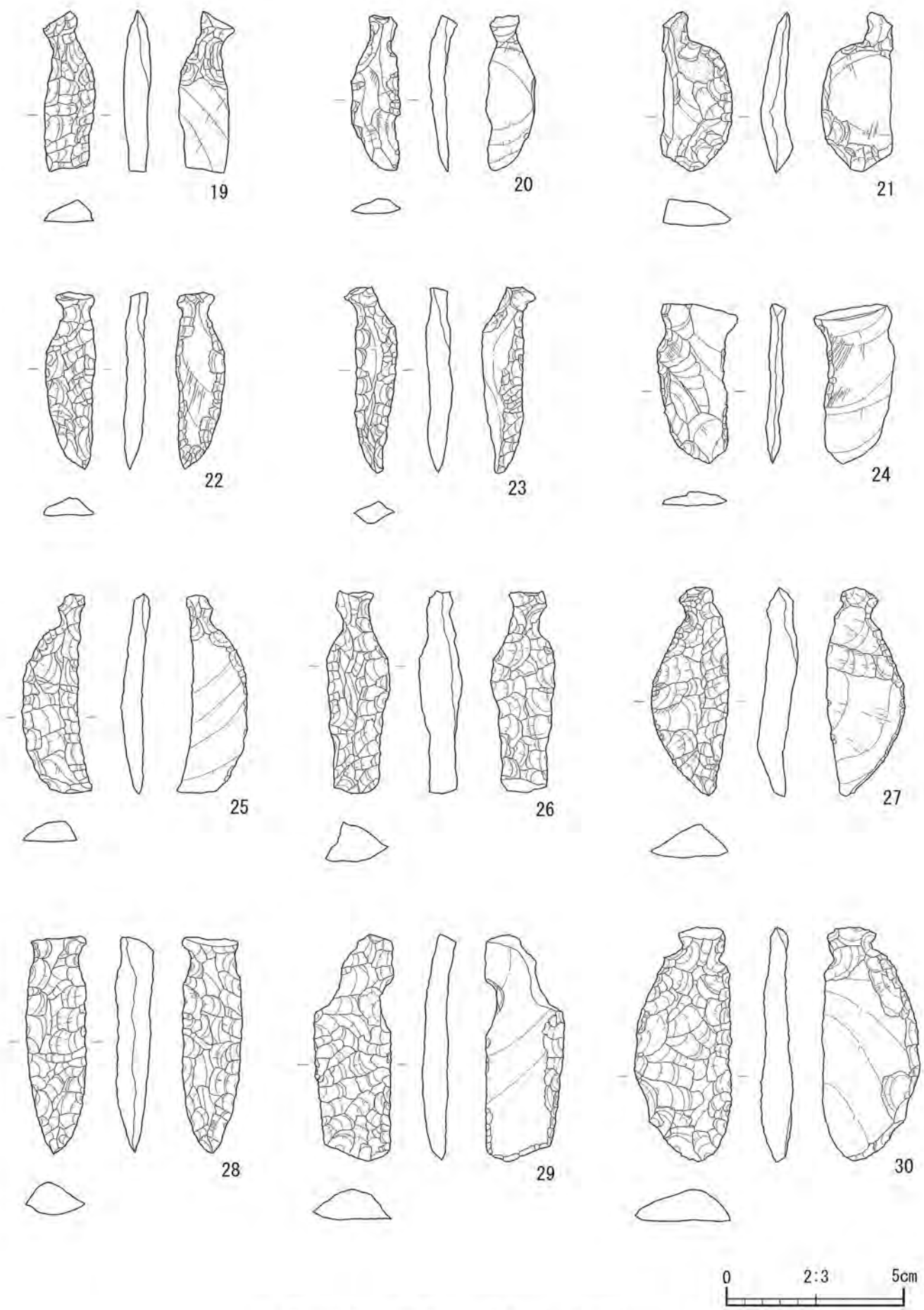
77～84は礫石器である。

77～78は磨製石斧である。79～82は打製石斧である。裏面に自然面を残す。

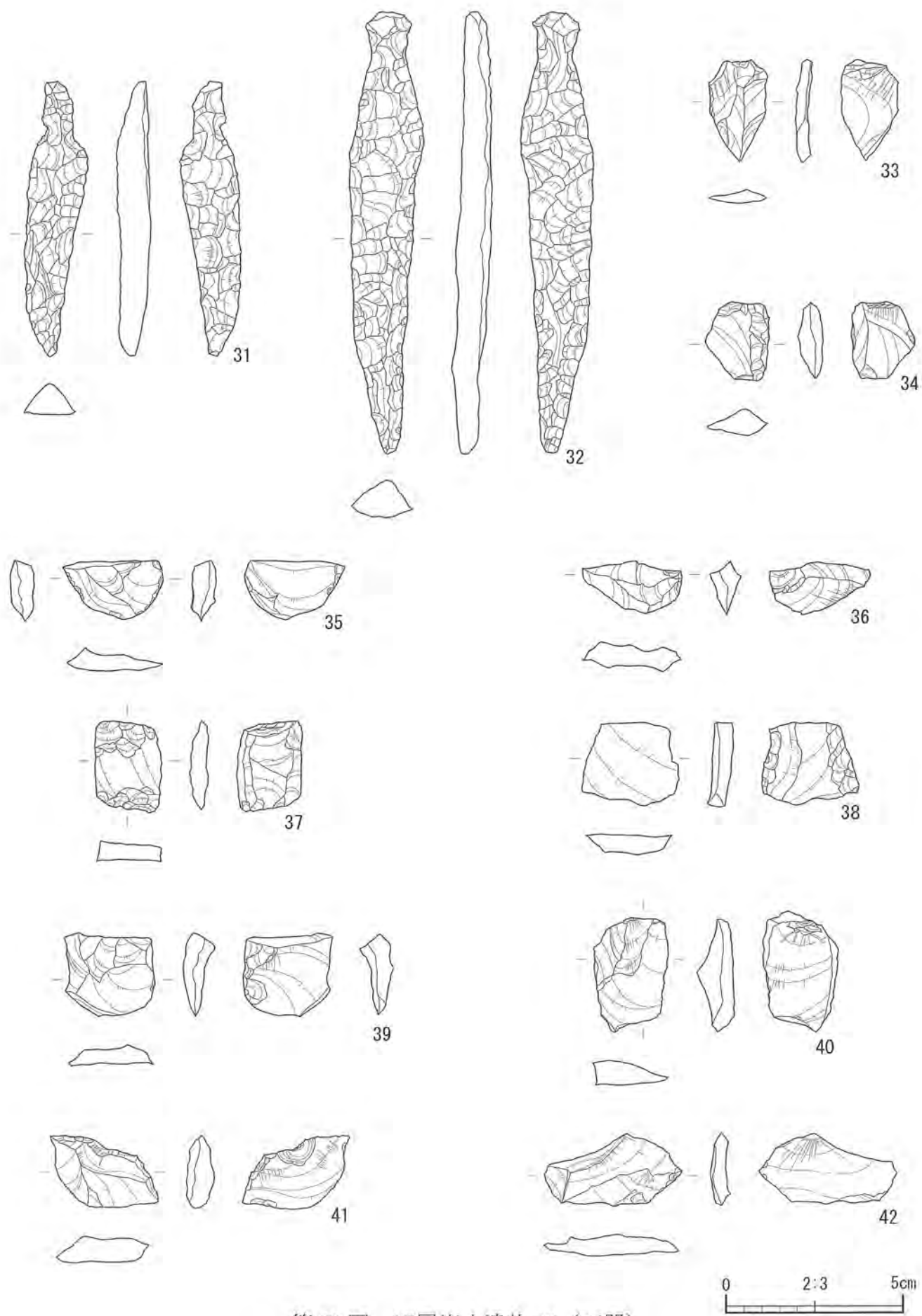
83、84は敲打磨石である。いずれも端部に打痕を残し、機能磨面の両側に調整磨面をもつ。



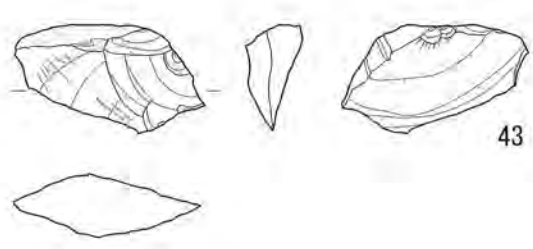
第 54 図 VII層出土遺物 11 (石器)



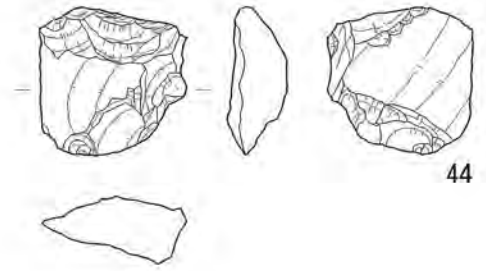
第 55 圖 VII層出土遺物 12 (石器)



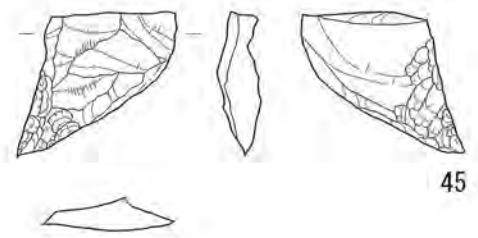
第 56 图 VII層出土遺物 13 (石器)



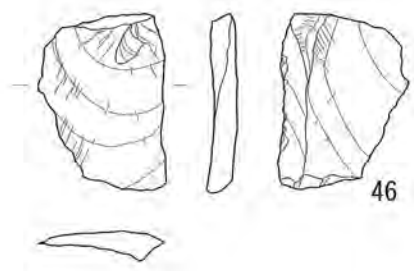
43



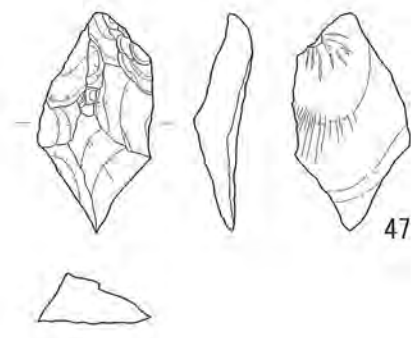
44



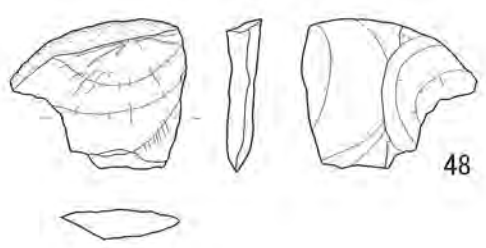
45



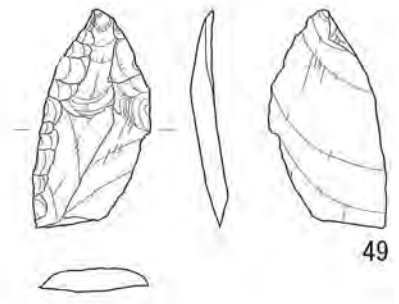
46



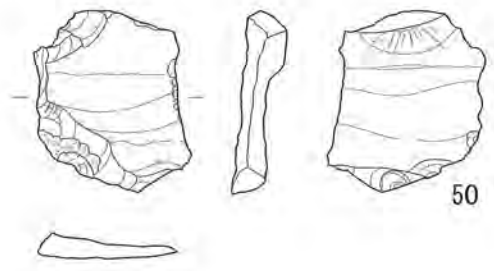
47



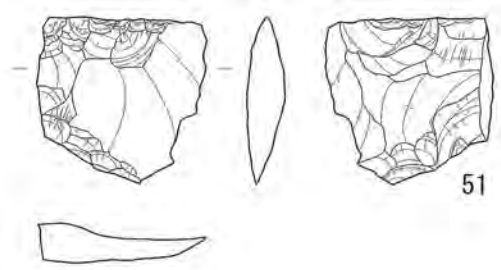
48



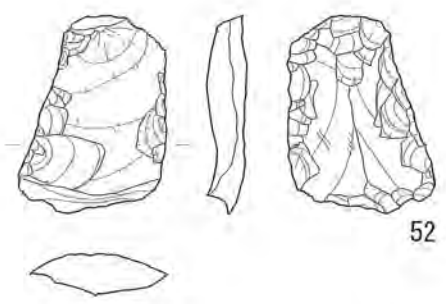
49



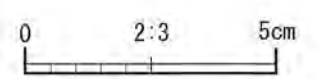
50



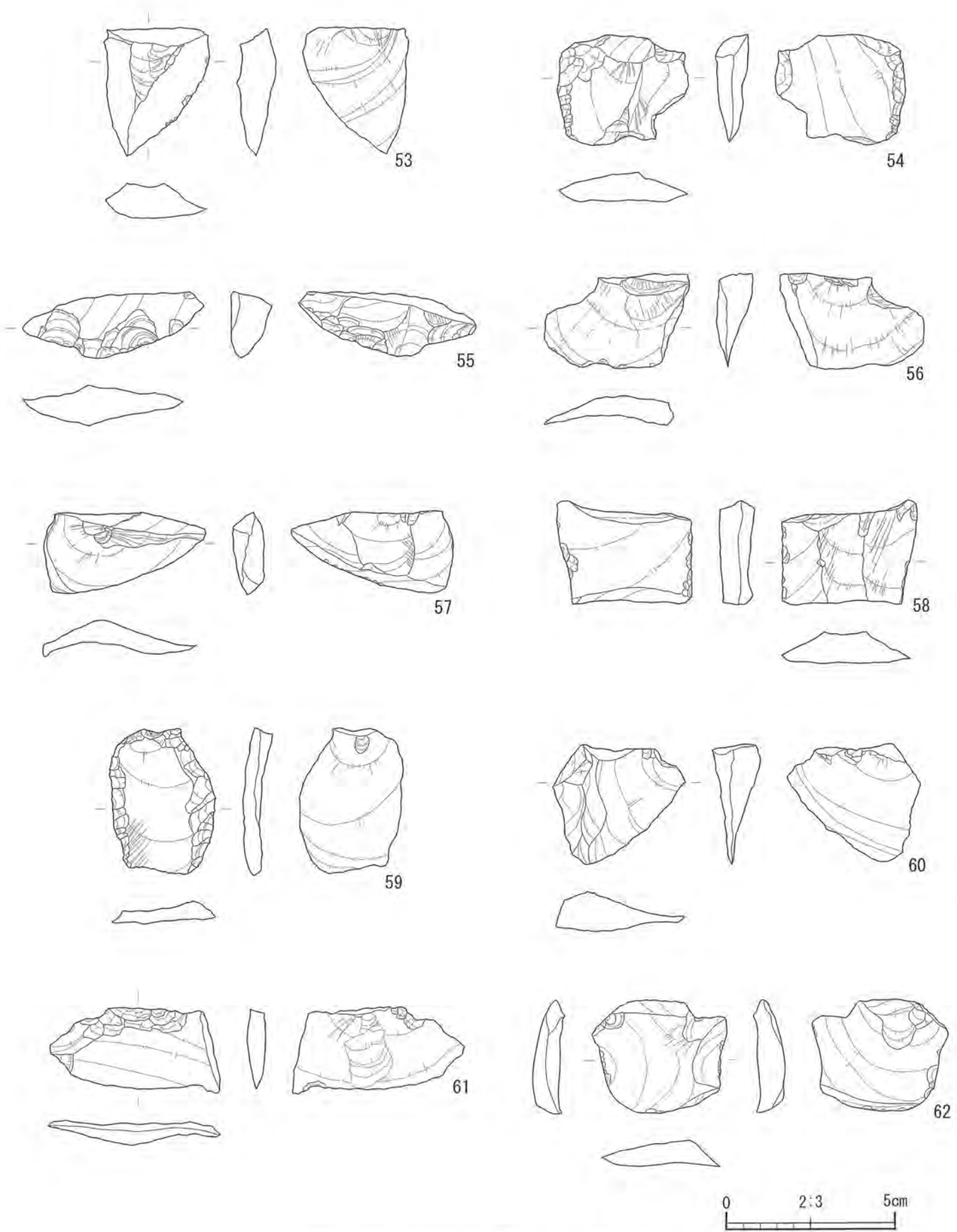
51



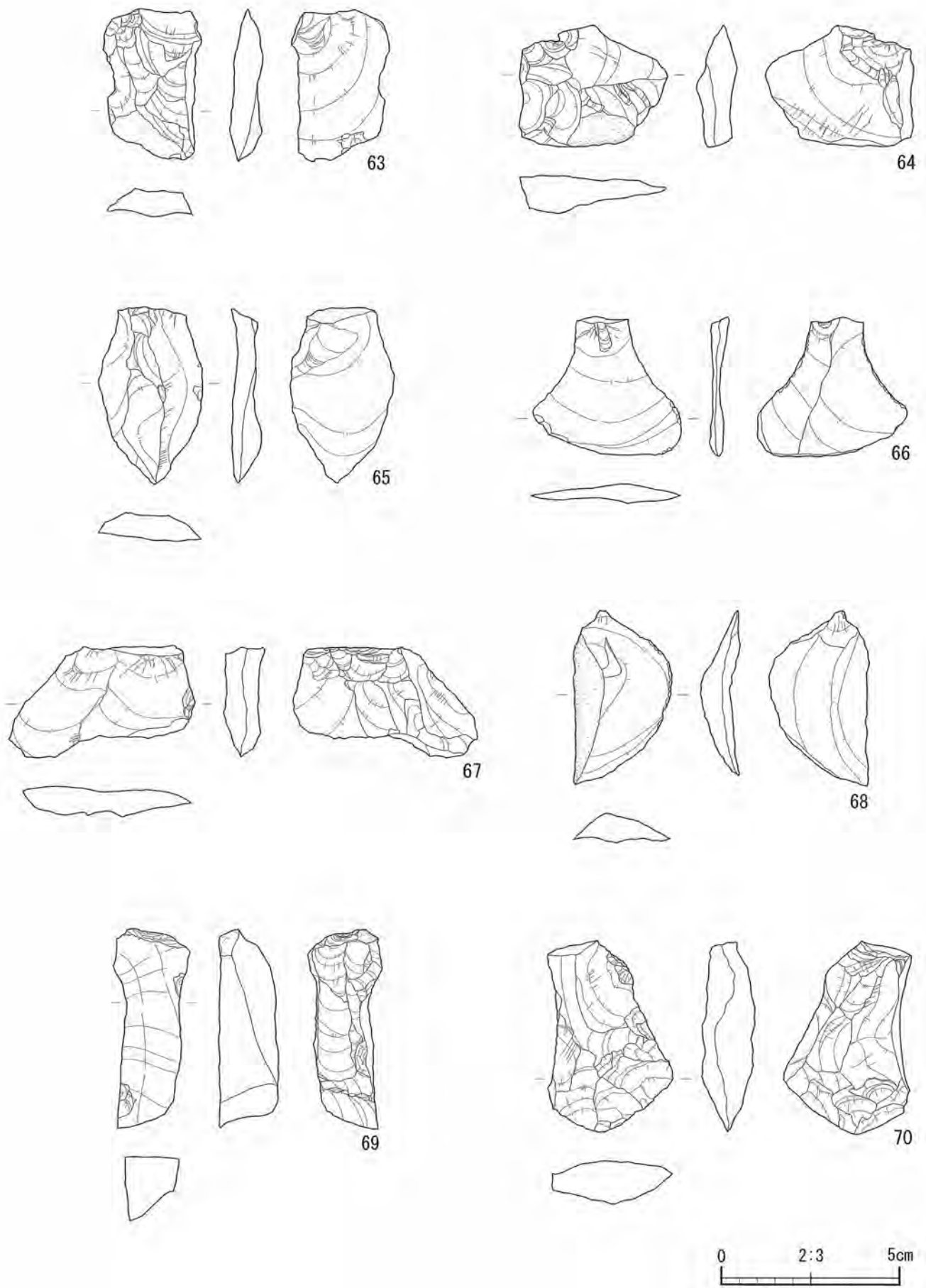
52



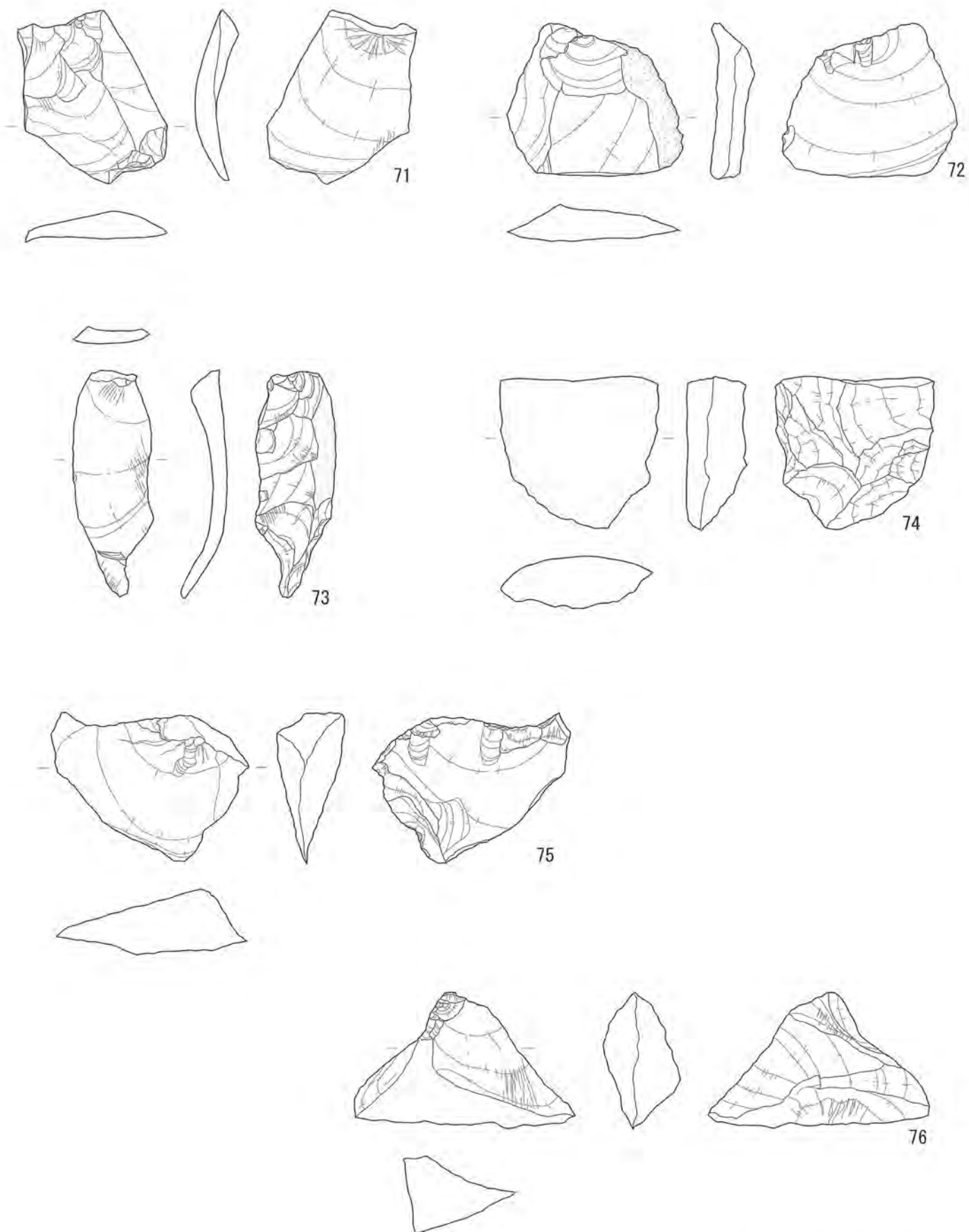
第 57 図 VII層出土遺物 14 (石器)



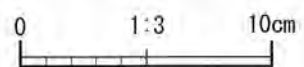
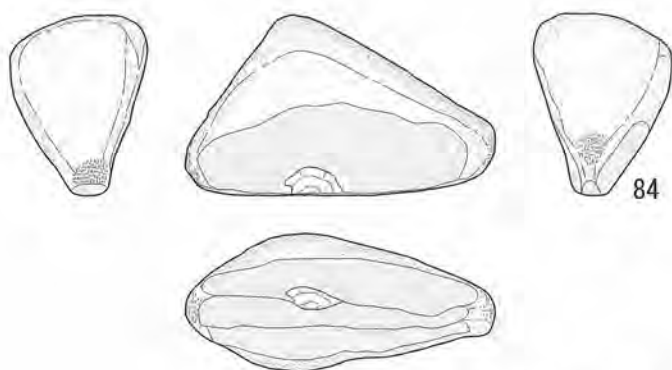
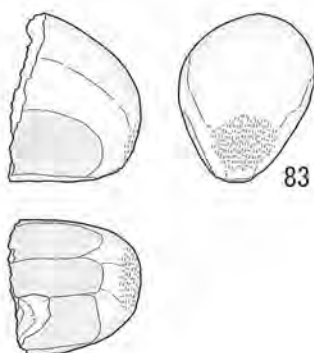
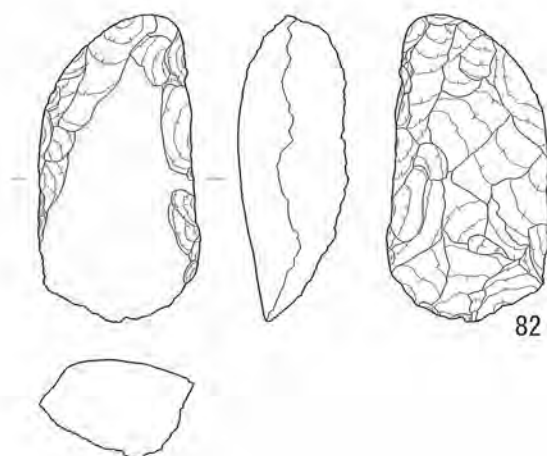
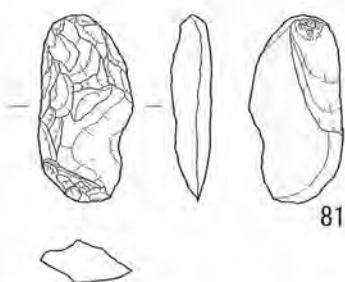
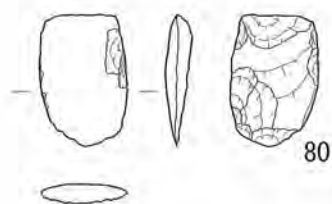
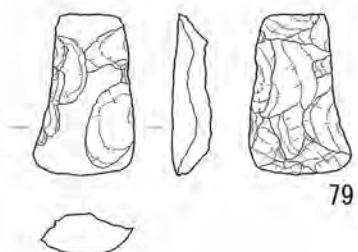
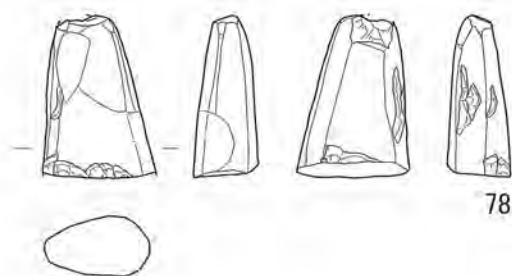
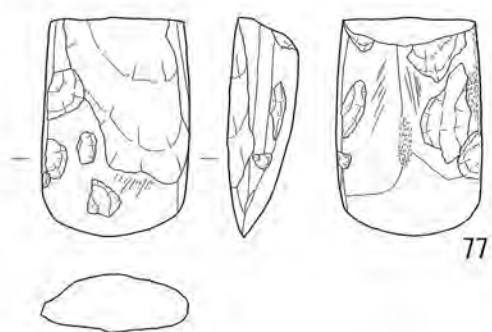
第 58 圖 VII層出土遺物 15 (石器)



第 59 图 VII 层出土遗物 16 (石器)



第 60 图 VII層出土遺物 17 (石器)



第 61 図 VII層出土遺物 18 (石器)

e. Ⅷ層出土遺物

Ⅷ層は調査区西側に堆積する褐色土である。Ⅶ層とは層的にも、出土遺物から見ても明瞭な画期をなしている。

土器（第62図～第76図）

1～112は「縄文—縄文」土器と「縄文—条痕」土器である。

1～92は「縄文—縄文」土器である。

1～92は深鉢の口縁部である。器形は、大半が外反する。内反するものは数点である。胎土には繊維が含まれ、細砂、細礫が混入しているが、例外が数点存在する（30、65、74、75）。

1～72は口唇部に圧痕を伴い、内外面を斜縄文で施文された土器群である。62は口唇部の外際に円形刺突列が施され、66は口唇部に溝が入る。71、72は口唇部に斜刻線を伴う。

73～92は口縁部に圧痕列隆帯などの装飾が施された土器である。

73は肥厚させた口縁部に数条の横位撚糸圧痕列を施す。内外とも斜縄文で施文する。74、75、76はやや内反する深鉢で隆帯を伴う。胎土は繊維を含まない。隆帯には斜刻線が入る。同一個体と思われる。77は隆帯を伴い、その上を斜縄文で施文する。78は内外面を斜縄文で施文し、口縁部に山形刻線を配す。79は口縁部を肥厚させ、横位三列の刺突列を施す。80は口縁部に横位2状の沈線が施される。81、82は隆帯を伴い、隆帯上に斜縄文を施す。81の口唇部には溝が入る。82は胎土に繊維を含まない。83～87は隆帯を伴い、いずれも隆帯上に刻目、圧痕が施される。88は外面に隆帯の剥離痕を残し、内面口縁部に指頭による圧痕を残す。89～91は外面口縁部に横位撚糸圧痕を施す。92は口縁部に山形刻線を施し、口唇部に溝状の刻線は入る。

以上縄文時代早期末葉に伴う。

93～100は「条痕—条痕」土器、「縄文—条痕」土器をまとめた。

93はほぼ直に立ち上がる深鉢で、隆帯を伴う。胎土は繊維を含まない。内外面に格子状の条痕を施し、隆帯、口唇部に刻目が施される。95は隆帯を伴う。外面に縄文、内面に条痕を施文し、隆帯には圧痕が施される。96～99は縄文と条痕で施文される。100は内外面に条痕が施文される。

以上縄文時代早期後葉に伴う。

101～112は体部片である。いずれも胎土には繊維が含まれる。内外面を斜縄文で施文される。

113～133は底部である。

113～119は平底である。113、114の底部は斜縄文で施文される。116の底面にはハケメ状の調整痕が残る。

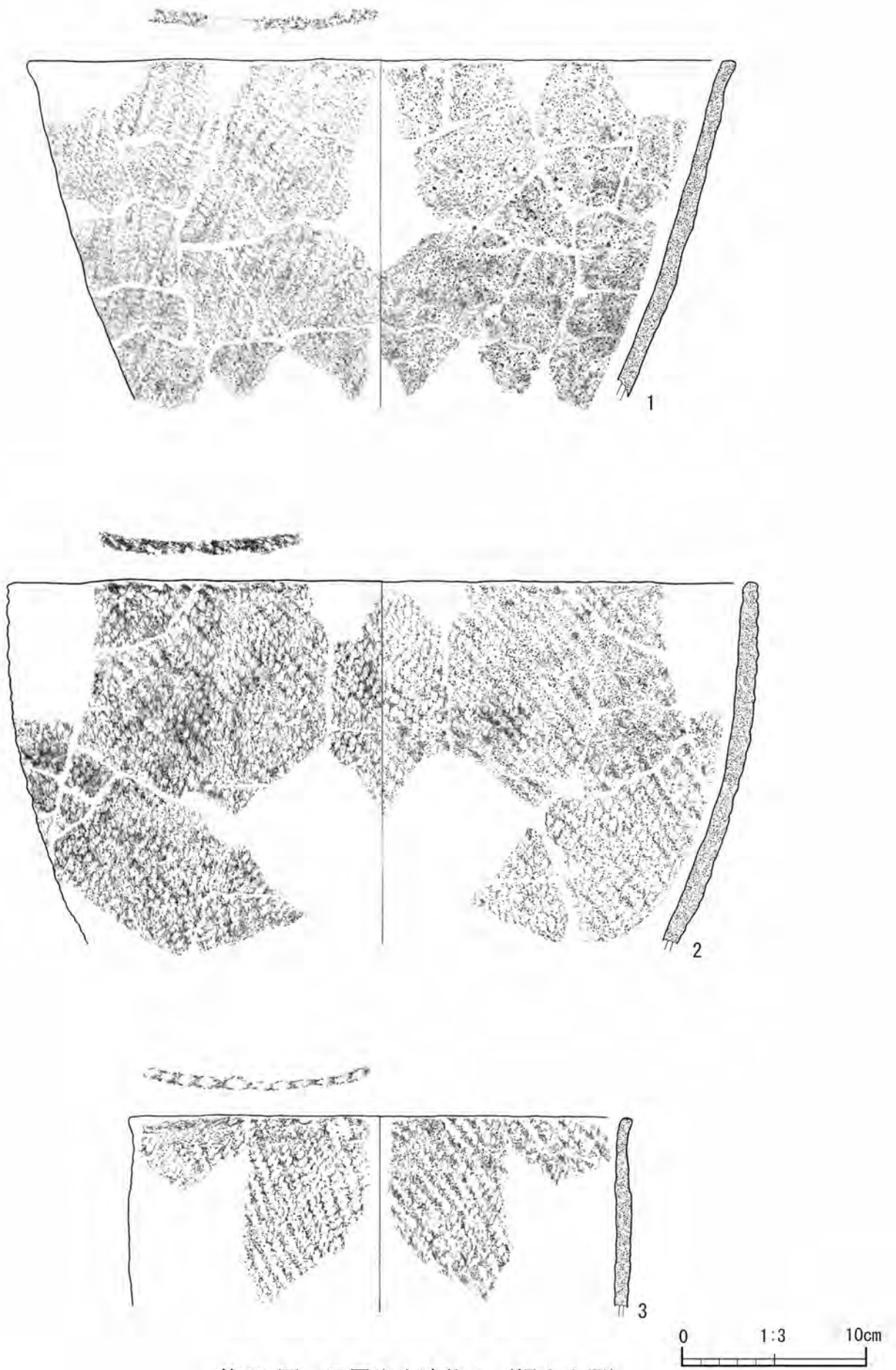
120～127は尖底部、128～133は尖底に近い底部である。いずれも胎土は繊維を含み、122を除き、内外面が縄文で施文される。

134～145は上記以外の時期に伴う土器をまとめた。

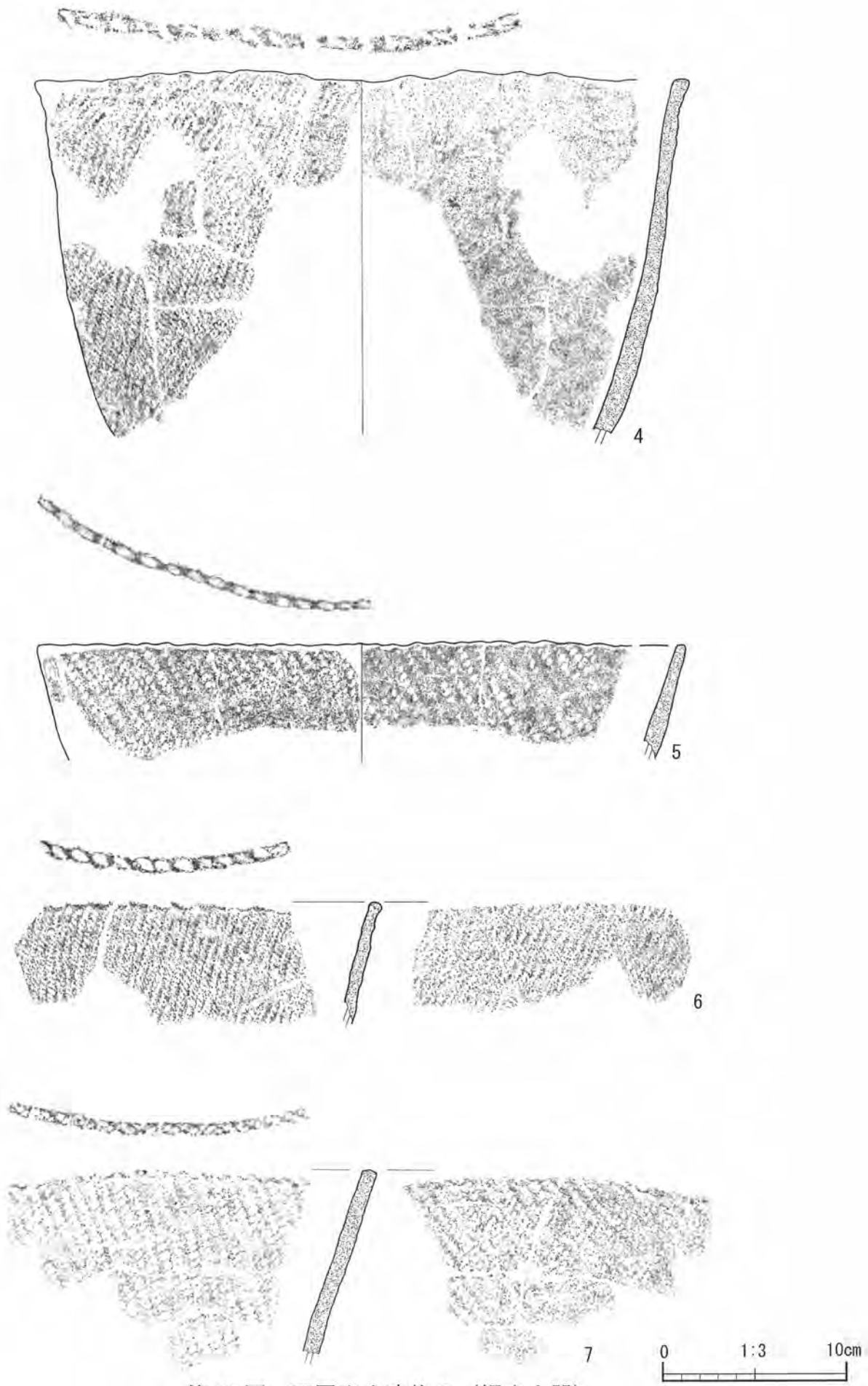
134は不整撚糸文で施文される口縁部である。135は原体圧痕で施文される口縁部である。136、137は斜縄文で施文され口唇部に圧痕が施される。138、139は口唇部に刻目を施され、斜縄文で施文される。140～142は羽状縄文で施文された体部片である。143～145は撚糸側面圧痕で施文される。

以上縄文時代前期初頭に伴う。

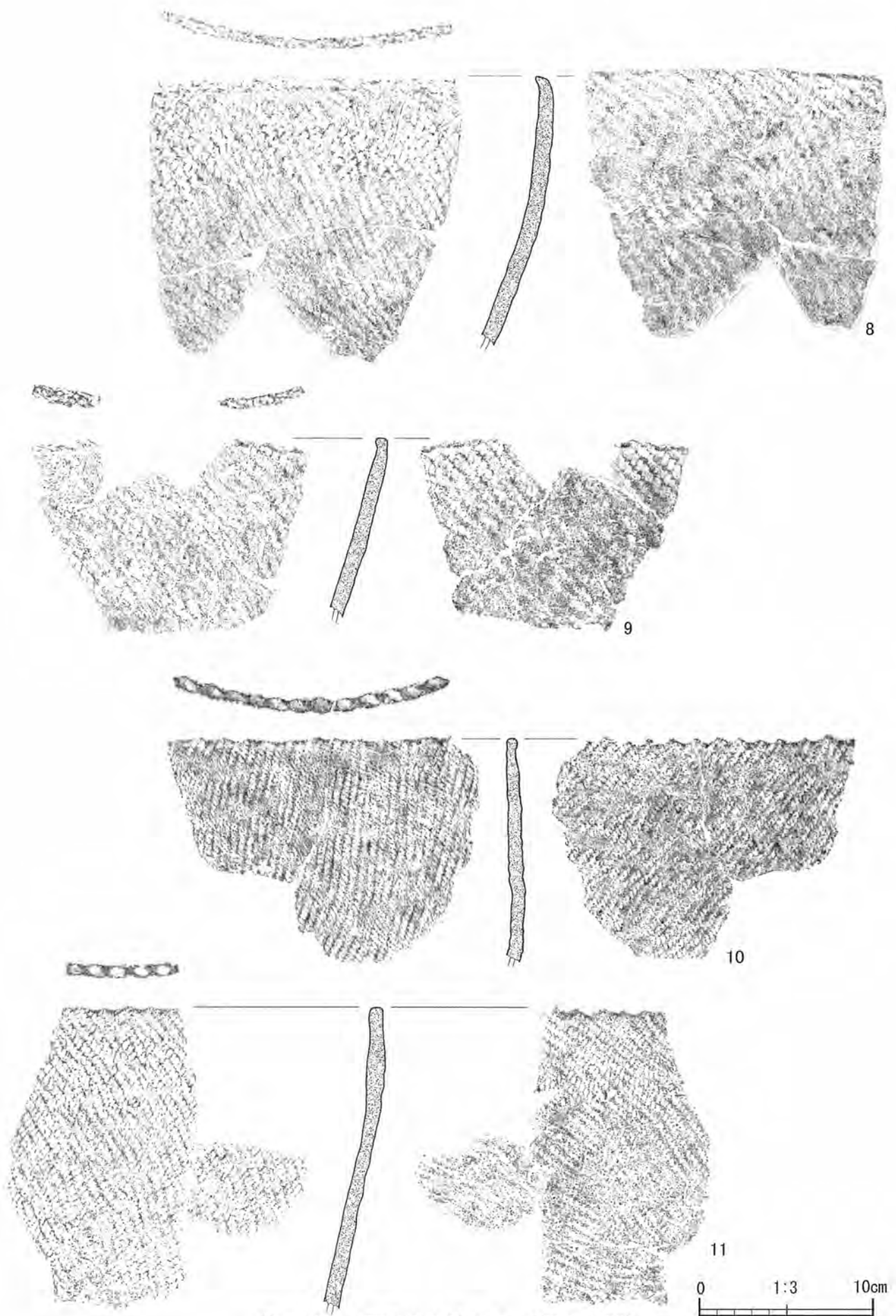
146は土製品の円盤である。中央に穿孔され、両面を縄文で施文される。



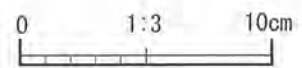
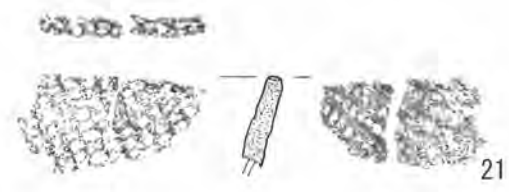
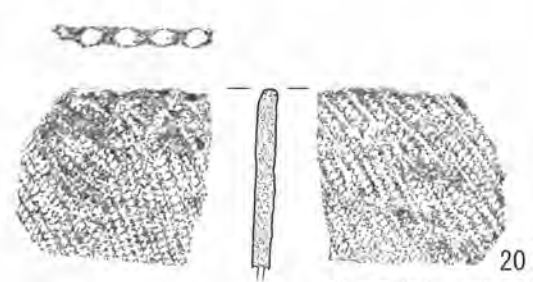
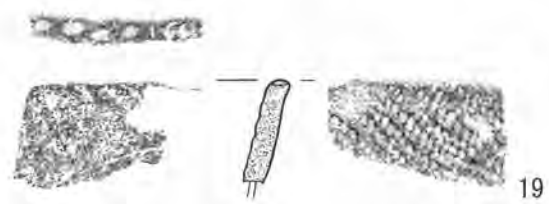
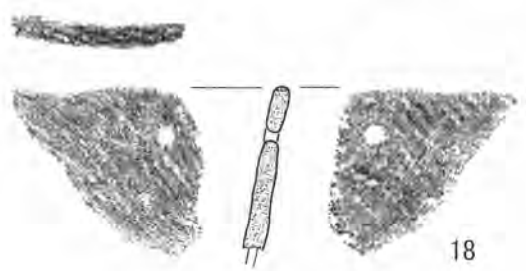
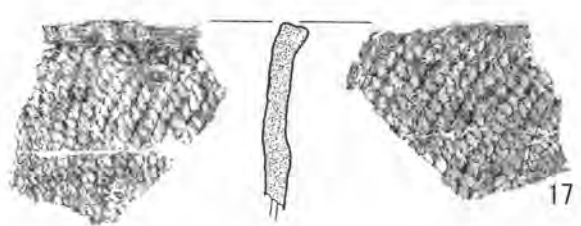
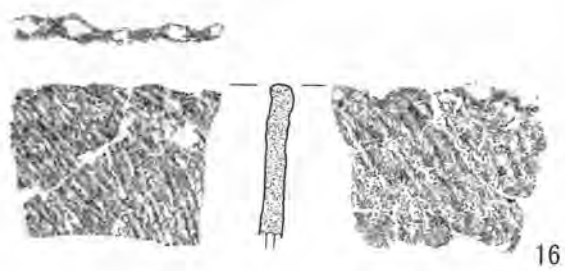
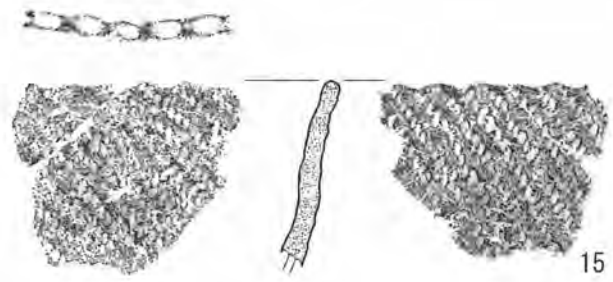
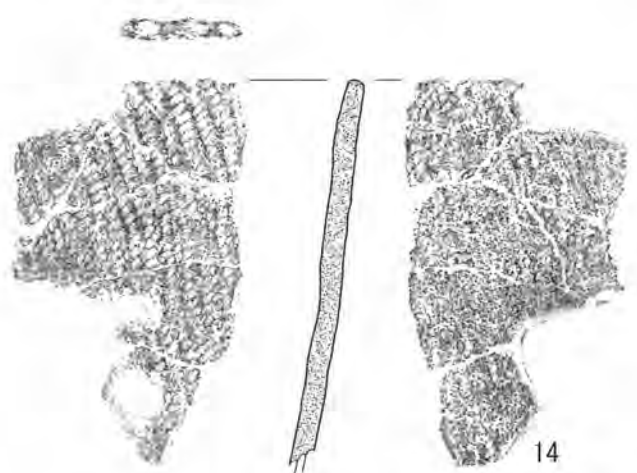
第 62 図 VIII層出土遺物 1 (繩文土器)



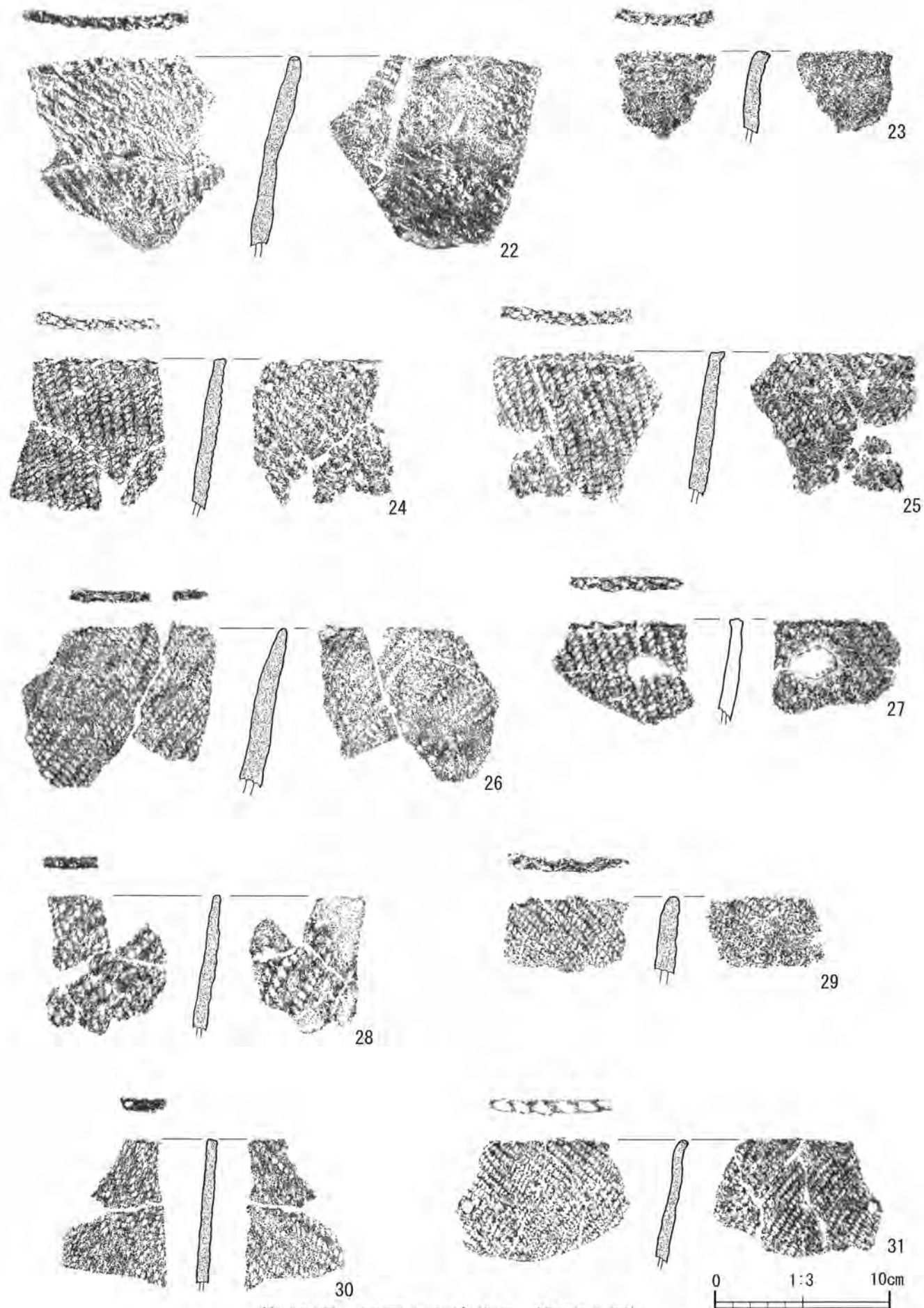
第 63 図 VIII層出土遺物 2 (繩文土器)



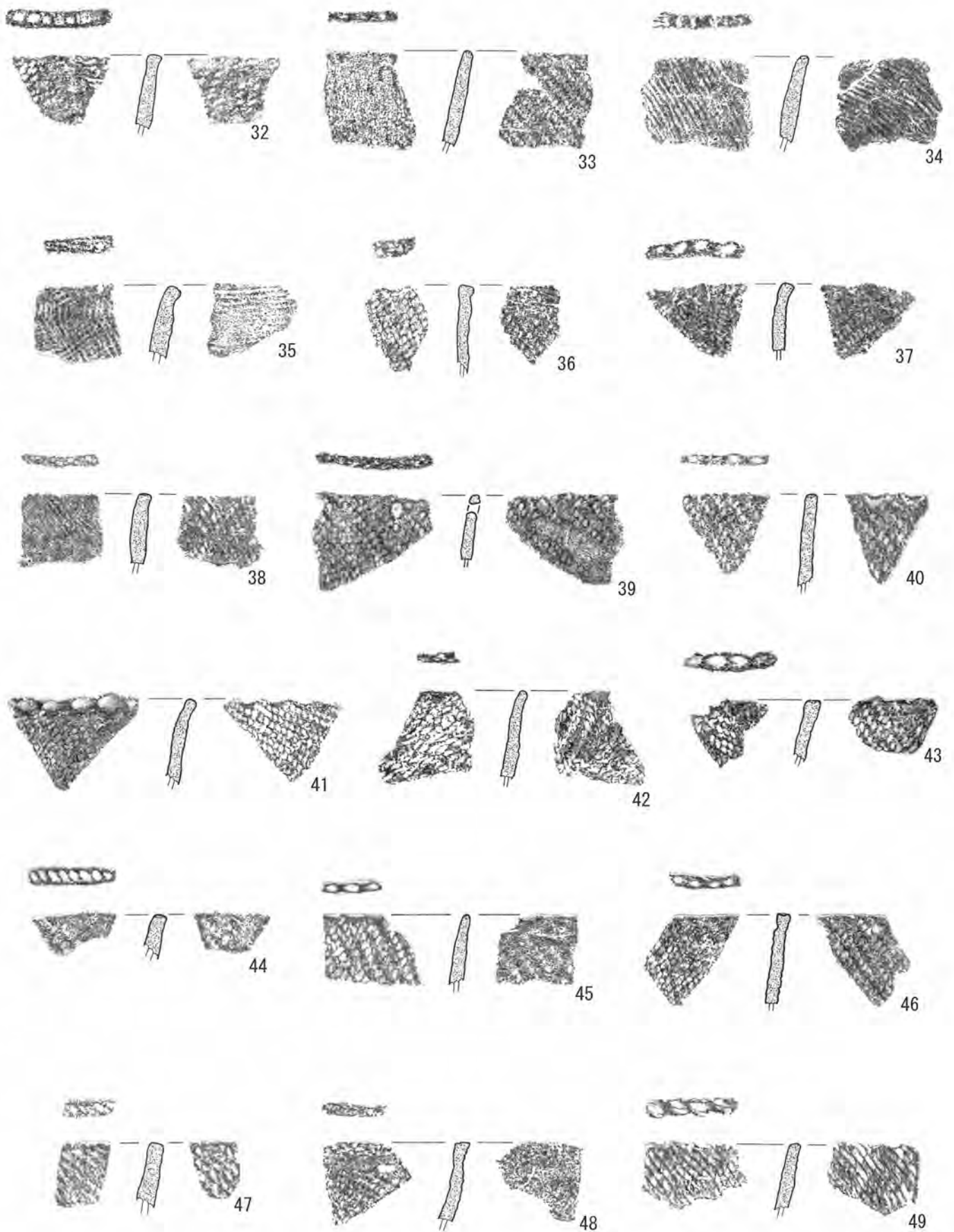
第 64 図 VIII層出土遺物 3 (繩文土器)



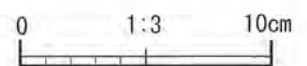
第 65 図 VIII層出土遺物 4 (繩文土器)

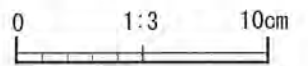
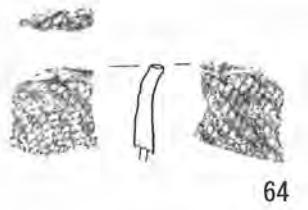
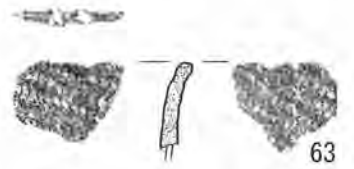
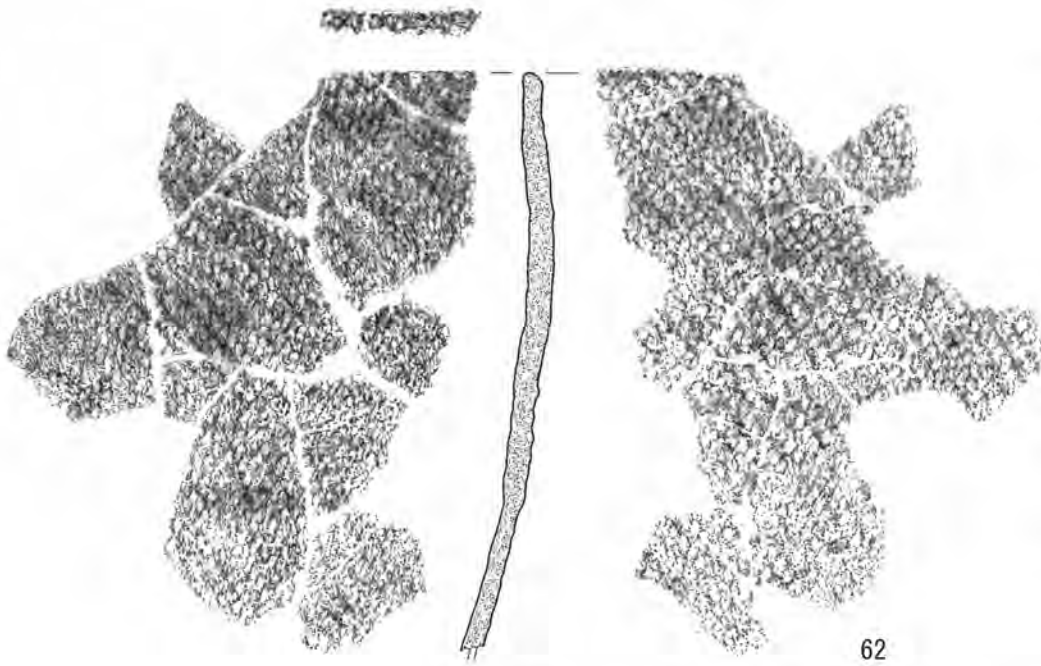
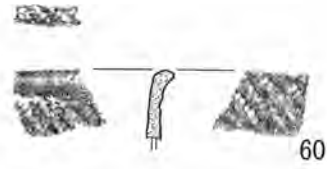
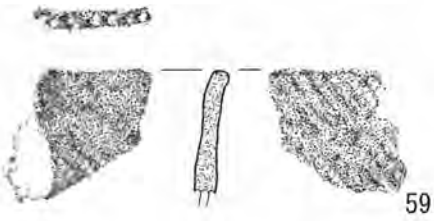
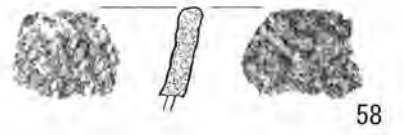
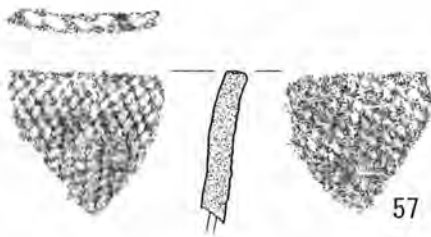
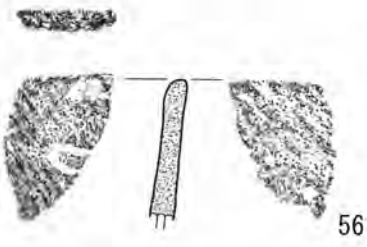
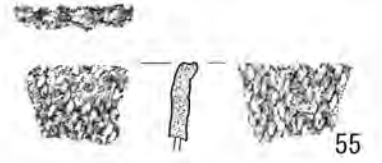
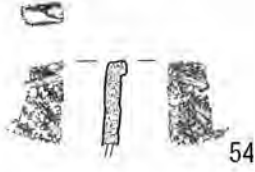
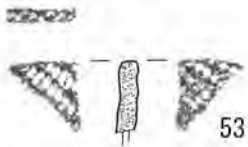
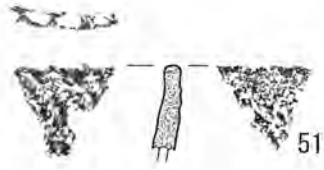
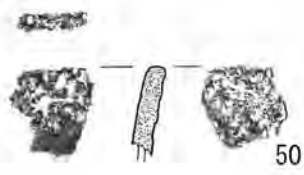


第 66 図 VIII層出土遺物 5 (繩文土器)

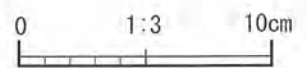
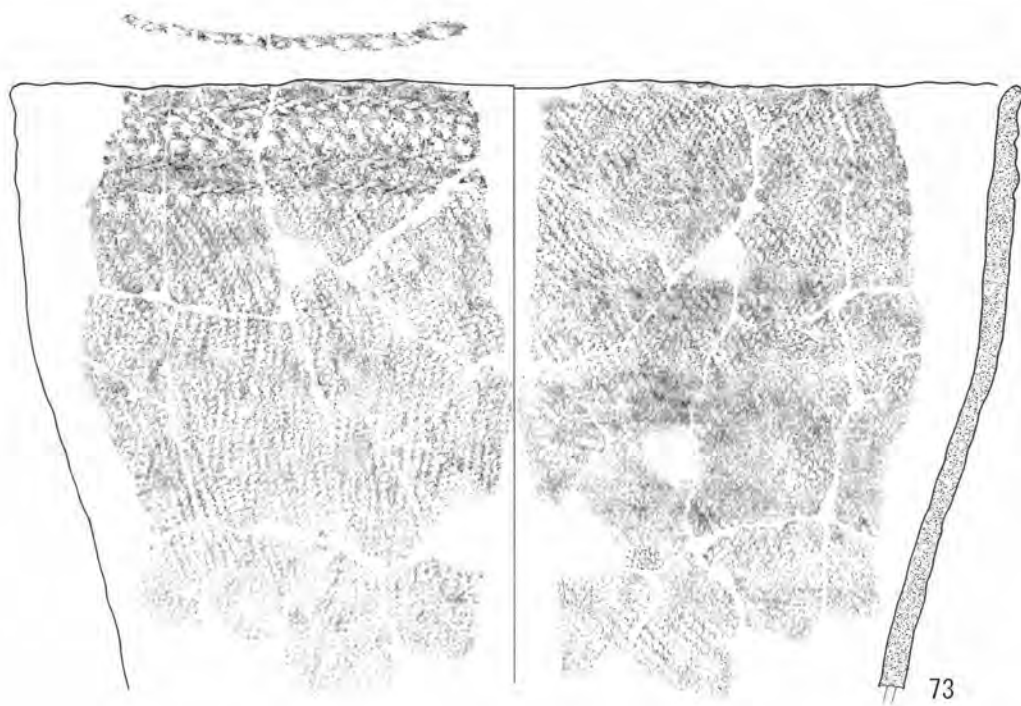
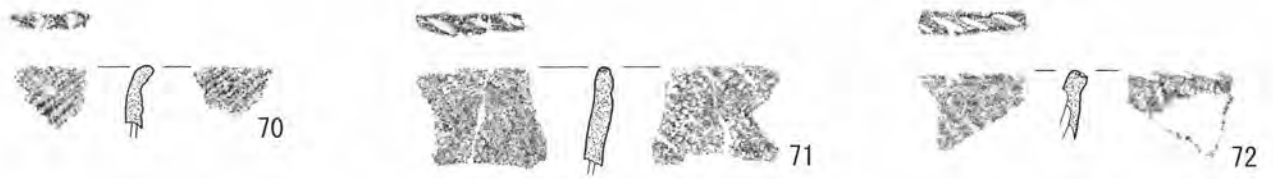
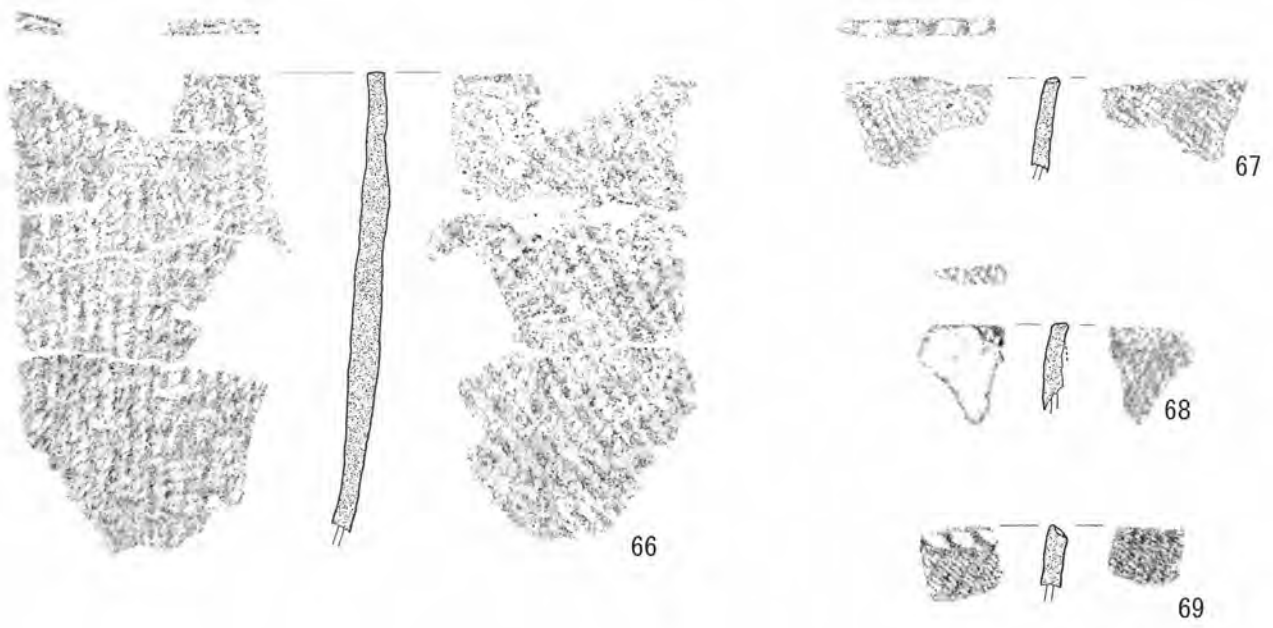


第 67 図 VIII層出土遺物 6 (縄文土器)

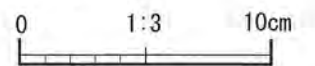
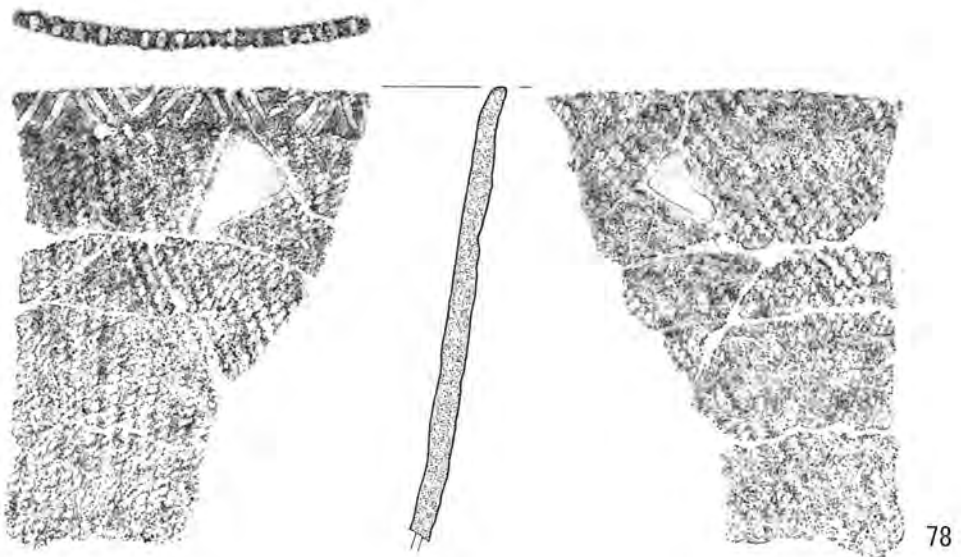
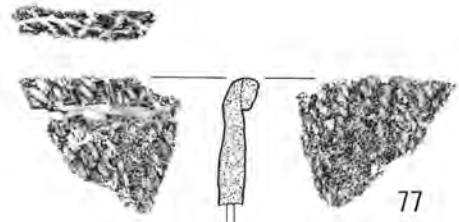
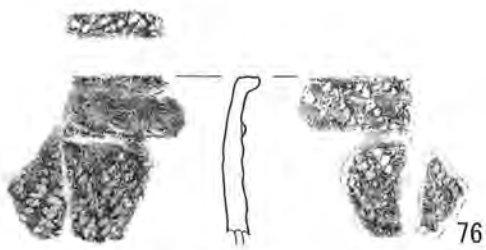
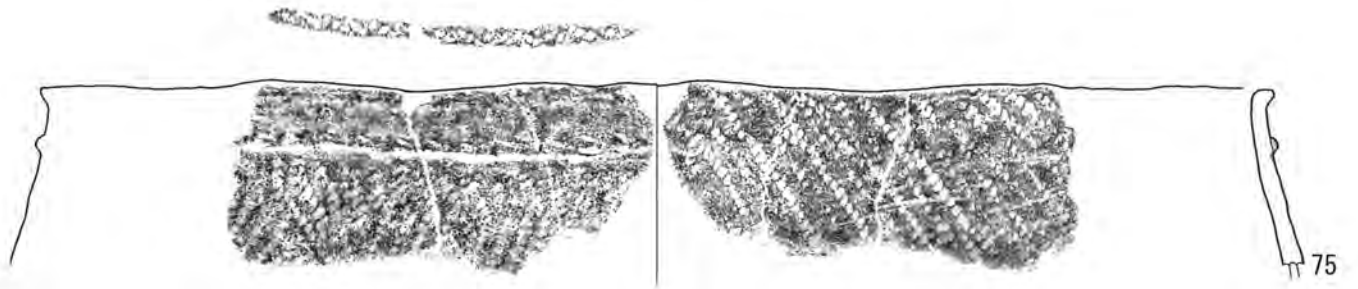
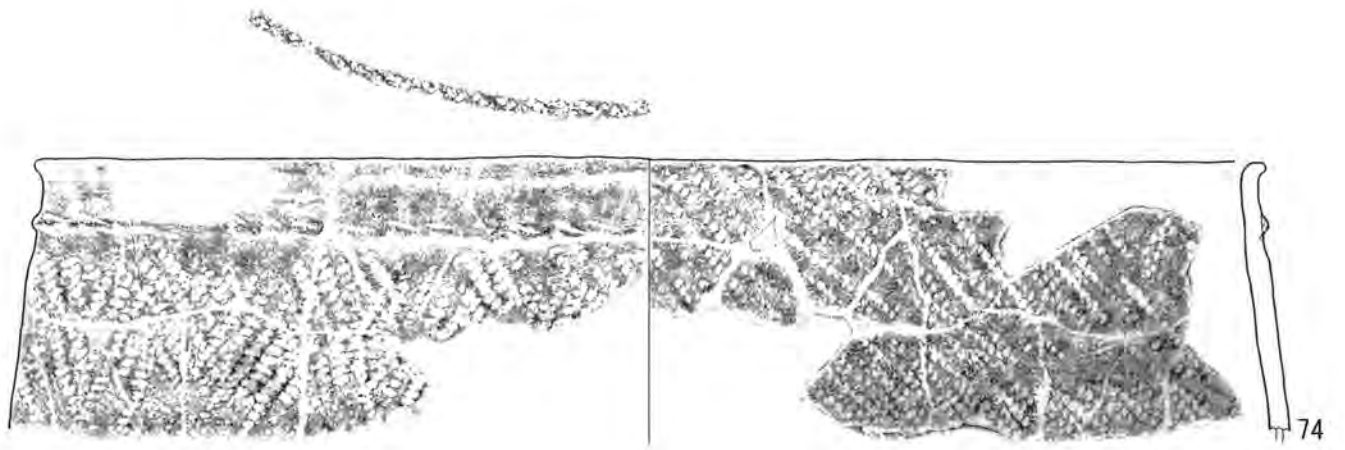




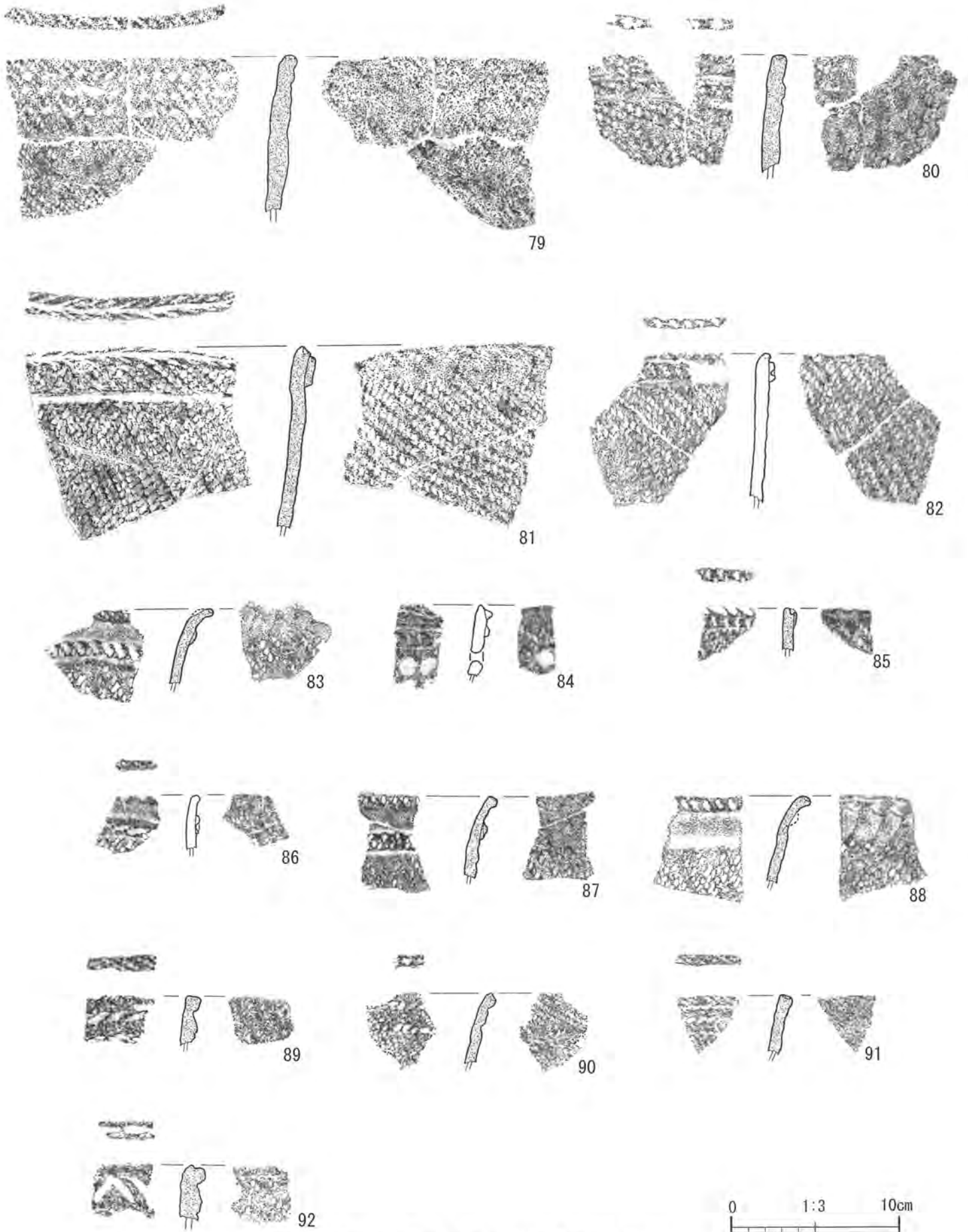
第 68 図 VIII層出土遺物 7 (繩文土器)



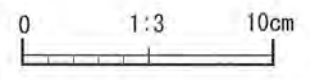
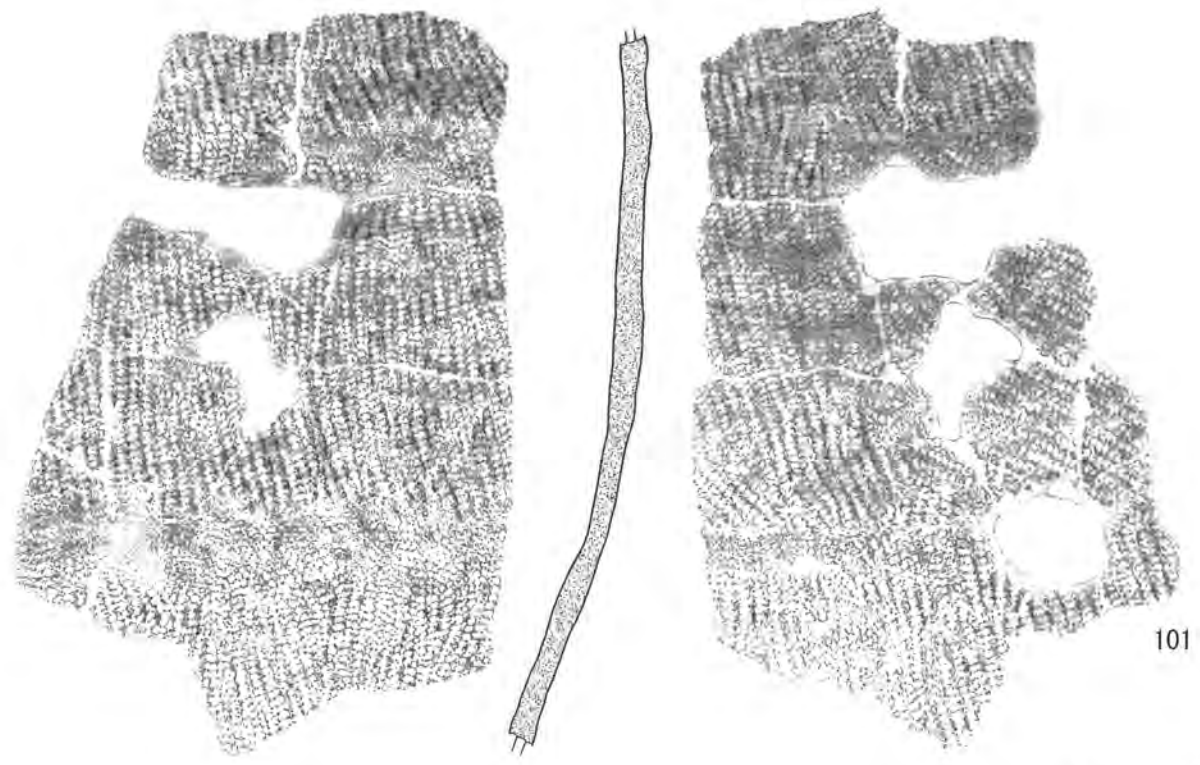
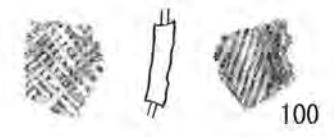
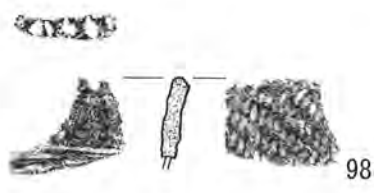
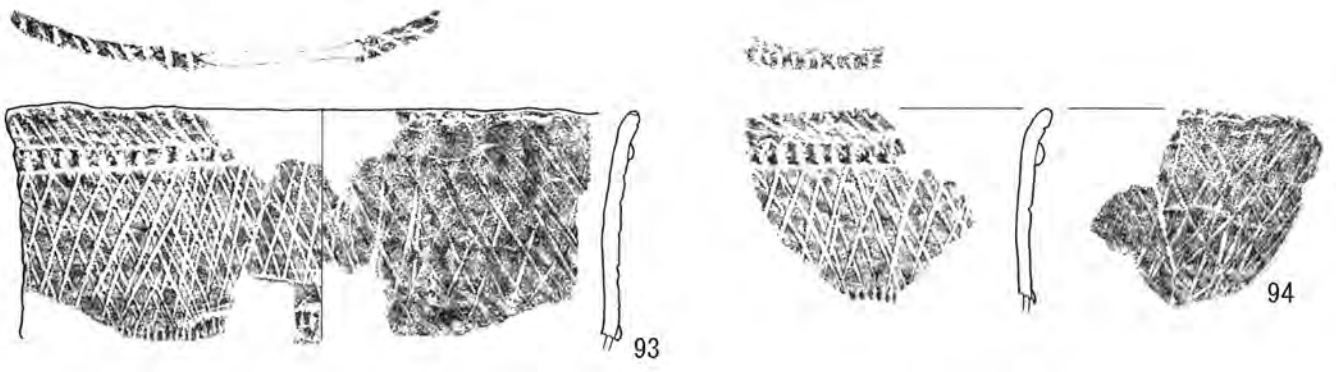
第 69 図 VIII層出土遺物 8 (縄文土器)



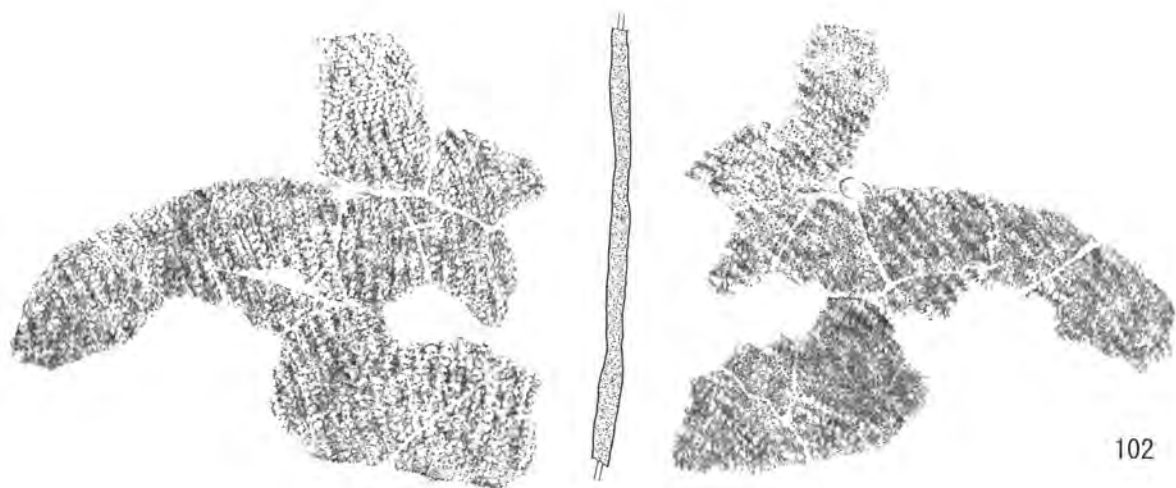
第70図 VIII層出土遺物9 (縄文土器)



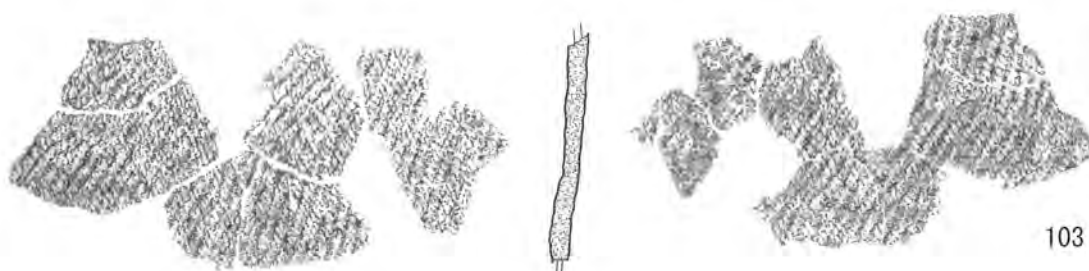
第71図 VIII層出土遺物10(縄文土器)



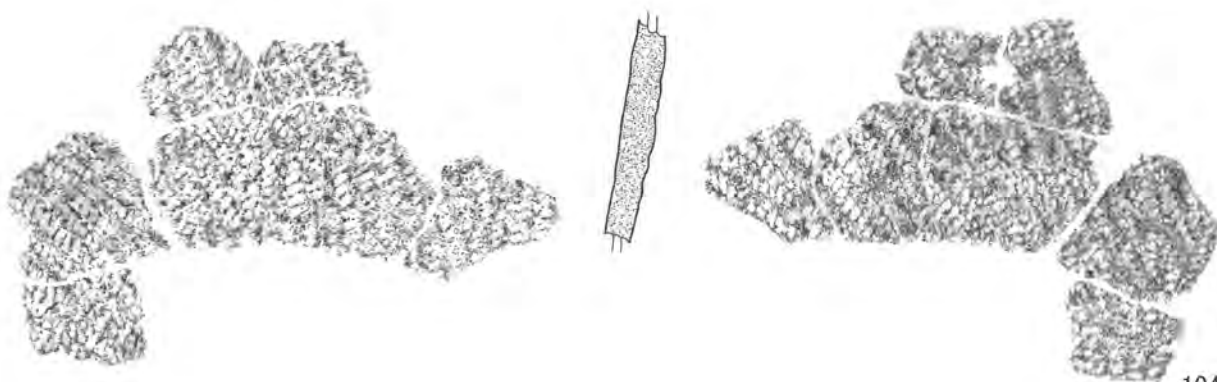
第 72 図 VIII層出土遺物 11 (繩文土器)



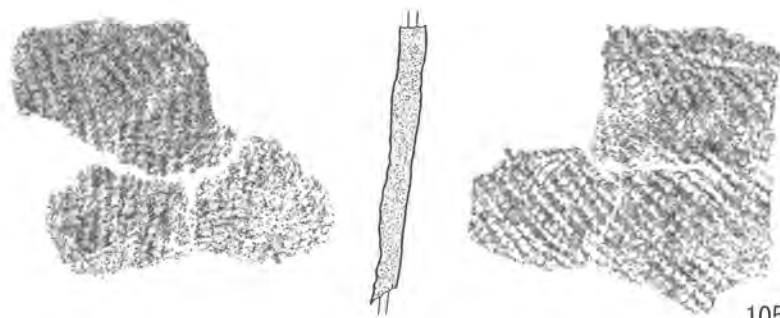
102



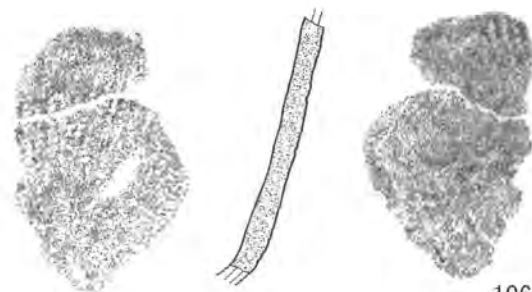
103



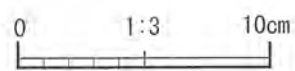
104



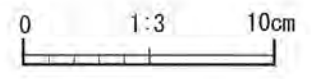
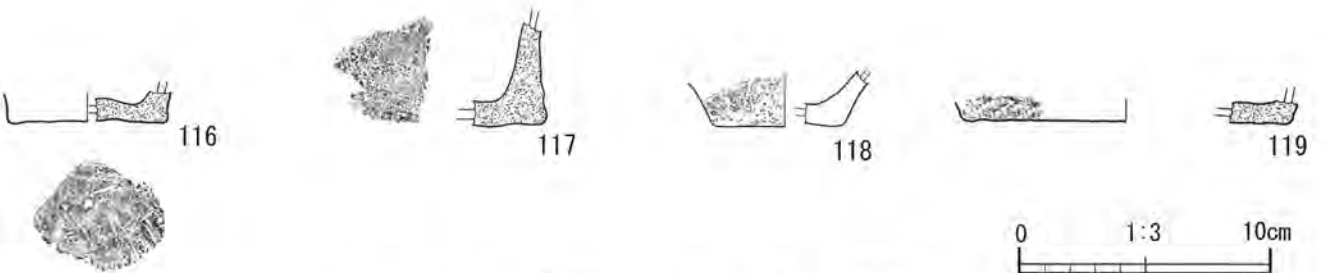
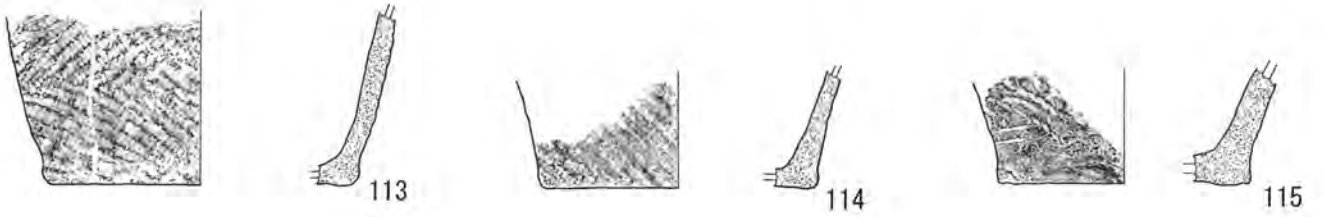
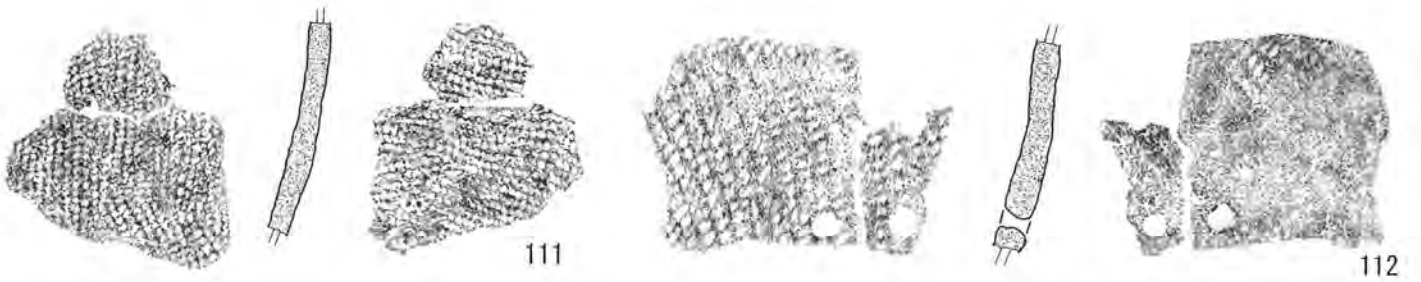
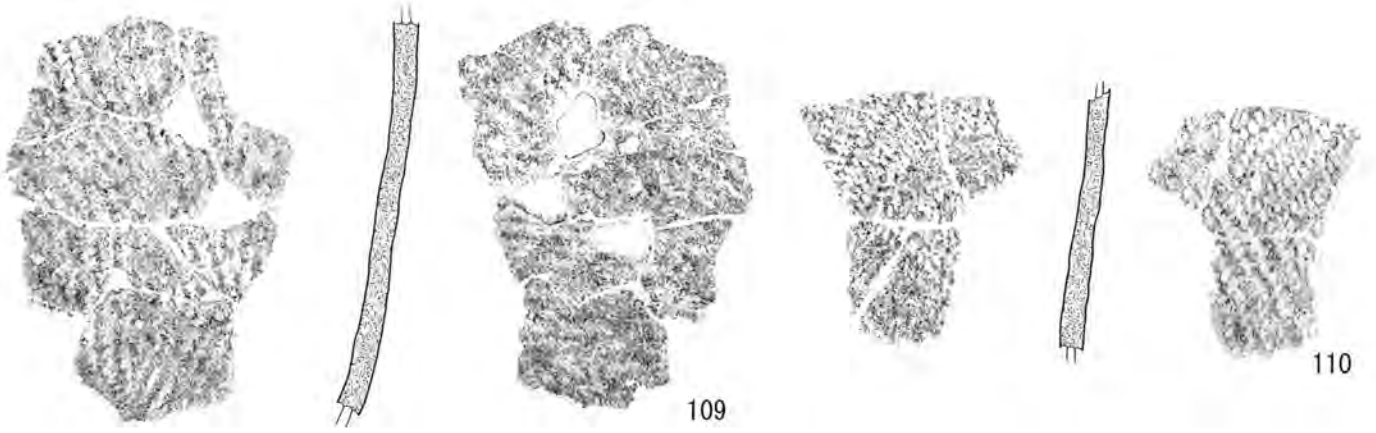
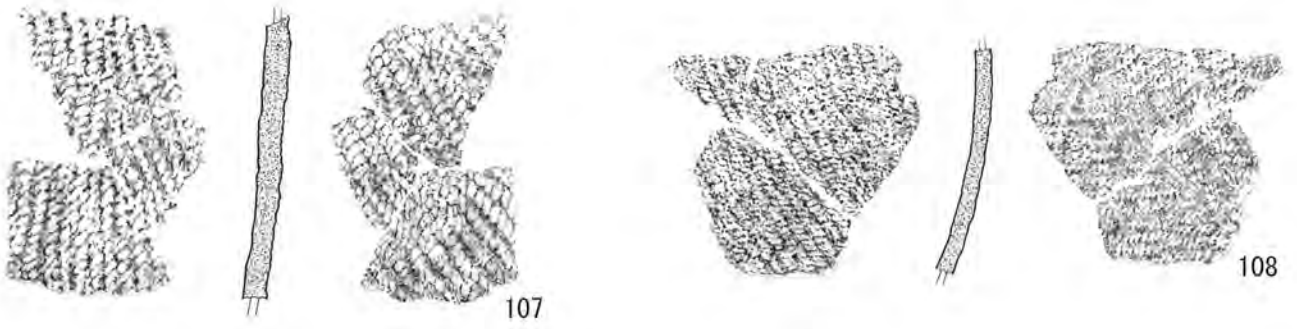
105



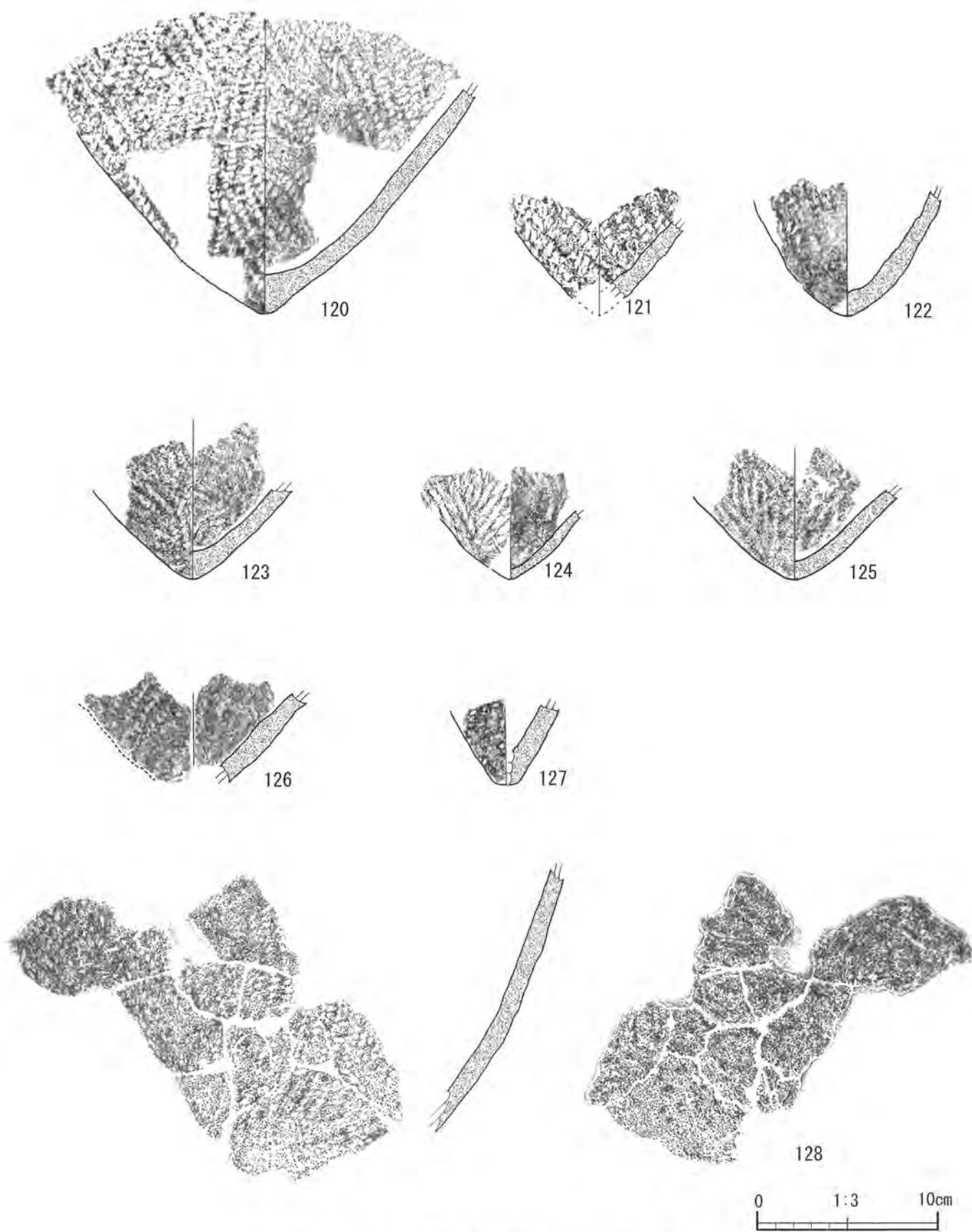
106



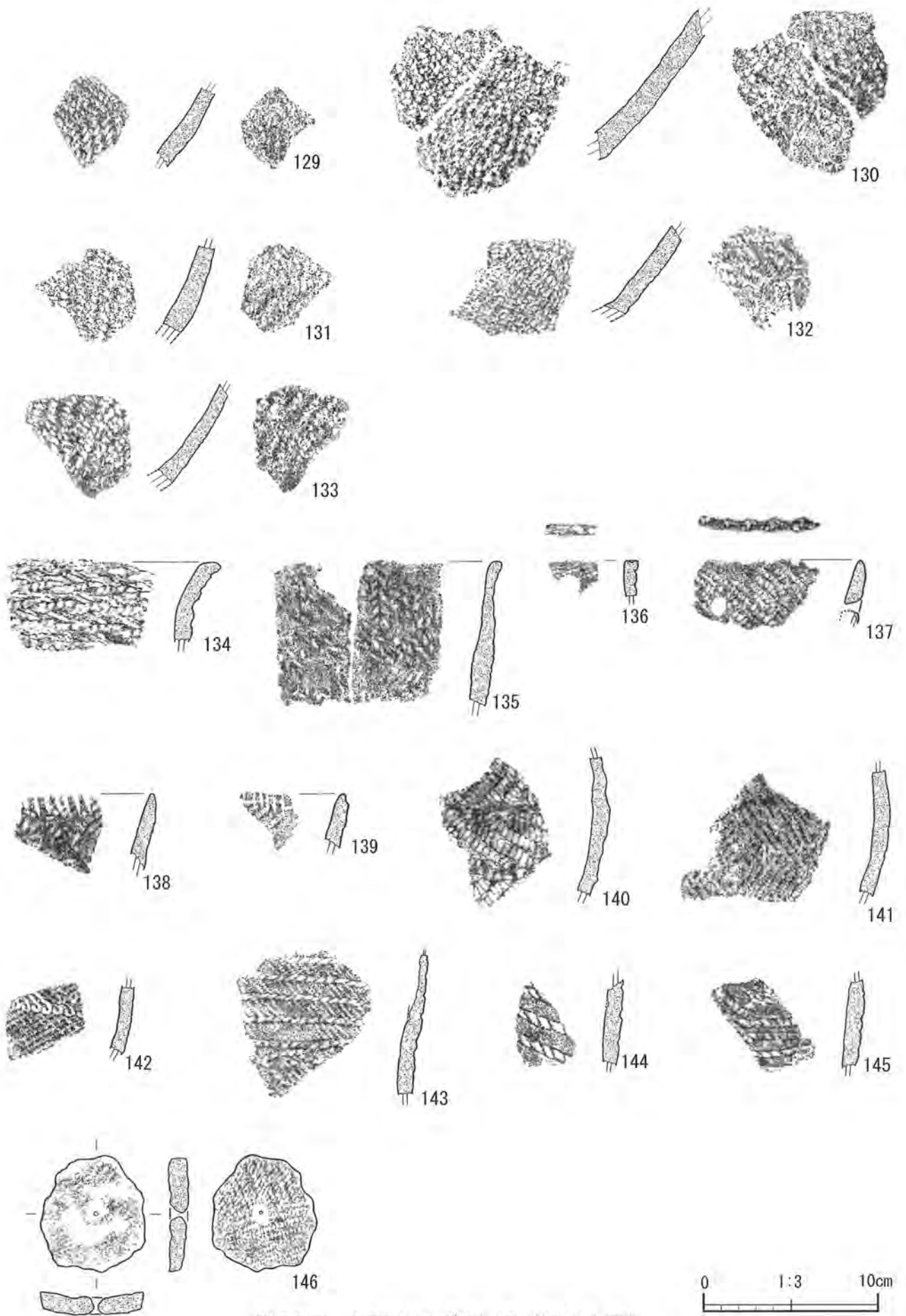
第 73 図 VIII層出土遺物 12 (繩文土器)



第 74 図 VIII層出土遺物 13 (繩文土器)



第 75 図 VIII層出土遺物 14 (繩文土器)



第76図 VIII層出土遺物15 (繩文土器)

石器（第 77 図～第 93 図）

1～114 は剥片石器である。1～28 は石鏃である。

1～6 は正三角形型で、平基である。7～12 は二等辺三角形型で、平基である。13～20 は二等辺三角形型で、基部がすばまる。21 は菱形である。

22～28 は石鏃状に成形したものである。いずれも側縁が円む。

30～39 は石匙である。29～34 は縦型である。37～39 はつまみ部と思われる。40～43 は刃部と思われる。

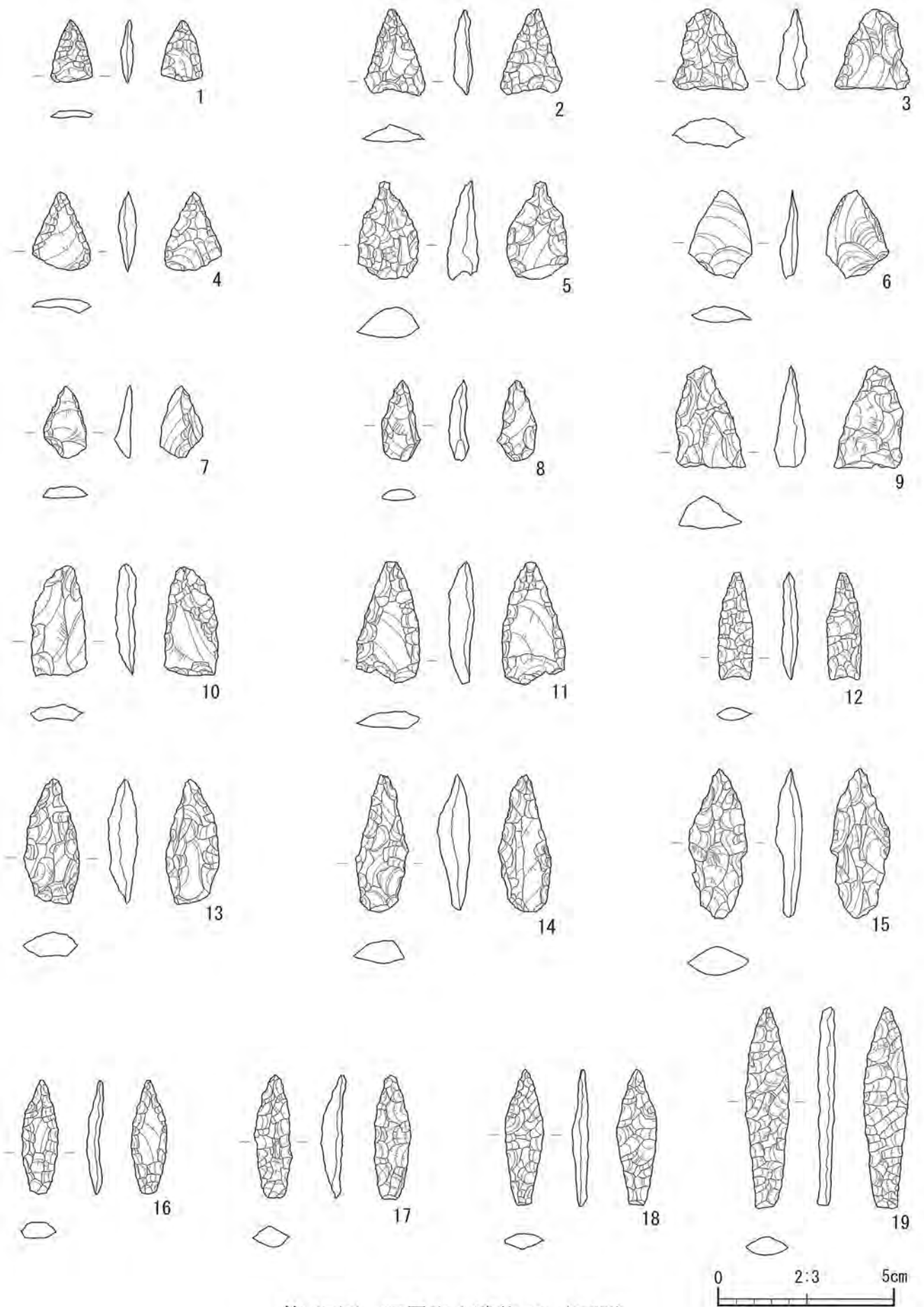
44～114 は不定形の石器である。

44 は三角形型で、側縁に直刃を作る。45 は横長の長方形で、側縁に刃部を設ける。46 は三角形型で、先端を尖らす。47 は不整長方形で、側縁を調整する。48 は逆三角形型で、側縁に使用痕を残す。49 は方形で、側縁に使用痕を残す。50 は直角三角形型で、斜辺側縁に刃部を作る。51 は菱形で、側縁を調整、刃部を作り出す。52 は弧状の基部を円刃に調整する。53 は横長の成形で、側縁と尖らせて刃部を作る。54 は横長の成形で、底辺に調整を加え、刃部とする。55 は方形で、基部に調整を加える。56 は方形で、側縁を調整する。57 は円刃状に成形、側縁を調整する。58 は方形、周縁部に調整を加える。59 は縦型で、長辺に刃部を作り出す。60 は方形、側縁に直刃を作り出す。61 は錐状に成形、基部を抉り、尖らす。62 は三角形型で、側縁に調整を加える。63 は横長の成形し、側縁を錐状に尖らせる。64 は三角形型で、周縁部を調整する。65～67 は三角形型で、斜辺を調整し、刃部を作る。68 は平行四辺形で、側縁に直刃を作る。69 は縦長の成形、側縁を調整、刃部を作る。70 は三角形型で、頭部先端に調整痕を残す。71 は円形、周縁部を調整、円刃を作る。72～76 は縦長の成形である。72～75 は側縁を調整、刃部を作る。76 は側縁に使用痕を残す。77 は横長の成形、下辺に刃部を設ける。78 は三角形型で、斜辺に円刃を作る。79、80 は横長の成形、側縁に使用痕を残す。81 は三角形型で、側縁を抉り、錐状に尖らす。82 は三角形型で、斜辺を加工、直刃を作る。83 は横長の成形側、側縁を尖らす。84 は縦長の成形、基部に円刃を作る。85 は方形、側縁に直刃を作る。86 は三角形型で、斜辺に使用痕を残す。87 は三角形型で、頂部につまみ状の調整痕を残す。88 は弧状の成形、弧を円刃に調整する。89 は三角形型で、斜辺に調整痕を残す。90 は横長の成形、側縁を尖らす。91 は鋭角三角形型で、先端を尖らす。92 は縦長の成形、側縁に使用痕を残す。93 は方形、周縁部を調整し、刃部を作る。94 は不整方形、周縁を加工し、刃部を作る。95 は縦長の成形、側縁と基部に刃部を作る。96 は横長の成形、下辺を調整、刃部を設ける。97、98 は縦長の成形、側縁に刃部を作る。99 は半円状の成形、周縁に円刃を作る。100 は三角形型で、斜辺に使用痕を残す。101 は三角形型で、斜辺に直刃を設ける。102 は不整方形で、側縁、基部に使用痕を残す。103 は不整方形の成形、下辺を調整、刃部を作る。104 は三角形型で、側縁に調整痕を残す。105 は三角形型で、斜辺を調整する。106 は横長の成形、下辺を調整、側縁を尖らす。107 は横長の成形、側縁を刃部に加工する。108～111 は縦長の成形、側縁、基部を加工し、刃部とする。

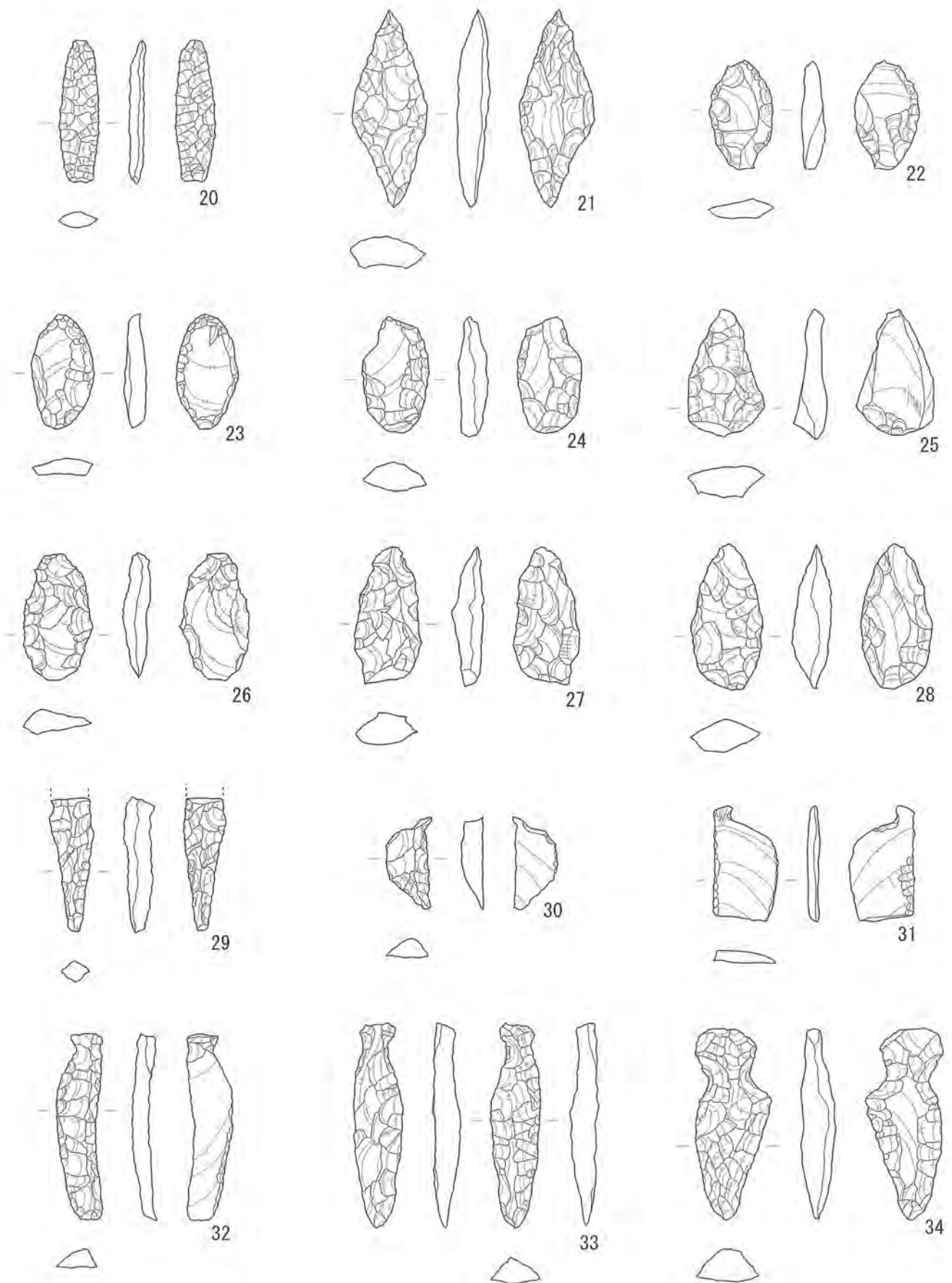
112 は横長で、基部を調整、刃部を作る。

113～140 は礫石器である。

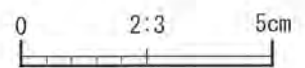
114、115 打製石斧である。隅丸方形の成形、内面に丹念な調整を加え、外面に自然面を残す。



第 77 图 VIII 层出土遗物 16 (石器)



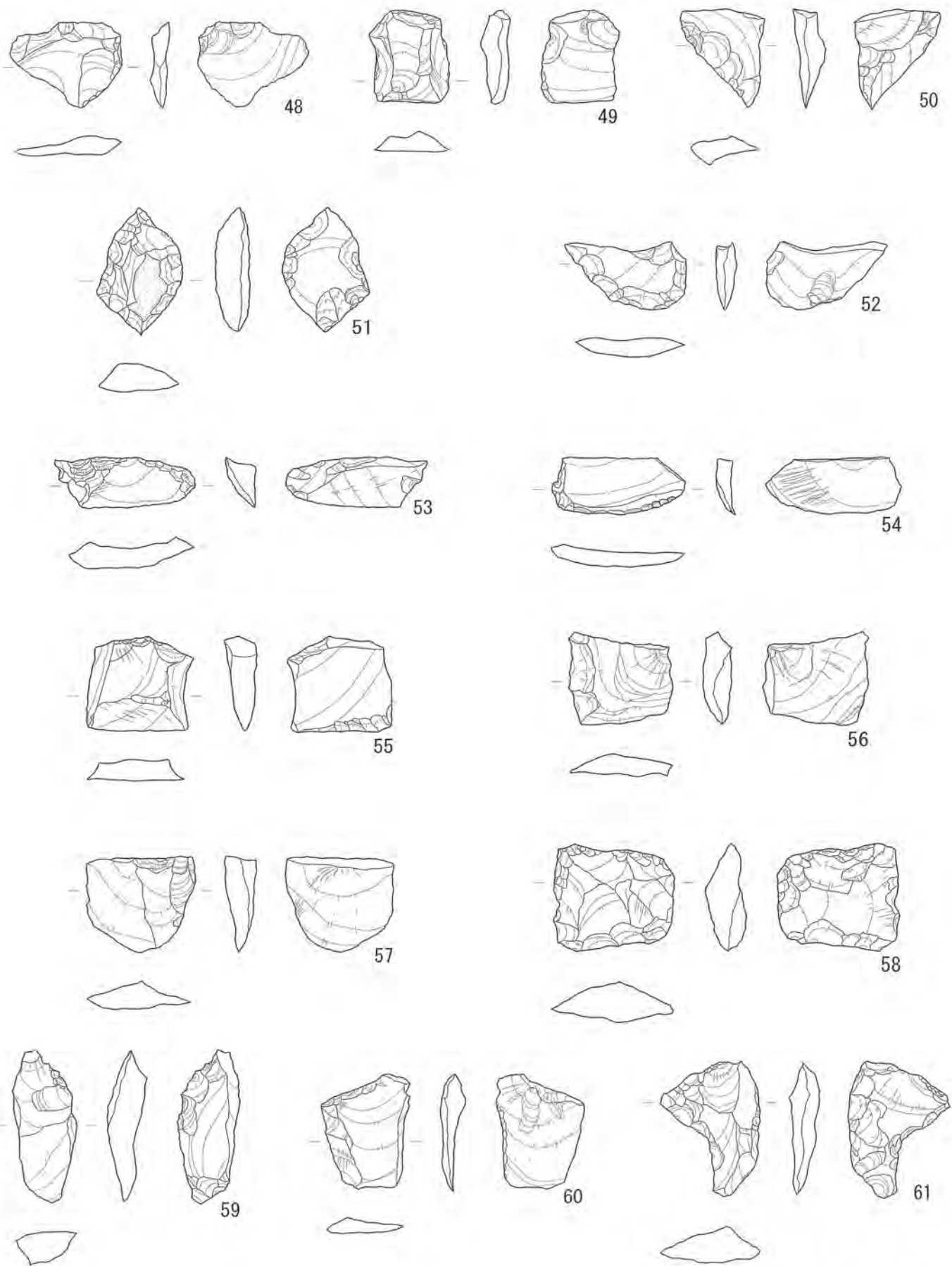
第 78 図 VIII層出土遺物 17 (石器)



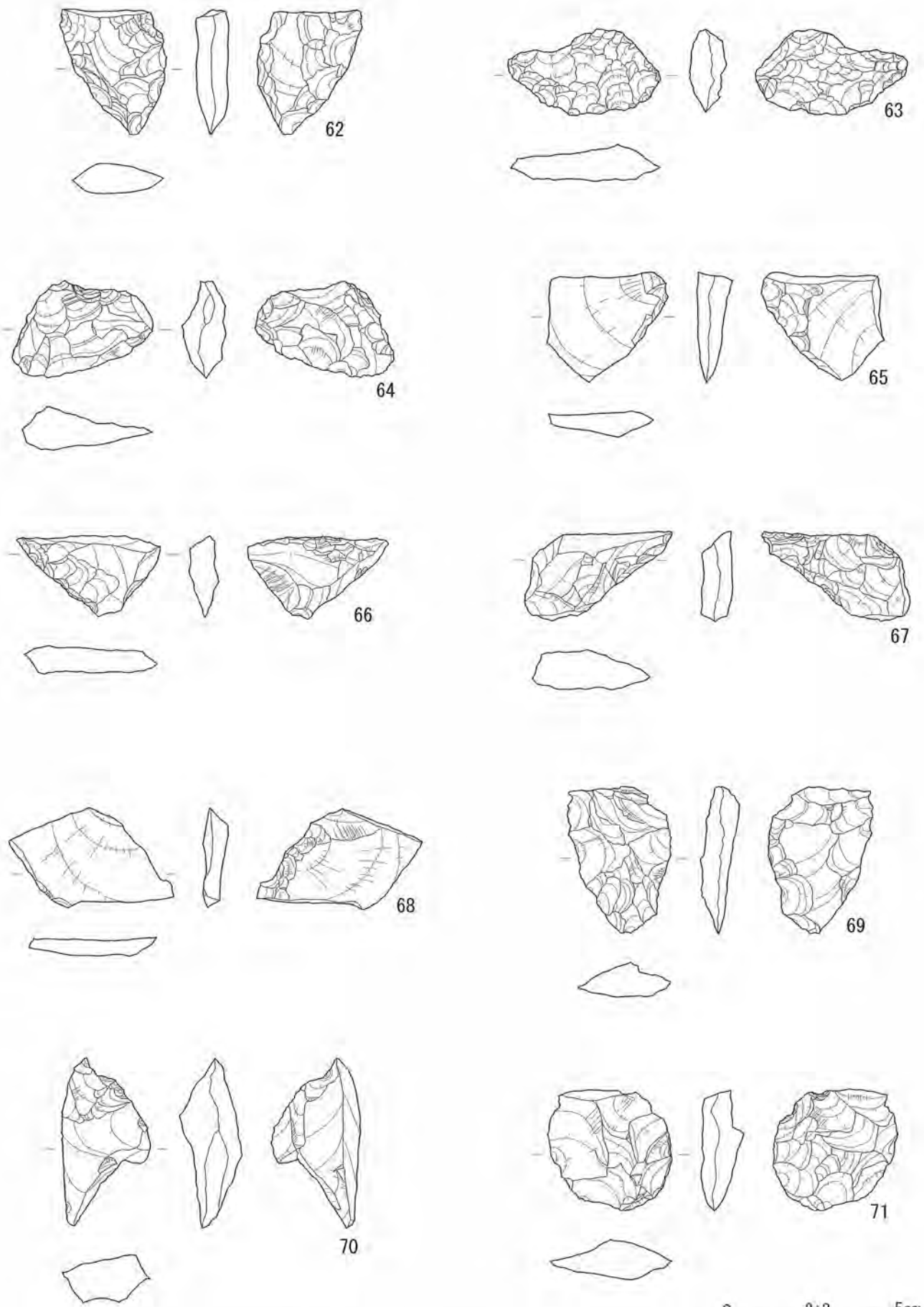


第 79 图 VIII 层出土遗物 18 (石器)

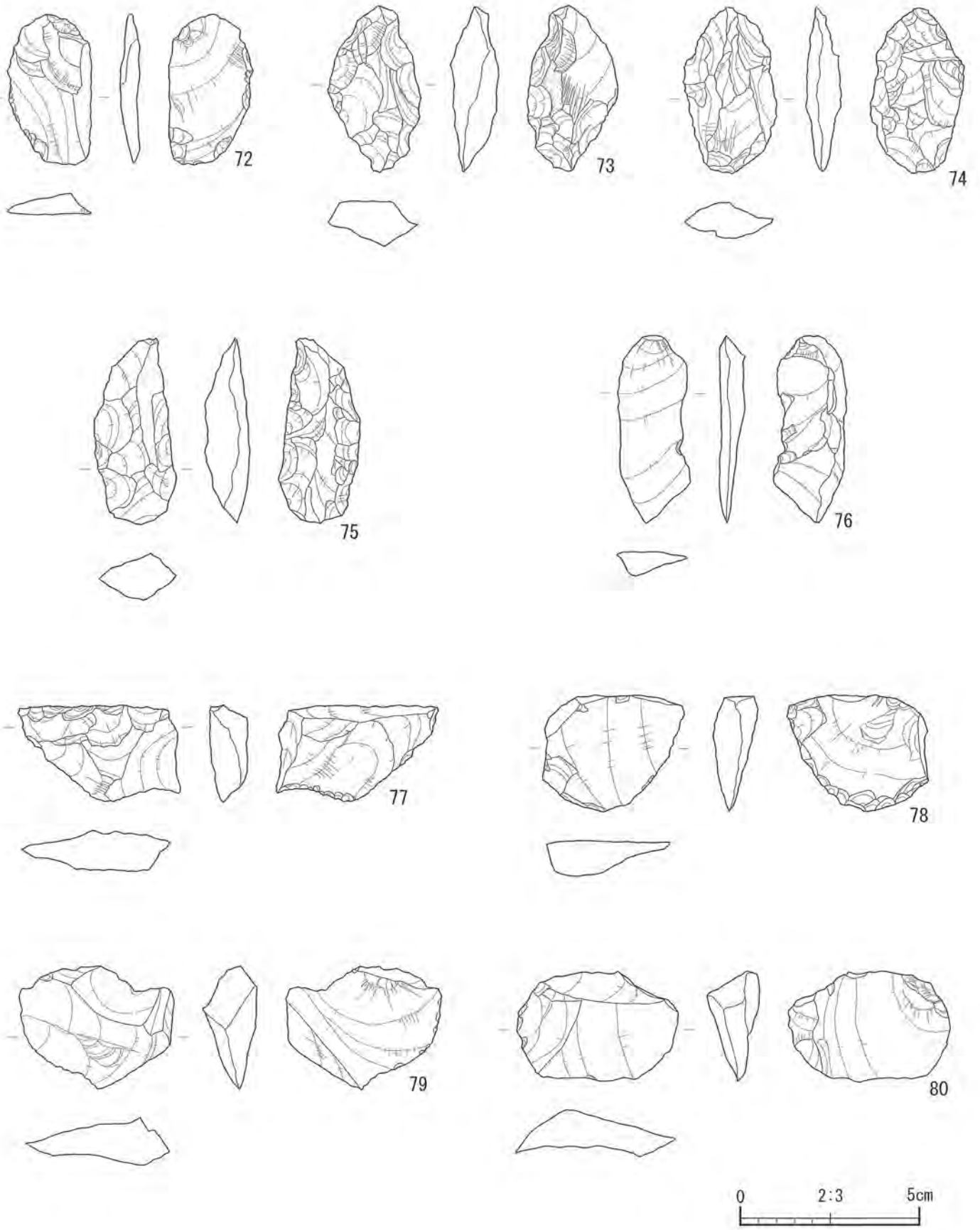
0 2.3 5cm



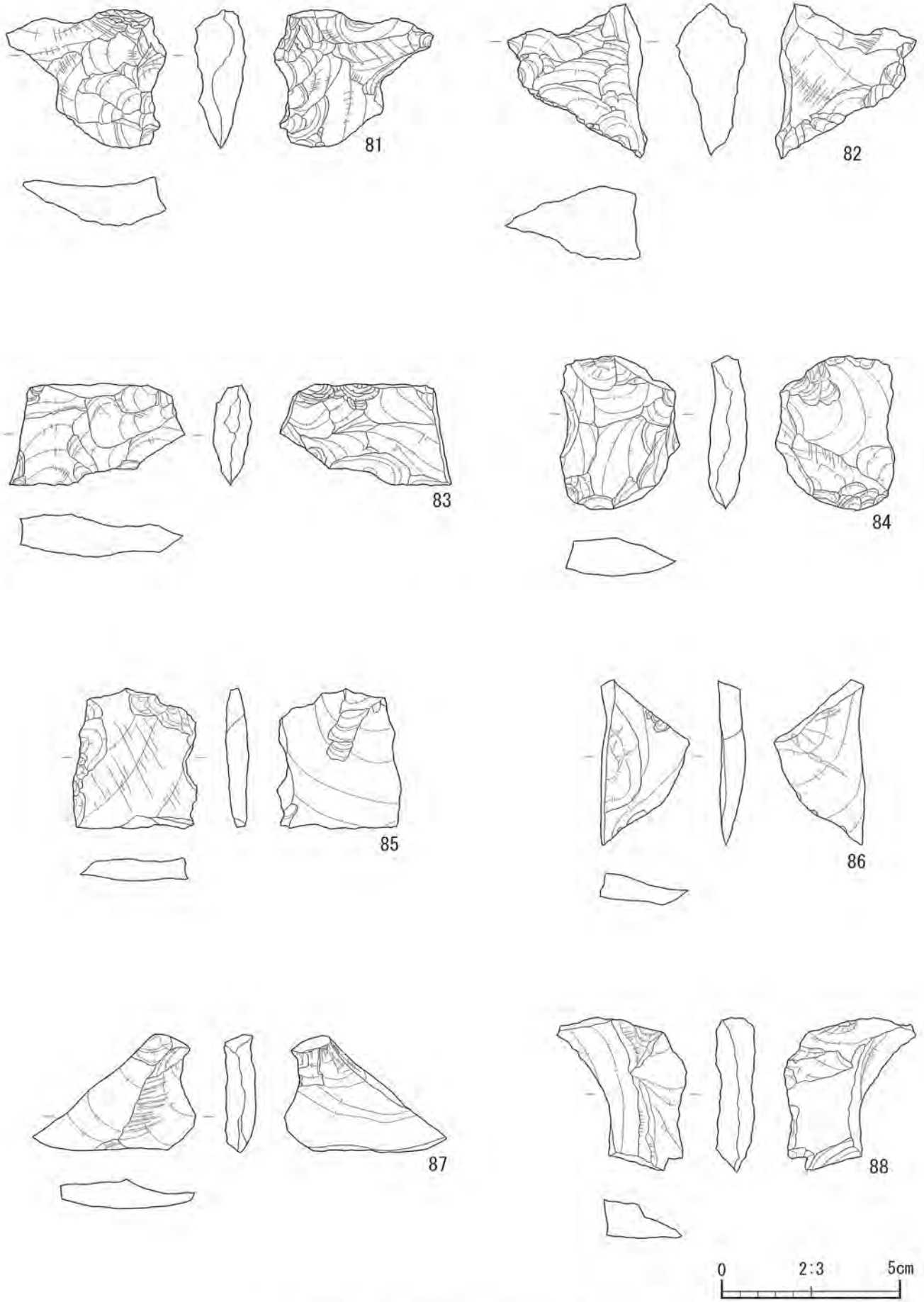
第80図 VIII層出土遺物19(石器)



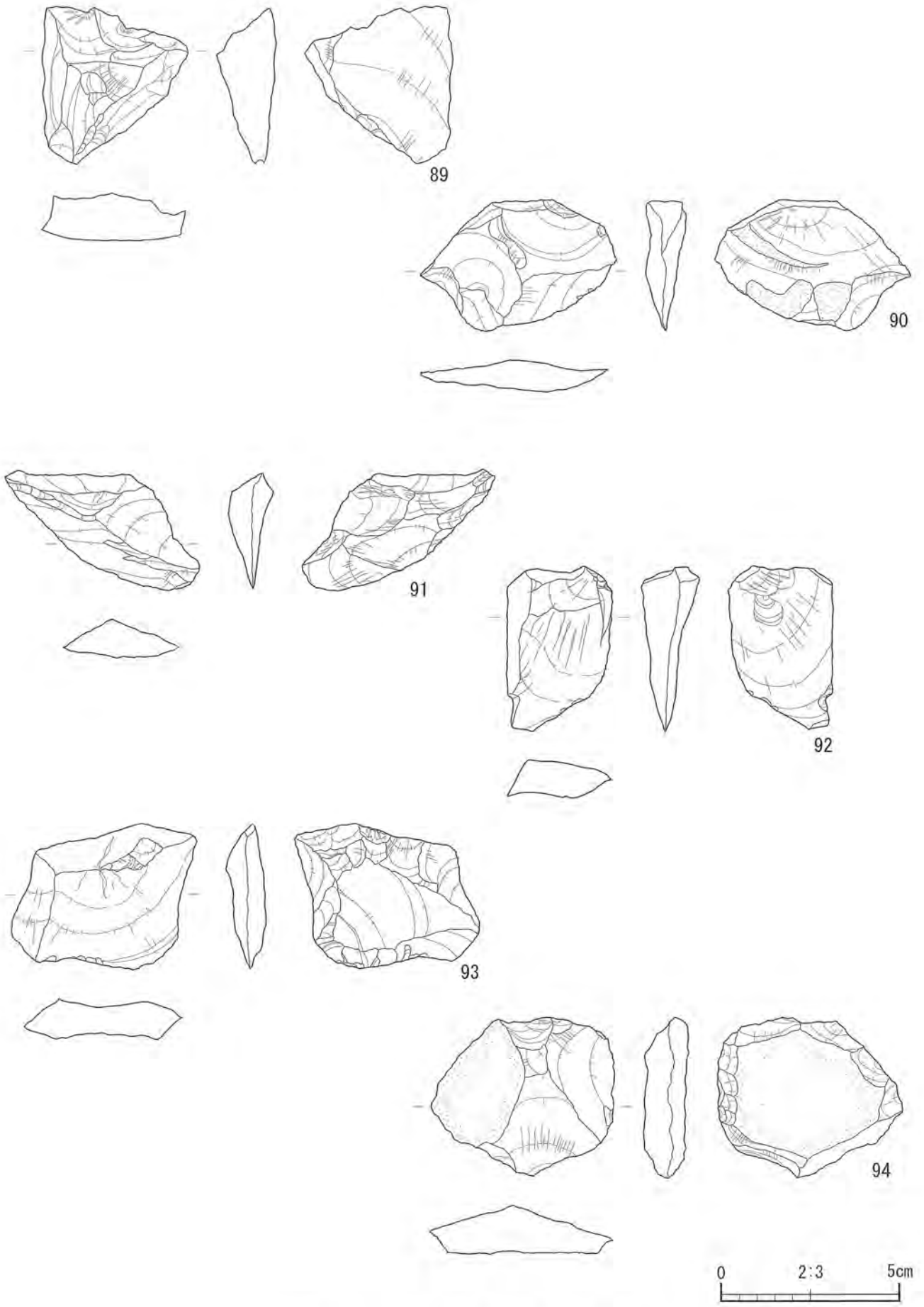
第 81 図 VIII層出土遺物 20 (石器)



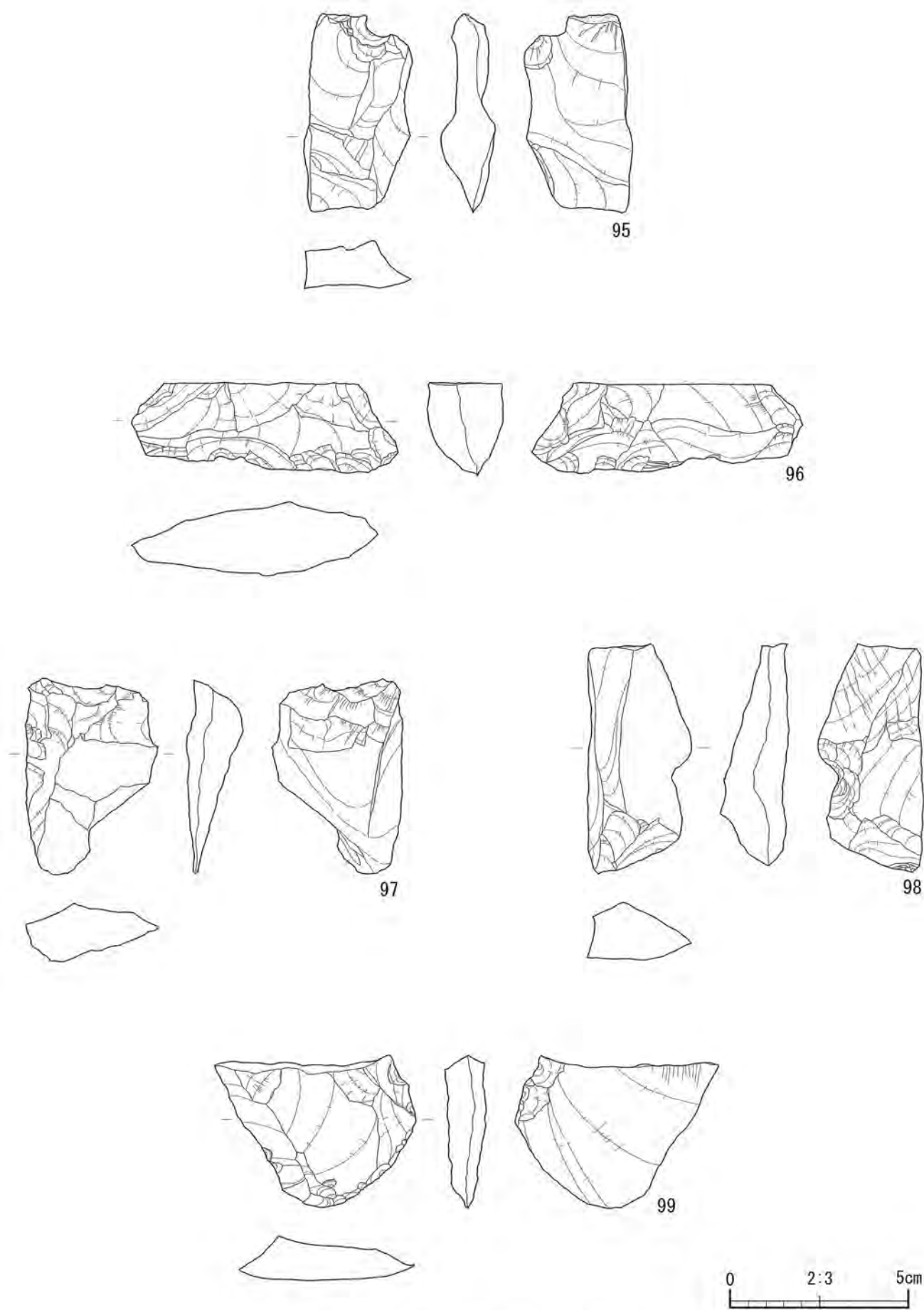
第 82 図 VIII層出土遺物 21 (石器)



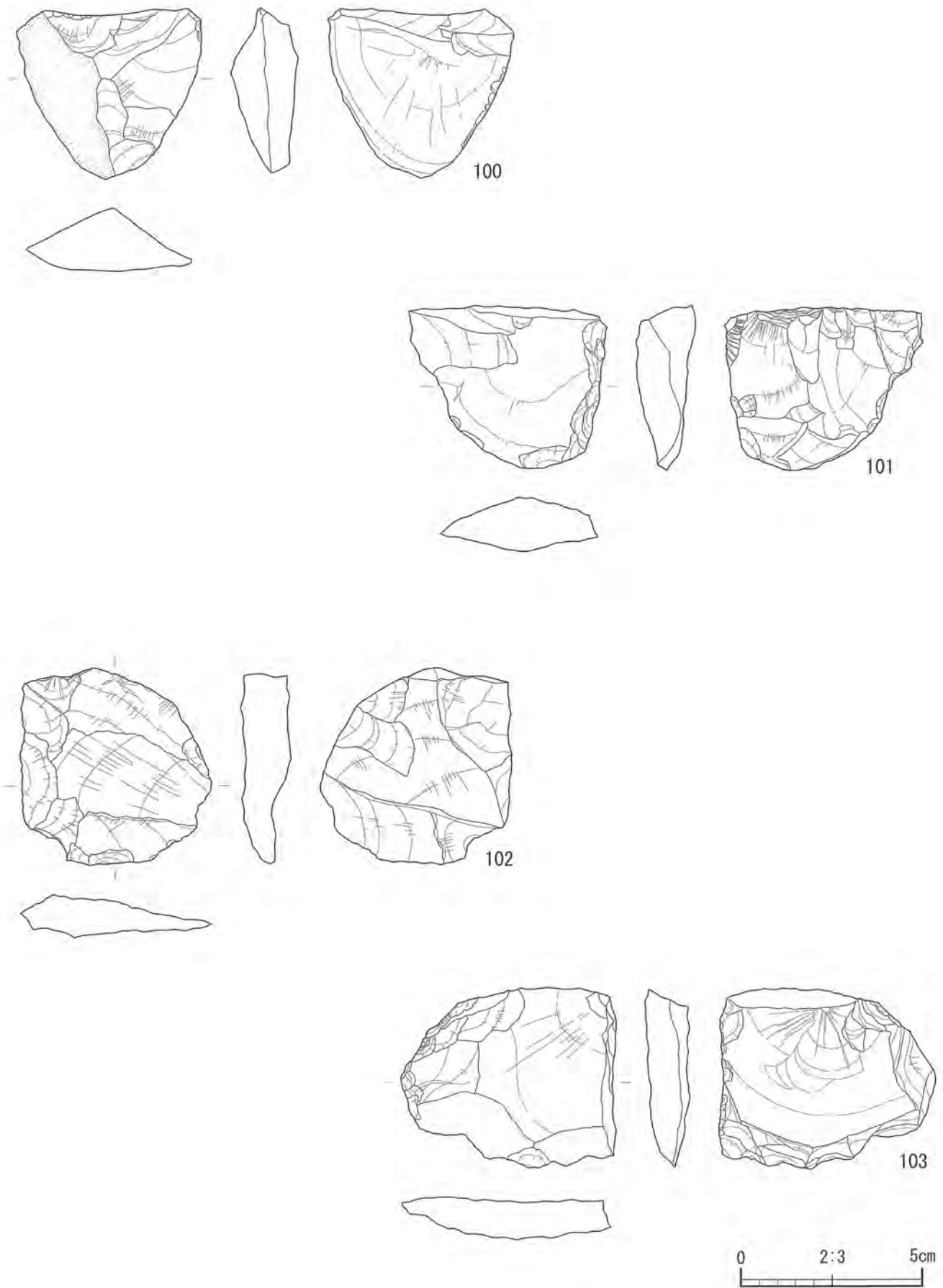
第 83 図 VIII層出土遺物 22 (石器)



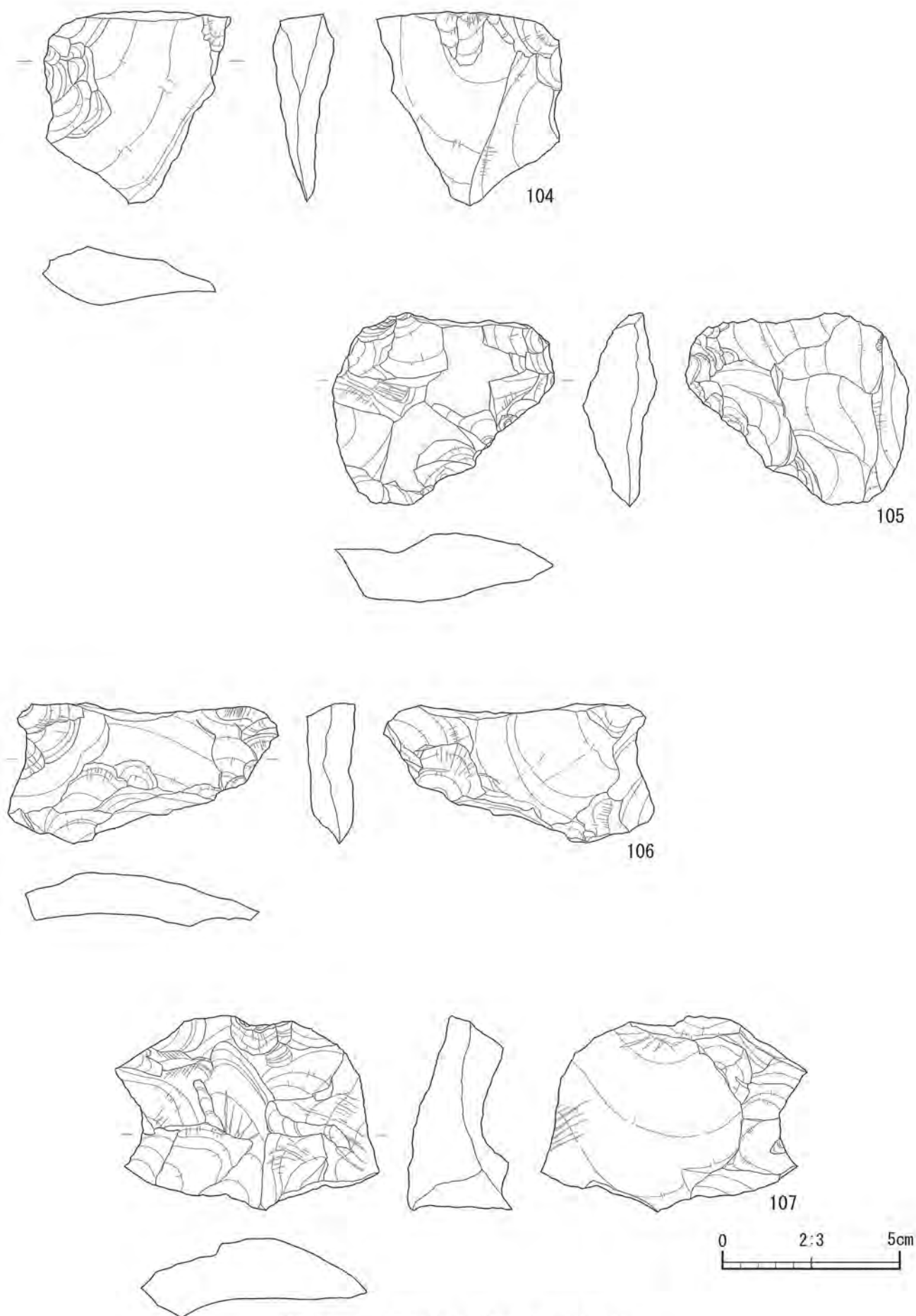
第 84 図 VIII層出土遺物 23 (石器)



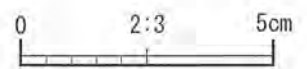
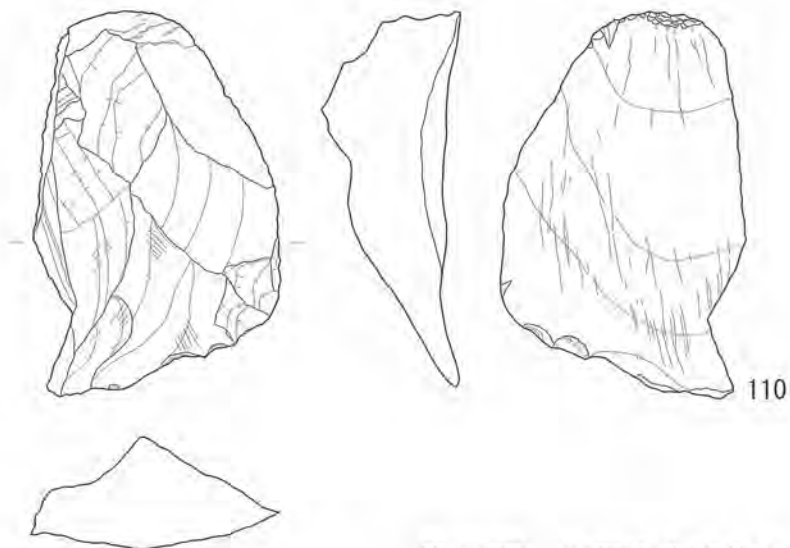
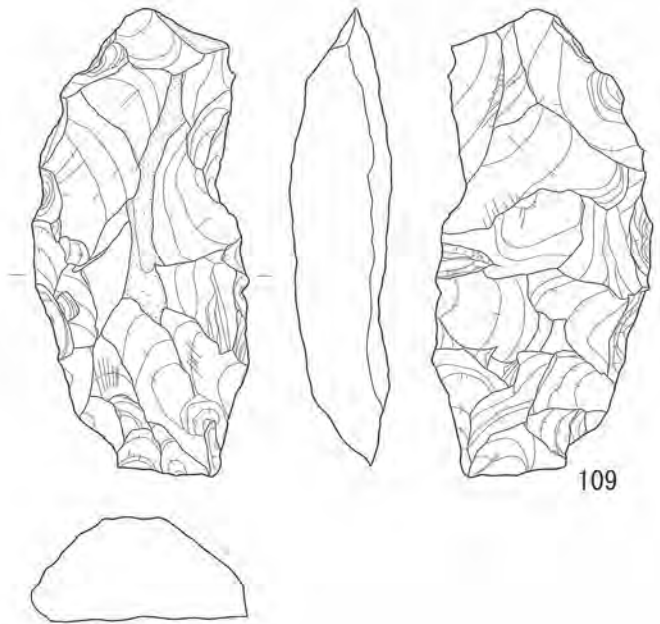
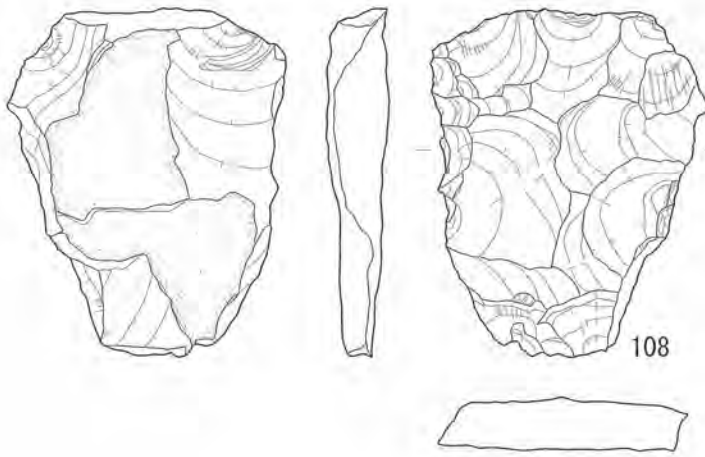
第 85 図 VIII層出土遺物 24 (石器)



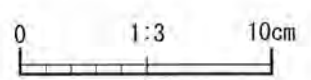
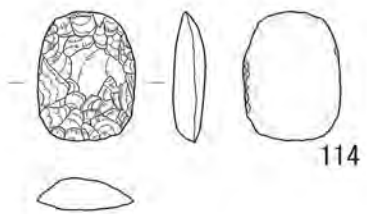
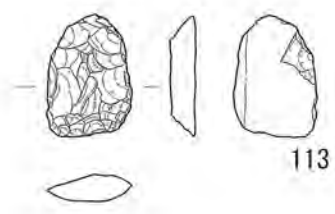
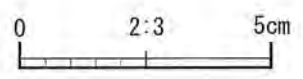
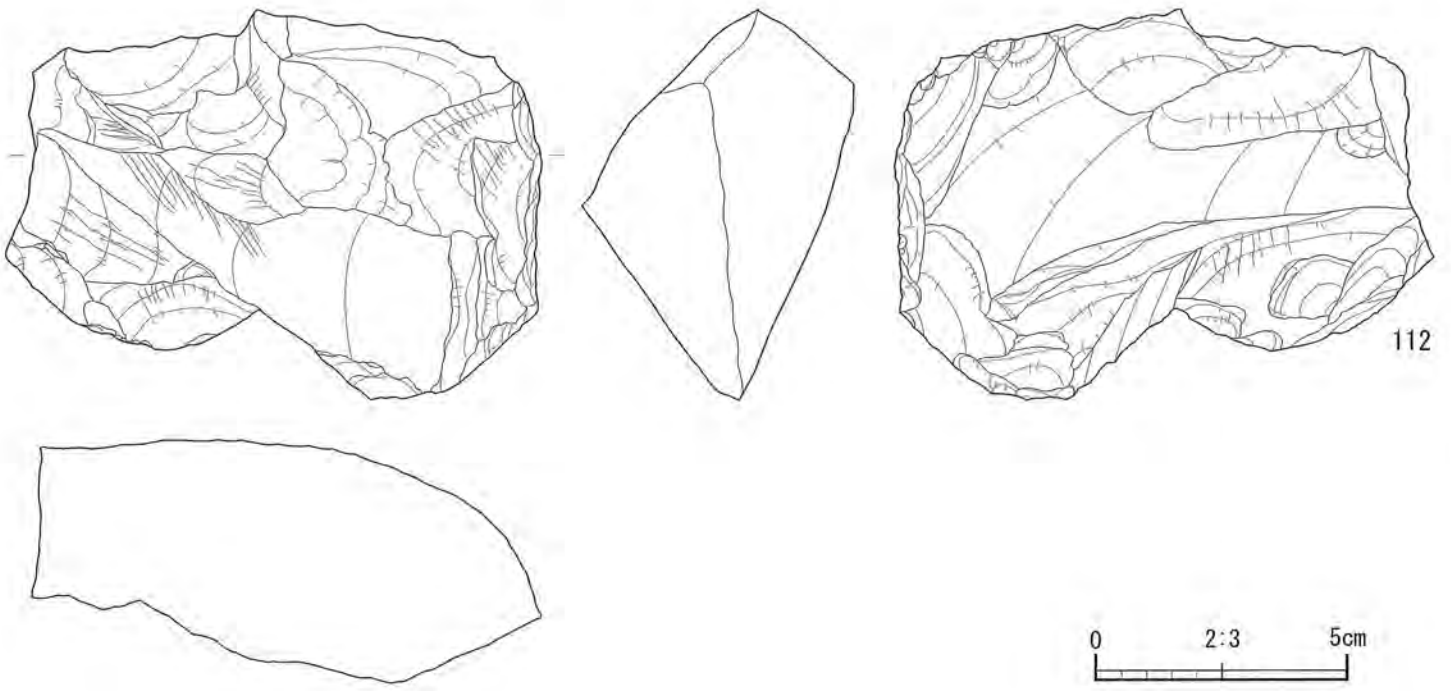
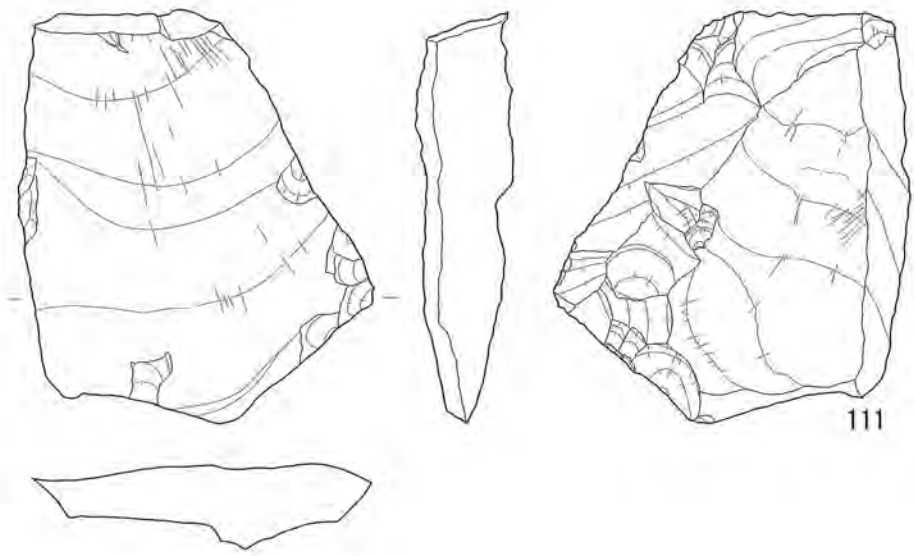
第 86 図 VIII層出土遺物 25 (石器)



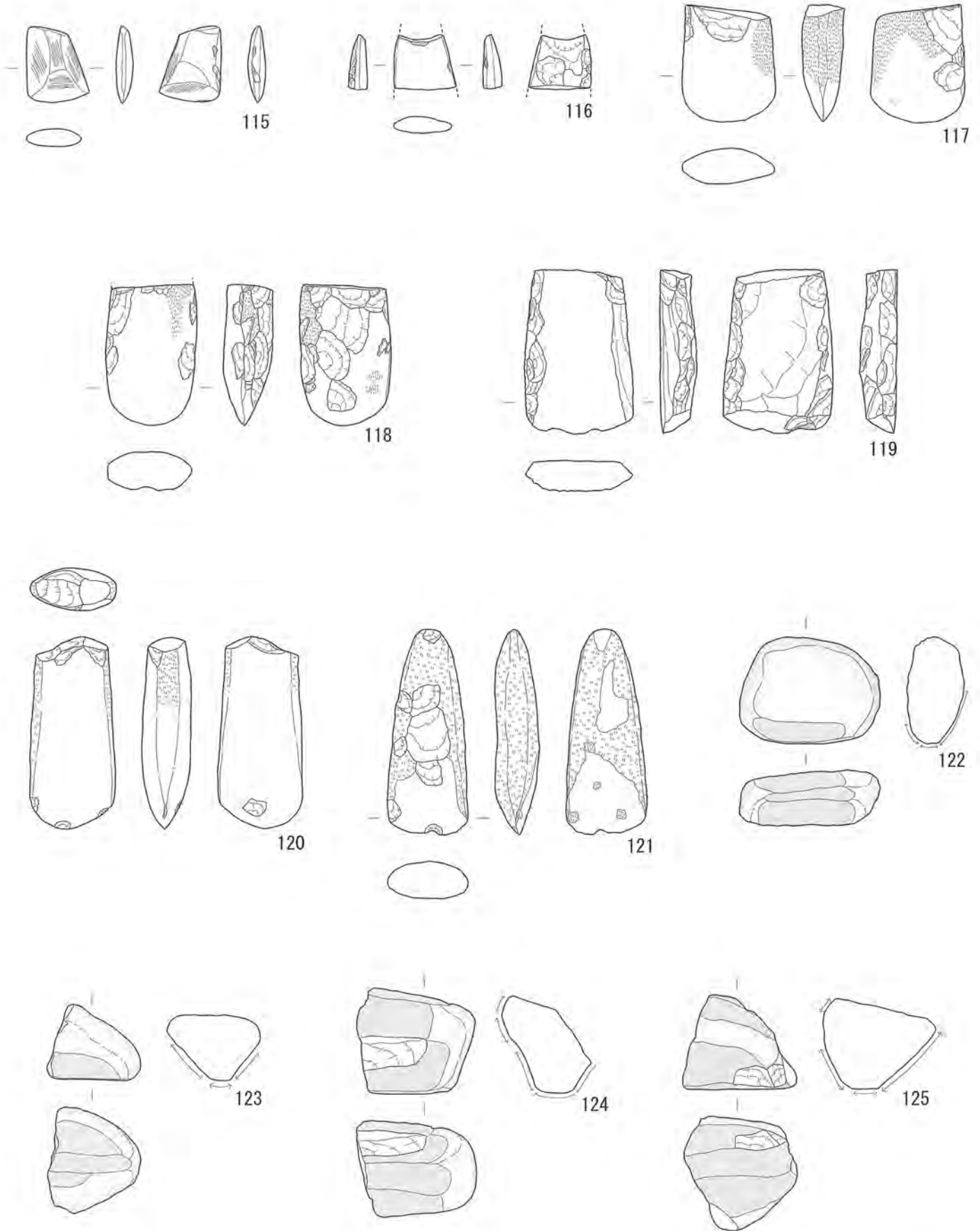
第 87 図 VIII層出土遺物 26 (石器)



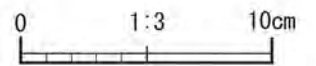
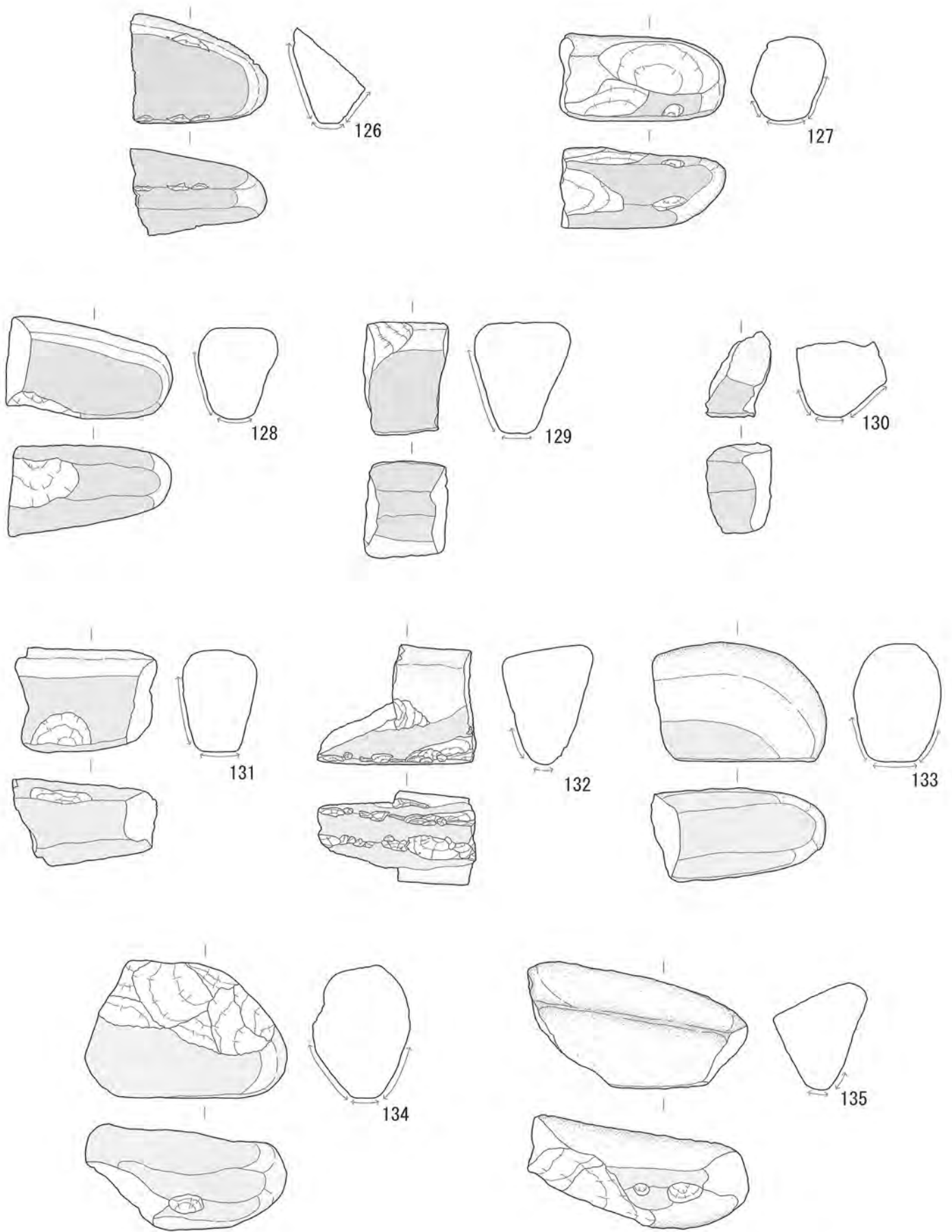
第 88 図 VIII層出土遺物 27 (石器)



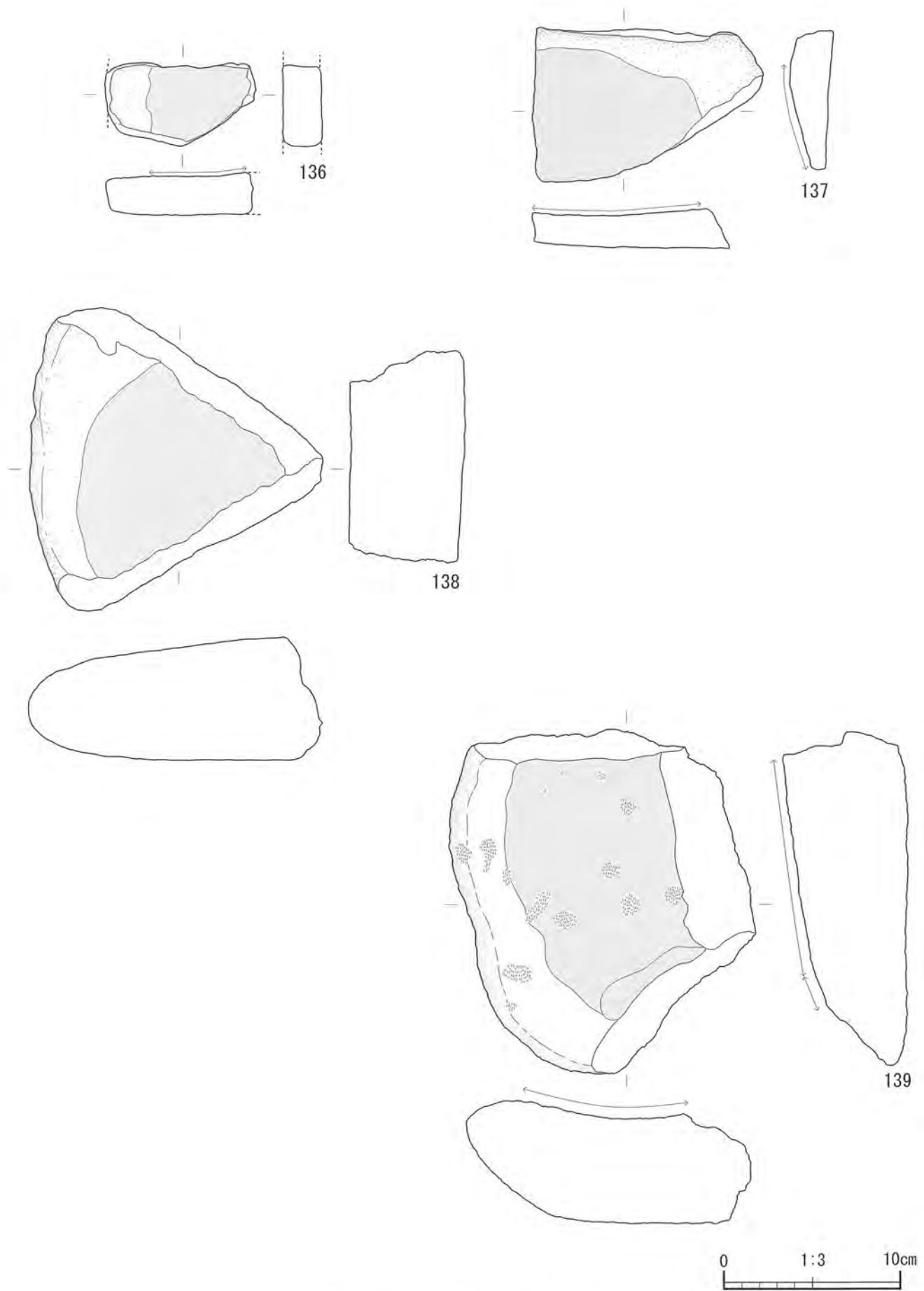
第 89 図 VIII層出土遺物 28 (石器)



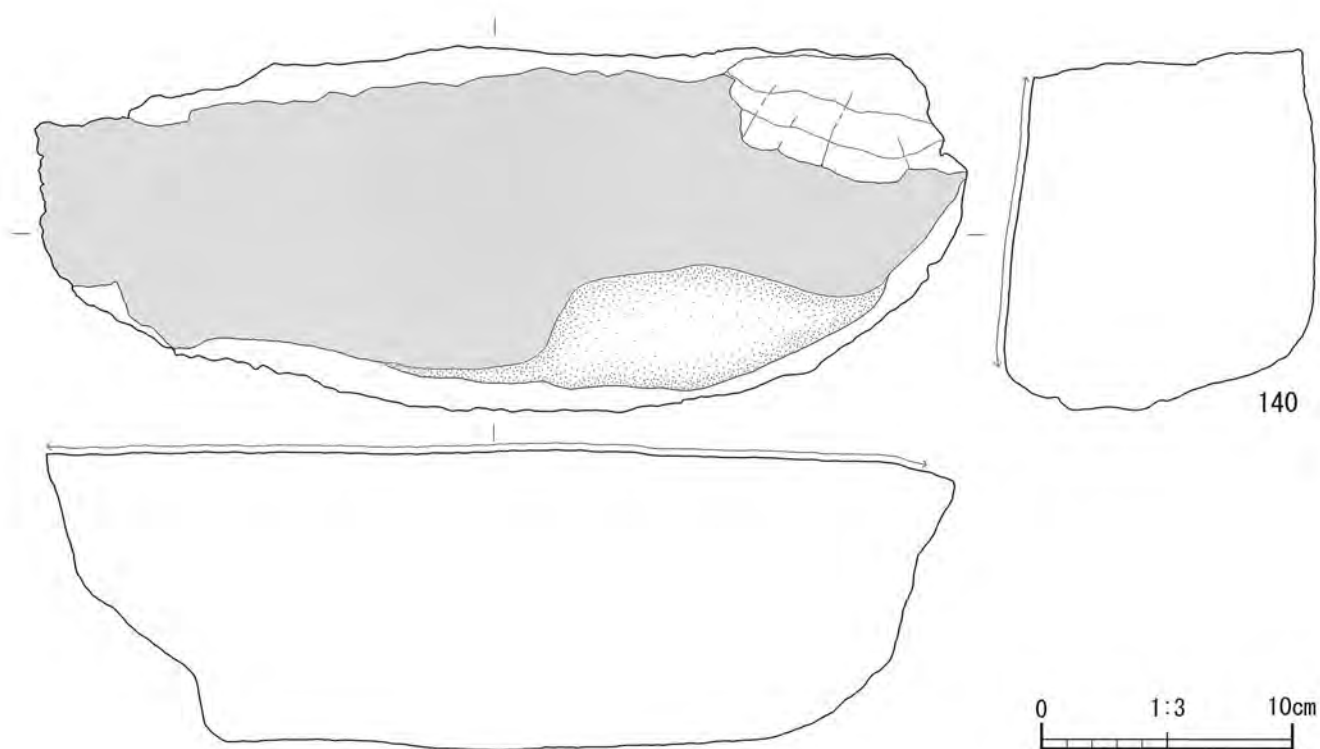
第90図 VIII層出土遺物29(石器)



第 91 図 VIII層出土遺物 30 (石器)



第 92 図 VIII層出土遺物 31 (石器)



第93図 VIII層出土遺物32(石器)

115～121は磨製石斧である。

122～135は敲打磨石である。122～134は、いずれも機能面の両側に調整磨面をもつ。

136～140は石皿である。

調査のまとめ

今回の調査地点は、地名が示す通り、もともとは洞地であって、最近になって盛土を行い平坦地にした場所である。試掘調査では、調査区中央の洞に向かって下る西側傾斜面で多量の遺物が出土した。本調査はその西側傾斜面を対象として行い、その結果をまとめたものである。

出土土器はⅢ群に大別される。(挿図2)

I 深鉢 大半が胎土に繊維を含む

- a 器形 平縁 大半が外反する深鉢
施文 口縁部まで斜縄文のみ(「びっちり縄文」)
- b 器形 口縁部は平縁と波状に分かれる
施文 不整撚糸文、羽状縄文、S字状連鎖沈文、撚糸文
- c 器形 平縁
施文 隆帯をめぐらすもの、口唇部に刻み、圧痕を施すもの

II 表と裏を縄文で施文された「縄文—縄文」土器である。

- a 器形 深鉢で平縁。底部は尖底もしくは丸底である(「縄文—縄文」の平底は出土していない。
胎土 一般に繊維を含み、細砂を多く含み、少量の細礫が混じるのがきわめて特徴的である。そのため器面からは硬質な感じを受ける。
施文 斜縄文で施文し、口唇部に圧痕を施す。
aタイプが主流であり、施文手法の違いでb、cに細分される。
- b 口縁部を肥厚させ撚糸圧痕を施すもの(胎土に繊維を含まないものがある)
- c 口縁部に隆帯をめぐらし、隆帯に刻線を施すもの
- d 口縁部に横位原体圧痕をめぐらすもの

III 条痕文、縄文で施文された土器群

器形 深鉢

施文手法で細別される。

- a 口縁部に隆帯をもち、「条痕—条痕」で施文されるもの
- b 「条痕—縄文」で施文されるもの
- c 「条痕—条痕」で施文されるもの

I a、I b群はⅣ、Ⅴ層の主体をなす土器群である。それぞれ「崎山貝塚」(宮古報文44 1995)でI群、II群に分類された土器群と並行し、縄文時代前期初頭に伴う。I c群も出土状況から縄文時代前期初頭に伴う土器群と思われる。

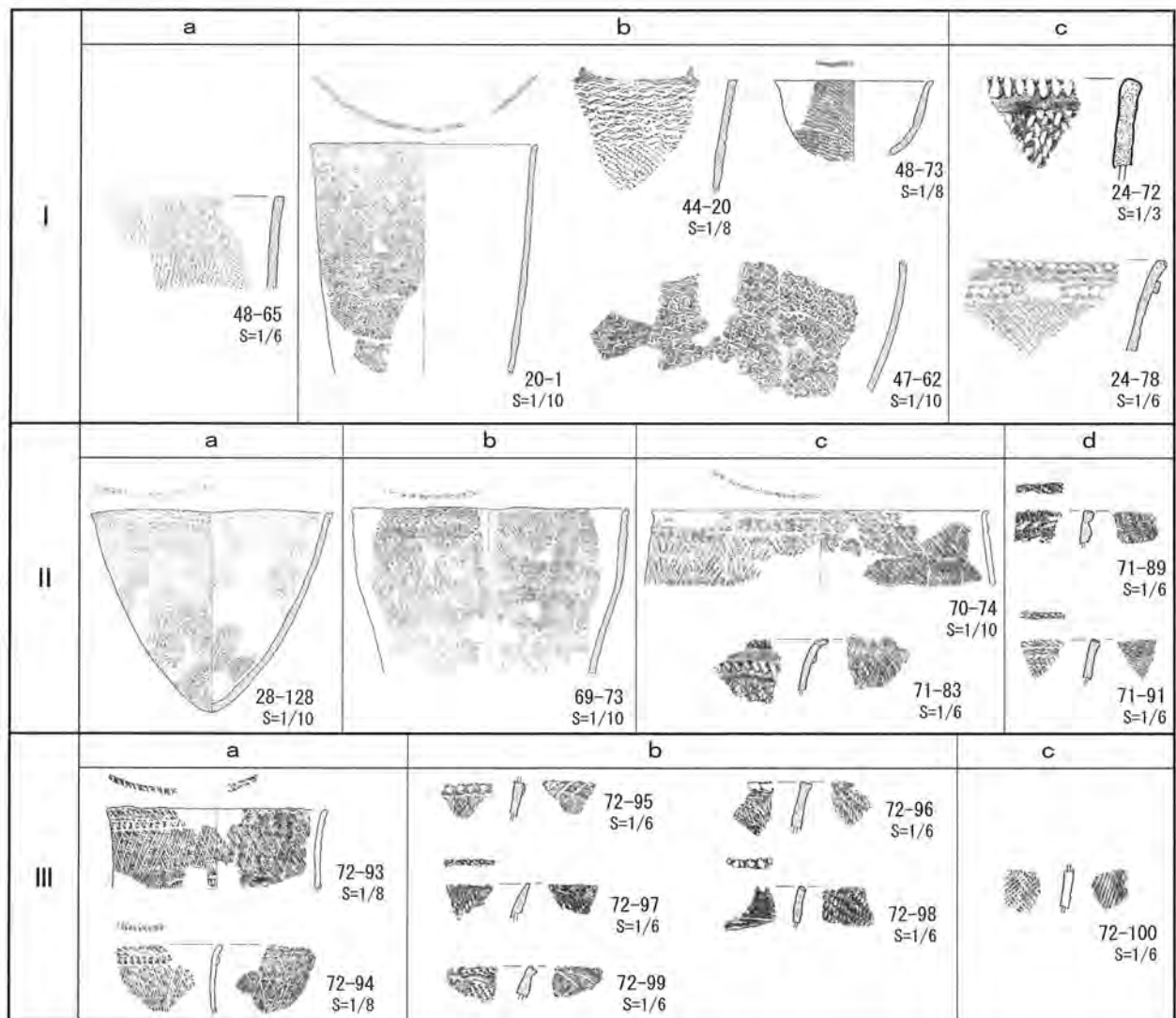
II群はⅦ、Ⅷ層の主体を占める土器群である。これらは「盛岡の縄文時代草創期～早期の土器文化」(盛岡市遺跡の学び館 2009)において「縄文土器群」(赤御堂式併行)に分類された土器群に併行するものと思われる。II群土器は縄文時代早期末葉に伴う。

III群土器の出土数はわずかである。これらはやはり「盛岡の縄文時代草創期～早期の土器文化」において「条痕文土器群」、「縄文条痕土器群」に分類された土器群に併行するものとする。III群土器は縄文時代早期後葉、早期末葉に伴うものと思われる。

遺物包含層からは、火山灰を含むⅦ層を境に明瞭な面期を見せて、縄文時代前期初頭から縄文時代早期末葉に伴う土器群が確認できた。「拝殿峠遺跡」（宮古報文 98 集 2018）では同じように、火山灰層を挟んで遺物包含層が確認されている。「拝殿峠遺跡」では火山灰層の下から貝殻文土器のまとまった一群が検出されている。当遺跡では貝殻文土器は 1 点のみであるが、「拝殿峠」では「縄文-縄文」土器は出土していない。この違いは今後検討する課題の一つになるものと思われる。

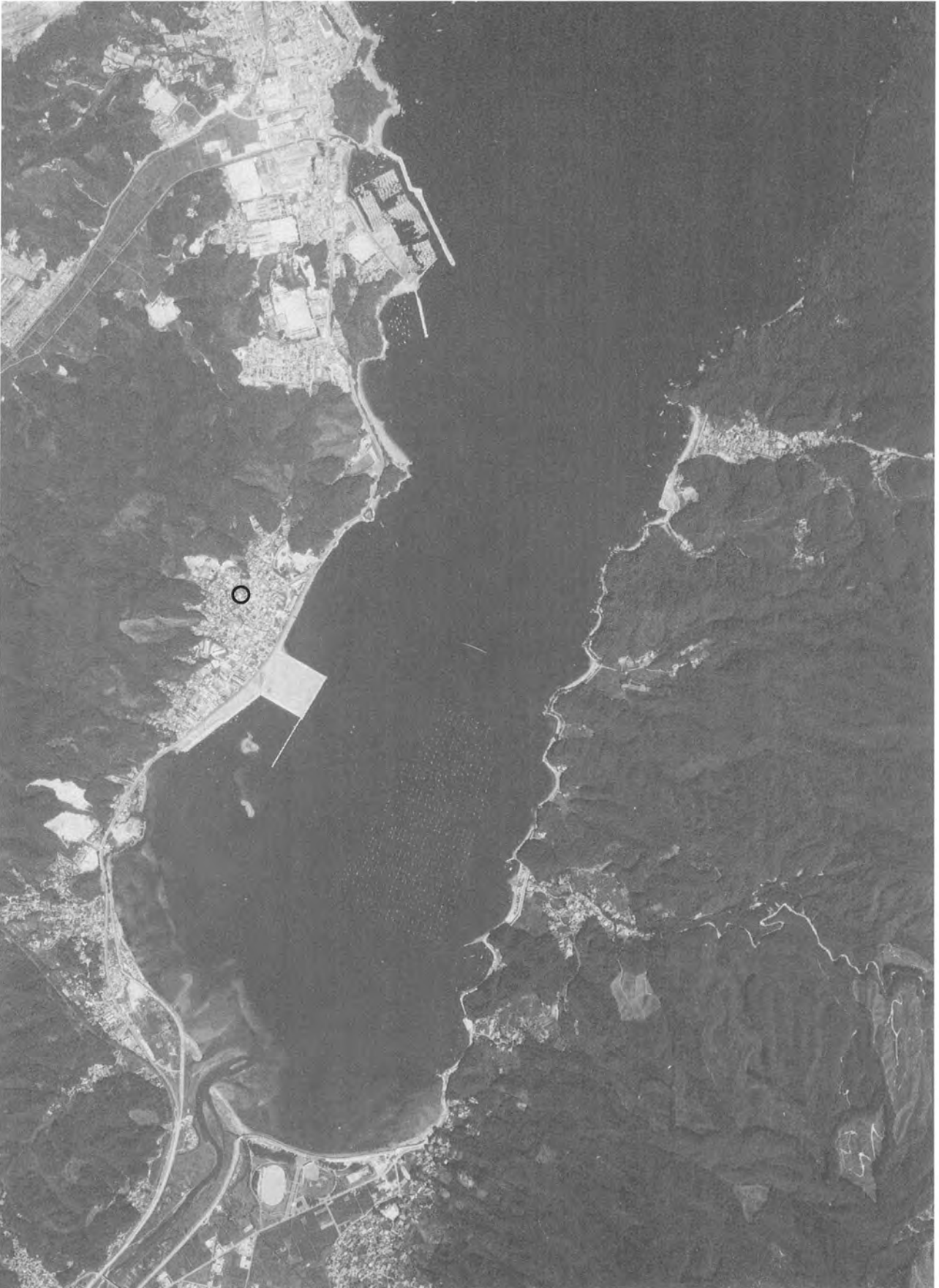
参考文献

- 「崎山貝塚」（宮古報文 44 集 1995）
- 「千鷲遺跡」（宮古報文 16 集 1989）
- 「重茂館遺跡群」（宮古報文 79 集 2012、87 集 2017）
- 「岩手の土器」（岩手県立博物館 1982）
- 「盛岡の縄文時代草創期～早期の土器文化」（盛岡市遺跡の学び館 2009）
- 「大木式土器理解のために」 興野義一（考古学ジャーナル 1967）
- 「東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉にかけての土器編年」 相原淳一（「考古学雑誌」1990）



挿図 2 土器集成

写真图版



宮古湾と調査地点

写真図版 2



調査地点



試掘調査トレンチの配置



A トレンチ



B トレンチ

写真図版 4



Cトレンチ



本調査区 (東から)

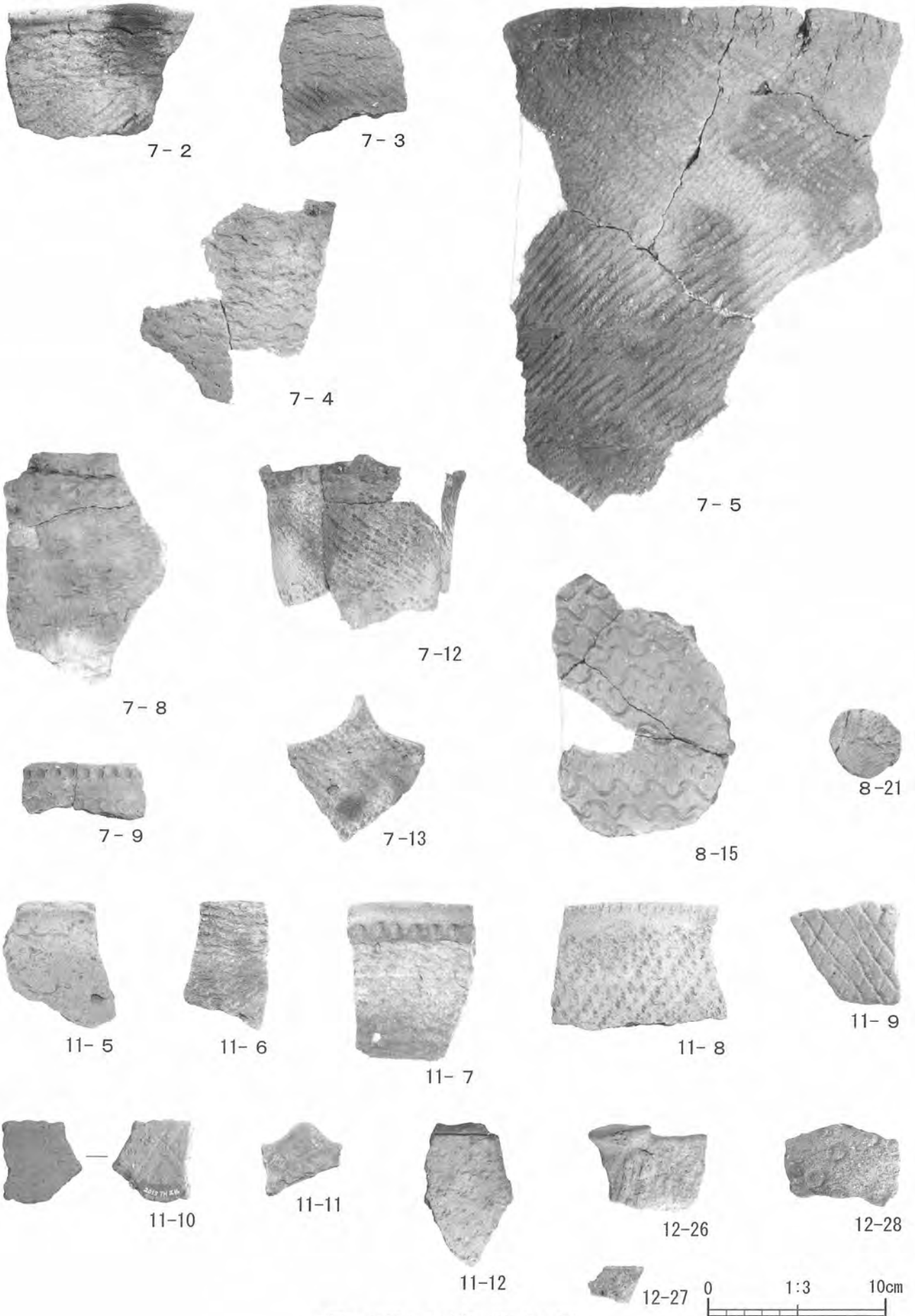


本調査区堆積状況



完掘状況

写真図版 6



Ⅱ層・Ⅲ層出土遺物（縄文土器）



14- 1



14- 2



14- 3



14- 9



14-11



14-15



14-16



14-17



15-22



15-23



15-24



15-25



15-26



15-27



15-28



15-29



15-30



15-31



15-32



15-33



15-34



15-35



15-36



15-37



15-38

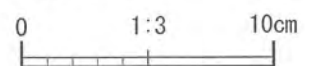


15-46

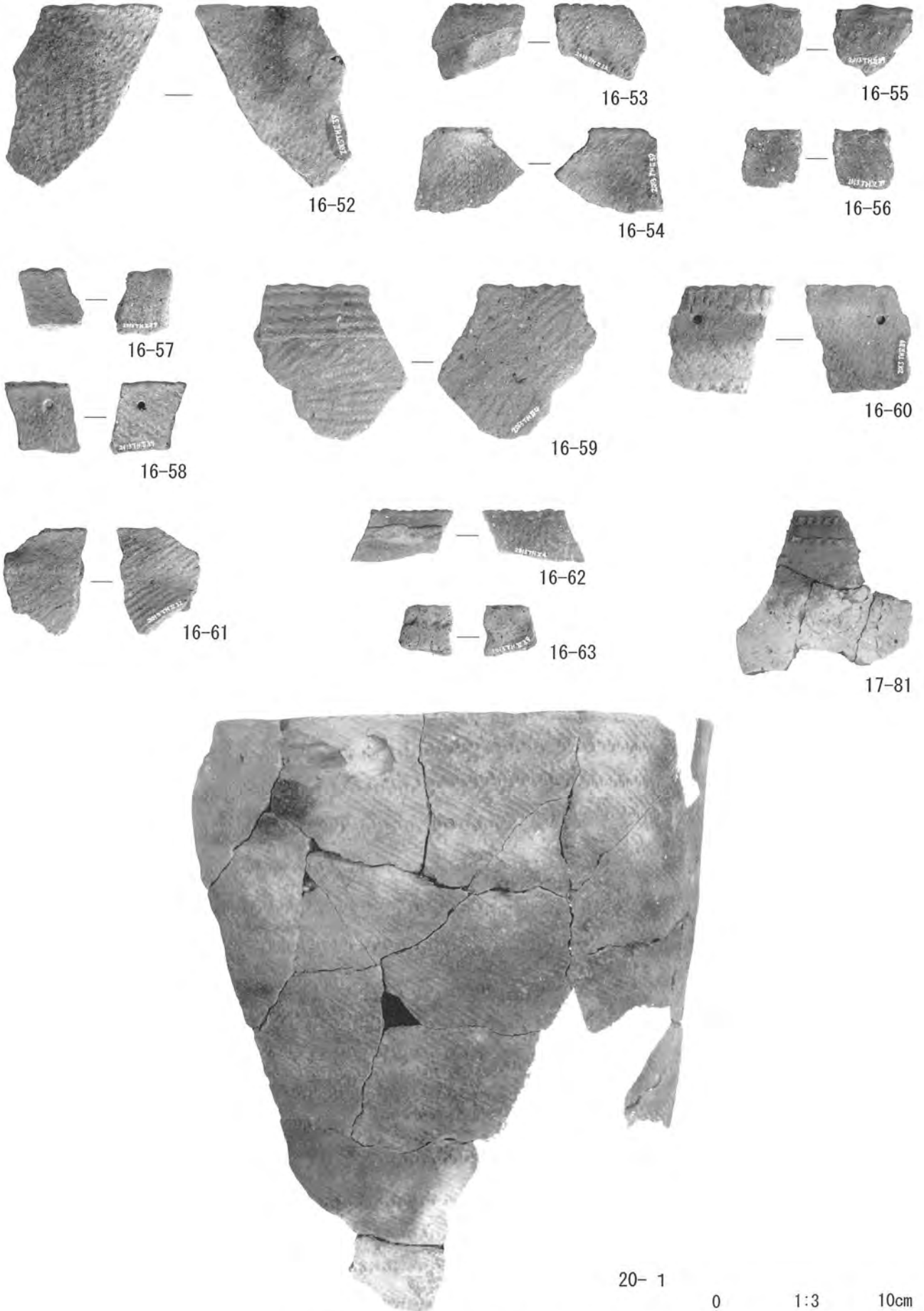


15-47

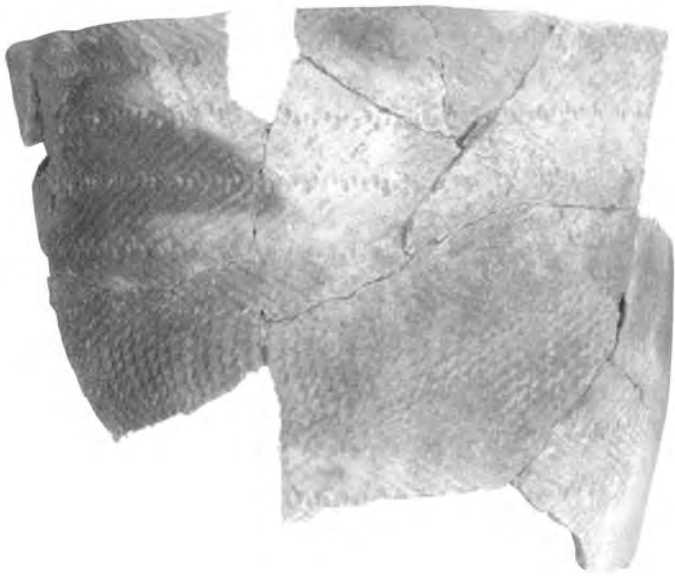
IV層出土遺物 (縄文土器)



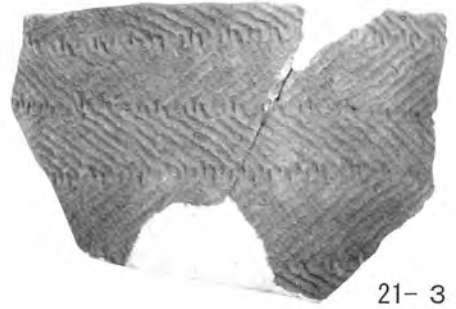
写真図版 8



IV層・V層出土遺物 (縄文土器)



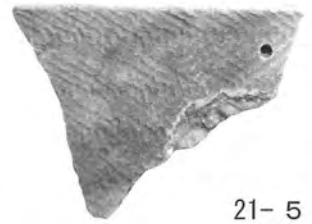
20- 2



21- 3



21- 4



21- 5



21- 6



21- 7



21- 8



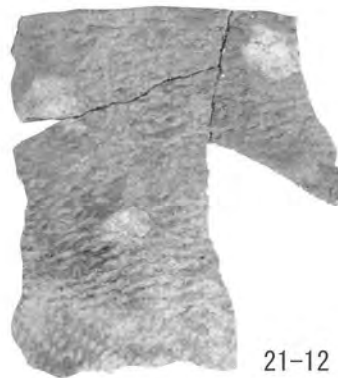
21- 9



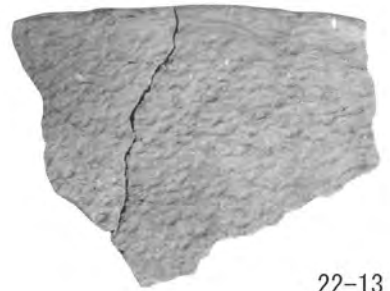
21-10



21-11

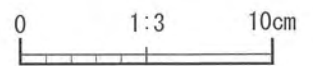


21-12

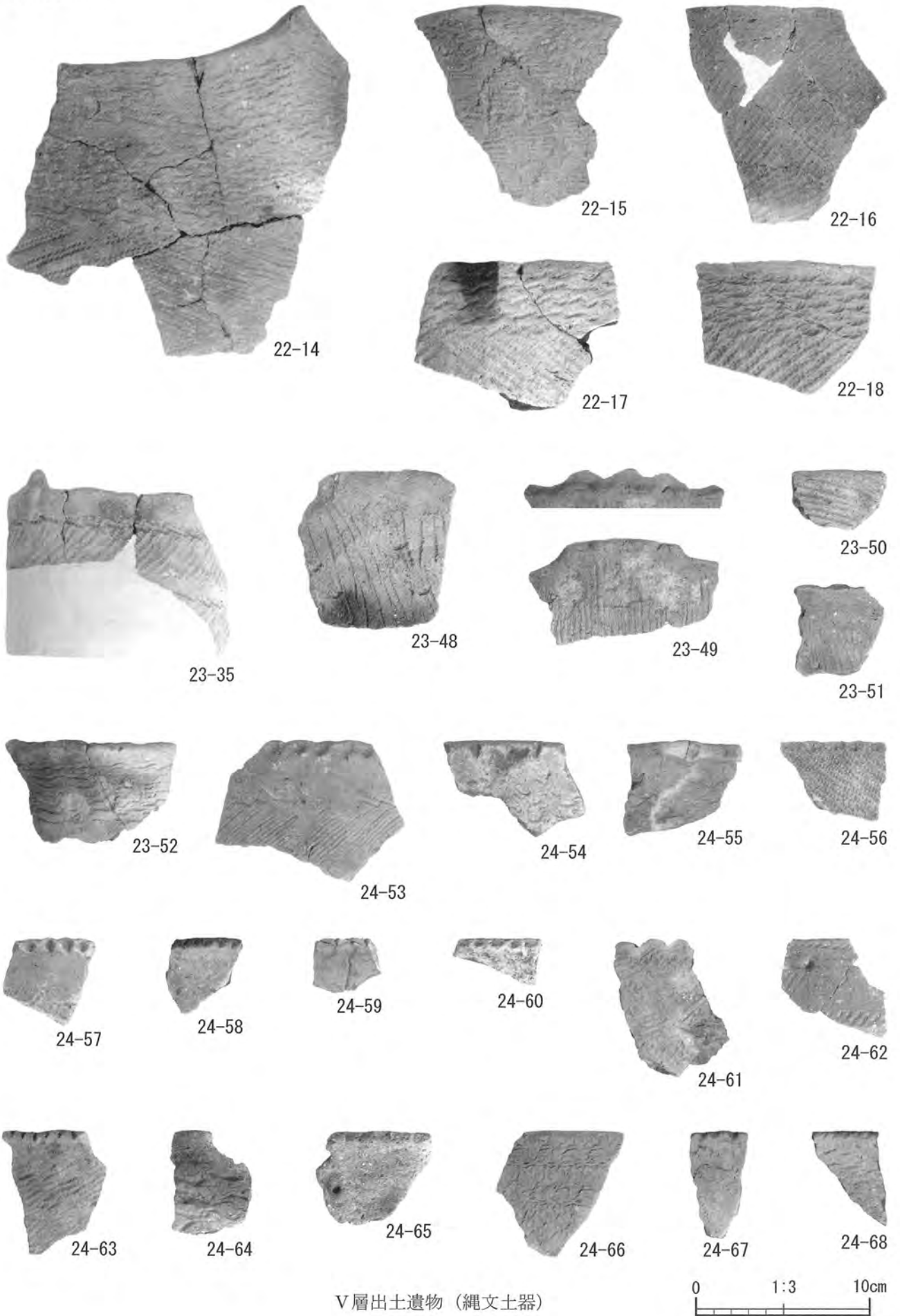


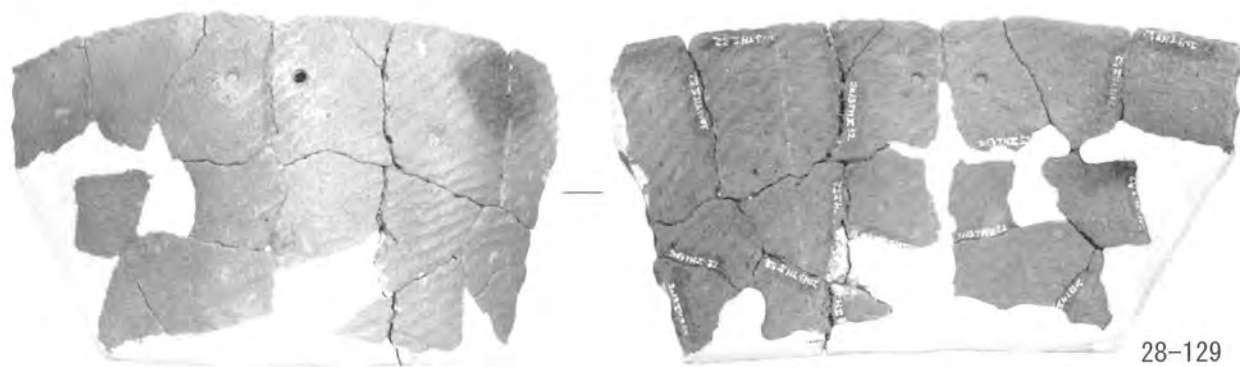
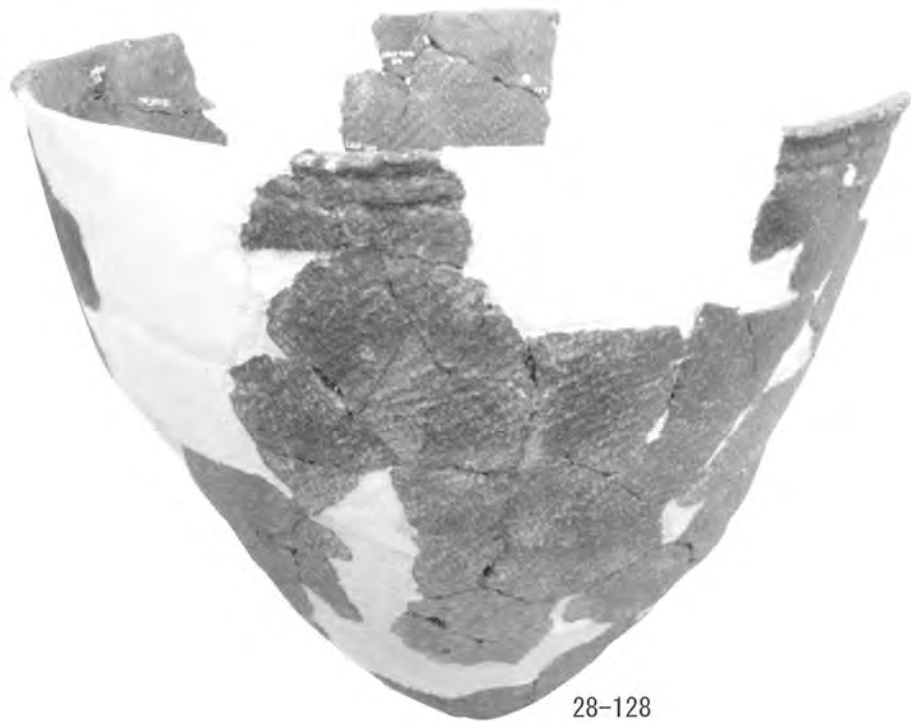
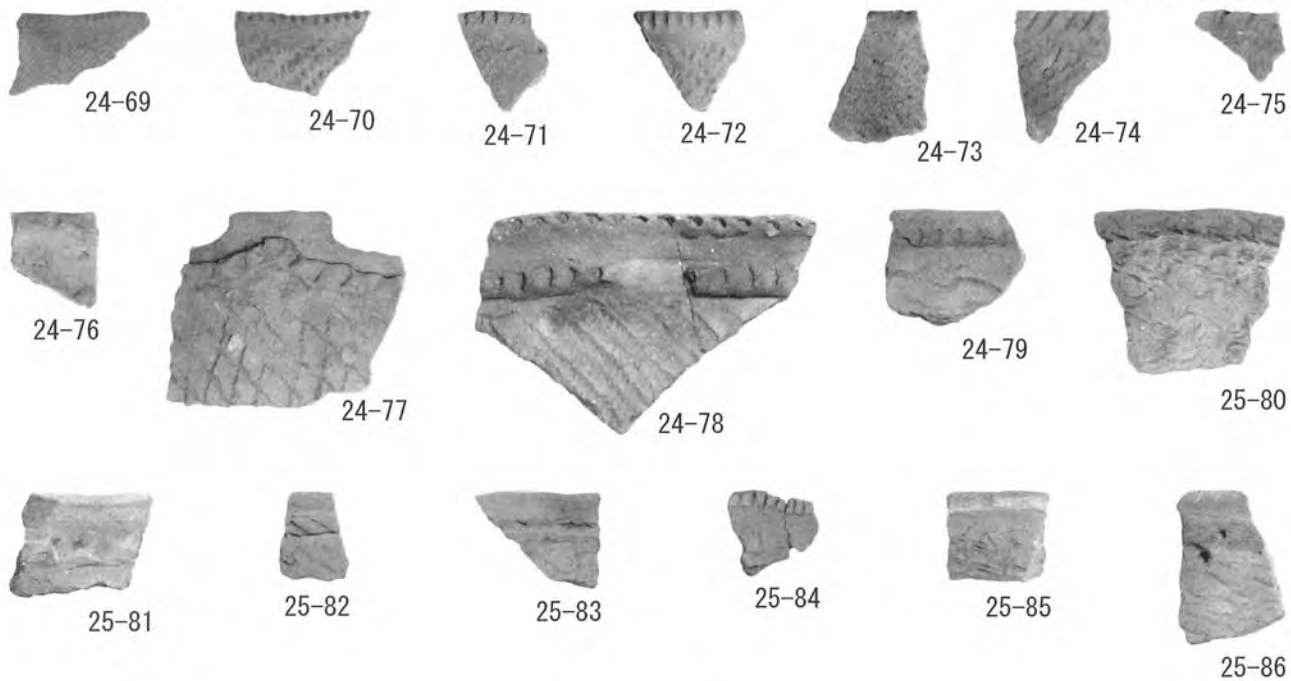
22-13

V層出土遺物 (縄文土器)

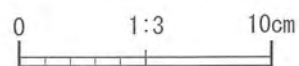


写真図版 10

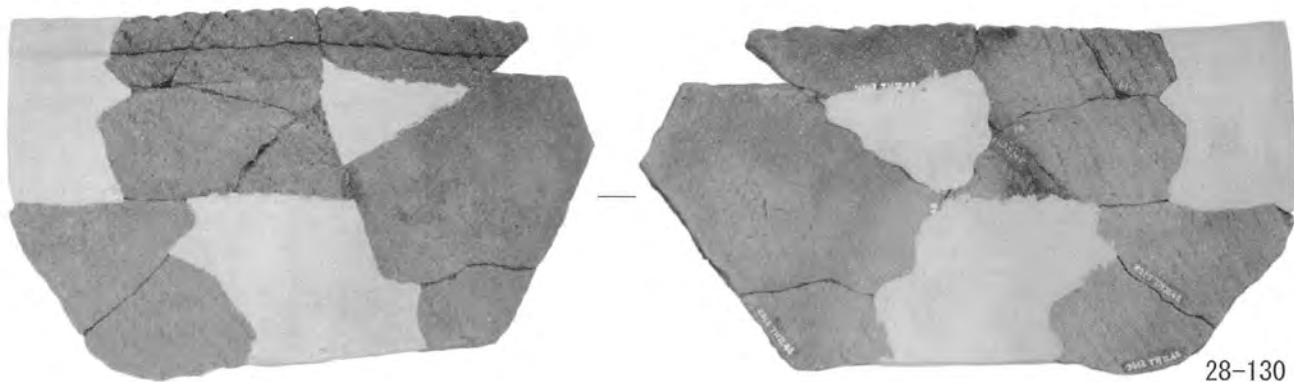




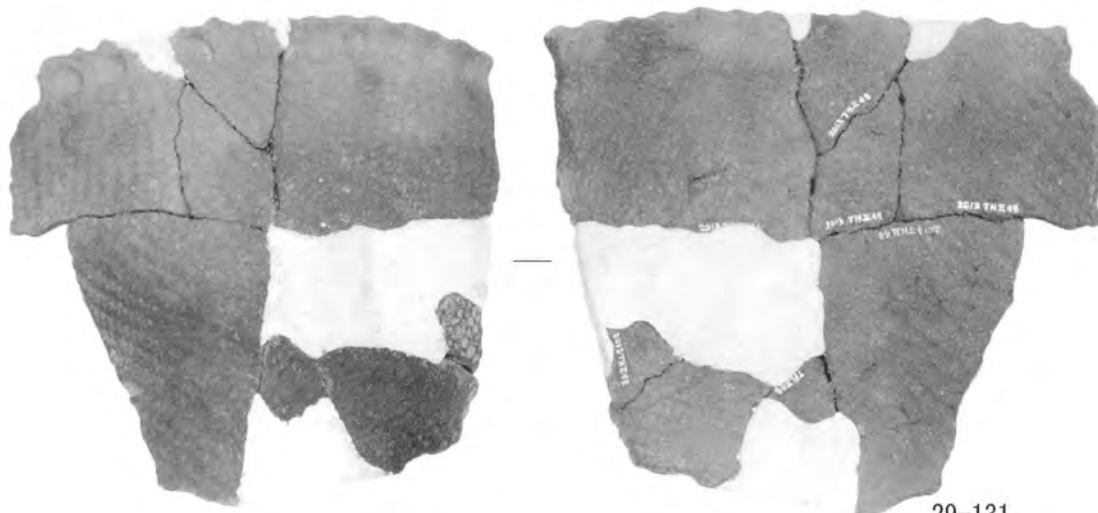
V層出土遺物 (縄文土器)



写真図版 12



28-130



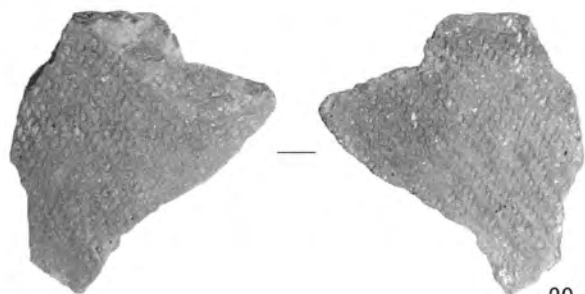
29-131



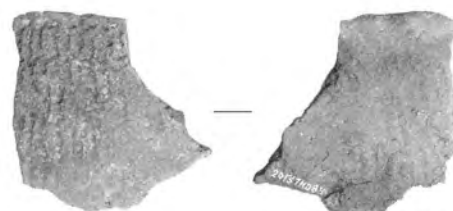
29-132



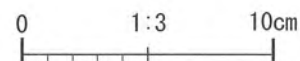
29-133



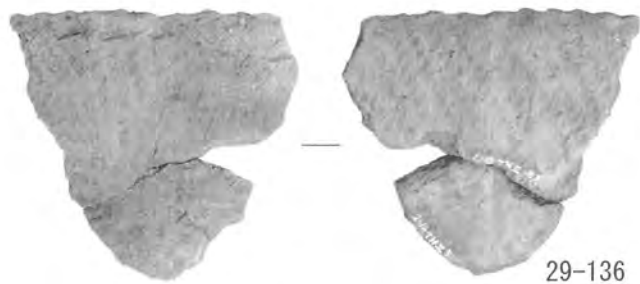
29-134



29-135



V層出土遺物 (縄文土器)



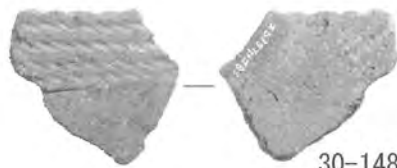
29-136



29-137



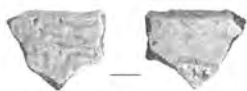
30-147



30-148



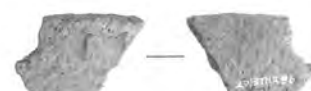
30-149



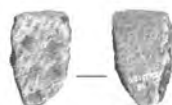
30-150



30-152



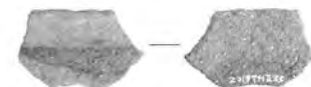
30-154



30-151



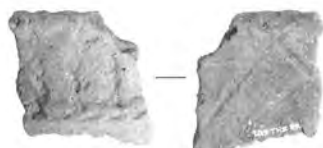
30-153



30-155



32-185



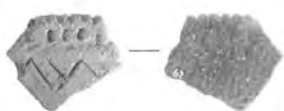
33-187



33-188



33-189



33-190



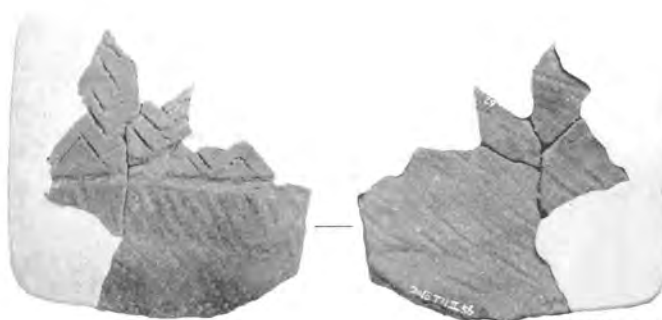
33-191



33-192

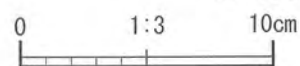


33-193

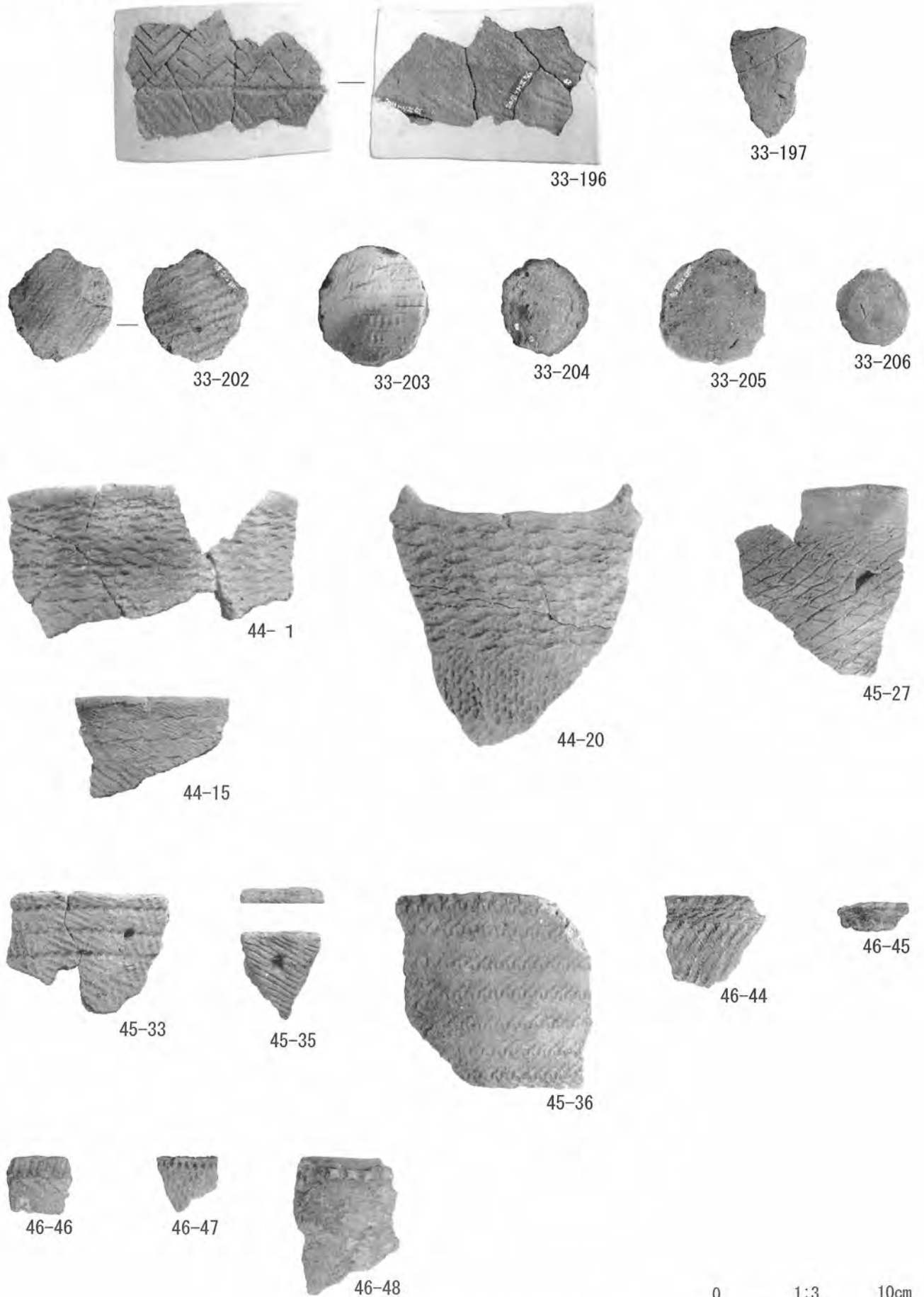


33-194

V層出土遺物 (縄文土器)



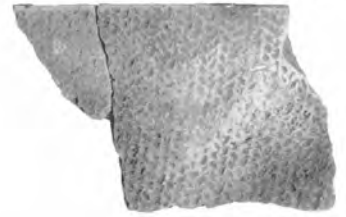
写真図版 14



V層・VII層出土遺物 (縄文土器)



47-62



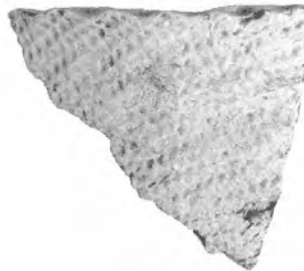
48-65



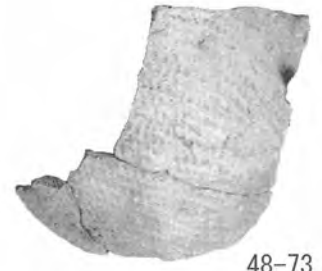
48-66



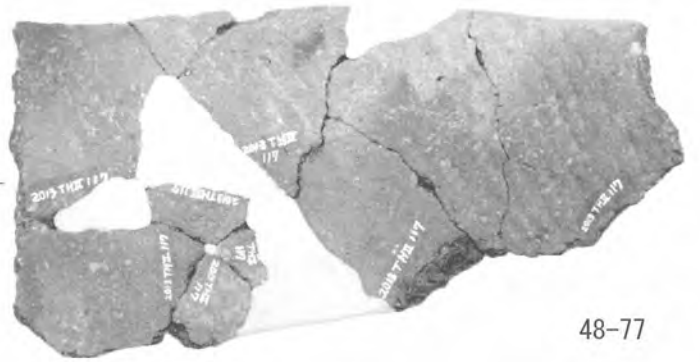
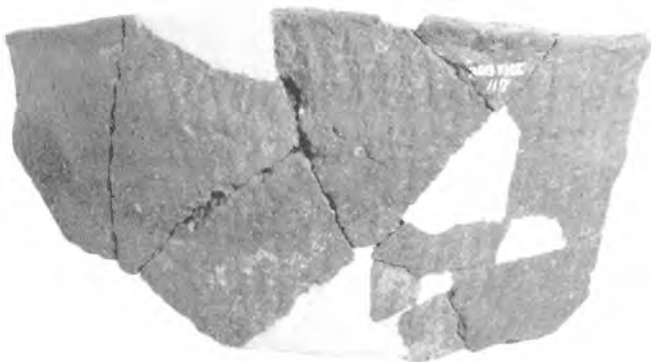
48-69



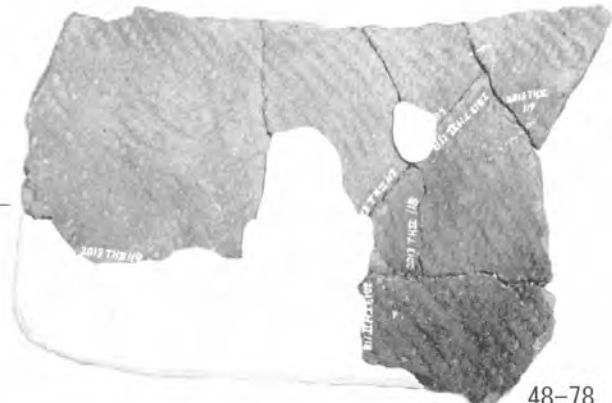
48-70



48-73



48-77

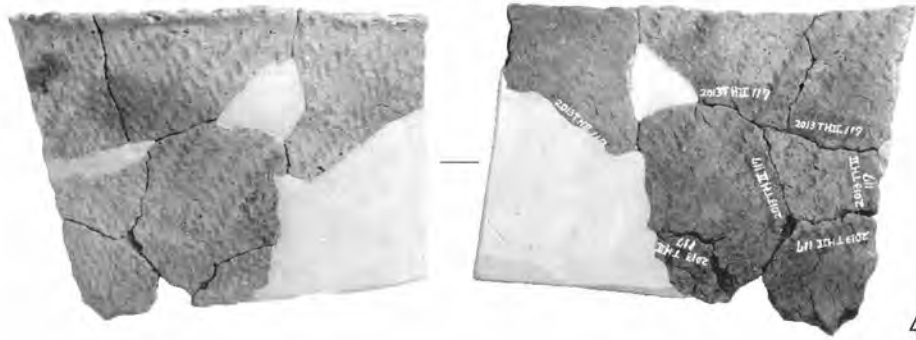


48-78

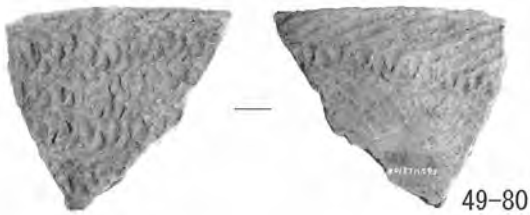
VII層出土遺物（縄文土器）



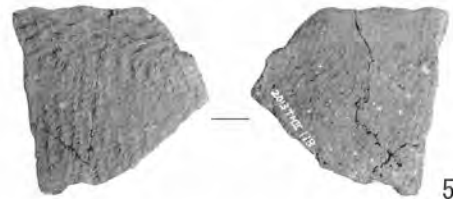
写真図版 16



49-79



49-80



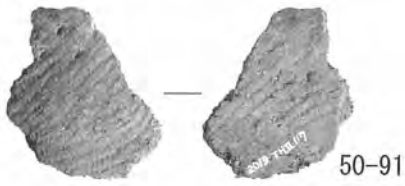
50-82



50-83



50-90



50-91



50-92



50-93



50-94



52-116



52-117



52-118



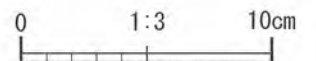
52-122



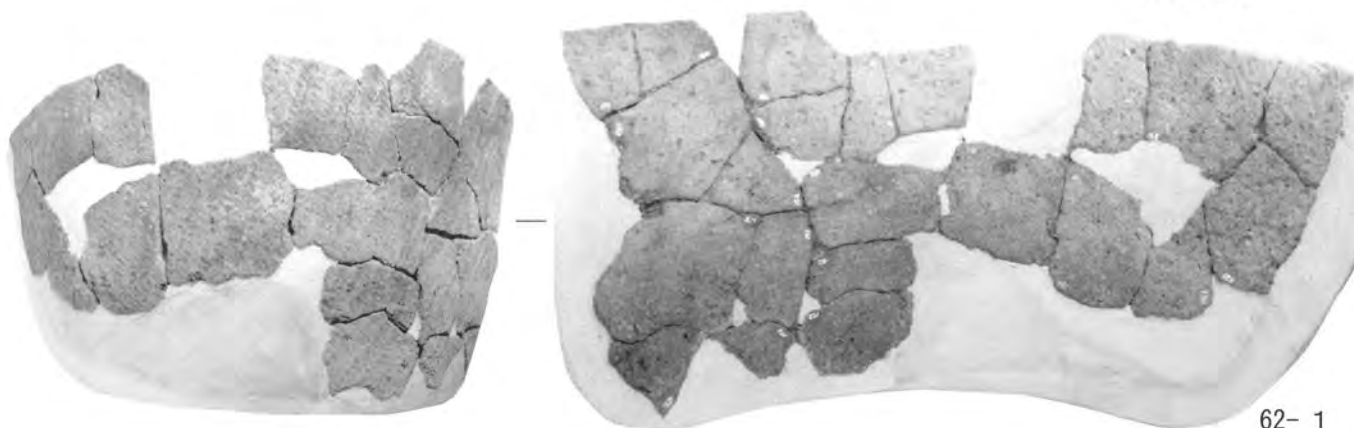
52-123



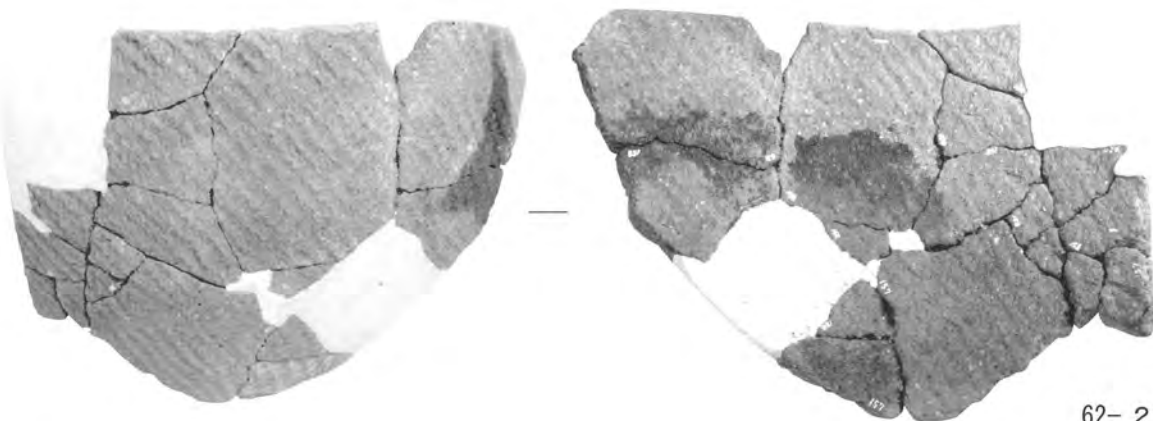
52-124



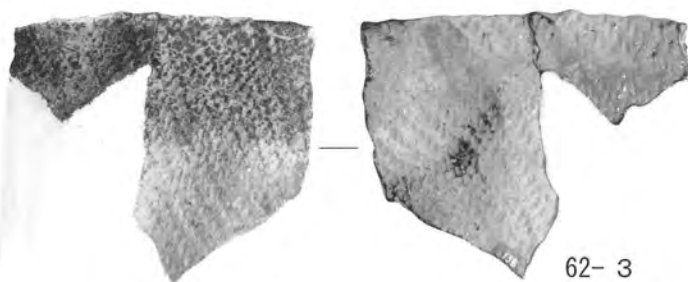
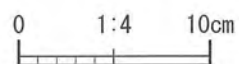
VII層出土遺物（縄文土器）



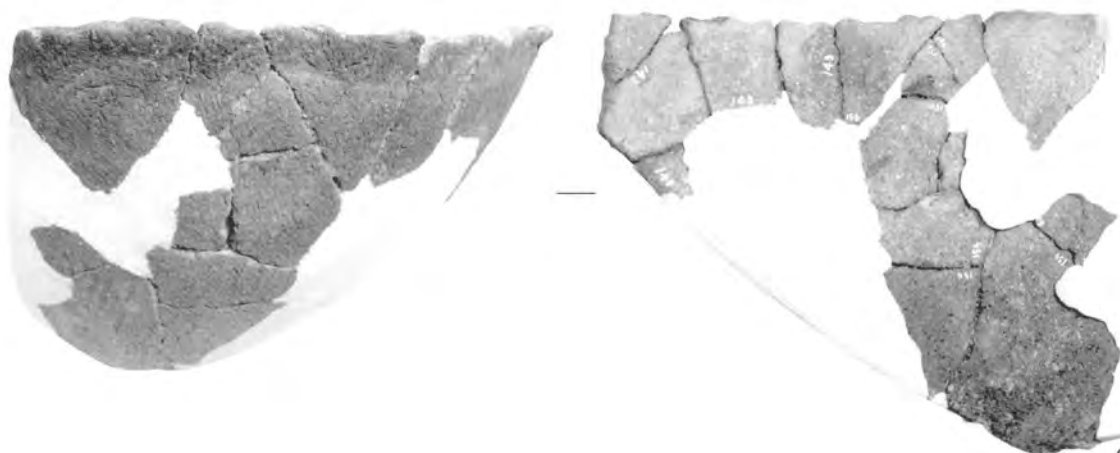
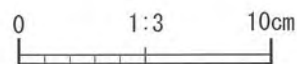
62- 1



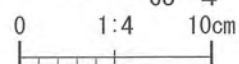
62- 2



62- 3

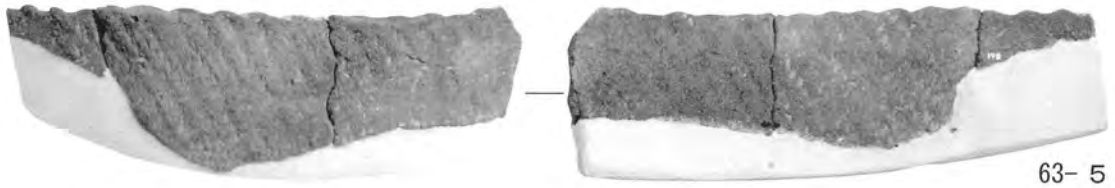


63- 4

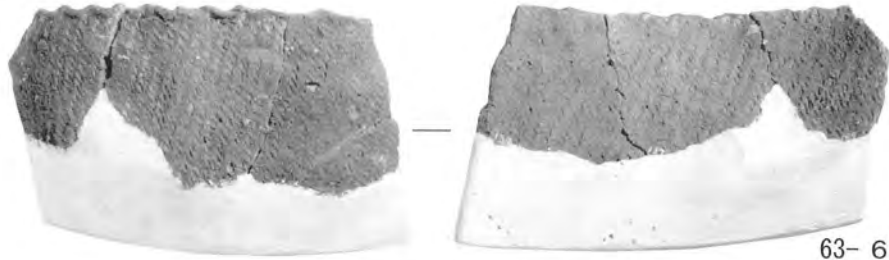


Ⅷ層出土遺物（縄文土器）

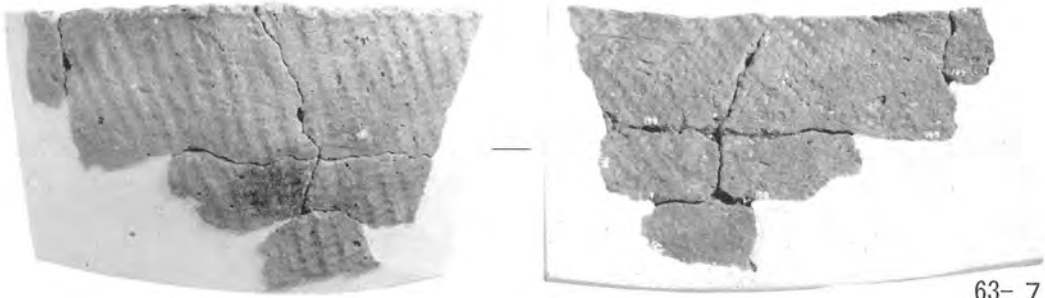
写真図版 18



63- 5



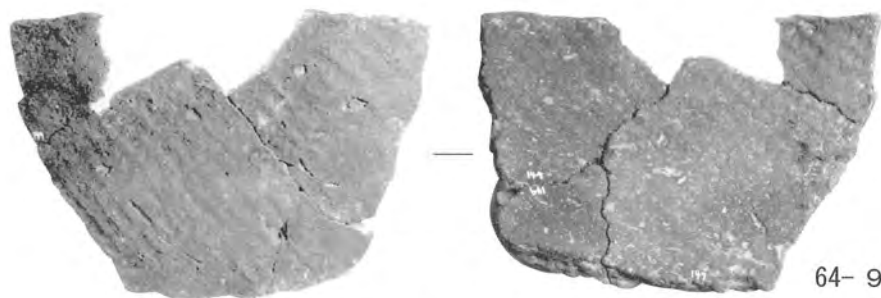
63- 6



63- 7

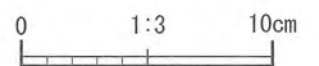


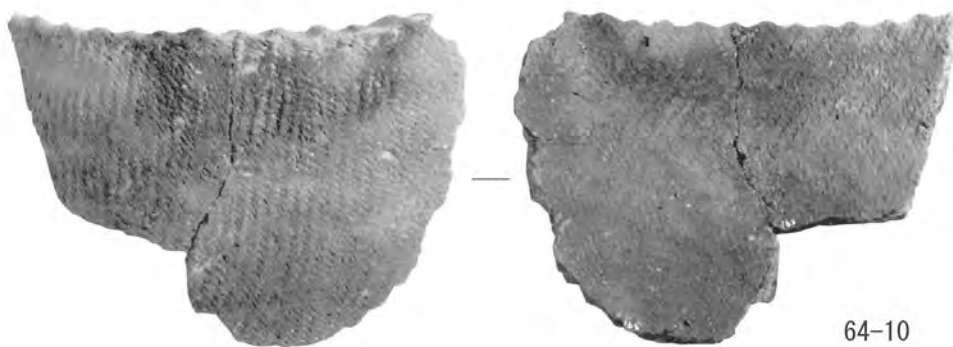
64- 8



64- 9

VIII層出土遺物（縄文土器）





64-10

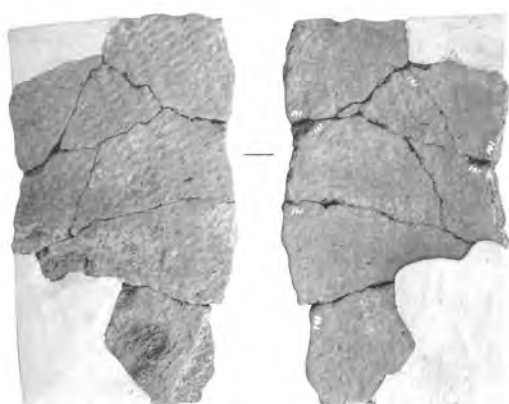


64-11



65-12

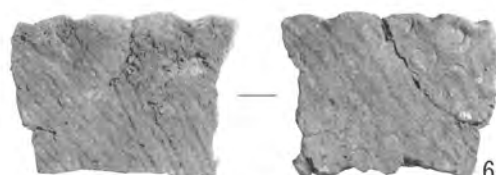
65-13



65-14

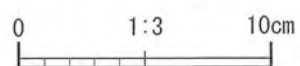


65-15

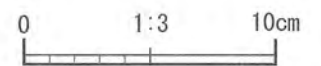
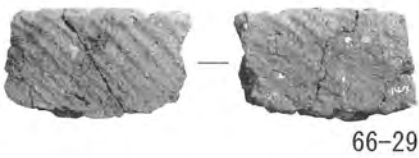
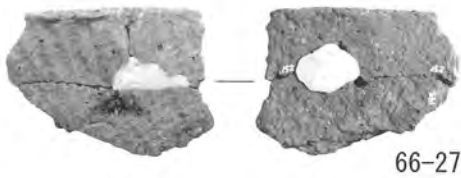
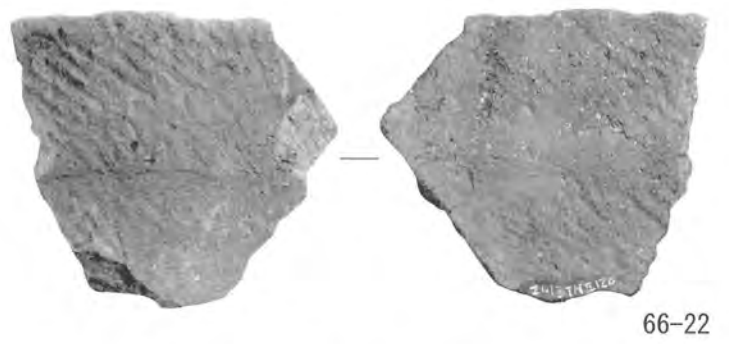
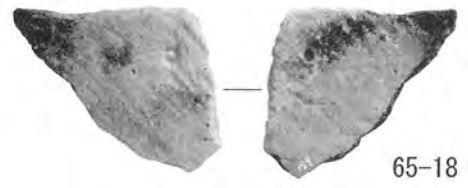


65-16

Ⅷ層出土遺物（縄文土器）



写真図版 20



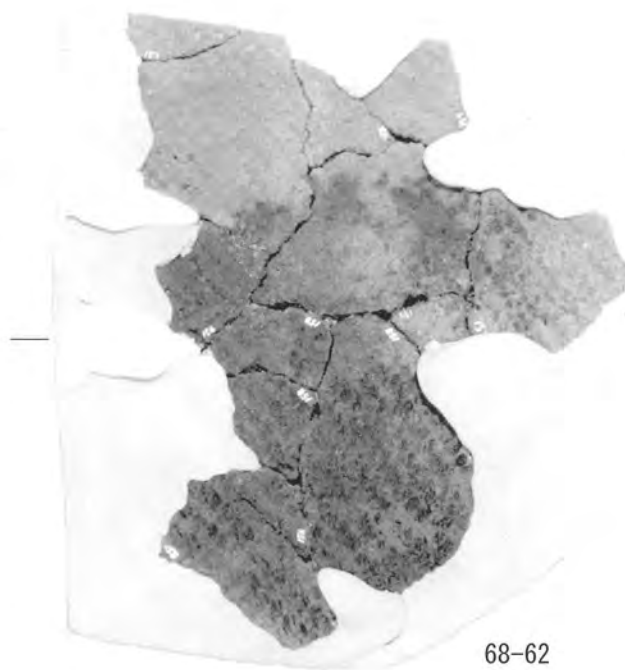
VIII層出土遺物 (縄文土器)



66-30



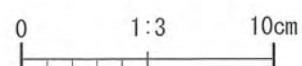
66-31



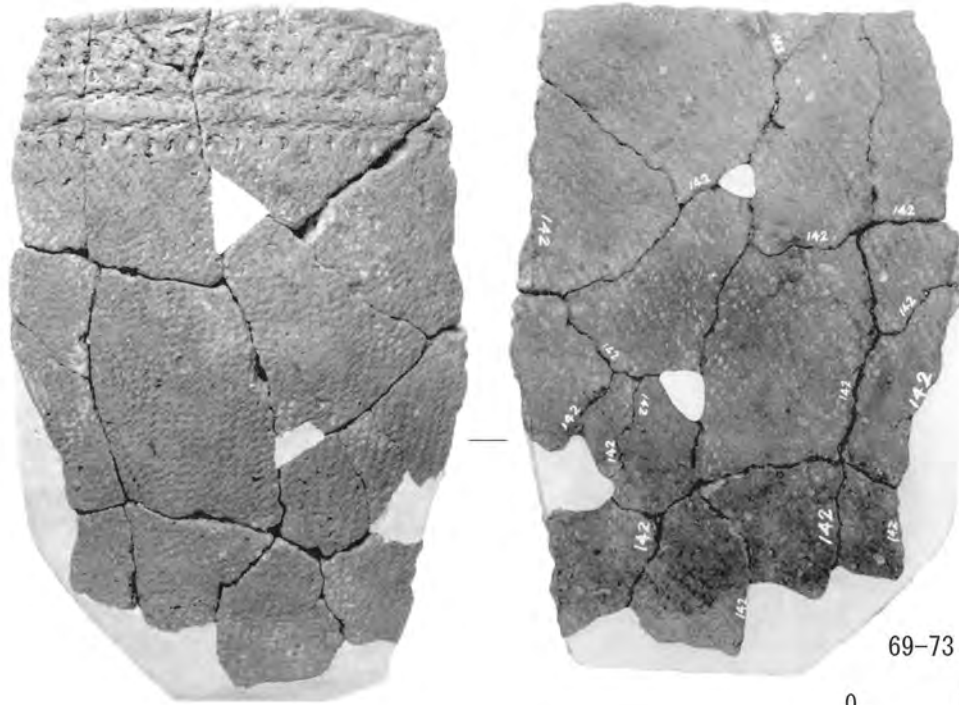
68-62



69-66



Ⅷ層出土遺物（縄文土器）



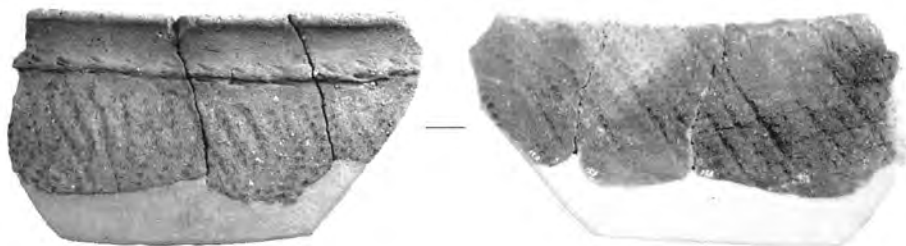
69-73

0 1:3 10cm

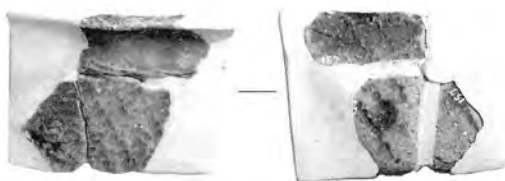


70-74

0 1:4 10cm



70-75



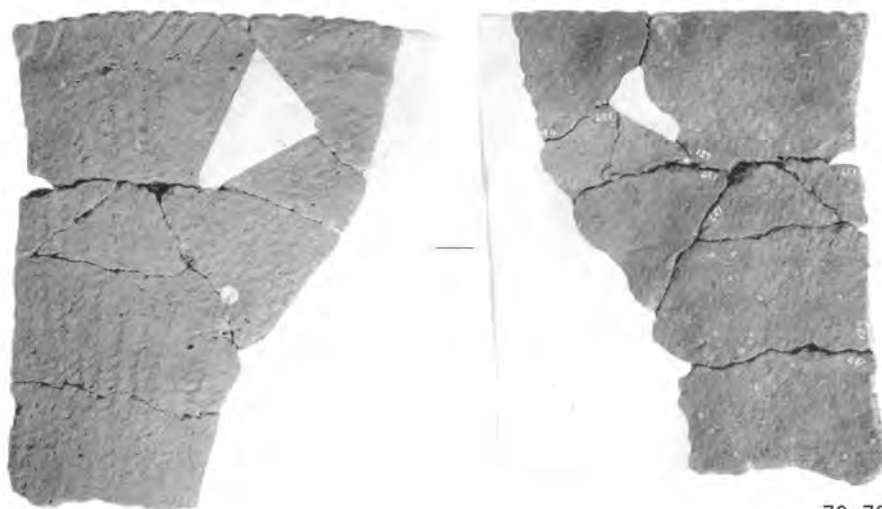
70-76



70-77

0 1:3 10cm

Ⅷ層出土遺物 (縄文土器)



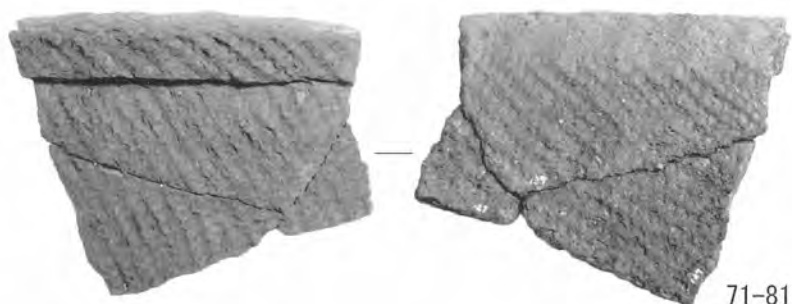
70-78



71-79



71-80



71-81



71-82



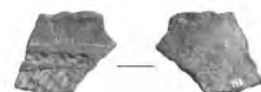
71-83



71-84



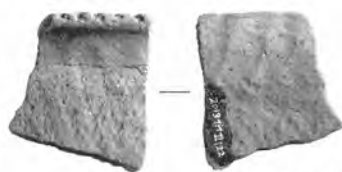
71-85



71-86



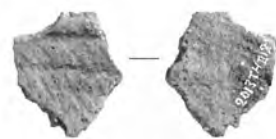
71-87



71-88

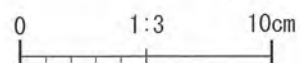


71-89

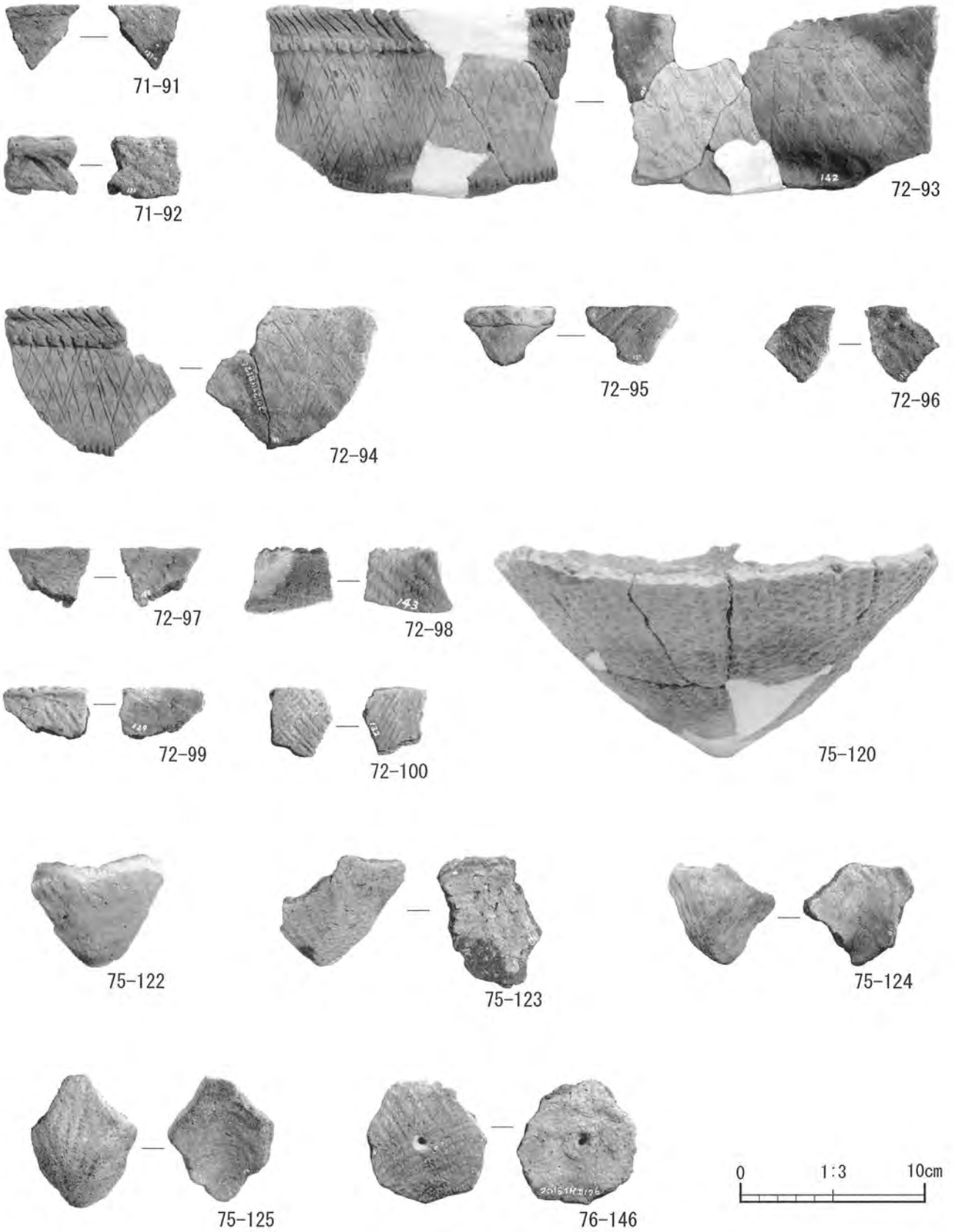


71-90

Ⅷ層出土遺物（縄文土器）



写真図版 24



VIII層出土遺物（縄文土器）

報告書抄録

| ふりがな | たかはま2いまがほらいせき | | | | | | | |
|---------------------------|---|-------------------|-----------|-------------------|--------------------|---|---------------------------------|--------------------|
| 書名 | 高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | －災害公営住宅整備事業（高浜）－ | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 宮古市埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 94 | | | | | | | |
| 編著者名 | 阿部 豊 | | | | | | | |
| 編集機関 | 岩手県宮古市教育委員会文化課 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 平成30年3月30日（2018年） | | | | | | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| たかはま2いまがほらいせき 高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡 | みやこし 宮古市 たかはまいちちようめ 高浜一丁目 13番1、 14番1 | 3202 | LG44-1013 | 39度 36分 29秒 | 141度 57分 15秒 | 試掘調査 241127～ 241214 本調査 250321～ 250510 | 試掘調査 243㎡ 本調査 280㎡ | 災害公営 住宅整備 事業 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | | 主な遺構 | | 主な遺物 | |
| 高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡 | 集落跡 | 縄文時代前期初頭 ～早期末葉 | | | 遺物包含層 | | 縄文土器 石器、土製品 | |

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

| | | | | | |
|----|------|--|----|------|--|
| 1 | 1979 | 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』 | 56 | 2000 | 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡—特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』 |
| 2 | 1980 | 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』 | | | |
| 3 | 1983 | 『宮古市遺跡分布調査報告書1』 | 57 | 2002 | 『山口館跡—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』 |
| 4 | 1984 | 『宮古市遺跡分布調査報告書2』 | | | |
| 5 | 1984 | 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』 | 58 | 2002 | 『小沢Ⅱ大上遺跡—市内遺跡発掘調査報告書2—』 |
| 6 | 1985 | 『宮古市遺跡分布調査報告書3』 | 59 | 2003 | 『大又沢Ⅵ遺跡—東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書—』 |
| 7 | 1985 | 『金浜館跡発掘調査報告書』 | | | |
| 8 | 1986 | 『宮古市遺跡分布調査報告書4』 | 60 | 2003 | 『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡—市内遺跡発掘調査報告書3—』 |
| 9 | 1986 | 『宮古市遺跡分布図—昭和60年度版—』 | 61 | 2003 | 『早稲橋Ⅱ遺跡第6次調査—市内遺跡発掘調査報告書4—』 |
| 10 | 1986 | 『中谷地・島田遺跡調査報告書』 | 62 | 2003 | 『下在家Ⅰ遺跡—平成14年度発掘調査報告書—』 |
| 11 | 1987 | 『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』 | 63 | 2004 | 『大程Ⅱ遺跡、平浜遺跡—市道開伊崎線改良工事関係発掘調査報告書—』 |
| 12 | 1987 | 『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書』 | | | |
| 13 | 1987 | 『崎山遺跡群Ⅰ—昭和60年度発掘調査概報—』 | 64 | 2005 | 『弘川館跡—瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書—』 |
| 14 | 1988 | 『青葙Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群（堀合館）—昭和62年度発掘調査報告書—』 | 65 | 2006 | 『高浜Ⅵ地神遺跡—高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書—』 |
| 15 | 1988 | 『崎山遺跡群Ⅱ—昭和62年度発掘調査概報—』 | 66 | 2006 | 『崎山貝塚第20次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第7次調査—市内遺跡発掘調査報告書5—』 |
| 16 | 1989 | 『千鶴遺跡—昭和62年度発掘調査報告書—』 | | | |
| 17 | 1989 | 『トロノ木Ⅰ遺跡—第1～7次発掘調査報告書—』 | 67 | 2006 | 『八木沢古館、八木沢中田遺跡・八木沢駒込Ⅰ遺跡—市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書—』 |
| 18 | 1989 | 『崎山遺跡群Ⅲ—昭和63年度発掘調査概報—』 | | | |
| 19 | 1989 | 『高根遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』 | 68 | 2006 | 『木戸井内Ⅳ遺跡—宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書—』 |
| 20 | 1989 | 『狐崎Ⅱ遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』 | 69 | 2006 | 『菅ノ沢遺跡発掘調査—市内遺跡発掘調査報告書6—』 |
| 21 | 1989 | 『崎山トロノ木Ⅳ遺跡—昭和63年度調査報告書—』 | 70 | 2007 | 『山口館跡—市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』 |
| 22 | 1990 | 『狐崎遺跡—平成元年度発掘調査報告書—』 | 71 | 2007 | 『近内館跡—宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書—』 |
| 23 | 1990 | 『崎山遺跡群Ⅳ—平成元年度発掘調査概報—』 | | | |
| 24 | 1990 | 『磯鷗館山遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』 | 72 | 2007 | 『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査—市内遺跡発掘調査報告書7—』 |
| 25 | 1990 | 『跡ヶ崎館山貝塚—平成元年度発掘調査報告書—』 | 73 | 2007 | 『弘川館跡第2次調査—宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書—』 |
| 26 | 1991 | 『崎山遺跡群Ⅴ—平成2年度発掘調査概報—』 | 74 | 2008 | 『荷竹日向Ⅳ遺跡—市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書—』 |
| 27 | 1991 | 『青葙Ⅰ・千徳城遺跡群—平成元年・2年度発掘調査報告書—』 | 75 | 2008 | 『宮古市遺跡分布調査報告書5』 |
| 28 | 1990 | 『熊野町遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』 | 76 | 2009 | 『国指定史跡崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報（骨角器類）』 |
| 29 | 1991 | 『弘川Ⅰ遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』 | 77 | 2010 | 『宮古市遺跡分布調査報告書6』 |
| 30 | 1992 | 『金浜Ⅰ遺跡（昭和58年度）・大付遺跡（平成2年度）発掘調査報告書』 | 78 | 2011 | 『宮古市遺跡分布調査報告書7』 |
| 31 | 1992 | 『重茂館遺跡群—第1次調査報告書—』 | 79 | 2012 | 『重茂館遺跡群—第2次発掘調査報告書—』 |
| 32 | 1992 | 『黒森町Ⅰ遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』 | 80 | 2014 | 『八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡—市道磯鷗金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書—』 |
| 33 | 1992 | 『高根遺跡—平成3年度発掘調査報告書—』 | 81 | 2014 | 『蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡—市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書—』 |
| 34 | 1992 | 『鯉沢遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』 | 82 | 2014 | 『赤畑東遺跡—山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書—』 |
| 35 | 1992 | 『大付遺跡—平成3年度発掘調査報告書—』 | 83 | 2015 | 『千徳城遺跡群—一条工務店建設工事関係発掘調査報告書—』 |
| 36 | 1992 | 『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡—農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書—』 | 84 | 2015 | 『黒森町Ⅰ遺跡—宗教法人「先天大道—貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書—』 |
| 37 | 1992 | 『崎山遺跡群Ⅵ—平成3年度発掘調査概報—』 | 85 | 2015 | 『菅ノ沢遺跡・棚館Ⅰ遺跡—市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書—』 |
| 38 | 1993 | 『萩沢Ⅱ遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』 | 86 | 2016 | 『千徳城遺跡群—アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』 |
| 39 | 1993 | 『早稲橋Ⅱ遺跡—第1次・第2次発掘調査報告書—』 | 87 | 2016 | 『重茂館遺跡群—重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—（第3次調査）』 |
| 40 | 1993 | 『崎山遺跡群Ⅶ—平成4年度発掘調査概報—』 | 88 | 2016 | 『重茂館遺跡群—重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—（第4次調査）』 |
| 41 | 1994 | 『崎山遺跡群Ⅷ—平成5年度発掘調査概報—』 | 89 | 2016 | 『重茂館遺跡群—重茂漁業協同組合重茂給油所建設関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—（第5次調査）』 |
| 42 | 1995 | 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』 | 90 | 2016 | 『下大谷地Ⅵ 大谷地Ⅰ遺跡—市道下大谷地花輪線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』 |
| 43 | 1995 | 『磯鷗館山遺跡発掘調査報告書』 | 91 | 2016 | 『千鶴Ⅲ遺跡—千鶴地区漁業集落防災機能強化事業関係発掘調査報告書—』 |
| 44 | 1995 | 『崎山貝塚—範囲確認調査報告書—』 | 92 | 2016 | 『金浜館跡—市道磯鷗金浜線（金浜工区）道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』 |
| 45 | 1995 | 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡—市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』 | 93 | 2016 | 『乙部Ⅱ遺跡—田老地区防災集団移転促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』 |
| 46 | 1995 | 『花原市遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』 | | | |
| 47 | 1995 | 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』 | | | |
| 48 | 1996 | 『大付遺跡—平成5年・6年度発掘調査報告書—』 | | | |
| 49 | 1997 | 『花原市遺跡—平成8年度発掘調査報告書—』 | | | |
| 50 | 1997 | 『白石遺跡—第6次発掘調査報告書—』 | | | |
| 51 | 1998 | 『赤畑・天神山・山口館—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』 | | | |
| 52 | 1998 | 『藤畑遺跡—平成9年度発掘調査報告書—』 | | | |
| 53 | 1999 | 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡—水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』 | | | |
| 54 | 1999 | 『千鶴Ⅳ遺跡—水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』 | | | |
| 55 | 1999 | 『崎山貝塚—第12次・13次内容確認調査概報』 | | | |

宮古市埋蔵文化財調査報告書
高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡

印刷・発行 平成30年3月(2018)
発行 宮古市教育委員会
岩手県宮古市茂市2-112-1
編集 宮古市教育委員会文化課
〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1
Tel 0193-65-7527
Fax 0193-65-7508
印刷 株式会社文化印刷
〒027-0037 岩手県宮古市松山5-13-6
Tel 0193-62-4578
FAX 0193-64-0333
